

ISSN 0916-4375

Research

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

臨床研究業績年報

Vol.38 2018

Institute for Clinical Research

Osaka National Hospital

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

Research
R-CRIONH

<目 次>

I. 研究業績

診療部門

<総合診療部>	1
<腎臓内科>	4
<糖尿病内科>	8
<血液内科>	11
<呼吸器内科>	12
<脳卒中内科>	13
<感染症内科>	15
<精神科>	30
<消化器内科>	31
<循環器内科>	42
<小児科>	58
<外科 肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科>	59
<形成外科>	94
<整形外科>	96
<脳神経外科>	107
<心臓血管外科>	120
<皮膚科>	122
<泌尿器科>	125
<産科・婦人科>	128
<眼科>	131
<耳鼻咽喉科>	135
<放射線診断科・放射線治療科>	136
<口腔外科>	144
<救命救急センター>	146
<麻酔科>	150
<臨床検査科>	152
<リハビリテーション科>	157
<臨床腫瘍科>	159
<薬剤部>	164
<看護部>	171
<栄養管理部>	175
<ケアサポートチーム>	178
<臨床心理室>	185
<メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」>	190
<臨床工学室>	193
<院長室>	197

臨床研究センター

＜臨床研究センター＞	202
＜幹細胞医療研究室＞	218
＜再生医療研究室＞	222
＜分子医療研究室＞	230
＜エイズ先端医療開発室＞	232
＜HIV感染制御研究室＞	254
＜臨床疫学研究室＞	260
＜がん療法研究開発室＞	267
＜高度医療技術開発室＞	301
＜医療情報研究室＞	308
＜災害医療研究室＞	310
＜臨床研究推進室＞	312
＜レギュラトリーサイエンス研究室＞	315

II. 研究助成一覧	320
------------------	-----

III. 全研究業績の区分分類と業績件数の総括表

診療科全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	323
臨床研究センター全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	323
全研究業績の区分分類と業績件数の総括表	323
研究業績の区分基準と記号	324

I. 研究業績

-診療部門-

総合診療部

中島 伸

総合診療科は（１）診断がついておらずどの診療科が担当するか不明確である症例、（２）複数の診療科にまたがる症例、（３）当院に担当する診療科がない症例、を対象としている。

診療の対象は、外来患者、時間内二次救急患者、入院患者の３つに分かれている。外来は月曜から金曜まで当院内科外来のうちの１～３診察室を用いて行っており、主として紹介状を持たずに来院した初診患者、継続的に診ている再診患者を担当している。特に初期研修医の外来教育を重視しており、適当な初診患者がいる場合にはまず研修医が病歴聴取を行い、指導医とディスカッションを重ねながら身体診察、検査オーダー、治療方針の決定を行う。また、他の診療科からのコンサルテーションにも応じている。

時間内二次救急では、救急隊からの要請に対して応需し、災害医療棟１階の救急室で対応している。ファーストタッチは主として診療看護師が行い、症状に応じて総合診療科の医師が指導することもある。循環器や脳、時には救急の担当医師が指導を行うこともある。

入院においては年間約 600 名の患者に対し、他科と協力しながら加療を行い、自宅退院あるいは他院への転院を目指している。

総合診療科で扱う疾患のトップ５は、肺炎、尿路感染、脱水・電解質異常、痛風・偽痛風、ウイルス感染症である。癌の終末期や薬物中毒を受け持つこともあり、稀な疾患を経験することも多く、初期研修医や内科専攻医の教育に果たす役割は大きい。

当科では 4～5 名の診療看護師が時間内二次救急外来患者および入院患者の担当を行っており、その面では全国の医療機関の先駆的存在であると自負している。今後の我が国における診療看護師の役割はますます大きくなっていくことが予想されているが、当院で果たす診療看護師の役割については、森寛泰と尾嶋美里がデータをまとめて国立病院総合医学会と日本病院総合診療医学会学術総会で発表を行った。また、山口壽美枝も大会長として日本 NP 学会中部関西診療看護師研究会第 2 回学術集会・総会を主催し、それぞれに積極的な発信を行っている。平成 31 年度は医師数の減少とともに診療規模を縮小せざるを得ないが、各科の協力を得ながらより効率的に業務を遂行することによって難局を乗り切りたいと考えている。

【2018 年度 研究業績発表】

A-6

中島 伸：「ムンテラ」の効能「レジデントノート」16(1)：137-139、2018 年

中島 伸：久々の災害訓練「レジデントノート」16(3)：461-463、2018 年

中島 伸：ゴルフが下手なわけ「レジデントノート」16(4)：589-591、2018 年

中島 伸：目をやられた！「レジデントノート」16(6)：1007-1009、2018 年

中島 伸：診断書を巡るあれこれ「レジデントノート」16(7)：1171-1173、2018 年

中島 伸：胃ろうを作るか否か？「レジデントノート」16(9)：1595-1597、2018 年

中島 伸：外国人患者さんに対する診察のコツ ～原則編～「レジデントノート」16(10)：1759-1761、2018 年

中島 伸：外国人患者さんに対する診察のコツ ～実践編～「レジデントノート」16(12)：2133-2135、2018 年

中島 伸：3 番目に多い頭痛（前編）「レジデントノート」16(13)：2283-3385、2018 年

中島 伸：3 番目に多い頭痛（後編）「レジデントノート」16(15)：2673-2675、2019 年

中島 伸：耳がこわれた！「レジデントノート」16(16)：2831-2833、2019 年

中島 伸：カルテの書き方「レジデントノート」16(18)：3235-3237、2019 年

B-4

尾嶋美里、石田健一郎、山口壽美江、森 寛泰、福田貴史、竹本雪子、小笠原充幸、木下順弘、中島 伸：総合診療科が応需する 2 次救急搬送の現状調査に関する研究。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

森 寛泰、山口壽美江、竹本雪子、福田貴史、尾嶋美里：総合診療科における主治医・診療看護師協働と主治医・専修医協働での診療アウトカムの比較検討。日本 NP 学会 第 4 回学術集会、仙台、2018 年 11 月 24 日

尾嶋美里、石田健一郎、山口壽美江、森 寛泰、福田貴史、竹本雪子、小笠原充幸、木下順弘、中島伸：総合診療科に所属する診療看護師の 2 次救急外来での活動報告。第 18 回日本病院総合診療医学会学術集会、沖縄県国頭郡、2019 年 2 月 15 日
森 寛泰、松本謙太郎、山口壽美江、竹本雪子、福田貴史、尾嶋美里、小笠原充幸、和田 晃、中島 伸：入院診療における診療看護師のアウトカムの検討。第 18 回日本病院総合診療医学会学術集会、沖縄県国頭郡、2019 年 2 月 15 日

B-8

中島 伸：高額医療機器なし！誰でもできる外来診療の工夫。なにわ Doctor's ネットワーク、大阪、2018 年 6 月 21 日

中島 伸:医療コミュニケーションの工夫。東近江医療センター接遇研修、東近江、
2018 年 7 月 31 日

中島 伸:ポリファーマシー。大阪府医師会平成 30 年度「医療安全推進指導者講習会」、大阪、2018 年 10 月 20 日

IgA 腎症はもっとも多い原発性糸球体腎炎である。本疾患は若年者に発症しやすく、病巣感染との関連が以前より指摘されている。これまで病巣感染や血尿の観点から検討してきた経験を踏まえ、日々の臨床では病巣感染を見つけ、可能な限り除去する努力を行っている。また IgA のヒンジ部の O 型糖鎖を質量分析器で定量し、糖鎖と治療反応性との関連を 2012 年に報告してきた。今回その方法を応用し、阪大泌尿器科、大阪府立母子保健センター等との共同研究を行い、IgA 腎症では IgA 沈着症よりも糖鎖が短いことが判明した。IgA 腎症に関しては、これまでの基礎的、臨床的検討を行ってきた豊富な経験をもとに、専門外来を開設しており、日本全国、北は北海道から南は沖縄まで全国各地の大学病院、基幹病院より紹介を受けている。

またネフローゼ症候群においても、病巣感染との関連がある。微小変化型ネフローゼ症候群において、病巣感染巣の外科的治療によりステロイドを使用することなく完全寛解導入に成功した世界初の症例を英文報告している。その他の組織型のネフローゼ症候群でも、病巣感染の除去にて、ステロイドを使用せずに寛解することに成功している。これらの豊富な経験を基に、ネフローゼ症候群に関しても日本全国の大学病院や基幹病院より紹介を受けている。

腎臓領域では、利尿薬の使い方も重要である。新規の水利尿薬であるトルバプタンの使用経験は豊富であるが、その薬剤の細胞内液に対する影響等を論文報告した。本薬剤は、多発性嚢胞腎でも用いるが、本疾患についても専門外来を開設しており、多くの医療機関より紹介を受けている。

腎機能が低下した患者さんでは、血管石灰化が起こりやすく心血管イベントを起こしやすい。そのため、血管石灰化に影響を及ぼす因子も検討し発表している。

透析領域では、電解水透析液が血糖を低下させる効果を有することを見出し、米国腎臓学会で発表した。透析に携わる臨床工学技士向けのテキストの執筆も行い教育活動にも力を入れている。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Nakazawa S, Imamura R, Kawamura M, Kato T, Abe T, Namba T, Iwatani H, Yamanaka K, Uemura M, Kishikawa H, Nishimura K, Oka K, Tajiri M, Wada Y, Nonomura N :
Difference in IgA1 O-glycosylation between IgA deposition donors and IgA nephropathy recipients. Biochem Biophys Res Commun. 22;508(4):1106-1112、2019 年 1 月

Kawabata H, Iwatani H, Yamamichi Y, Shirahase K, Nagai N, Isaka Y : Tolvaptan Efficiently Reduces Intracellular Fluid: Working Toward a Potential Treatment Option for Cellular Edema. Intern Med. 1;58(5):639-6422、2019 年 3 月

Minami S, Hamano T, Iwatani H, Mizui M, Kimura Y, Isaka Y. : Tolvaptan promotes urinary excretion of sodium and urea: a retrospective cohort study. Clin Exp Nephrol. 22(3):550-561、2018 年 6 月

A-2

海本浩一、岩谷博次、宮田賢宏、平井康裕、鎌田亜紀：腎臓・腎不全・慢性腎臓病、「生体機能代行装置学 血液浄化 臨床工学テキスト」第二版(海本浩一編著)、10－29、東京電機大学出版局、東京、2019 年 2 月 20 日

海本浩一、岩谷博次、宮田賢宏、平井康裕、鎌田亜紀：腹膜透析、「生体機能代行装置学 血液浄化 臨床工学テキスト」第二版（海本浩一編著）、132－144、東京電機大学出版局、東京、2019 年 2 月 20 日

木村良紀ほか：エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018、東京医学社、2018 年 6 月 15 日

A-4

岩谷博次：HIV 陽性患者の透析医療、大阪透析研究会会誌、37(1)、27－34、2019 年 3 月 1 日

B-2

Iwatani H, Asahina Y, Koizumi S, Yamato M : Hemodialysis (HD) Using Molecular Hydrogen-Enriched Dialysate Generates Greater Amount of Exhaled Hydrogen Than Conventional HD.Decreases Plasma Glucose, and Increases Serum LDL-C in One Session、ASN Kidney Week 2018 Annual Meeting、San Diego、2018 年 10 月 26 日

B-4

朝比奈悠太、倭 成史、池上剛史、湯川理己、山本司郎、小泉信太郎、長山郁恵、岩谷博次：抗 NMDA 受容体抗体脳炎に対して血漿交換を施行した 1 例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

野津翔輝、倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、岩谷博次：血液透析導入直前期に Crowned dens syndrome を合併した 1 例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

東 優希、倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、種田灯子、岩谷博次：食道癌術後に透析導入し、直後に後期ダンピング症候群が顕在化し、持続血糖モニター(CGM)でミグリトール内服が有効であることを確認した 1 例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

茂木孝友、小泉信太郎、朝比奈悠太、長山郁恵、倭 成史、井上信正、岩谷博次：発作性夜間血色素尿症（PNH）による溶血発作のため一時的に血液透析を行った一例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 6 月 30 日

倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、竹本雪子、小笠原充幸、岩谷博次：AN69ST 膜を用いた CHDF が奏功した Toxic shock syndrome(TSS)の 1 例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 6 月 30 日

倭 成史、朝比奈悠太、小泉信太郎、長山郁恵、岩谷博次：コントロール不良の便秘に対してリナクロチドが著効した糖尿病性腎症由来の維持透析患者の一例。第 63 回日本透析医学会総会、神戸、2018 年 7 月 1 日

岩谷博次、小泉信太郎、朝比奈悠太、長山郁恵、倭 成史：Na 排泄性利尿薬非併用下において、トルバプタン（TLV）が Na 利尿に及ぼす影響の検討。第 61 回日本腎臓学会総会、新潟、2018 年 6 月 10 日

朝比奈悠太、岩谷博次、小泉信太郎、長山郁恵、上田恭敬、倭 成史：下肢の血管石灰化容積（VCV）に影響する因子の検討。第 61 回日本腎臓学会総会、新潟、2018 年 6 月 10 日

小泉信太郎、岩谷博次、朝比奈悠太、長山郁恵、倭 成史：入院後の食事療法が 24 時間蓄尿に及ぼす影響の検討 2。第 61 回日本腎臓学会総会、新潟、2018 年 6 月 10 日

木村良紀、山本陵平、猪阪善隆、井関邦敏、山縣邦弘、鶴屋和彦、吉田英昭、藤元昭一、旭 浩一、守山敏樹、渡辺 毅：CKD 患者における飲酒量と腎機能予後：後向きコホート研究。第 61 回日本腎臓学会学術総会、新潟、2018 年 6 月 8 日

B-5

岩谷博次：HIV 陽性者の透析治療の現状。第 91 回大阪透析研究会、ランチョンセミナー～HIV 陽性者の透析医療ご存じですか？～、大阪、2018 年 9 月 2 日

B-6

別所紗妃、朝比奈悠太、東 優希、野津翔輝、小泉信太郎、木村良紀、倭 成史、岩谷博次：低 Na 血症を契機にデスモプレシン(DDAVP)点鼻剤から経口剤へ変更した中枢性尿崩症の 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

野津翔輝、倭 成史、東 優希、別所紗妃、朝比奈悠太、小泉信太郎、木村良紀、岩谷博次：当院で経験した腎不全患者における Crowned dens syndrome 4 例の検討。第 91 回大阪透析研究会、大阪、2018 年 9 月 2 日

野津翔輝、朝比奈悠太、東 優希、別所紗妃、小泉信太郎、木村良紀、倭 成史、岩谷博次：長期臥床による高 Ca 血症に対してデノスマブを投与した血液透析患

者の1例。第91回大阪透析研究会、大阪、2018年9月2日

B-8

岩谷博次：HIV陽性者の腎疾患と透析について。平成30年度HIV医療講習会、大阪、2018年11月29日

別所紗妃、東 優希、野津翔輝、朝比奈悠太、小泉信太郎、木村良紀、倭 成史、岩谷博次：当院における体液管理の工夫。第3回若手腎臓内科医による治水管理を考える会、大阪、2018年11月22日

岩谷博次：HIV・エイズ患者の透析治療の現状。HIV等血液感染予防に関する研修会、京都、2018年11月17日

別所紗妃、東 優希、野津翔輝、朝比奈悠太、小泉信太郎、木村良紀、倭 成史、岩谷博次：ネフローゼ症候群の加療中に心房細動を発症した一例。OCKD、大阪、2018年9月7日

岩谷博次：腎臓内科医から診た糖尿病性腎臓病（DKD）。STOP DKD Network Small Discussion～最適な患者紹介と逆紹介とは～、大阪、2018年8月30日

岩谷博次：Diabetic Kidney Disease の病態と治療。かかりつけ医のための糖尿病性腎臓病を考える会、田辺市、2018年8月25日

岩谷博次：腎臓はどのような働きをしているのか？。第63回おおさか健康セミナー『腎臓いきいき、健康長寿を！』、大阪、2018年7月14日

岩谷博次：腎疾患と栄養管理。平成30年度「NST専門療法士認定取得研修」、大阪、2018年6月21日

岩谷博次：CKD マネジメント～尿酸・血圧・脂質等に関して～。浪速区医師会学術講演会、大阪、2018年4月21日

倭 成史：敗血性ショックに対する急性血液浄化療法：5W1Hの視点から。Stop Sepsis Seminar 2019、豊橋、2019年1月24日

糖尿病内科

加藤 研

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、QOL 改善に取り組んでいる。

看護部・栄養管理室・薬剤科・臨床検査科・リハビリテーション科・口腔外科と糖尿病チームを組織し、共同で糖尿病教室・糖尿病デーの催しを行い患者への情報提供に取り組んでいる。また看護部とフットケア外来、看護部・栄養管理室と透析予防外来、看護部・栄養管理室と1型糖尿病外来を開設し専門医療を提供している。最近の糖尿病治療分野ではグルコース測定機器としてのCGM(持続グルコースモニタリング)やFGM(フラッシュグルコースモニタリング:腕に留置したセンサーに読み取り機をかざしてグルコース値をモニターする)またインスリン注入機器としてはインスリンポンプ(CSII)のみならずSAP(Sensor Augmented Pump:持続グルコースモニター付きポンプ)など、先進糖尿病治療デバイスの進化が目立っている。当科ではそのような先進デバイスを駆使し糖尿病患者のよりよい血糖コントロール実現に寄与している。

【2018年度 研究業績発表】

A-2

加藤 研:「糖尿病と私 節目の数字」、15 巻 11 号、株式会社メディカ出版、大阪、2018 年 4 月

加藤 研:「わたし糖尿病なの あらたなる旅立ち DT1Dの仲間として」、138-139 医歯薬出版株式会社、東京、2018年10月

B-2

Murata T, Matsuhisa M, Kuroda A, Toyoda M, Hirota Y, Kato K, Sawaki H, Tone A, Kawashima S, Okada A, Sakane N: PREDICTIVE FACTORS OF THE ADHERENCE TO THE REAL-TIME CGMSENSORS: A PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY (PARCSSTUDY). Advanced Technologies & For Diabetes Treatments2019、Berlin Germany、2019年2月20日

B-4

西村元伸、田中剛史、渡邊知一、瀧 秀樹、肥田和之、齋藤美穂、吉住秀之、郡山暢之、畑尾満佐子、木村真理、岸本瑠衣、米澤一也: 国立病院機構ネットワーク研究多面的管理達成者の糖尿病腎症予後改善効果を予測できる非侵襲的指標の確立(DNrem) 第一報。第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2018 年 5 月 26 日

B-5

加藤 研：チーム医療がもたらす先進医療の恩恵～QOLも考慮した糖尿病治療～ 先進糖尿病治療におけるチーム医療の必要性と1型糖尿病患者のQOL向上への寄与。第18回日本先進糖尿病治療研究会・第16回1型糖尿病研究会シンポジウム、神戸、2018年9月29日

加藤 研：糖尿病治療における先進デバイスの現在と未来 SAP療法の進化と課題。第55回日本糖尿病学会近畿地方会シンポジウム、神戸、2018年10月27日

B-6

加藤 研、村田敬、河本佐季、益田貴史、種田灯子、光井絵理、瀧 秀樹：工場較正の不調が疑われた間歇スキャンCGMセンサーの事例。第18回日本先進糖尿病治療研究会・第16回1型糖尿病研究会合同開催、神戸、2018年9月29日

河本佐季、光井絵理、益田貴史、種田灯子、加藤 研、上田孝文、瀧 秀樹：ニボルマブ投与後に発症した急性発症1型糖尿病の1例。第55回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2018年10月27日

益田貴史、加藤 研、河本佐季、種田灯子、光井絵理、瀧 秀樹：SAP導入後1年経過症例における血糖コントロールとTBD/TDD変化の検討。第55回日本糖尿病学会近畿地方会、神戸、2018年10月27日

B-8

加藤 研：640G体験談 トークセッション ～スマートガードの設定方法～。第61回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2018年5月26日

加藤 研：先進糖尿病治療デバイスを活用した1型糖尿病チーム医療について。Type1 Meet the Expert in KOBE、神戸、2018年6月1日

加藤 研：先進糖尿病治療デバイスを活用したインスリン治療について。北摂地区糖尿病フォーラム、大阪、2018年6月7日

加藤 研：医師として患者としてDMVOXから得た多くの幸せ。第60回 DMVOX 定例会、大阪、2018年6月10日

瀧 秀樹：災害と糖尿病。第6回関西産業医のつどい、大阪、2018年7月26日

瀧 秀樹：当センター糖尿病内科利用ガイド。大阪市中央南医師会・法円坂フォーラム、大阪、2018年8月4日

加藤 研：糖尿病先進治療デバイスを活かした病診連携を考える。なにわ糖尿病病診連携会、大阪、2018年9月12日

瀧 秀樹：災害時の糖尿病治療。布施医師会学術講演会、大阪、2018年9月19日

加藤 研：CSII/SAP療法をマスターするために知っておきたい知識と明日から使える指導のコツ。インスリンポンプ よどがわ連携セミナー、大阪、2018年11月29日

加藤 研：SAP vs FGM「SAPの恩恵（pros）と負担（cons）」。第7回大阪1型糖尿病塾、大阪、2019年1月19日

加藤 研：先進糖尿病治療デバイスを活用した糖尿病治療の実際。大阪市中央区東医師会学術講演会、大阪、2019年2月13日

加藤 研：失敗しないインスリンポンプ/SAP導入。CSII/SAP キャラバン、大阪、2019年2月24日

加藤 研：リアルタイムCGMの実際。リアルタイムCGM ハンズオンセミナー、大阪、2019年3月15日

血液内科

池田弘和

当院血液内科では、血液疾患全般について診療しています。具体的には、赤血球系では再生不良性貧血、溶血性貧血、白血球系では各種白血病、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、止血・凝固系では特発性血小板減少性紫斑病などです。これらの疾患を適切に診断し、最新のガイドラインに沿いながら、患者さんの意向もふまえて個々のケースに最適な方法を選択し、治療を行います。病棟には無菌室が4床設置され、造血器腫瘍の治療では、急性白血病の寛解導入/地固め療法や悪性リンパ腫の救援療法等に使用可能です。また、年齢、合併症や治療抵抗性により根本的な治療が困難な症例では、QOLを重視した治療法や緩和医療も選択します。臨床的に特異な症例については学会等で報告し、また他施設とも協力して臨床研究を行っています。

【2018年度 研究業績発表】

A-2

池田弘和: γ 重鎖病 「WHO血液腫瘍分類 改訂版～WHO分類2017をうまく活用するために～」直江知樹、中村栄男他編集、215-216、医薬ジャーナル社、大阪、2018年10月30日

B-4

Murakami H, Mitsui H, Kamae T, Ishikawa J, Yoshida H, Nakagawa M, Sugahara H, Ikedo H, Kawakami M, Saitoh N : Significance of traditional prognostic scoring system on event-free survival for CML on TKI therapy. 第80回日本血液学会学術集会、大阪市、2018年10月14日

Yoshida H, Masaie H, Fuji S, Tada Y, Koike M, Nakata K, Kida H, Tsutsumi K, Nakata R, Kawakami M, Sugahara H, Ikedo H, Nakagawa M, Kamae T, Mitsui H, Ishikawa J : Characteristics of the CML patients who achieve the criteria for the discontinuation of TKIs. 第80回日本血液学会学術集会、大阪市、2018年10月14日

Murakami H, Mitsui H, Kamae T, Saitoh N, Ishikawa J, Yoshida H, Nakagawa M, Sugahara H, Ikedo H, Kawakami M : The frequency and nature of pleural effusion in CML patients with TKIs. 第80回日本血液学会学術集会、大阪市、2018年10月13日

呼吸器内科

小河原光正

呼吸器内科は呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）を専門として診療を行っており、呼吸器外科、放射線診断科、放射線治療科、臨床検査科と協同で肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている。また、気管支鏡診断に力を入れている。最近の EGFR 遺伝子変異に対する分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬の治療に関する症例報告を行った。

また、国立病院機構ネットワーク研究等の多施設共同臨床試験に参加・協力した。

【2018 年度 研究業績発表】

B-4

藤原綾子、高見康二、木村 剛、安藤性實、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫：Pembrolizumab 投与後に完全切除し得た 期肺多形癌の 1 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 11 月 29 日

高見康二、藤原綾子、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、眞能正幸：すりガラス影から進展し再切除不能となった多発肺癌症例に EGFR-TKI が奏効した 2 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 12 月 1 日

B-6

澤田遥奈、藤原綾子、高見康二、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子：肺腺癌との鑑別が困難であった多発線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍の 1 切除例。第 109 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2019 年 2 月 23 日

脳卒中内科

橋川一雄

脳卒中内科は脳神経外科と協力して脳卒中治療の 24 時間体制を取り、その中で当科は脳梗塞や一過性脳虚血発作などの虚血性脳卒中を担当しています。当科はスタッフ全員が脳卒中専門医であり、その中に脳神経血管内治療専門医、日本神経学会専門医、脳神経超音波の専門医や核医学専門医がいるなど脳卒中診療に特化した内科部門です。

近年、急性期脳梗塞治療の進歩にはめざましいものがあります。2005 年 10 月に rt-PA 静注療法が承認されました。また、2015 年初めには脳梗塞急性期治療における血管内治療による血管回収療法は標準的治療と認められるようになりました。また、当初発症 6 時間以内とされていた血栓回収治療でしたが、発症後 16 時間あるいは発症 24 時間以内においても症例によっては有効であることが 2017 年初めに証明されました。この適応拡大により多くの症例に血栓回収治療を提供する義務が生じたと言えます。日本脳卒中学会では脳卒中治療施設を急性期血栓回収療法が出来るかどうかによって階層化することを模索しています。当院は以前から rt-PA 静注療法のみならず脳血管内治療を積極的に行ってきました。今後は当院が脳卒中治療の中心施設となることを目標としています。

また、当科は脳卒中内科として脳梗塞の 1 次および 2 次予防にも努力してきました。人間ドックや脳ドックによって、無症候性頸動脈狭窄症、無症候性脳梗塞（隠れ脳梗塞）や頭蓋内血管に狭窄が見つかることがあります。また、最近では MRI の撮像法の進歩によって隠れ脳出血（微小脳出血）が見つかることも増えています。これらの病巣は将来の脳卒中や認知症発症を予見させる所見です。当科では、以上のような所見を有する脳卒中ハイリスク患者の精査を行っています。脳 MRI/MRA、頸動脈エコー、経食道心エコー、脳血流 SPECT や脳血管撮影などを行い脳卒中発症の危険因子を調べ、必要な治療や生活改善の指導を行っています。また、頸動脈狭窄症はその程度に応じて外科治療が必要になることがあります。当科では脳外科と協力して頸動脈ステント留置術を施行しています。

脳梗塞治療は時間との勝負であり、一刻でも早く患者の治療を行うためには、一般住民や救急隊員の啓蒙が重要であると同時に院内での看護部、検査部あるいは放射線部などの協力が必要です。このように脳卒中はチーム医療であり関係部門との緊密な協力が不可欠です。これを実現するために、2016 年 7 月には脳卒中内科、脳神経外科およびリハビリテーション部門を合わせて脳卒中センターを開設いたしました。教育活動として、院内向けの講習会である脳卒中の勉強会、また院外も含めた脳卒中の初期治療対応の講習会である ISLS を開催しています。研究では血栓回収療法によって得られた塞栓子の病理所見と脳梗塞病型との関連性や腎機能低下症例における血栓回収療法について関連学会にて発表してきました。また、抗血栓薬や脳微少出血に関する多施設共同研究に参加しています。

以上のように当科では急性期脳梗塞治療から慢性期の脳卒中危険因子の精査、治療および研究を行っています。今後は、脳卒中センターとして、脳卒中診療の

地域基幹施設となるように努力してまいります。

【2018 年度 研究業績発表】

B-4

Yamamoto S, Ikegami T, Hyun B, Nagano K, Mori K, Fujinaka T, Hashikawa K.
Correlation of clinical characteristics and histological clot composition in acute
ischemic stroke。第 59 回日本神経学会学術集会、札幌市、2018 年 5 月 23 日

山本司郎、櫻井 玲、池上剛史、永野恵子、藤中俊之、橋川一雄：腎不全を伴った
急性期脳梗塞患者に対する脳血栓回収術。第 44 回日本脳卒中学会学術集会、横浜、
2019 年 3 月 22 日

感染症内科

上平朝子

当院は平成 9 年 4 月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療、研究、情報発信、教育研修の 4 つの機能を求められている。当院の HIV 患者数は、毎年 1 年間で 150 名前後の新規患者が受診し、平成 31 年 2 月末現在、当院の HIV 感染症累計患者数は約 3,500 名以上、入院累積患者数は 3,500 名以上となっている。当科では、HIV 感染症に関する多様なニーズに対して、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、情報担当官、ソーシャルワーカーらでチーム医療を実践している。現在の診療内容は、HIV 感染症が全体の 9 割近くを占めており、その他は免疫疾患、一般感染症（一類、二類を除く）などである。

「主な診療、研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗 HIV 療法の確立によってエイズによる死亡者数は減少した。当科では、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症の診療を行っている。抗 HIV 療法では、最新の治療を提供し、9 割以上の患者で治療が奏効している。H30 年度の初回治療レジメンで最も多いのは、昨年度と同様、インテグラーゼ阻害薬を含む STR（single tablet regimen）であった。抗 HIV 療法は、患者の予後を改善し、他の人への感染を予防し HIV の流行を抑えることから、全ての人に早期に治療を開始することが推奨されている。また、各種合剤の開発により服薬の負担はより一層軽減されている。しかし、長期間にわたり正確な内服を継続しなければならない抗 HIV 療法の身体的、精神的負担、HIV 非関連悪性腫瘍の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応、精神科疾患や長期療養施設の確保が困難であるなど課題も続いている。また、抗 HIV 薬の治療効果や副作用の調査、及び検討、服薬アドヒアランスの向上についての研究、悪性腫瘍や神経疾患、免疫再構築症候群、急性 HIV 感染症などの難治性病態についての臨床研究や症例検討、ウイルス肝炎（HCV、HBV）と HIV との重複感染についての症例研究などを行い、厚生労働科研などを通じ、多施設との共同研究にも参加している。また、日本エイズ学会や日本感染症学会を始めとした多くの学会における発表や、論文発表を行っている。

「情報発信、教育研修」

HIV 感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延している。日本では、30～40 歳代の若者を中心に患者が多くみられている。HIV 感染症の早期発見と予防のために、病気についての正しい知識を幅広く提供している。現在、ブロック拠点病院である当院に HIV 感染症患者在集中しているが、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、連携を強化している。HIV 診療のレベルの向上や人材育成を図るために、専門医師養成実地一ヶ月研修（講義・病棟実習）、各種専門職研修など多数の研修会を実施している。また、各種マニュアルや冊子を作成し配布している。HIV エイズ先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っている

(<https://osaka.hosp.go.jp/khac/>)。さらに、HIV 患者の長期療養や一般医療の必要性も高まっており、地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っている。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指している。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Koizumi Y, Imadome KI, Ota Y, Minamiguchi H, Kodama Y, Watanabe D, Mikamo H, Uehira T, Okada S, Shirasaka T : Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. 「J Clin Immunol.」 38(4):478-483、2018 年 5 月

Yotsumoto M, Ito Y, Hagiwara S, Terui Y, Nagai H, Ota Y, Ajisawa A, Uehira T, Tanuma J, Ohyashiki K, Okada S : HIV positivity may not have a negative impact on survival in Epstein-Barr virus-positive Hodgkin lymphoma: A Japanese nationwide retrospective survey. 「Oncol Lett.」 16(3):3923-3928、2018 Sep、Epub 、2018 年 7 月 11 日

Watanabe D, Uehira T, Suzuki S, Matsumoto E, Ueji T, Hirota K, Minami R, Takahama S, Hayashi K, Sawamura M, Yamamoto M, Shirasaka T : Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study. 「BMC Infect Dis.」 19(1):11、2019 年 1 月 5 日

Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E : Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. 「Hepatology Research」 Epub ahead of print、 2019 年 1 月 17 日

A-4

白阪琢磨 : Hand in Hand～HIV 治療と精神科の連携～No.20『急がれるエイズ治療拠点病院と地域の精神科との連携』 「コリウス」 Vol.20、2018 年 4 月 20 日

白阪琢磨: 逆転写酵素阻害薬 HIV-1 reverse transcriptase inhibitors「医学のあゆみ」 265(7) P.557-561、2018 年 5 月 19 日

白阪琢磨: ガイドライン改訂の Points『DHHS ガイドライン改訂のポイント』「HIV 感染症と AIDS の治療 2018 年 5 月号」 9(1) P.11-19、2018 年 5 月

白阪琢磨 : topics「エイズ診療」について「皮膚病診療 2018 年 10 月号」 40(10)P.974-982、株式会社協和企画、2018 年 10 月

白阪琢磨：HIV 感染防ぐのにゲノム編集は必要？専門家に聞く「朝日新聞デジタル」、2018 年 12 月 7 日

白阪琢磨：HIV 治療薬『より相互作用の少ない薬剤開発を』『日刊薬業(web/紙面)」、2018 年 12 月 7 日

白阪琢磨：抗 HIV 薬「治療薬ハンドブック 2019」、株式会社じほう、2019 年 1 月

西田恭治：血友病保因者と女性血友病「日本血栓止血学会誌」29(6)：P687-690、一般社団法人日本血栓止血学会、2018 年 12 月 1 日

来住知美：慢性疾患「治療 おとなのワクチン」100(8):948-951、南山堂、2018 年 8 月 1 日

A-5

渡邊 大：TAF の安全性評価。「第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー6）記録集」、2018 年 8 月

松下修三、岡 慎一、鯉渕智彦、渡邊 大：多様化する HIV 患者と 1 日 1 回投与のアイセントレス®の位置付けを含んだ ART の最適化。「アイセントレス®錠 600mg 発売記念座談会記録集」、2018 年 10 月

白阪琢磨：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 30 年度研究報告書、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）。「HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究」平成 30 年度研究報告書、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P82-86、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」総合研究報告書、P.111-117、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究。公益財団法人友愛福祉財団委託事業「エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究」平成 30 年度報告書、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.58-61、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」総合研究報告書、P.71-74、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：重複感染者の過去のデータ解析（肝線維化及び発癌について）。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の肝移植に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.16-18、2019 年 3 月 31 日

渡邊 大：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.54-57、2019 年 3 月 31 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T: Association of tenofovir level and discontinuation due to impaired renal function. HIV Drug Therapy Glasgow 2018, Glasgow, 2018 年 10 月 29 日

B-3

渡邊 大：長期管理時代における TAF の役割 TAF の安全性評価。第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会、岡山、2018 年 5 月 31 日

白阪琢磨：Hemodialysis of people with HIV infection。第 63 回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

上平朝子：HIV 感染症の最新治療。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

西田恭治：血友病診療の現状と薬剤師が果たすべき役割。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

渡邊 大：「抗 HIV 薬の薬物動態、薬剤間相互作用と薬剤耐性」～PK/PD/PG のアプローチからウイルス学的失敗ゼロを目指す～ 薬剤耐性 HIV の臨床経験と抗 HIV 薬の薬物動態。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

西田恭治：HIV 感染の歴史から学ぶ世界の血液製剤供給。第 32 回日本エイズ学会

学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

上平朝子：CRE のアウトブレイク対策。第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会、神戸、2019 年 2 月 22 日

B-4

上地隆史：Campylobacter jejuni 菌血症と Helicobacter cinaedi 菌血症の臨床的・細菌学的検討。第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018 年 6 月 1 日

伊熊素子、西田恭治、山本雄大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：血友病個別化治療時代におけるアルブトレペノナコグアルファによる 4 週間隔定期補充療法の可能性。第 40 回日本血栓止血学会学術集会、札幌、2018 年 6 月 29 日

白阪琢磨：HIV 感染症の診断と治療－HIV 感染症の治癒は可能か？。日本臨床検査自動化学会第 50 回大会、神戸、2018 年 10 月 13 日

白阪琢磨：てんかんと服薬アドヒアランス 他領域に学ぶ服薬アドヒアランス「HIV 患者における現状と問題点。第 52 回日本てんかん学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 27 日

上平朝子：院内感染アウトブレイク！当院における CPE アウトブレイクの現状と対策。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：初回治療におけるエルビテグラビル/コピシスタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の治療成績。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

白阪琢磨：性感染症の課題－HIV 感染症と梅毒－。日本性感染症学会第 31 回学術大会、東京、2018 年 11 月 25 日

廣田和之、山本雄大、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、上地隆史、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：溶血性貧血を契機に多中心性キャスルマン病と診断された HIV 感染者の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

小島洋子、川畑拓也、森 治代、木村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドックにおける HIV 検査の現状調査。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

東 政美、中濱智子、下司有加、武部美紀、伊藤文代、白阪琢磨：生活習慣病を併

発している HIV 陽性者の生活習慣の改善に対する意識変化。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

水木 薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV 陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

白阪琢磨：ゼロを目指して—今、できること。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

白阪琢磨、橋本修二、川戸美由紀、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、福武勝幸、八橋 弘、岡 慎一：血液製剤による HIV 感染者の調査成績第 1 報 健康状態と生活状況の概要。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉：HIV 関連神経認知障害（HAND）と脳構造。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：細胞性免疫能が低下した HIV-1 感染者における LDH と β -D グルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、白阪琢磨：自発検査で判明した新規 HIV 感染者の受検動機。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：TDF から TAF に変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：当院の 2 剤レジメンの現状。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日
矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、上平朝子、白阪琢磨：新規抗痙攣薬に変更を行うことで抗 HIV 薬との相互作用が回避できた 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 3 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ラルテグラビル/

エトラビルリン/ダルナビル/リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。

第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST 合剤で薬疹、ペントタミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

山本雄大、伊熊素子、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ニューモシスチス肺炎に肺ノカルジア症を合併した後天性免疫不全症候群の 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

北島平太、廣田和之、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法後に肝臓及び脾臓の病変増悪を認めた肺結核の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

青木理恵子、織田幸子、白野倫徳、松浦基夫、外川正夫、谷口春記、来住知美、宇高 歩、今井由三代、林 滋：女性 HIV 陽性者交流会を通じたエンパワメント。

第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

毛受矩子、来住知美、高野正子：大阪検査相談・啓発・支援センターにおける動向と女性の HIV 含む性感染症の動向。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久：エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木 悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：当院における抗 HIV 療法施行患者のポリファーマシーに関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 4 日

B-6

渡邊 大、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、来住知美、廣田和之、伊熊素子、

上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗HIV療法中のHIV感染者における細胞内HIV-1-DNA量の測定法間の差異に関する検討。第32回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018年6月2日

川畑拓也、小島洋子、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：健診センター・人間ドック施設における HIV 検査の現状に関するアンケート調査結果。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

上地隆史：国内外の HIV/AIDS 診療の状況について。第 37 回びわ湖国際医療フォーラム、大津、2018 年 7 月 28 日

白阪琢磨：HIV感染症は治療で感染を防止できます。第91回大阪透析研究会、大阪、2018年9月2日

中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討。第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018年10月25日

廣田和之、上地隆史、北島平太、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子：両側内因性眼内炎で失明に至った糖尿病患者の一例。第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018年10月25日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨：大阪のエイズ診療ブロック拠点病院におけるA型急性肝炎の流行。第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、鹿児島、2018年11月17日

B-7

渡邊 大：プレジコビックス®配合錠によって何が変わったか？～発売後1年を経過して～。HIV Web Conference、2018年4月18日

上平朝子：受診中断患者への対応。平成30年度北海道HIV/AIDS医療者研修会（第29回北海道HIV臨床カンファレンス）、札幌、2018年6月16日

渡邊 大：HIV感染者の病態と考えるべき課題ー最近の話題。HIV感染症学術講演会ーアイセントレス®10年の軌跡ー、大阪、2018年6月24日

白阪琢磨：抗HIV薬の変革と将来～アイセントレスへの期待～。アイセントレス東京学術講演会、東京、2018年7月11日

白阪琢磨：HIV感染症 インテグラーゼ阻害薬が果たした役割～今後の展望～。近畿フロンティア研究会、大阪、2018年7月14日

渡邊 大：抗HIV薬の最新動向－治療の最新動向、診療ガイドライン、PreP、TasP など。2018年度相談事業相談員研修、大阪、2018年7月15日

白阪琢磨：抗HIV療法の進歩はHIVの驚異的変異のスピードを凌駕したか？。第20回白馬シンポジウムin屋久島、鹿児島、2018年9月5日

西田恭治：セッション 4。エイフスチラ発売 1 周年記念講演会、東京、2018 年 11 月 24 日

上平朝子：HIV陽性者のこれから 高齢化とエンディング。第10回沖縄HIV臨床カンファレンス、沖縄、2019年2月2日

渡邊 大：大阪医療センターの診療経験から考えるHIV診療の未来。平成30年度宮崎県エイズ研修会、宮崎、2019年3月2日

白阪琢磨：今後の HIV 診療の期待と課題～2 剤併用療法（GEMINI 試験）に HIV 治療にどう活かすべきか～。ViiV HIV Update 2019、大阪、2019 年 3 月 30 日

B-8

伊熊素子：HIV 及び感染症全般について。奈良市歯科医師会 学術講演会、奈良、2018 年 4 月 5 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題。青森県血友病ケアセミナー、青森、2018 年 4 月 7 日

白阪琢磨：概論。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 4 月 19 日

上地隆史：RTV と COBI の相互作用の違いと DRV/c 製剤への切替メリット。HIV Expert Meeting、東京、2018 年 4 月 21 日

西田恭治：血友病と薬害エイズ。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 5 月 31 日

白阪琢磨：HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府平成 30 年度 HIV/AIDS 基礎研修、大阪、2018 年 6 月 1 日

西田恭治：血友病保因者の諸問題－医療者は気づきを、保因者は自覚を－。平成 30 年ゆうゆう会、大阪、2018 年 6 月 3 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度大阪大学医学部公衆衛生学実習。2018 年 6 月 14 日

上平朝子：HIV 針刺し暴露後予防。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 6 月 14 日

吉本 尚、来住知美、堀越 健、杉谷真季、田中いつみ、山田祐揮、今江章宏、渡部 健、香田将英、五嶋 嶺、村山 愛、高瀬義祥、宇井睦人、近藤 論、岡崎友里：学生・研修医×わかつて医師のつどい@三重。第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、三重、2018 年 6 月 16 日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第 16 回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2018 年 6 月 22 日

上平朝子：HIV 感染症。関西医科大学 3 回生講義感染症コース、大阪、2018 年 6 月 29 日

西田恭治：海外の血友病治療の取り組み。第 18 回 Haemostasis 研究会、東京、2018 年 7 月 14 日

白阪琢磨：日本の HIV/エイズの感染動向と HIV 医療体制。エイズ予防財団平成 30 年度 HIV/エイズ基礎研修会、大阪、2018 年 7 月 27 日

西田恭治：保因者ケアの必要性和実践。第 9 回大阪ヘモフィリアフォーラム 血友病治療～今できること、将来の可能性～、大阪、2018 年 8 月 4 日

白阪琢磨、東 政美、岡本 学：HIV 感染症における看護・介護上の標準予防策の実際。千里中央病院職員向け HIV 感染症研修、大阪、2018 年 8 月 14 日

白阪琢磨：HIV 陽性者の人権課題～HIV、AIDS 等の現状と課題～。大阪府人権総合講座 人材養成コース（前期）、大阪、2018 年 8 月 29 日

西田恭治：今考えるべき血友病保因者診断のこと。第 11 回北陸ヘモフィリア懇話会、金沢、2018 年 9 月 1 日

西田恭治：保因者を含めた軽・中等症血友病の止血管理。ヘモフィリアシンポジウム 2018 in 広島、広島、2018 年 9 月 2 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景 薬害エイズについて。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

HIV 診療チーム：HIV 陽性者の看護③ チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

西田恭治：ナースも気づかなかった血友病保因者問題。第 8 回とちぎ血友病看護ネットワーク、栃木、2018 年 9 月 14 日

来住知美：A 型肝炎 2018。第 40 回京滋 HIV カンファレンス勉強会、京都府立医科大学、2018 年 9 月 19 日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。高齢者等介護施設のための HIV/エイズ研修会、大阪、2018 年 9 月 20 日

来住知美、寺前晃介：大阪の HIV 感染症と性感染症—情報 UP DATE—。大阪府健康医療部主催 MSM 対象 STI 勉強会、2018 年 9 月 24 日

上平朝子：CRE アウトブレイクの経験～医師の視点から見た AMR 対策～。第 8 回北陸地区感染対策セミナー、金沢、2018 年 9 月 29 日

渡邊 大：疫学と抗 HIV 治療ガイドライン。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大、矢倉裕輝：初回抗 HIV 療法の実際。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

西田恭治：血友病診療・凝固因子製剤の使い方。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

上地隆史：日和見感染症（PCP）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

廣田和之：日和見感染症（CMV）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

来住知美：日和見感染症（抗酸菌症）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

上地隆史、廣田和之、寺前晃介、北島平太：症例検討（医師・薬剤師向け）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

上平朝子：針刺し暴露後対策。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 4 日

西田恭治：血友病診療の実際。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 10 日

渡邊 大：新規抗 HIV 薬。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 10 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 12 日

渡邊 大：女性と HIV。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 15 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 16 日

上地隆史：日和見感染症診療（HIV 脳症、PML、クリプトコッカス症）。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 18 日

上平朝子：CRE のアウトブレイクの対策。小牧市民病院 院内感染対策研修会、小牧、2018 年 10 月 19 日

西田恭治：血友病のエイジングケアと保因者ケアを考える。血友病地域治療勉強会～エイジング・保因者ケアを考える～、名古屋、2018 年 10 月 20 日

西田恭治：血友病保因者の現状と課題。第 14 回鹿児島へモフィリア勉強会、鹿児島、2018 年 10 月 27 日

上平朝子：HIV 感染症の基礎知識。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

上地隆史：PCP、カポジ肉腫など。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

来住知美：抗酸菌感染症。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

西田恭治：薬害 HIV。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診断。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

上平朝子：大阪医療センターにおける CRE のアウトブレイクの経験。大阪労災病院講演会、堺、2018 年 11 月 1 日

北島平太：症例検討。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

寺前晃介：症例検討。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

中山久仁子、千葉大、守屋章成、菅長麗依、来住知美、武内治郎、坂西雄太、西岡洋右、岩田健太郎：第 1 回 プライマリ・ケアのためのワクチン&渡航医学。セミナー「ワクチン・渡航医学 虎の穴」、2018 年 11 月 3 日・4 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景：薬害エイズについて。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

HIV 診療チーム：HIV 陽性者の看護③ チーム医療：チーム診療の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の現状と支援。大阪府立大学 公衆衛生看護学 I、大阪、2018 年 11 月 13 日

上平朝子：HIV 感染症治療の最前線と HIV 感染対策について。大阪府医師会 平成 30 年度「HIV 医療講習会」、大阪、2018 年 11 月 29 日

白阪琢磨：感染症患者の看護。大阪赤十字看護専門学校 講義、大阪、2018 年 12 月 6 日

廣田和之：B 型肝炎の基礎知識。厚生科研エイズ対策研究事業 感染症研修会、神戸、2018 年 12 月 8 日

廣田和之：ノロウイルス感染症の基礎知識。厚生科研エイズ対策研究事業 感染症研修会、神戸、2018 年 12 月 8 日

渡邊 大：近畿ブロックにおける病院連携とブロック拠点病院の役割。近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、大阪、2018 年 12 月 10 日

西田恭治：『知る』ことから始めてみませんか？世界の血友病事情のいま。ヘモフ

イリア Today! Web セミナー、大阪、2018 年 12 月 12 日

来住知美：性感染症予防出前授業 ココロとカラダの健康教室、和泉市立はつが野学園、和泉市、2018 年 12 月 12 日

上地隆史：日和見疾患の病態と治療：ニューモシスチス肺炎・HIV 脳症・サイトメガロウイルス網膜炎。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

廣田和之：性感染症の基礎知識。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

渡邊 大：HIV 陽性妊婦の治療と支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題～医療者は気付きを～。静岡県小児血友病懇話会（東部エリア）、静岡、2019 年 1 月 17 日

西田恭治：血友病診療連携という日本独自の最新の取り組みと今後の活動について～世界との繋がりを踏まえて～。Hemophilia Advocacy Advisory Board Summit-2019、Brussels、2019 年 1 月 23 日

上平朝子：標準予防策の基本と HIV の感染対策。第 46 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

西田恭治：血友病患者における HIV 感染の歴史-そして現在の止血治療環境-。第 46 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

渡邊 大：HIV 感染症の治療と期待される地域連携。第 46 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

白阪琢磨：HIV 感染症で期待される病診連携と新たな課題。平成 30 年度 HIV 地域医療連携研修会、大阪、2019 年 3 月 2 日

B-9

白阪琢磨：明日へのことば「エイズ治療最前線の 30 年」。NHK 関西発ラジオ深夜便)、NHK ラジオ第 1、2018 年 6 月 9 日 (2017 年 11 月 11 日再放送)

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 2 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 9 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 16 日

辻 宏幸：世界エイズデー イベントについて。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 11 月 20 日

辻 宏幸：HIV 感染症の現状と啓発について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 11 月 27 日

辻 宏幸：HIV 感染症の検査について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 12 月 4 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 15 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 22 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 29 日

精神科

廣常秀人

当科は、コンサルテーションリーエゾン精神医学・医療に重点を置いており、身体疾患に精神症状が合併した症例を対象とした研究が中心となっている。その他、救命救急センター搬送例のうち自殺企図後の再企図予防、周産期メンタルヘルス、虐待に関する研究、緩和ケア（がんサポートチーム参照）に関する研究もおこなっている。なのはなチーム活動を通じ、職員の産業精神保健的介入も研究のテーマである。各医員の専門領域に関わる臨床研究についても各員の努力で研究を続けている。

消化器内科

石田 永

消化器内科・肝臓内科は、①肝炎・肝臓診療、②内視鏡治療、③消化器癌に対する化学療法を診療の3つの柱にしています。論文発表や学会発表も、この3つの柱を中心に活動しています。

C型肝炎およびB型肝炎に対する抗ウイルス療法ですが、その診療患者数が日本でも常にトップクラスにランクされ、国内のみならず海外の学会・学術誌に情報発信しています。C型肝炎治療はインターフェロンフリーの時代に入り、100%に近いウイルス排除率が得られています。患者さんの併存疾患に応じた適切な治療を選択するなど、よりよい治療を追求するよう心がけています。当科のB型肝炎に対する抗ウイルス剤（特に核酸アナログ）治療も国内で高い評価を受けている領域です。核酸アナログの治療成績は、国立病院機構ネットワーク共同研究の主任研究者としてとりまとめています。肝臓においては治療困難なラジオ波焼灼術症例にも対応し、また若手医師の技術指導にも熱心に取り組んでいます。

内視鏡治療では、早期胃癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）に力を入れ、診療レベルの向上をはかってきました。適応拡大病変の検討や安全性の評価、技術的改良に関する検討を発表しています。特に抗凝固剤、抗血小板薬が投与されている症例の検討を国内外に発信しています。

消化器癌に対する化学療法は今や最も活発に論文発表や学会発表を行っている領域です。特に胆道系悪性腫瘍、膵臓癌は増加傾向にあり、今後も先進医療を行っていきます。また、新規薬剤の開発に伴い胃癌・大腸癌の化学療法も日々進歩しており、エビデンスに基づいた診療を行うとともに、その成績の検討に取り組んでいます。

上記の他にも、臨床的にまれな症例や貴重な経験症例の報告をしています。特に症例報告は専修医/専攻医・研修医の初めての学会発表の場として、消化器内科をあげて指導に力を入れています。今後も、診療・教育とともに臨床研究の成果を国内外に発信していきたいと思えます。

【2018年度 研究業績発表】

A-0

Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E : Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. Hepatol Res. 2019 年

Hitomi Y, Ueno K, Kawai Y, Nishida N, Kojima K, Kawashima M, Aiba Y, Nakamura H, Kouno H, Kouno H, Ohta H, Sugi K, Nikami T, Yamashita T, Katsushima S, Komeda T, Ario K, Naganuma A, Shimada M, Hirashima N, Yoshizawa K, Makita F, Furuta K, Kikuchi M, Naeshiro N, Takahashi H, Mano Y, Yamashita H, Matsushita K, Tsunematsu S, Yabuuchi I, Nishimura H, Shimada Y, Yamauchi K, Komatsu T, Sugimoto R, Sakai H, Mita E, Koda M, Nakamura Y, Kamitsukasa H, Sato T, Nakamura M, Masaki N, Takikawa H, Tanaka A, Ohira H, Zeniya M, Abe M, Kaneko S, Honda M,

Arai K, Arinaga-Hino T, Hashimoto E, Tani M, Umemura T, Joshita S, Nakao K, Ichikawa T, Shibata H, Takaki A, Yamagiwa S, Seike M, Sakisaka S, Takeyama Y, Harada M, Senju M, Yokosuka O, Kanda T, Ueno Y, Ebinuma H, Himoto T, Murata K, Shimoda S, Nagaoka S, Abiru S, Komori A, Migita K, Ito M, Yatsuhashi H, Maehara Y, Uemoto S, Kokudo N, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M : PGLUT1, the putative effector gene driven by rs2293370 in primary biliary cholangitis susceptibility locus chromosome 3q13.33. *Sci Rep*. 14;9(1):102、2019 年 1 月

Yamada R, Hiramatsu N, Oze T, Urabe A, Tahata Y, Morishita N, Kodama T, Hikita H, Sakamori R, Yakushijin T, Yamada A, Hagiwara H, Mita E, Oshita M, Itoh T, Fukui H, Inui Y, Hijioka T, Inada M, Katayama K, Tamura S, Inoue A, Imai Y, Tatsumi T, Hamasaki T, Hayashi N, Takehara T : Incidence and risk factors of hepatocellular carcinoma change over time in patients with hepatitis C virus infection who achieved sustained virologic response、*Hepatol Res*、2019 年。

Sakakibara Y, Nakazuru S, Akasaka T, Ishida H, Mita E : A case of Behçet's disease with esophageal ulcers. *Gastrointest Endosc*. 89(2):430-431、2019 年 2 月

Yoshio S, Mano Y, Doi H, Shoji H, Shimagaki T, Sakamoto Y, Kawai H, Matsuda M, Mori T, Osawa Y, Korenaga M, Sugiyama M, Mizokami M, Mita E, Katayama K, Tanaka J, Kanto T: Cytokine and chemokine signatures associated with hepatitis B surface antigen loss in hepatitis B patients. *JCI Insight*. 18;3(20)、2018 年 10 月

Takehara T, Sakamoto N, Nishiguchi S, Ikeda F, Tatsumi T, Ueno Y, Yatsuhashi H, Takikawa Y, Kanda T, Sakamoto M, Tamori A, Mita E, Chayama K, Zhang G, De-Oertel S, Dvory-Sobol H, Matsuda T, Stamm LM, Brainard DM, Tanaka Y, Kurosaki M : Efficacy and safety of sofosbuvir-velpatasvir with or without ribavirin in HCV-infected Japanese patients with decompensated cirrhosis: an open-label phase 3 trial. *J Gastroenterol*. 54(1):87-95、2019 年 1 月

Nakazuru S, Sakakibara Y, Ishida H, Mori K, Mita E : Gastric metastasis from pancreatic neuroendocrine tumor. *Gastrointest Endosc*. 88(3):559-560、2018 年 9 月

Akasaka T, Takeuchi Y, Ishida H, Mita E : A novel gel immersion technique using a bipolar needle-knife in endoscopic submucosal dissection for superficial gastrointestinal neoplasms. *Ann Gastroenterol*. 31(2):247、2018 年 3 月—4 月

Hanaoka N, Ishihara R, Motoori M, Takeuchi Y, Uedo N, Matsuura N, Hayashi Y, Yamada T, Yamashina T, Higashino K, Akasaka T, Yano M, Ito Y, Miyata H, Sugimura K, Hamada K, Yamasaki Y, Kanesaka T, Aoi K, Ito T, Iishi H : Endoscopic Balloon Dilation Followed By Intraleisional Steroid Injection for Anastomotic Strictures After Esophagectomy: A Randomized Controlled Trial. *Am J Gastroenterol*. 2018 Oct;113(10):1468-1474.、doi: 10.1038/s41395-018-0253-y. Epub 2018 年 9 月 4 日

Doi A, Hikita H, Sakamori R, Tahata Y, Kai Y, Yamada R, Yakushijin T, Mita E, Ohkawa K, Imai Y, Furuta K, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T : Nonstructural protein 5A/P32 deletion after failure of

ledipasvir/sofosbuvir in hepatitis C virus genotype 1b infection. *Hepatology*. 68(1):380-383、2018 年 7 月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M: Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer. *Dig Surg*. 35(5):457-460、2018 年

Hasegawa H, Ando M, Yatabe Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K : Site-specific Chemotherapy Based on Predicted Primary Site by Pathological Profile for Carcinoma of Unknown Primary Site. *Clin Oncol (R Coll Radiol)* 30(10):667-673、2018 年 10 月

Masuishi T, Taniguchi H, Eto T, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Ishihara M, Tanaka T, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Nomura M, Sato Y, Mishima H, Muro K : Morphologic Response and Tumor Shrinkage as Early Predictive Markers in Unresectable Colorectal Liver Metastases. *Anticancer Res* 38(11):6501-6506、2018 年 11 月

Nishikawa K, Murotani K, Fujitani K, Inagaki H, Akamaru Y, Tokunaga S, Takagi M, Tamura S, Sugimoto N, Shigematsu T, Yoshikawa T, Ishiguro T, Nakamura M, Hasegawa H, Morita S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J, Tsujinaka T : A study of second-line irinotecan plus cisplatin vs. irinotecan alone in platinum-naïve patients with early relapse of gastric cancer refractory to adjuvant S-1 monotherapy: exploratory subgroup analysis of the randomized phase III TRICS trial. *Cancer Chemother Pharmacol* [Epub ahead of print]、2019 年 2 月 26 日

Shinzaki S, Fujii T, Bamba S, Ogawa M, Kobayashi T, Oshita M, Tanaka H, Ozeki K, Takahashi S, Kitamoto H, Kani K, Nanjo S, Sugaya T, Sakakibara Y, Inokuchi T, Kakimoto K, Yamada A, Yasuhara H, Yokoyama Y, Yoshino T, Matsui A, Nakamura M, Tomizawa T, Sakemi R, Kamata N, Hibi T. Seven days triple therapy for eradication of *Helicobacter pylori* does not alter the disease activity of patients with inflammatory bowel disease. *Intest Res*. 16(4):609-618、2018 年 10 月

A-2

中水流正一：検査オーダーの流れ、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P2-7、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

中水流正一：肝機能検査、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P8-14、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

中水流正一：末梢血検査、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P15-17、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

榊原祐子：止血・凝固検査、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P18-19、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

榊原祐子：肝腫瘍マーカー、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P20-22、メディカ出版、大阪、2018

年 5 月 1 日

榊原祐子：肝線維化マーカー、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P23-24、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

加藤聖也、三田英治：C 型肝炎をより理解するためのウイルス遺伝子とヒト遺伝子、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P60-63、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

石田 永：C 型慢性肝炎の診断と評価、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P70-75、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

新海数馬、三田英治：ゲノタイプ 2 型に対するインターフェロンフリー治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P93-95、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

東 瀬菜、三田英治：インターフェロン治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P96-97、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

東 瀬菜：肝庇護療法、瀉血療法、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P98-102、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

石田 永、三田英治：B 型肝炎ウイルスの基礎知識、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P104-108、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：B 型慢性肝炎の自然史と診断 1 診断の第一歩と HBV マーカーでのフォローの基本、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P109-110、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

田中総司：B 型慢性肝炎の自然史と診断 2 HBV の母子感染と予防対策、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P111-115、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：B 型慢性肝炎の自然史と診断 3 B 型慢性肝疾患患者の自然経過、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P116-118、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

庄司絢香、三田英治：B 型慢性肝炎の治療 3 核酸アナログ、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P130-139、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

河本泰治：B 型慢性肝炎の治療 4 その他の治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P140、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

赤坂智史：HIV 感染者の消化管病変、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P158-164、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：HIV 感染者の B 型肝炎、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P165-168、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治： HIV 感染者の C 型肝炎、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P169-174、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

長谷川裕子： アルコール性肝障害の診断と治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P196-202、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

清田良介、石田 永： 肝硬変の成因と治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P222-225、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

田代 拓： 肝硬変の栄養管理、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P226-232、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

岩崎哲也、三田英治： 合併症の管理 1 肝性脳症の診断と治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P233-237、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

石原朗雄： 肝癌の診断、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P252-262、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

藤井祥史： 急性肝炎の鑑別診断と治療、肝炎診療バイブル改訂 4 版、P306-313、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

B-2

Yoshio S, Doi H, Shimagaki T, Sakamoto Y, Kawai H, Osawa Y, Korenaga M, Mita E, Katayama K, Tanaka J, Kanto T :CXCL13 and IL-21 Are Potential Biomarkers Associating with HBsAg Loss in Patients with Acute or Chronic Hepatitis B.The Liver Meeting 2018.American Association for the Study of Liver Diseases、San Francisco、2018 年 11 月 9-13 日

Tahata Y, Sakamori R, Urabe A, Yamada R, Ohkawa K, Hiramatsu N, Hagiwara H, Oshita M, Mita E, Tamura S, Imai Y, Kodama T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T: The Comparison of Hepatocellular Carcinoma Occurrence Rates in Patients with Sustained Virologic Response between Interferon-Based and Interferon-Free Therapy: A Propensity Score Matched Cohort from 4558 Patients The Liver Meeting 2018. American Association for the Study of Liver Diseases、San Francisco、2018 年 11 月 9-13 日

Doi A, Hikita H, Kai Y, Tahata Y, Kodama T, Hagiwara H, Inui Y, Mita E, Yamada R, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T : Hepatitis C Viral Diversity Declines during the Course of Direct-Acting Antiviral Therapy and Affects Antiviral Therapeutic Effect.The Liver Meeting 2018. American Association for the Study of Liver Diseases、San Francisco、2018 年 11 月 9-13 日

Shiode Y, Hikita H, Tanaka S, Sakane S, Nozaki Y, Kai Y, Nakabori T, Saito Y, Yamada R, Kodama T, Suemizu H, Sakamori R, Tatsumi T and Takehara T : HCV Infection Inhibits Hepatocyte Autophagy through Rubicon up Regulation Leading to Activation of Type I Interferon and Suppression of HCV Replication.The Liver Meeting 2018. American Association for the Study of Liver Diseases、San

Francisco、2018年11月9-13日

Nozaki Y, Hikita H, Tanaka S, Mizutani N, Sakane S, Makino Y, Nakabori T, Saito Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T and Takehara T :
Continuous Hepatocyte Apoptosis Accelerates Diethylnitrosamine Induced Liver Tumor Development Via Oxidative Stress The Liver Meeting 2018. American Association for the Study of Liver Diseases, San Francisco、2018年11月9-13日

Hasegawa H, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M and Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019, San Francisco、2019年1月17-19日

Kotaka M, Satake H, Oba K, Kagawa Y, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Matsumoto T, Kii T, Terazawa T, Makiyama A, Takano N, Yokota M, Okita Y, Matoba K, Hasegawa H, Tsuji A, Nagata N, Sakamoto J, Kato T : Multicenter phase Ib/ II study of biweekly trifluridine/tipiracil with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study). American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019、 San Francisco、2019年1月17-19日

B-3

石田 永、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、三田英治 : HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響について。第 44 回日本急性肝不全研究会、大阪、2018 年 6 月 13 日

石田 永、田中聡司、三田英治 : HIV 感染合併 C 型慢性肝炎に対する IFN フリー治療は極めて有効である。パネルディスカッション 3 「C 型肝炎～完全制圧を目指した治療戦略～」。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

田中聡司 : HIV/HBV 重複感染者に対する TDF/TAF 含有 ART における HBs 抗原陰性化例の解析。シンポジウム 11 「C 型肝炎”制圧（ゼロ）”、B 型肝炎”制御（ゼロ）”にむけた取り組み」。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

田中聡司 : 大阪における現状。緊急シンポジウム「A 型肝炎のアウトブレイクと対策」。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

田中聡司、石田 永、三田英治 : MSM 間で流行する 2018 年度 A 型急性肝炎の検討。シンポジウム 9 「ウイルス肝炎の基礎と臨床 どこまで解明されたか」。第 42 回日本肝臓学会東部会、東京、2018 年 12 月 8 日

榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治 : Clinical features

of emergent endoscopy for acute upper gastrointestinal bleeding。第 14 回日本消化管学会、東京、2018 年 2 月 9 日

榊原祐子、石田 永、三田英治：Clinical features of emergent endoscopy for acute upper gastrointestinal bleeding。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 20 日

榊原祐子、東 瀬菜、別所宏紀、河本泰治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：小腸内視鏡検査におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有用性と安全性。第 15 回日本消化管学会総会学術集会、佐賀、2019 年 2 月 1 日

B-4

田中聡司、石原朗雄、石田 永、三田英治：HIV/HBV 重複感染者に対する TDF/TAF 含有 ART における HBs 抗原陰性化例の解析。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 19 日

河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HBV/HIV 重複感染例に発症した A 型急性肝炎。第 44 回日本急性肝不全研究会、大阪、2018 年 6 月 13 日

三田英治：口演セッション 37「HCV 臨床 6」司会。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

ト部彩子、阪森亮太郎、山田涼子、田畑優貴、土井喜宣、飯尾禎元、小川弘之、金子 晃、萩原秀紀、三田英治、伊藤敏文、田村信司、今井康陽、小玉尚宏、疋田隼人、巽 智秀、竹原徹郎：Genotype 1 型 C 型慢性肝疾患に対する Elbasvir/Grazoprevir 療法の安全性および治療効果について—多施設共同研究—。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

森下直紀、阪森亮太郎、ト部彩子、甲斐優吾、田畑優貴、山田涼子、小玉尚宏、疋田隼人、土井喜宣、田村信司、萩原秀紀、今井康陽、飯尾禎元、三田英治、巽 智秀、竹原徹郎：ダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の治療効果予測における NS5A-L31-Y93 二重変異測定の意味。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

小森敦正、勝島慎二、杉 和洋、高野浩嗣、太田肇、島田昌明、有尾啓介、酒井浩徳、長沼篤、小松達司、蒔田富士雄、吉澤 要、菊池真大、佐藤丈顕、古田清、真野浩、肱岡泰三、林 亨、三田英治、八橋 弘：C 型肝炎ウイルス駆除後に発現量が変化する血清 miRNA の検索。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

甲斐優吾、疋田隼人、土居 哲、田畑優貴、森下直紀、山田涼子、小玉尚宏、阪森亮太郎、平松直樹、三田英治、萩原秀紀、田村信司、今井康陽、巽 智秀、竹原徹郎：DAA 治療における HCV ゲノム多様性の変化とその意義。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

岩崎哲也、中水流正一、三田英治：Roux-en-Y 再建症例に対するダブルバルーン内視鏡挿入

における新規輸入脚判定法の有用性に関する検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2018 年 5 月 11 日

岩崎哲也、中水流正一、三田英治：術後再建腸管におけるダブルバルーン内視鏡挿入時新規輸入脚判定法の検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 3 日

清木祐介、宮崎哲郎、田中聡司、石原朗雄、来住知美、上平朝子、白阪琢磨、石田永、三田英治：2018 年 A 型急性肝炎流行に関する検討。第 18 回日本病院総合診療医学会学術総会、沖縄、2019 年 2 月 16 日

加藤聖也、榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における HIV 感染者に対する *H.pylori* 除菌療法の検討。JDDW、神戸、2018 年 11 月 1 日

井星陽一郎、加藤元嗣、原田直彦、豊川達也、加賀谷尚史、山下晴弘、桑井寿雄、松本美櫻、濱田博重、間部克裕、久保公利、西山 仁、榊原祐子：抗凝固内服者における内視鏡治療の偶発症に関する多施設検討。第 104 回日本消化器病学会総会 2018、東京、2018 年 4 月 19 日

庄司絢香、榊原祐子、藤井祥史、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：虚血性腸炎の発生部位別にみた背景疾患と臨床経過の検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2018 年 5 月 11 日

藤井祥史、榊原祐子、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における大腸憩室出血の再出血に関与する因子についての検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2018 年 5 月 12 日

加賀谷尚史、豊川達也、増田栄治、勝島慎二、岩渕正広、島田昌明、榊原祐子、原田直彦：国立病院機構 (NHO) における炎症性腸疾患診療実態。第 27 回日本消化器関連学会週間 2018、神戸、2018 年 11 月 1 日

B-6

氏本大介、榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：脳動脈瘤に対するステント留置後に特発性食道粘膜下血腫を発症した 1 例。第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2018 年 5 月 26 日

清木祐介：便潜血を契機に発見された非 HIV 患者の腸管スピロヘータ (HIS) の 1 例。第 220 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 6 月 16 日

三田英治：消化器 1、一般演題座長。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

西村佑子、田中聡司、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、石原朗雄、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染症に合併した C 型急性肝炎の 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

山田恵理子、東瀬菜、石原朗雄、田中聡司、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治、上平朝子：ddI によって加速された HIV 感染合併 C 型慢性肝疾患における門脈圧亢進症を長期管理している 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

齋藤未佑、石田 永、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、三田英治：IFN フリー治療により高ビリルビン血症増悪を来した HIV 感染合併ゲノタイプ 3 型 C 型慢性肝炎の 1 例。第 109 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2018 年 9 月 29 日

河本泰治、榊原祐子、東瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、田代 拓、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：大腸全摘後に特発性血小板減少性紫斑病を合併した潰瘍性大腸炎の一例。第 109 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2018 年 9 月 29 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：P77-2 高齢者胃がんにおける化学療法のマネージメント。第 25 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 19 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：P2-070 当院での高齢者切除不能胃癌症例に対する二次治療としてのパクリタキセル療法とパクリタキセル＋ラムシルマブ療法に関する検討。第 16 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2018 年 7 月 20 日

庄司絢香、長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：P1-34-5 Efficacy and prognostic factor analysis in first-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer。第 91 回日本胃癌学会学術集会、静岡、2019 年 2 月 28 日

齋藤未祐、榊原祐子、東瀬菜、別所宏紀、河本泰治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：広範な食道潰瘍を呈した完全型ベーチェット病の 1 例。第 101 回日本消化器病内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2018 年 11 月 10 日

B-8

赤坂智史：浸水下内視鏡治療の可能性。消化器内科専門医セミナー、大阪（帝国ホテル大阪）、2018 年 1 月 19 日

三田英治：当院での使用経験 ～ TDF から TAF へ ～。ベムリディ発売 1 周年記念講演会 in OSAKA、大阪（帝国ホテル大阪）、2018 年 1 月 27 日

赤坂智史：一般講演座長。第三回臨床消化器内科学教育セミナー、大阪（インターコンチネンタルホテル大阪）、2018 年 4 月 13 日

田中聡司：C 型肝炎治療の進歩と今後の課題。布施医師会・法円坂フォーラム、大阪（シェラトン都ホテル大阪）、2018 年 4 月 14 日

三田英治：ウイルス肝炎と肝臓の征圧にむけた取り組み。大阪府中央区南医師会学術講演会、大阪（アークホテル大阪心斎橋）、2018 年 5 月 26 日

榊原祐子：一般演題座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪（大阪キャッスルホテル）、2018 年 7 月 14 日

岩崎哲也：当院におけるバブルバルーン小腸内視鏡検査の現況。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪（大阪キャッスルホテル）、2018 年 7 月 14 日

三田英治：特別演題座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪（大阪キャッスルホテル）、2018 年 7 月 14 日

三田英治：講演座長「第三部：HIV/HBV 合併感染症の残された問題」。第 6 回 Japan HIV and Hepatitis Study Group 研究会、東京（JP Tower Hall & Conference）、2018 年 7 月 8 日

榊原祐子：一般演題座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪、2018 年 7 月 14 日

岩崎哲也：当院におけるダブルバルーン小腸内視鏡検査の現況。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪、2018 年 7 月 14 日

三田英治：特別講演座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪、2018 年 7 月 14 日

榊原祐子：一般講演座長。第 4 回大阪消化器内科専攻医セミナー、大阪、2018 年 7 月 27 日

長谷川裕子：当院における胃癌化学療法の実況。第 4 回大阪消化器内科専攻医セミナー、大阪、2018 年 7 月 27 日

石田 永：ウイルス肝炎の薬物療法。大阪府中央区南医師会・法円坂フォーラム、大阪（ホテル日航大阪）、2018 年 8 月 4 日

石田 永：一般講演司会。第 7 回法円坂消化器フォーラム、大阪（ホテル日航大阪）、2018 年 8 月 25 日

赤坂智史：消化管表在癌に対する underwater ESD のコツと実際。第 7 回法円坂消化器フォーラム、大阪（ホテル日航大阪）、2018 年 8 月 25 日

石田 永：肝硬変腹水治療における当院の治療への取り組み。肝疾患連携フォーラム、大阪（KKR ホテル大阪）、2018 年 9 月 20 日

三田英治：講演 2 座長。慢性便秘症治療セミナー、大阪（ホテルグランヴィア大阪）、2018 年 9 月 15 日

三田英治：特別講演座長。肝疾患連携フォーラム、大阪（KKR ホテル大阪）、2018 年 9 月 20 日

三田英治：一般講演＋特別講演座長。Hepatitis Expert Meeting、大阪（ホテル阪急インターナショナル）、2018 年 12 月 6 日

三田英治：C 型肝炎治療の最前線。Hyogo Hepatitis Forum 2018、神戸（ORIENTAL HOTEL）、2018 年 12 月 20 日

長谷川裕子：大腸癌化学療法の実際～基礎から BRAF まで～。大腸がん治療セミナー、大阪、2018 年 3 月 16 日

長谷川裕子：高齢者胃がん症例における RAM+PTX 療法。Young GI oncologist seminar、東京、2018 年 11 月 11 日

長谷川裕子：当院における消化器癌治療のとりくみ。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 7 日

長谷川裕子：当院における RAM+FOLFIRI の使用経験療法。大阪大腸癌治療講演会、大阪、2019 年 3 月 14 日

長谷川裕子：特別講演座長。関西若手腫瘍内科の会、大阪、2019 年 3 月 22 日

榊原祐子：UC 治療におけるリアルダを用いた治療戦略を考える施設における。大阪、2018 年 12 月 15 日

榊原祐子：バイオマーカーを用いた潰瘍性大腸炎の活動性の評価と治療。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 7 日

石田 永：特別講演座長、法円坂 GI カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 7 日

エビデンスに基づいて治療方針が決まる現在において、よりよい治療方針を考えるためには臨床研究が非常に重要である。まずは後ろ向き研究によって日々の臨床経験の中から仮説を導きだし、前向き試験によって検証することになる。後ろ向き研究をおこなうためには、日常診療において研究標的とする疾患を多く治療して、解析に耐えるデータベースをもつことが不可欠である。まずは、急性心不全、急性冠症候群、院外心停止、心房細動についての良質なデータベースを作ること为目标としている。そのためには一貫した治療方針に従って日々の診療をおこない、十分な検査結果や診察結果、問診結果などをカルテに残すことが重要である。その一環として、心臓カテーテル検査においては、各種血管内画像診断（IVUS, OCT, 血管内視鏡, spectroscopy など）による病変評価を積極的におこない、新しく登場する診断技術は積極的に取り入れている。さらに、従来から存在する心エコーや冠動脈 CT も積極的に活用することで、現時点で可能な最先端の診断・治療の実践を目指している。日々のカンファレンスにおける徹底的な病態・治療方針の検討、データベースとして利用可能なカルテの改良などに取り組んでいる。

現在、急性心不全および急性冠症候群について、病態解明、発症機序解明と新しい診断法・治療法・予防法の開発を第一の目標としている。急性心不全については心エコーを中心とした研究を、急性冠症候群については血管内視鏡および T-TAS による血液血栓形成能を中心とした研究を進めている。また、大動脈における動脈硬化が大動脈疾患や脳梗塞のみならず、腎障害や ASO さらに認知症の原因となる可能性が示唆されており、大動脈内視鏡を用いた研究も始めている。

さらに、より大きな臨床試験によるエビデンスの確立や、発見した内容の臨床応用を目指して、大阪大学循環器内科関連病院を中心とした共同研究や、日本循環器学会を中心とした活動への展開も進めている。具体的には、大阪大学循環器内科関連病院による HFpEF の共同研究や、日本循環器学会による STOP MI キャンペーンを進めている。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Mizuno A, Hirayama A, Nishino M, Takano H, Takayama T, Ueda Y, Shinke T, Ikeda S, Awata M, Ishihara T, Saito S, Nakamura M, Abe K, Nanto S: Stent Thrombosis and Intrastent Thrombus Formation in Patients Undergoing Elective PCI: Results of an Angioscopic Substudy of the Randomized Trial PRASFIT-Elective (PRASugrel for Japanese PatIenTs with Coronary Artery Disease Undergoing Elective PCI).

「Angioscopy」4(1): 23-31、2018 年 4 月 1 日

Kawakami R, Hao H, Imanaka T, Shibuya M, Ueda Y, Tsujimoto M, Ishibashi-Ueda H, Hirota S: Initial pathological responses of second-generation everolimus-eluting stents implantation in Japanese coronary arteries: Comparison with first-generation sirolimus-eluting stents. 「J Cardiol」 71(5): 452-457、 2018 年 5 月 1 日

Sakaguchi T, Watanabe M, Kawasaki C, Kuroda I, Abe H, Date M, Ueda Y, Yasumura Y, Koretsune Y: A novel scoring system to predict delirium and its relationship with the clinical course in patients with acute decompensated heart failure. 「J Cardiol」 71(6): 564-569、 2018 年 6 月 1 日

Fujino A, Hao H, Shimodai S, Kawakami R, Matsuo K, Yasumura Y, Higuchi Y, Tsujimoto M, Ueda Y, Hirota S: Atherosclerotic Plaque Component as a Risk Factor for Distal Embolization During Percutaneous Coronary Intervention — Pathology of Tissue Obtained by Distal Protection Device — 「Circ J」 82(9):2292-2298、 2018 年 6 月 29 日

Ueno T, Mizuno K, Hirayama A, Nishino M, Takano H, Takayama T, Ueda Y, Shinke T, Ikeda S, Awata M, Ishihara T, Saito S, Nakamura M, Abe K, Nanto S: Stent Thrombosis and Intrastent Thrombus Formation in Patients Undergoing Elective PCI: Results of an Angioscopic Substudy of the Randomized Trial PRASFIT-Elective (PRASugrel for Japanese PatIenTs with Coronary Artery Disease Undergoing Elective PCI)「Angioscopy」 4(1): 23-31、 2018 年 7 月 12 日

Kuroda K, Shinke T, Otake H, Kinutani 1, Iijima R, Ako J, Okada H, Ito Y, Ando K, Anzai H, Tanaka H, Ueda Y, Takiuchi S, Nishida Y, Ohira H, Kawaguchi K, Kadotani M, Niinuma H, Omiya K, Morita T, Zen K, Yasaka Y, Inoue K, Ishiwata S, Ochiai M, Hamasaki T, Urasawa K, Kataoka T, Yoshiyama M, Fujii K, Inoue T, Kawata M, Yokoi H, Nakamura M; NIPPON investigators. Vascular response to biolimus A-9 eluting stent in patients with shorter and prolonged dual antiplatelet therapy: optical coherence tomography sub-study of the NIPPON trial. 「Heart Vessels」 33(8): 837-845、 2018 年 8 月 2 日

Okada M, Kashiwase K, Hirata A, Nishio M, Takeda Y, Nemoto T, Amiya T, Ueda Y, Higuchi Y, Yasumura Y : Evaluation of Need for Implantable Cardioverter-Defibrillator by Thallium-201 Scintigraphy Among Japanese Patients With Prior Myocardial Infarction. 「Circ J」 83(1):56-66、 2018 年 10 月 31 日

Okada M, Kashiwase K, Hirata A, Takeda Y, Amiya R, Ueda Y, Higuchi Y, Yasumura Y: Clinical Influence and Predictors of Pacing-Induced Mechanical Asynchrony in Patients with Normal Cardiac Function with Ventricular Lead Placed in Non-Apical Position. 「Int Heart J」 59(6): 1275-1287、 2018 年 11 月 1 日

Sotomi Y, Suzuki S, Kobayashi T, Hamanaka Y Nakatani S, Hirata A, Takeda Y, Ueda Y,

Sakata Y, Higuchi Y: Impact of the 1-year angioscopic findings on long-term clinical events in 504 patients treated with first-generation or second-generation drug-eluting stents: The DESNOTE-X Study. 「EuroIntervention」 pii: EIJ-D-18-00660. doi: 10.4244/EIJ-D-18-00660、2018 年 11 月 6 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Combinations of Mitral Annulus and Aortic Valve Calcifications Detected by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. (Japanese Society of Echocardiography Distinguished Abstract Award for Overseas Congress) 「Circulation」 2018;138:A15629、2018 年 11 月 5 日

Okada M, Kashiwase K, Hirata A, Nishio M, Takeda Y, Nemoto T, Amiya R, Ueda Y, Higuchi Y, Yasumura Y: Evaluation of Need for Implantable Cardioverter-Defibrillator by Thallium-201 Scintigraphy Among Japanese Patients With Prior Myocardial Infarction 「Circ J」 83(1):55-56、2018 年 12 月 25 日

Miyamoto K, Doi A, Hasegawa K, Morita Y, Mishima T, Suzuki I, Kaseno K, Nakajima K, Kataoka N, Kamakura T, Wada M, Yamagata K, Ishibashi K, Inoue Y, Nagase S, Noda T, Aiba T, Asakura M, Izumi C, Noguchi T, Tada H, Takagi M, Yasuda S, Kusano K: Multicenter Study of the Validity of Additional Freeze Cycles for Cryoballoon Ablation in Patients With Paroxysmal Atrial Fibrillation. 「Circ Arrhythm Electrophysiol」 12(1): e006989. doi: 10.1161/CIRCEP.118.006989、2019 年 1 月 1 日

Mishima T, Miyamoto K, Mprita Y, Kamakura T, Nakajima K, Yamagata K, Wada M, Ishibashi K, Inoue Y, Nagase S, Noda T, Aiba Takeshi, Izumi C, Noguchi T, Yasuda S, Kusano K: Feasibility of late gadolinium enhancement magnetic resonance imaging to detect ablation lesion gaps in patients undergoing cryoballoon ablation of paroxysmal atrial fibrillation. 「J Arrhythm」 DOI: 10.1002/joa3.12161、2019 年 1 月 6 日

Shinouchi K, Ueda Y, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Kosugi S, Iida Y, Toriyama C, Ohashi T, Nakamura M, Fukushima T, Horiuchi K, Mishima T, Abe H, Awata M, Date M, Uematsu M, Koretsune Y: Relation of Chronic Total Occlusion to In-Hospital Mortality in the Patients with Sudden Cardiac Arrest Due to Acute Coronary Syndrome. 「Am J Cardiol」 PII: S0002-9149(19)30322-4. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.amjcard.2019.02.059>、2019 年 2 月 21 日

A-2

安部晴彦、是恒之宏: 海外・日本の心房細動の抗血栓療法ガイドラインの特徴と違い「心房細動別冊」、2018 年 5 月号 P203-209、最新医学社、2018 年 4 月 26 日

上田恭敬: ③私の使い分け: part 3 8 イメージングモダリティの使い分け「血管内

イメージングパーフェクトガイド」、P132-137、日本医事新報社、2018年7月12日

三嶋 剛：オーバーセンシングへの対応「不整脈デバイス治療バイブル」、P155、南江堂、2018年7月25日

鳥山智恵子、安部晴彦、上田恭敬：末期がん患者の静脈血栓塞栓症に対してリバーロキサバン強化療法が有効であった1例「腫瘍循環器ガイド」、P190-193、メディカルレビュー社、2018年10月22日

安部晴彦、是恒之宏：Part3 CQ29 ワルファリンが必要なAFの病態 「血栓循環器学Q&A」、P82-83、文光堂、2019年3月16日

A-3

安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、堀内恒平、福島貴嗣、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心肺運動負荷試験（CPX）が有用と考えられた高齢者大動脈弁狭窄症の一例「Osaka Heart Club」、2018年4月26日

上田恭敬：予後改善を目指したプレホスピタルでの心筋梗塞発症予防・治療に関する新たな試み「心臓」、50(10): 1084-1086、2018年10月1日

A-4

上田恭敬：ACS症例におけるDAPTの期間は6カ月と12カ月のいずれが妥当か？「Clear! ジャーナル四天王」、848、CareNet.com、2018年5月3日

上田恭敬：CABG後もSAPTよりDAPTが優れている？「Clear! ジャーナル四天王」、879、CareNet.com、2018年6月26日

上田恭敬：特集 微小血管狭心症「オーガワールド」、22：16-19、有限会社レベル オーガワールド編集室、2018年8月1日

上田恭敬：小血管において良好な前拡張が得られればDCBはDESと同等に優れている 「Clear! ジャーナル四天王」、919、CareNet.com、2018年9月25日

上田恭敬：FIREHAWKとXIENCEは本当に同等の成績を持つステントか？「Clear! ジャーナル四天王」、945、CareNet.com、2018年11月8日

上田恭敬：5. 虚血再灌流障害の血流障害機序とその対策「Coronary Intervention 特集 再灌流障害を考える - Back to the Future -」、14(6): 34-37、2018年11月30日

上田恭敬：BVSにまだ将来性はあるのか？「Clear! ジャーナル四天王」、970、CareNet.com、2018年12月7日

上田恭敬: STEMI での至適 DAPT 期間は 6 ヶ月それとも 12 ヶ月? 「Clear! ジャーナル四天王」、974、CareNet.com、2018 年 12 月 13 日

上田恭敬: Resolute Onyx 対 Orsiro, 優れているのはどっち? 「Clear! ジャーナル四天王」、987、CareNet.com、2018 年 12 月 31 日

安部晴彦、上田恭敬: 循環作動薬の使い方. 特集 循環器救急の最前線—初期診療と循環管理を極める. 「循環器ジャーナル」、66: 562-567、医学書院、2018 年 9 月 10 日

B-1

Ueda Y: Findings by Coronary Angioscopy. The 23rd Annual Scientific Meeting of International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy、Kyoto、2018 年 5 月 27 日

Abe H: Echocardiographic Particle Image Velocimetry in Heart Diseases. Clinical Session IEEE2018、Kobe、2018 年 10 月 23 日

B-2

Yasumura K, Abe H, Iida Y, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Nishida H, Idemoto A, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: A New Prognostic Indicator in Patients with Acute Decompensated Heart Failure Including both Ambulatory and Nutritional Statuses. ESC2018、Munich、2018 年 8 月 28 日
Kosugi S, Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Iida Y, Ohashi T, Toriyama C, Nakamura M, Fukuashima T, Horiuchi K, Date M, Uematsu M, Koretsune Y, Ueda Y: One and A Half Months After the Implantation of Drug-Coated Stent at the Culprit of Acute Coronary Syndrome. TCT2018、San Diego、2018 年 9 月 21 日

Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Iida Y, Toriyama C, Nakamura M, Kosugi S, Ohashi T, Date M, Uematsu M, Koretsune Y, Ueda Y: Very Early Phase Neoatherosclerosis in Everolimus-Eluting Stent: Angioscopic Finding in Patient. TCT2018、San Diego、2018 年 9 月 21 日

Kosugi S: Half Months After the Implantation of Drug-Coated Stent at the Culprit of Acute Coronary. CCT2018、Kobe、2018 年 10 月 26 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Combinations of Mitral Annulus and Aortic Valve Calcifications Detected by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. AHA2018、Chicago、2018 年 11 月 10 日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:
Differential Impact of Echocardiographic Inferior Vena Cava Measurements on Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure: Comparison with Preserved and Reduced Left Ventricular Ejection Fraction. AHA2018、Chicago、2018 年 11 月 10 日

B-3

安部晴彦: Echo PIV でみる血流と心不全. 第 29 回日本心エコー図学会学術集会, 盛岡市, 2018 年 4 月 27 日

上田恭敬: 冠動脈イベントの発生メカニズムと P C I 治療における抗血小板療法。第 12 回 Trans Catheter Imaging Forum 2018、大阪市、2018 年 5 月 11 日

篠内和也: 大動脈内視鏡による観察を行った FH 合併若年心筋梗塞患者の一例。第 12 回 Trans Catheter Imaging Forum 2018、大阪市、2018 年 5 月 11 日

上田恭敬: 急性心筋梗塞に対する急性期治療の保険診療からみた問題点（現場医師の嘆き）。第 38 回心筋梗塞研究会、東京都、2018 年 7 月 7 日

上田恭敬: 血管内視鏡から見た動脈硬化と心筋梗塞の発症機序。第 50 回日本動脈硬化学会総会・学術集会、大阪市、2018 年 7 月 12 日

上田恭敬: 血管内視鏡と IVUS を用いた冠動脈プラークの安定化と退縮の評価。第 50 回日本動脈硬化学会総会・学術集会、大阪市、2018 年 7 月 12 日

上田恭敬: 血管内視鏡から見た動脈硬化と心筋梗塞の発生機序。第 50 回日本動脈硬化学会総会・学術集会、大阪市、2018 年 7 月 12 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 急性冠症候群による心停止患者を救う: CTO 病変に対する PCI の意義。CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 3 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。 CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 4 日

安部晴彦: Vortex Flow Analysis by Echocardiographic Particle Image Velocimetry (Echo-PIV)。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 7 日

安部晴彦：難治性胸水に ASV が奏功したと考えられた心不全症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 9 日

上田恭敬：血管内視鏡が照らすもの。第 32 回日本心臓血管内視鏡学会総会、東京都、2018 年 9 月 29 日

上田恭敬：医療関係者及び患者教育による心筋梗塞予防の新戦略「STOP MI キャンペーン」。第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 16 日

田原良雄、新沼廣幸、上田恭敬、伊藤智範、西山 慶、菊地 研、澤村匡史、山本 剛、今村 浩、遠藤智之：各領域研修において集中治療は織り込まれているか？。第 46 回日本集中治療医学会学術集会、京都市、2019 年 3 月 1 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：経胸壁心エコーによる大動脈弁および僧帽弁石灰化の診断：心臓 CT との比較研究。第 29 回日本心エコー図学会学術集会、盛岡市、2018 年 4 月 27 日

彦惣俊吾、小島貴行、Bolrathanak Oeun、中谷大作、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、土肥智晴、世良英子、中本敬、坂田泰史：Characteristics of Elderly HFpEF Patients-Implications from PURSUIT-HFpEF study。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Higuchi Y, Suzuki S, Komatsu S, Ueda Y, Hiro T, Takayama T, Yutani C, Hirayama A, Kodama K: Angioscopy detected Spontaneously Ruptured Aortic Plaques as a Potential Cause of Embolic Strokes. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Takahashi S, Komatsu S, Takewa S, Ohhara T, Higuchi Y, Ueda Y, Hirayama A, Yutani C, Kodama K: Perspectives of Preemptive Diagnosis and Intervention for Earlier Stage for Acute Aortic Syndrome: Insights from Non-obstructive Angioscopy. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Kojima K, Komatsu S, Fukumachi D, Kimura S, Fujii H, Matsuura M, Dai K, Mitsuoka H, Ueda Y, Higuchi Y, Takayama T, Hiro T, Okumura Y, Hirayama A, Kodama K: Impact of Aortic Atheromatous Plaques Identified by Aortic Angioscopy on One-Year Clinical Events: On Behalf of DREAM-NOGA Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

B-4

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：経食道心エコー図検査で二重心房中隔に心房中

隔欠損症の合併が疑われた一例。第 91 回日本超音波医学会学術集会、神戸市、2018 年 6 月 8 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：大動脈弁石灰化の弁尖数と冠動脈石灰化との関係：経胸壁心エコーと心臓 C T による研究。第 91 回日本超音波医学会学術集会、神戸、2018 年 6 月 8 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後、P C P S が必要となる因子の検討。第 38 回心筋梗塞研究会、東京都、2018 年 7 月 7 日

Mishima T: Feasibility of Delayed-enhanced Magnetic Resonance Imaging to Detect Ablation Lesion Gaps in Patients Receiving Cryoballoon Ablation: an Analysis of Second Ablation. 日本不整脈心電学会、東京都、2018 年 7 月 13 日

安村かおり、安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：エルゴメーター運動における心拍数処方及び W a t t 数処方による最大酸素摂取量改善率の比較検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 14 日

Ozaki T: A Heart Failure Patient with Preserved Ejection Fraction Exacerbated by Atrial Fibrillation: A Possible Mechanism of Heart Failure Revealed by Left Heart Catheterization Study. 第 65 回日本不整脈心電学会、東京、2018 年 7 月 14 日

安村かおり、安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：心不全患者の栄養指導（P N I）及び運動耐容能と予後との関連についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：安静時酸素摂取量による体組成予測についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

中村雅之、栗田政樹、上田恭敬、伊達基郎、篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、

大阪市、2018 年 9 月 8 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後，PCPS が必要となる因子の検討。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 8 日

加藤大志、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：スタチンによる無症候性筋障害を継時的な CPX 結果から鑑別しえた症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 9 日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧房弁逆流が軽度から重度へ増悪した心不全の一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 9 日

栗田政樹、上田恭敬、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 32 回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018 年 9 月 9 日

小杉隼平、栗田政樹、篠内和也、安部晴彦、三嶋 剛、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性冠症候群の責任病変に drug-coated stent を留置し、52 日後に血管内視鏡で観察し得た一例。第 32 回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018 年 9 月 29 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：冠危険因子の管理された患者の大動脈にプラーク破綻を認めた一例。第 32 回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018 年 9 月 29 日

中村雅之：ペースメーカー植え込み後に出現した、高頻度な心室期外収縮を伴った左室機能障害の一例。第 22 回日本心不全学会学術集会、東京、2018 年 10 月 11 日

飯田吉則：心嚢液貯留に対する心膜開窓術後、僧房弁閉鎖不全症の増悪を認めた一例。第 22 回日本心不全学会学術集会、東京、2018 年 10 月 12 日

小杉隼平、栗田政樹、篠内和也、安部晴彦、三嶋 剛、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性冠症候群の責任病変に drug-coated stent を留置し、52 日後に血管内視鏡で観察し得た一例。第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 16 日

篠内和也、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：上行大動脈人工血管置換術後の心嚢液貯留にアスピリンが著効した 2 例。第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 16 日

尾崎立尚、栗田政樹、大橋拓也、鳥山智恵子、飯田吉則、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：一過性冠攣縮により虚血性心肺停止をきたした症例の診断に迫る。第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 17 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Improvement of Left Ventricular Function by Amino Acid Replenishment in Hemodialysis Patients with Reduced Left Ventricular Ejection Fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

山元博義、加藤弘康、国重めぐみ、小杉元宏、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：Prognostic Usefulness and Determinants of Six-minute Walk Distance for Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: From the PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Influence of Coronary Artery Calcification on Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Patients without History of Coronary Artery Disease. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Komatsu S, Takahashi S, Takewa M, Ohhara T, Higuchi Y, Ueda Y, Hirayama A, Yu-tani C, Kodama K: Higher Number of Spontaneous Ruptured Aortic Plaques and Injuries may be Related to Peripheral Artery Disease. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Nakamura M, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Iida Y, Toriyama C, Ohashi T, Ozaki T, Kosugi S, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M: Prognostic Impact Differs between Left and Right Ventricular Longitudinal Function in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction.

第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史: Short-term Prognostic Predictability of Echocardiographic Cardiac Contractibility Parameters: In-sights from PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

Toriyama C, Abe H, Nishida H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Limitations of Left Ventricular Outflow Tract Velocity Time Integral as a Surrogate for Stroke Volume in Preserved Ejection Fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

Shinouchi K, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Iida Y, Ohashi T, Toriyama C, Ozaki T, Kosugi S, Nishida H, Kato T, Mishima T, Abe H, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Chronic Total Occlusion Dependent on Infarct-related Artery was Associated with In-hospital Mortality of Sudden Cardiac Arrest Acute Coronary Syndrome Patients. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

玉置俊介、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、福並正剛、坂田泰史: Plasma Volume Status is Useful for Prediction of Change in Nutritional Status during Hospitalization in ADHF Patients with Preserved LVEF. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史: Specialized Phenotyping Algorithm for Japanese HFpEF Patients is Needed for the Effective Treatment and Prognostic Estimation: Learnings from PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki S, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Calcifications of Mitral Annulus and Aortic Valve by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

西田博毅、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、島山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: アミノ酸補充療法は左室収縮能が低下した人工透析心不全患者の左室機能を改善する。第 4 回日本心筋症研究会、奈良、2018 年 6

月 2 日

飯田吉則、安部晴彦、是恒之宏、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、三嶋 剛、篠内和也、井手本明子、加藤大志、安村かおり、西田博毅、尾崎立尚、鳥山智恵子、中村雅之：心肺運動負荷試験における嫌気性代謝閾値ポイントの再現性についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 14 日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心肺運動負荷試験によりスタチンの無症候性筋障害の存在を指摘しえた症例。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右橈骨動脈アプローチの PCI で腕頭動脈の蛇行を避ける方法。CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 2 日

B-5

上田恭敬：PCI 患者におけるイベント予防と抗血小板療法。第 125 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 6 月 30 日

上田恭敬：心筋梗塞の発症機序解明と発症予防への挑戦。第 12 回 M S F 勉強会、宮崎市、2018 年 9 月 14 日

安部晴彦：循環器スペシャリストが教える診療エッセンス。第 8 回阪神心血管セミナー、大阪市、2018 年 9 月 28 日

B-6

中嶋真理子、尾崎立尚、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右心不全増悪を契機に前縦隔悪性腫瘍を診断しえた 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪市、2018 年 9 月 22 日

宮原 智、飯田吉則、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：トルバプタン導入によりループループ利尿薬減量がかった重症慢性心不全の 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪市、2018 年 9 月 22 日

篠内和也：ACS 患者に対して DCS 留置し、1 カ月半後に血管内視鏡で観察した 1 例。第 10 回近畿血管内視鏡研究会、大阪市、2018 年 9 月 22 日

中村雅之、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、堀内恒平、福島貴嗣、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：エベロリムス溶出性ステント留置 1 年後

に血管内視鏡でステントストラットに沿って黄色プラークの増生を認めた一例。
第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右橈骨動脈アプローチの PCI で腕頭動脈の蛇行を避ける方法。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：Orsiro SES 留置 1 ヶ月後に血管内視鏡で観察し得た 1 例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した 2 例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した 2 症例。第 43 回近畿心血管イメージング研究会、大阪市、2018 年 10 月 20 日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性心筋梗塞患者と安定狭心症患者における血栓形成能の検討。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

鳥山智恵子、篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：洞停止を契機とした急性心不全治療後に塞栓による急性心筋梗塞を来した 1 例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

福島貴嗣、安部晴彦、飯田吉則、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：高度僧帽弁閉鎖不全症に対して薬物療法

のみで経過観察できた超高齢女性の一例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、鳥山智恵子、大橋拓也、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流の増悪を確認できた心不全の一例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

大橋拓也、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、是恒之宏：ペースメーカー植え込み術後慢性期に Pacemaker-twiddler's syndrome を認めた一例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

堀内恒平、安部晴彦、飯田吉則、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：子宮頸癌でポート留置後に上大静脈から右房内血栓が見つかりリバーロキサバン強化療法が有効であった一例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群に対して DES 留置後 3 ヶ月で再狭窄をきたした一例。第 32 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2019 年 2 月 9 日

篠内和也：ACS 患者に DCS 留置し、1 ヶ月半後と 1 年後に血管内視鏡で観察した 1 例。第 11 回近畿血管内視鏡研究会、大阪市、2019 年 2 月 23 日

小杉隼平、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、加藤大志、篠内和也、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心嚢液消退後に機能性僧帽弁逆流と肺高血圧が出現した一例。第 45 回日本超音波医学会関西地方学術集会、神戸市、2018 年 10 月 20 日

B-8

篠内和也：実臨床で PCSK9 阻害薬をこう使う！。PCSK9 Special Seminar、神戸市、2018 年 11 月 2 日

安部晴彦：超音波で考える循環器疾患 2018。OMMC 循環器臨床懇話会 2018、大阪市、2018 年 12 月 1 日

三嶋 剛：腎機能障害を伴う下肢血栓塞栓症におけるリバーロキサバンの使用経

験。Meet the Heart Rhythm Expert、大阪市、2019 年 2 月 23 日

上田恭敬: 冠動脈イベントの発症機序と予防～積極的 LDL-C 低下療法の意義～。社保・国保審査委員学術講演会、大阪市、2018 年 5 月 12 日

上田恭敬: 冠動脈の病気～狭心症や心筋梗塞～。第 16 回 T C I F 市民公開健康講座、大阪市、2018 年 5 月 12 日

尾崎立尚: VF electrical storm の原因診断に難渋した一例。大阪循環器部会 冠動脈疾患セミナー、大阪市、2018 年 6 月 15 日

中村雅之: 感染性心内膜炎を契機に急性心不全を経験した症例からの考察。循環器若手集談会、大阪市、2018 年 7 月 6 日

安部晴彦: 心不全の病態と治療のエビデンス: 当院での取り組み。大阪市中心南区南医師会・法円坂フォーラム、大阪市、2018 年 8 月 4 日

篠内和也: FH スクリーニングの取り組み状況と PCSK9 阻害薬の IC について。FIND FH Save Their Family、大阪市、2018 年 8 月 30 日

三嶋 剛: 心房細動患者のマネジメント。心房細動エリアWEBセミナー。WEB、2018 年 9 月 18 日

大橋拓也: 急性 A 型大動脈解離に冠動脈解離を合併した一例。大阪市中心区心筋梗塞研究会、大阪市、2018 年 11 月 20 日

上田恭敬: 抗動脈硬化・抗血栓療法および啓発活動による急性心筋梗塞と発症予防～合併症としての消化管出血予防とともに～大阪循環器部会～冬ミーティング～。大阪市、2018 年 11 月 24 日

安部晴彦: 新しい高血圧ガイドラインと心疾患管理。第 3 回法円坂循環器フォーラム、大阪市、2018 年 11 月 29 日

安部晴彦: 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症に関するガイドラインとリアルワールドでの経験。東医師会『12 月学術講習会』、大阪市、2018 年 12 月 5 日

三嶋 剛: 心房細動マネジメント～地域連携と専門医の役割。第 5 回大阪市中心南区南医師会学術講演会、大阪市、2019 年 1 月 26 日

三嶋 剛: 知らないと怖い, 知っていれば怖くない～心房細胞のはなし。第 364 回生活習慣病研修会、大阪市、2019 年 2 月 13 日

飯田吉則: 心臓リハビリテーションにおける高強度インターバルトレーニング (HIIT) の意義。第 37 回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪市、2019 年 2 月 16 日

安部晴彦：心不全患者における栄養評価・管理。第 37 回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪市、2019 年 2 月 16 日

中村雅之：完全房室ブロックに対してペースメーカー植え込み後に著しい左室機能低下を認めた心不全の一例。第 37 回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪市、2019 年 2 月 16 日

西田博毅：心臓 MRI を用いた最新の心筋症鑑別診断。第 37 回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪市、2019 年 2 月 16 日

小児科

寺田志津子

小児科では、以下の疾患に重点的に取り組んでいる。

新生児医療：合併症をもつ母親から出生した新生児、健康新生児ならびに病的新生児、後期早産児、HIV 母子感染予防。

高度小児専門医療：骨系統疾患、神経、発育・発達障害、血液、消化器、内分泌、アレルギー、循環器、腎疾患、児童虐待、感染症（HIV 感染症を含む）。

成人化した小児難病治療：小児難病患者の内科専門外来への円滑なバトンタッチ。

臨床研究として、日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）の参加施設として白血病・悪性リンパ腫の、主に長期フォローアップの研究に参加している。また、HIV 感染妊婦の全国疫学調査研究事業に参加している。

【2018 年度研究業績発表】

B-4

五味久仁子、恵谷ゆり、前山隆智、大沼真輔、小西絢子、川合正信、庄司保子、位田忍：小児潰瘍性大腸炎に対し白血球除去療法を施行した 21 症例の検討。第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018 年 4 月 22 日

五味久仁子、前山隆智、大沼真輔、小西絢子、庄司保子、中長摩利子、川合正信、曹英樹、中山佳子、宮下律子、位田 忍、恵谷ゆり：内視鏡的バルーン拡張術により十二指腸狭窄のコントロールを試みた非特異性多発性小腸潰瘍症の一例。第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会、埼玉、2018 年 10 月 7 日

河田 興、酒見好弘、古賀寛史、久保井徹、中村 信、盆野元紀、阿水利沙、上牧 勇、安成大輔、寺田志津子、江頭智子、安日一郎、林 公一、五十嵐常雄、佐藤和夫：母体セロトニン再取り込み阻害薬・セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬による新生児不適応症候群。第 54 回日本周産期・新生児医学会総会、東京、2018 年 7 月 9 日

外科

(肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科)

平尾 素宏

外科は、外科治療およびがん治療における標準治療の確立と先進医療の開発をめざして、以下の方針に基づいて臨床および研究を行ってきました。

- 1) 専門性および先進性の高い医療
- 2) 医療の質の向上とチーム医療の推進
- 3) 標準治療の確立と臨床共同研究の推進
- 4) 各種がんに対する集学的治療の推進
- 5) 外科手術の改善と向上
- 6) 周術期管理の改善と向上

毎年、多くの学会発表、論文発表、司会および講演を行っています。若手医師も積極的に研究発表と論文発表を行ってくれました。熱心に若手指導を行ってくれたスタッフ各位の努力のおかげです。今後もより一層皆で精進していこうと思います。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Nagai K, Kuriyama K, Inoue A, Yoshida Y, Takami K : Computed tomography-guided preoperative localization of small lung nodules with indocyanine green . 「 Acta Radiol 」 59 (7) : P 830 - 835、2018 年 7 月

Maniwa T, Shintani Y, Okami J, Kadota Y, Takeuchi Y, Takami K, Yokouchi H, Kurokawa E, Kanzaki R, Sakamaki Y, Shiono H, Iwasaki T, Nishioka K, Kodama K, Okumura M : Upfront surgery in patients with clinical skip N2 lung cancer based on results of modern radiological examinations . 「 J Thoracic Dis 」 10 (12) : P 6828 - 6837、2018 年 10 月

Kurokawa Y, Doki Y, Mizusawa J, Terashima M, Katai H, Yoshikawa T, Kimura Y, Takiguchi S, Nishido Y, Fukushima N, Iwasaki Y, Kaji M, Hirao M, Katayama H, Sasako M : Bursectomy versus omentectomy alone for resectable gastric cancer (JCOG1001): a phase 3, open-label, randomised controlled trial . 「 Lancet Gastroenterol Hepatol 」 3 (7) : P 460 - 468、2018 年 7 月

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer . 「 Dig Surg 」 35 (5) : P 457 - 460、2018 年 8 月

Nakamura Y, Yamanaka T, Chin K, Cho H, Katai H, Terashima M, Misawa K, Hirao M, Yoshida K, Oki E, Sasako M, Emi Y, Bando H, Kawashima Y, Fukunaga T, Gotoh M, Ishibashi T, Shitara K : Survival Outcomes of Two Phase 2 Studies of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Plus Oxaliplatin or Capecitabine Plus Oxaliplatin for Patients with Gastric Cancer After D2 Gastrectomy . 「 Ann Surg Oncol 」 26 (2) : P 465 - 472、2019 年 2 月

Kotaka M, Yamanaka T, Yoshino T, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Kato T, Munemoto Y, Nakamura F, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, Shiozawa M, Saji S, Maehara Y, Mizushima T, Ohtsu A, Mori M : Safety data from the phase III Japanese ACHIEVE trial: part of an international, prospective, planned pooled analysis of six phase III trials comparing 3 versus 6 months of oxaliplatin-based adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer . 「 ESMO open 」 2018 年 4 月

Xu RH, Muro K, Morita S, Iwasa S, Han SW, Wang W, Kotaka M, Nakamura M, Ahn JB, Deng YH, Kato T, Cho SH, Ba Y, Masuoka H, Lee KW, Zhang T, Yamada Y, Sakamoto J, Park YS, Kim TW : Modified XELIRI (capecitabine plus irinotecan) versus FOLFIRI (leucovorin, fluorouracil, and irinotecan), both either with or without bevacizumab, as second-line therapy for metastatic colorectal cancer (AXEPT): a multicentre, open-label, randomised, non-inferiority, phase 3 trial . 「 Lancet Oncol 」 19 (5) : P 660 - 671、2018 年 5 月

Oki E, Kato T, Bando H, Yoshino T, Muro K, Taniguchi H, Kagawa Y, Yamazaki K, Yamaguchi T, Tsuji A, Iwamoto S, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Sakisaka H, Yamanaka T, Kanazawa A : A Multicenter Clinical Phase II Study of FOLFOXIRI Plus Bevacizumab as First-line Therapy in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: QUATTRO Study . 「 Clin Colorectal Cancer 」 17 (2) : P 147 - 155、2018 年 6 月

Nishimura J, Hasegawa J, Kato T, Yoshioka S, Noura S, Kagawa Y, Yasui M, Ikenaga M, Murata K, Hata T, Matsuda C, Mizushima C, Yamamoto H, Doki Y, Mori M : Phase II trial of capecitabine plus oxaliplatin (CAPOX) as perioperative therapy for locally advanced rectal cancer . 「 Cancer Chemother Pharmacol. 」 82 (4) : P 707 - 716、2018 年 10 月

Maeda H, Nagata N, Nagasaka T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida K, Muro K, Sakamoto J. : A multicenter single-arm Phase II clinical trial of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line treatment with FOLFOX plus panitumumab for initial

RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA: A protocol study. 「Oncol, Lett」 17 (2) : P 1980 - 1985、2019 年 2 月

Nakayama T, Sagara Y, Takashima T, Matsunami N, Masuda N, Miyoshi Y, Taguchi T, Aono T, Ito T, Kagimura T, Noguchi S : Randomized phase II study of anastrozole plus tegafur-uracil as neoadjuvant therapy for ER-positive breast cancer in postmenopausal Japanese women (Neo-ACET BC). 「Cancer Chemother Pharmacol」 81(4) : P755-762、2018 年 4 月

Ueno T, Masuda N, Kamigaki S, Morimoto T, Akiyama F, Kurosumi M, Tsuda H, Mikami Y, Tanaka S, Morita S, Toi M. : A multicenter phase II trial of neoadjuvant letrozole plus low-dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer (JBCRG-07):therapeutic efficacy and clinical implications of circulating endothelial cells.「Cancer Medicine」 7(6) : P2442-2451、2018 年 6 月

Yoshida K, Otani Y, Nose T, Yoden E, Asahi S, Tsukiyama I, Dokiya T, Saeki T, Fukuda I, Sekine H, Kumazaki Y, Takahashi T, Kotsuma T, Masuda N, Nakashima K, Matsumura T, Nakagawa S, Tachiiri S, Moriguchi Y, Itami J, Oguchi M : Case report of a dose-volume histogram analysis of rib fracture after accelerated partial breast irradiation: interim analysis of a Japanese prospective multi-institutional feasibility study. 「J Contemp Brachytherapy」 10(3) : P274-278、2018 年 6 月

Rugo HS, Turner NC, Finn RS, Joy AA, Verma S, Harbeck N, Masuda N, Im SA, Huang X, Kim S, Sun W, Iyer S, Schnell P, Bartlett CH, Johnston S : Palbociclib plus endocrine therapy in older women with HR+/HER2- advanced breast cancer: a pooled analysis of randomised PALOMA clinical studies. 「Eur J Cancer」 101 : P122-123、2018 年 9 月

Takada M, Sugimoto M, Masuda N, Iwata H, Kuroi K, Yamashiro H, Ohno S, Ishiguro H, Inamoto T, Toi M : Prediction of postoperative disease-free survival and brain metastasis for HER2-positive breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy plus trastuzumab using a machine learning algorithm. 「Breast Cancer Res Treat」 172(3) : P611-613、2018 年 12 月

Yamamoto Y, Iwata H, Ueno T, Taira N, Kashiwaba M, Takahashi M, Tada H, Tsugawa K, Toyama T, Niikura N, Hara F, Fujisawa T, Yoshinami T, Saji S, Takano T, Masuda N, Morita S, Toi M, Ohno S : A randomized, open-label, Phase III trial of pertuzumab retreatment in HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab and chemotherapy: the Japan Breast Cancer Research Group-M05 PRECIOUS study. 「Jpn J Clin Oncol」 48(9) : P855-859、2018 年 9 月

Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira

N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Bailey H, Cherbavaz DB, Jakubowski DM, Sugiyama N, Chao C, Ohashi Y : Validation of the 21-gene test as a predictor of clinical response to neoadjuvant hormonal therapy for ER+, HER2-negative breast cancer: the TransNEOS study. 「Breast Cancer Res Treat」 173(1) : P123-133、2019 年 1 月

Masuda N, Inoue K, Nakamura R, Rai Y, Mukai H, Ohno S, Hara F, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Huang X, Iwata H : Palbociclib in combination with fulvestrant in patients with hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer: PALOMA-3 subgroup analysis of Japanese patients. 「Int J Clin Oncol」 24(3) : P262-273、2019 年 3 月

Mukai H, Shimizu C, Masuda N, Ohtani S, Ohno S, Takahashi M, Yamamoto Y, Nishimura R, Sato N, Ohsumi S, Iwata H, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Lu DR, Toi M : Palbociclib in combination with letrozole in patients with estrogen receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer: PALOMA-2 subgroup analysis of Japanese patients. 「Int J Clin Oncol」 24(3) : P274-287、2019 年 3 月

Ueno T, Masuda N, Kamigaki S, Morimoto T, Saji S, Imoto S, Sasano H, Toi M : Differential Involvement of Autophagy and Apoptosis in Response to Chemoendocrine and Endocrine Therapy in Breast Cancer. 「Int J Mol Sci」 20(4) : E984、2019 年 2 月

Nishikawa K, Aoyama T, Oba M, Yoshikawa T, Matsuda C, Munemoto Y, Takiguchi N, Tanabe K, Nagata N, Imano M, Oshiro M, Fukushima R, Kataoka M, Morita S, Tsuburaya A, Mishima H, Kono T, Sakamoto J : The clinical impact of Hangeshashinto (TJ-14) in the treatment of chemotherapy-induced oral mucositis in gastric cancer and colorectal cancer: Analyses of pooled data from two phase II randomized clinical trials (HANGESHA-G and HANGESHA-C). 「Journal of Cancer」 9 (10) : P 1725 - 1730、2018 年 4 月 19 日

Kimura Y, Fujii M, Masuishi T, Nishikawa K, Kunisaki C, Matsusaka S, Segawa Y, Nakamura M, Sasaki K, Nagao N, Hatachi Y, Yuasa Y, Asami S, Takeuchi M, Furukawa H, Nakajima T : Multicenter phase II study of trastuzumab plus S-1 alone in elderly patients with HER2-positive advanced gastric cancer (JACCRO GC-06) . 「Gastric Cancer」 21 (3) : P 421 - 427、2018 年 5 月

Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Kobayashi M, Kawada J, Fukushima R, Matsui T, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Takahashi M, Hirabayashi N, Sato S, Nemoto H, Rino Y, Nakajima J, Aoyama T, Miyagi Y, Oriuchi N, Yamaguchi K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J : A randomised phase II trial of capecitabine plus cisplatin versus S-1 plus cisplatin as a first-line treatment for advanced gastric cancer:

Capecitabine plus cisplatin ascertainment versus S-1 plus cisplatin randomised PII trial (XParTS II). 「 Eur J Cancer 」 101 () : P 220 -228、2018 年 8 月 7 日

Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Takahashi M, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Namikawa T, Aoyama T, Rino Y, Kawada J, Tsuji A, Taira K, Kimura Y, Kodera Y, Hirashima Y, Yabusaki H, Hirabayashi N, Fujitani K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J : A phase II trial of capecitabine plus cisplatin (XP) for patients with advanced gastric cancer with early relapse after S-1 adjuvant therapy: XParTS-I trial . 「 Gastric Cancer 」 21 (5) : P 811 - 818、2018 年 9 月

Shitara K, Doi T, Mikhail Dvorkin, Wasat Mansoor, Hendrik-Tobias Arkenau, Aliaksandr Prokharau, Maria Alsina, Michele Ghidini, Catia Faustino, Vera Gorbunova, Edvard Zhavrid, Nishikawa K, Hosokawa A, Şuayib Yalçın, Fujitani K, Giordano D Beretta, Eric Van Cutsem, Robert E Winkler, Lukas Makris, David H Ilson, Josep Tabernero : Trifluridine/tipiracil versus placebo in patients with heavily pretreated metastatic gastric cancer (TAGS): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. 「 Lancet Oncol 」 19 () : P 1437 - 1448、2018 年 11 月

Takashima A, Shitara K, Fujitani K, Koeda K, Hara H, Nakayama N, Hironaka S, Nishikawa K, Kimura Y, Amagai K, Fujii H, Muro K, Esaki T, Choda Y, Takano T, Chin K, Sato A, Goto M, Fukushima N, Hara T, Machida N, Ohta M, Boku N, Shimura M, Morita S, Koizumi W : Peritoneal metastasis as a predictive factor for nab-paclitaxel in patients with pretreated advanced gastric cancer: an exploratory analysis of the phase III ABSOLUTE trial . 「 Gastric Cancer 」 22 (1) : P 155 - 163、2019 年 1 月

Endo S, Ikenaga M, Ohta K, Ueda M, Tsuda Y, Kato R, Itakura H, Matsuyama J, Nishikawa K, Yamada T : Prognostic factors for cytology-positive gastric cancer. 「 Surg Today 」 49 (1) : P 56 - 64、2019 年 1 月

Nishina T, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Mitome T, Kageyama H, Hyodo I : Early tumor shrinkage and depth of response in patients with advanced gastric cancer: aretrospective analysis of a randomized phase III study of first-line S-1 plus oxaliplatin vs. S-1 plus cisplatin . 「 Gastric Cancer 」 22 (1) : P 138 - 146、2019 年 1 月

Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, Oshima T, Nunobe S, Hiki N : Effects of perioperative Eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on lean body mass after total gastrectomy for gastric cancer . 「 Journal of Cancer 」 10 (5) : P 1070 - 1076、2019 年 1 月 19 日

Fujiwara A, Funaki S, Ose N, Kanou T, Kanzaki R, Minami M, Shintani Y : Surgical resection for advanced thymic malignancy with pulmonary hilar invasion using hemi-clamshell approach. 「 J Thoracic Dis 」 10 (12) : P 6475 - 6481、2018 年

A-2

平尾素宏 : 食道がん 受診から診断、治療、経過観察への流れ「がん情報サービス でんし冊子」 : P. 2 - 21、2018 年

加藤健志、長谷川裕子、井上 唯、安居 栞、田中祐樹、沖 華津菜、門間 亮 : 臓器別がん 大腸がん「Yori-sou がんナーシング」 8 (5) : P. 69 - 85、メディカ出版、2018 年 10 月 1 日

増田慎三 : Palbociclib + Fulvestrant 療法「エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2018」 P.277-280、メディカルレビュー社、東京、2018 年 6 月 1 日

増田慎三 : Palbociclib + Letrozole 療法「エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2018」 P.281-283、メディカルレビュー社、東京、2018 年 6 月 1 日

増田慎三 : Palbociclib + Letrozole 療法 I 章 総論 1.乳癌治療の基本アルゴリズム「乳癌 薬物療法ハンドブック」佐治重衡、P.2-13、株式会社南江堂、東京、2019 年 1 月 31 日

八十島宏行 : 搬送時に注意すべきことはありますか? 「抗がん薬曝露対策ファイル」 P.112-113、株式会社じほう、東京、2018 年 7 月

明石直子、庄野裕志、安原加奈、八十島宏行、増田慎三 : 大阪医療センターにおける研究・調査の結果「抗がん薬曝露対策ファイル」 P.56-61、株式会社じほう、東京、2018 年 7 月

A-3

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 膵癌切除後の残膵再発に対して残膵切除を行い長期生存が得られた 1 例「癌と化学療法」 46 (2) : P. 330 - 332、癌と化学療法社、2019 年 2 月

増田慎三 : 乳癌の治療 乳癌の薬物療法 CDK4/6 阻害薬「日本臨牀」 76(5) : P.801-810、日本臨牀社、2018 年 5 月 1 日

増田慎三 : OlympiAD 試験「CANCER BOARD of the BREAST」 4(2) : P.60-61、メディカルレビュー社、2018 年 8 月

増田慎三 : 特集 術前・術後補助化学療法の現在とこれから 1.各がん腫における術前・術後補助化学療法現在 3) 乳がん「臨床腫瘍プラクティス」 14(3) : P.173-176、ヴァン メディカル、2018 年 8 月 10 日

植村 守、加藤健志、三宅正和、宮崎道彦、関本貢嗣：大腸癌に対する化学療法の進歩と最近の話題 IV 結腸癌に対する術後補助化学療法「日本大腸肛門病学会雑誌」71 (10) : P 393- 405、2018 年 10 月

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、田中英一、岩崎哲也、下山 遼、前田 栄、藤原綾子、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：胃癌術後リンパ節再発の十二指腸浸潤部出血に対し姑息的放射線治療で止血を得た 1 例「癌と化学療法」45 (13) : P. 2366 - 2368、癌と化学療法社、2018 年 12 月

田中希世、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、関本貢嗣、中森正二、増田慎三：Pertuzumab 併用療法を施行した HER2 陽性進行・再発乳癌例の検討「臨牀と研究」95(10) : P.95-100、大道学館、2018 年 10 月 20 日

村上弘大、三宅正和、植村 守、宮崎道彦、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に切除した低異型度虫垂粘液性腫瘍の 2 例「日外科系連会誌」43 (2) : P. 204 - 209、2018 年 6 月

北風雅敏、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：右鎖骨下動脈起始異常を合併する食道癌切除術の工夫「日外科系連会誌」43 (6) : P. 1021 - 1026、2018 年

加藤伸弥、西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：ドセタキセル+S-1 併用療法が奏功した胃癌腹膜播種再発の 1 例「癌と化学療法」45 (13) : P. 2375 - 2377、癌と化学療法社、2018 年 12 月

A-4

関本貢嗣、加藤健志、三宅正和、植村 守：腹腔鏡下骨盤内臓器全摘出術「消化器外科」41(5) : P704-715、2018 年 4 月

宮崎道彦：「感染防止対策地域連携加算」の連携後の歩みー中小病院の視点から「患者安全推進ジャーナル」53 : P. 31 - 33、2018 年

西川和宏：化学療法誘発性口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯：HANGESHA-C・HANGESHA-G プール解析「漢方医学」42 (4) : P. 144 - 147、2018 年

A-5

増田慎三：乳がん薬物療法に関する臨床試験データの医学的解釈と臨床的位置づけ、副作用に対するマネジメント「Breast cancer Round table discussion 記録集」2018 年 10 月

増田慎三：日本人ホルモン陽性進行乳癌患者における palbociclib の好中球減少マネジメント (PALOMA-2/-3、国内第 2 相試験)「第 26 回日本乳癌学会学術総会 記録集」2018 年 7 月

A-6

関本貢嗣：大腸がんの名医「最新治療データで探す名医のいる病院 2019」:P159、(株)医療新聞社、東京、2019 年 1 月

増田慎三：監修「MARIANNE 試験データブック」中外製薬株式会社、2018 年 5 月

増田慎三：監修「消化管潰瘍・出血・穿孔～アバスチン治療中に気を付けたい副作用～」中外製薬株式会社、2018 年 6 月

B-1

Robson ME, Im SA, Senkus E, Xu B, Domchek S, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Conte P. OlympiAD final overall survival: Olaparib versus chemotherapy treatment of physician's choice (TPC) in patients with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm). American Association for Cancer Research, International Sentinel Node Society Biennial Meeting 2018 年 4 月 15 日

Im SA, Masuda N, Im YH, Inoue K, Kim SB, Redfern A, Lombard J, Lu D, Theall KP, Gauthier E, Mukai H, Ro J. Efficacy and safety of palbociclib plus endocrine therapy (ET) for HR+/HER2- advanced breast cancer (ABC) in the Asian-pacific (AP) region. Medical Oncology Group of Australia (MOGA) 2018 Annual Scientific Meeting ,Australia, 2018 年 8 月 1 日

Imoto S, Saito MO, Masuda N, Nagashima T, Wada N, Takashima T, Kitada M, Kawada M, Hayashida T, Taguchi T, Aihara T, Miura D, Toh U, Yoshida M, Sugae S, Yoneyama K, Matsumoto H, Jinno H, Sakamoto J Observational study of axilla treatment for breast cancer patients with 1 to 3 positive micrometastases or macrometastases in sentinel lymph nodes. International Sentinel Node Society Biennial Meeting, 東京, 2018 年 10 月 11 日

Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Taira N, Kashiwaba M, Ohtani S, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamagushi T, Ohashi Y. Distant disease-free survival (DDFS) according to response category in neoadjuvant endocrine therapy (NET): 6-Year analysis in phase III NEOS trial. European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Yap YS, Masuda N, Ito Y, Ishikawa T, Kim SJ, Aruga T, Toyama T, Saeki T, Yamanaka T, Saito M, Watanabe J, Takahashi M, Nakamura S, Inoue K, Jose Suarez-Vizcarra, He W, Solovieff N, Su F, Chiu J. Biomarker analyses of Asian women with hormone

receptor-positive (HR+), HER2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC) receiving ribociclib (RIB) + endocrine therapy (ET). European Society for Medical Oncology Asia 2018 Congress, 2018 年 11 月 23 日

Uemura M, Miyake M, Miyazaki M, Kato T, Ikeda M, Hamakawa T, Maeda S, Hama N, Nishikawa K, Miyamoto A, Hirao M, Mizushima T, Yamamoto H, Mori M, Nakamori S, Sekimoto M : Laparoscopic surgery for locally recurrent rectal cancer with concomitant sacrectomy . 26th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery , London, UK , 2018 年 5 月 31 日

B-2

Iwasaki Y, Terashima M, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura K, Katai H, Yoshikawa T, Ito Y, Kaji M, Kimura Y, Hirao M, Yamada M, Kurita A, Takagi M, Gotoh M, Takagane A, Yabusaki H, Hirabayashi N, Sano T, Sasako M : Randomized phase III trial of gastrectomy with or without neoadjuvant S-1 plus cisplatin for type 4 or large type 3 gastric cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0501). 2018 ASCO Annual Meeting , ISDE2018 , 2018 年 6 月 3 日

Hirao M, Tanaka E, Okita Y, Fujinaka T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mano M, Nakamori S : Brain Metastasis from Thoracic Esophageal Cancer at a Single Institute . ISDE2018 , Vienna,Austria , 2018 年 9 月 17 日

Tsuchihara K, Muro K, Yoshino T, Shitara K, Yamazaki K, Ota M, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Yamanaka K, Mori I, Hihara M, Soeda J, Badola S, Shin H, Yamanaka T, Akagi K, Ochiai A, Uetake H : Circulating tumor DNA analysis for predictive and prognostic factors in patients with metastatic colorectal cancer: An exploratory analysis from the phase III PARADIGM study . AACR Annual Meeting , Chicago,USA , 2018 年 4 月 14 日

Frank S, Fang-Shu O, James P, Albereto F.S, Yoshino T, Julien T, Ioannis S, Qian S, Rachel K, Roberto L, Yamanaka T, Dewi V, Ioannis B, Kato T, Valter T, Stylianos K, Thierry A, Axel G, Jeffrey A.M, Timothy I : Effect of age,gender,and performance status(PS) on the duration results of adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer:The IDEA collaboration . 2018ASCO Annual Meeting , Chicago,USA , 2018 年 6 月 3 日

Tsuji Y, Shitara K, Yamanaka T, Denda T, Shinozaki K, komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Okuda H, Asayama M, Akiyoshi K, Kato T, Oki E, Ando T, Hagiwara Y, Ohashi Y, Yoshino T : Reverse:Randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab versus the reverse sequence for metastatic colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine,oxaliplatin,and irinotecan-Biomarker analysis . 2018ASCO Annual Meeting , Chicago,USA , 2018 年 6 月 3 日

Kuboki Y, Yoshino T, Kato T, Kagawa Y, Gamoh M, Yasui H, Yamazaki K, Komatsu Y, Satake H, Goto M, Tanioka H, Oki E, Kotaka M, Makiyama A, Denda T, Soeda J, Shibuya K, Iwata M, Oba K, Yamaguchi K : Apollon: A phase I / II study of panitumumab with TAS-102 in patients (PTS) with RAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) . 2018 ASCO Annual Meeting , Chicago, USA , 2018 年 6 月 3 日

Kato T, Satake H, Oba K, Kagawa Y, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Matsumoto T, Hirata K, Muro K, Komatsu Y, Yoshino T, Yamazaki K, Mishima H, Kotaka M, Tsuji A, Kakeji Y, Oki E, Nagata N, Sakamoto J : Multicenter phase Ib/II study of biweekly TAS-102 with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BITS study)-Trial in progress . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Fukuoka S, Sasaki T, Nishizawa Y, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Yuki S, Komatsu S, Homma S, Hatanaka Y, Matsuno Y, Uemura M, Kato T, Sato A, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T : VOLTAGE: Multicenter phase Ib/II study of nivolumab monotherapy and subsequent radical surgery following preoperative chemoradiotherapy (CRT) with capecitabine in patients with locally advanced rectal cancer (LARC) . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日
Kotaka M, Ogata M, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H, Kato T, Tsuji A, Satake H : Trifluridine/tipiracil vs regorafenib as salvage-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective study . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Satake H, Kotake T, Okita Y, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Tsuji A : Dose finding phase Ib study of triplet plus cetuximab for patients with wild-type RAS gene metastatic colorectal cancer (TRICETSU study) . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Yamazaki K, Yasui H, Yamaguchi K, Kagawa Y, Kuboki Y, Yoshino T, Gamoh M, Komatsu Y, Satake H, Goto M, Tanioka H, Oki E, Kotaka M, Makiyama A, Denda T, Soeda J, Shibuya K, Iwata M, Oba K, Kato T : A phase I / II study of panitumumab combined with TAS-102 in patients (pts) with RAS wild-type (wt) metastatic colorectal cancer (mCRC) refractory to standard chemotherapy: APOLLON study . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Yoshino T, Yamanaka T, Denda T, Tsuji Y, Shinozaki K, Komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Okuda H, Asayama K, Akiyoshi K, Kagawa Y, Kato T, Oki E, Ando T, Hagiwara Y, Ohashi Y, Shitara K : REVERCE: Randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab versus the reverse sequence for metastatic colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine, oxaliplatin, and

irinotecan:Quality of life analysis . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Takahashi M, Munemoto Y, Nakamura M, Kotaka M, Kuroda H, Kato T, Minagawa N, Noura S, Fukunaga M, Kuramochi H, Touyama T, Takahashi T, Akagi Y, Satake H, Kurosawa S, Miura T, Mishima H, Sakamoto J, Oba K, Nagata N : SAPPHERE: A randomized phase II study of oxaliplatin discontinuation after 6 cycle of mFOLFOX6 + panitumumab therapy in patients with colorectal cancer: Final analysis of efficacy and safety results . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Kagawa Y, Kato T, Bando H, Akagi K, Denda T, Nishina T, Komatsu Y, Oki E, Kudo T, Yamanaka T, Yoshino T : A multicentre, prospective clinical evaluation study for analyzing RAS mutational status utilizing plasma circulating tumor DNA in patients with metastatic colorectal cancer . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Takeuchi S, Yoshino T, Yamanaka T, Kotaka M, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Kato T, Munemoto Y, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, Shiozawa M, Saji Y, Maehara Y, Mizushima T, Ohtsu A, Mori M : Long-term effect of peripheral sensory neuropathy (PSN) of 3 or 6 months oxaliplatin-based adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer: ACHIEVE as part of the IDEA collaboration . ESMO GI2018 , Barcelona, Spain , 2018 年 6 月 20 日

Shikata A, Suzuki K, Yamanaka M: Experience of Young Patients with Breast Cancer Undergoing Postoperative Endocrine Therapy , International Conference on Cancer Nursing , Auckland , 2018 年 9 月 24 日

Kawabata R, Terazawa T, Matsuyama J, Endo S, Shiraishi O, Fujita S, Akamaru Y, Taniguchi H, Tatsumi M, Gotoh M, S-W L, Kurokawa Y, Shimokawa T, Sakai D, Kato T, Fujitani K, Sato H T : A multicenter phase II trial of perioperative capecitabine plus oxaliplatin for clinical stage III gastric cancer (OGSG1601) . ESMO 2018 , Munich, Germany , 2018 年 10 月 23 日

Kato T, Kotaka M, Satake H, Makiyama A, Tsuji Y, Shinozaki K, Fujiwara T, Mizushima T, Harihara Y, Nagata N, Kurihara N, Kagawa Y, Kusakawa G, Sakai T, Uchida Y, Takamoto M, Asami S, Ando M, Saito Y, Hyodo I : Efficacy and safety of a recombinant soluble human thrombomodulin (ART-123) in preventing oxaliplatin induced peripheral neuropathy (OIPN): Results of a placebo-controlled, randomized, double-blind phase II study . ESMO 2018 , Munich, Germany , 2018 年 10 月 23 日

Xu R, Muro K, Kim TW, Park YS, Wang W, Han SW, Kotaka M, Deng YH, Ahn JB, Nakamura M, Ba Y, Cho SH, Kato T, Zhang T, Lee KW, Matsuoka H, Fang WJ, Morita S, Iwasa S, Sakamoto J : Impact of UGT1A1 genotype on the efficacy and safety of

irinotecan-based chemotherapy in metastatic colorectal cancer (mCRC): A preplanned analysis of the phase III AXEPT trial . ESMO ASIA 2018 Congress , Singapore , 2018 年 11 月 24 日

Hasegawa J, Kato T, Nishimura J, Yoshioka S, Noura S, Kagawa Y, Yasui M, Ikenaga M, Murata K, Hata T, Matsuda C, Mizushima T, Yamamoto H, Doki Y, Mori M : Phase II trial of capecitabine plus oxaliplatin (CAPOX) as perioperative therapy for locally advanced rectal cancer . ESMO ASIA 2018 Congress , Singapore , 2018 年 11 月 24 日

Kagawa Y, Satake H, Kato T, Oba K, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Hirata K, Muro K, Komatsu Y, Yoshino T, Yamazaki K, Mishima H, Kotaka M, Tsuji A, Kakeji Y, Oki E, Nagata N, Sakamoto J : Phase Ib/ II study of biweekly TAS-102 with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study): phase Ib results . ESMO ASIA 2018 Congress , Singapore , 2018 年 11 月 24 日

Mori R, Kagawa Y, Yukawa Y, Toya K, Takase K, Nose Y, Kawai K, Sakamoto T, Naito A, Murakami K, Katsura Y, Ohmura Y, Masuzawa T, Takeno A, Takeda Y, Kato T, Yamamoto A, Toda M, Iwata T, Murata K : Long-term outcomes of surgical resection of lung metastases from colorectal cancer . ASCO-G I2019 , San Francisco,USA , 2019 年 1 月 19 日

KotakaM, Satake H, Oba K, Kagawa Y, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Matsumoto T, Kii T, Terazawa T, Makiyama A, Takano N, Yokota M, Okita Y, Matoba K, Hasegawa H, Tsuji A, Nagata N, Sakamoto J, Kato T :Multicenter phase Ib/ II study of biweekly trifluridine/tipiracil with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study).. ASCO-G I2019 , San Francisco,USA , 2019 年 1 月 19 日

Komatsu Y, Kato T, Kagawa Y, Yoshino T, Kuboki Y, Gamoh M, Yasui H, Yamazaki K, Satake H, Goto M, Tanioka H, Oki E, Kotaka M, Makiyama A, Denda T, Soeda J, Shibuya K, Iwata M, Oba K, Yamaguchi K :Phase I/II study of panitumumab (PANI) combined with trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) in patients (pts) with previously treated RAS wild-type (wt) metastatic colorectal cancer (mCRC): Final results of APOLLON study. ASCO-G I2019 , San Francisco,USA , 2019 年 1 月 19 日

Ruddy KJ, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Li W, Tung NM, Armstrong AC, Bannister W, Goessl C, Degboe A, Hettle R, Conte PF. EORTCQLQ-C30 (QLQ-C30) symptoms in patients (pts) with HER2-negativemetastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm) receiving olaparib vs chemotherapy treatment of physician's choice (TPC) in OlympiAD. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Tung MN, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Li W, Armstrong AC, Conte PF, Wu W, Goessl C, Runswick S, Robson ME. Olaparib versus chemotherapy treatment of physician's choice in patients with a germline BRCA mutation and HER2-negative metastatic breast cancer (OlympiAD):Efficacy in patients with visceral metastases. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Verma S, Im S-A, Ro J, Bondarenko I, Masuda N, Colleoni M, Verma S, Schnell P, Bananis E, Lu DR, Ettl J, Cristofanilli M, Rugo HS, Finn RS. Hematologic adverse events following palbociclib (PAL) dose reduction in patients (pts) with hormone receptor-positive (HR+)/human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC): Pooled analysis from randomized phase 2 and 3 studies.. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Ozaki Y, Matsumoto K, Takahashi M, Mukohara T, Futamura M, Masuda N, Tsurutani J, Yoshimura K, Minami H, Takano T. Phase II study of a combination therapy of nivolumab, bevacizumab and paclitaxel in patients with HER2-negative metastatic breast cancer as a first-line treatment (WJOG9917B, NEWBEAT trial). American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Watanabe KI, Aogi K, Kitabe M, Sangai T, Ohtani S, Aruga T, Kawaguchi H, Fujisawa T, Maeda S, Morimoto T, Morita S, Masuda N, Toi M, Ohno S. Clinical efficacy of eribulin as first- or second-line treatment for patients with recurrent HER2-negative breast cancer: a phase II randomized study (JBCRG-19). **European Society for Medical Oncology**, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Shimomura A, Tamura K, Mizutani T, Shibata T, Hara F, Fujisawa T, Niikura N, Hojo T, Kambayashi C, Saji S, Masuda N, Sawaki M, Yamamoto N, Nagashima F, Shien T, Iwata H. A phase III study comparing trastuzumab emtansine with trastuzumab, pertuzumab, and docetaxel in elderly patients with advanced stage HER2-positive breast cancer. (JCOG1607 HERB TEA study). **European Society for Medical Oncology**, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Ota T, Takada T, Fukui t, Nakahara Y, Kudo K, Okabe T, Hayashi H, Otani S, Hiyoshi Y, Yonesaka K, Sugiura T, Suzumura T, Terashima M, Nakano Y, Hasegawa Y, Tsukuda H, Matsui K, Masuda N, Fukuoka M. Serum biomarkers during the first cycle of anti-PD-1 antibody therapies in non-small cell lung cancer. **European Society for Medical Oncology**, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Ohe Y, Yamamoto M, Gemma A, Kusumoto M, Yamada I, Ishii T, Masuda N. Safety profile and effectiveness of alectinib in the real world surveillance study of 1251 Japanese patients with ALK-positive non-small cell lung cancer. **European Society for Medical Oncology**, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Masuda N, Noguchi S, Ishikawa T, Aruga T, Kim SJ, Toyama T, Saeki T, Saito M, Yamanaka T, Watanabe J, Nakamura S, Takahashi M, Inoue K, Gounaris I, Han Y, Tanay S. Samant, Gazdoui M, Ito Y. Ribociclib (RIB) + endocrine therapy (ET) in Japanese women with hormone receptor-positive (HR+), HER2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC). European Society for Medical Oncology Asia, Singapore, 2018 年 11 月 23 日

Shimomura A, Masuda N, Kawauchi J, Takizawa S, Ichikawa M, Matasuzaki J, Kuroi K, Hara H, Yamamoto N, Inoue K, Suganuma N, Aogi K, Ohno S, Tamura K, Ochiya T, Toi M. Predicting pathological complete response by the combination of microRNAs in patients with HER2-positive primary breast cancer who received neoadjuvant combination therapy of trastuzumab, lapatinib and paclitaxel: Results from JBCRG-16 (NeoLath) study. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Masuda N, Yonemori K, Takahashi S, Kogawa T, Nakayama T, Iwase H, Takahashi M, Toyama T, Saeki T, Saji S, Inoue K, Onuma H, Tajima N, Shiose Y, Chen S, Guevara F, Yu C, Ueno S, Iwata H. Single agent activity of U3-1402, a HER3-targeting antibody-drug conjugate, in HER3-overexpressing metastatic breast cancer: Updated results of a phase 1/2 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 5 日

Ozaki Y, Kitano S, Matsumoto K, Takahashi M, Mukohara T, Futamura M, Masuda N, Tsurutani J, Yoshimura K, Minami H, Takano T. Biomarker study of patients with HER2-negative metastatic breast cancer receiving combination therapy with nivolumab, bevacizumab and paclitaxel as first-line treatment (WJOG9917BTR). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 5 日

Hojo T, Masuda N, Shibata T, Mizutani T, Shien T, Kinoshita T, Iwatani T, Kanbayashi C, Kitagawa D, Tsuneizumi M, Iwata H. A randomized controlled trial comparing post-operative intensive follow-up with standard follow-up in high-risk breast cancer patients (JCOG1204: INSPIRE). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Masuda N, Yamashita T, Saji S, Araki K, Ito Y, Takano T, Takahashi M, Tsurutani J, Koizumi K, Kitada M, Kojima Y, Sagara Y, Tada H, Iwasa T, Kadoya T, Iwatani T, Hasegawa H, Morita S, Ohno S. A phase III trial to compare eribulin mesylate + trastuzumab (H) + pertuzumab (P) with paclitaxel or docetaxel + HP for HER2-positive advanced or metastatic breast cancer (JBCRG-M06/ EMERALD). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Nishikawa K, Koizumi W, Tsuburaya A, Yamanaka T, Morita S, Fujitani K, Akamaru Y, Shimada K, Hosaka H, Nakayama N, Miyashita Y, Tsujinaka T, Sakamoto J :

Meta-analysis of biweekly irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone as second-line treatment for advanced gastric cancer . ESMO2018 , Munich,Germany , 2018 年 10 月 21 日

Nishikawa K, Kimura Y, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Tamura S, Kawabata R, Kawada J, Yanagimoto Y, Kawase T, Takagi M, Fukui J, Takeno A, Fujii C, Yamada T, Shimokawa T, Imamura H : Long-term effects of an oral elemental nutritional supplement on post-gastrectomy body weight loss in gastric cancer patients . ASCO-G I 2019 , San Francisco,USA , 2019 年 1 月 17 日

Yasojima H, Sato N, Masuda N, Morimoto T, Ueno T, Kanbayashi C, Kaneko K, Saji S, Sasano H, Morita S, Ohno S, Toi M. Neoadjuvant exemestane or exemestane plus docetaxel and cyclophosphamide tailored by clinicopathological response to 8-12 weeks' exemestane exposure for ER+/HER2- postmenopausal breast cancer patients. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 7 日

Hamakawa T, Hirao M, Nishikawa K, Fujiwara A, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Takami K, Nakamori S, Sekimoto M : The Effect of Preoperative Breathing Exercise in Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer . ISDE2018 , Vienna,Austria , 2018 年 9 月 17 日

B-3

福田泰也、山本和義、平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、森 正樹、土岐祐一郎、関本貢嗣 : 術前サルコペニアを有する高齢者胃癌患者に対する術後アウトカム向上を目指した術前栄養・運動介入の試み。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 5 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 臍頭十二指腸切除後の腹腔内出血に対して外科的治療によって救命し得た 2 例。第 43 回日本外科系連合学会学術集会、東京、 2018 年 6 月 23 日

増田慎三 : HER2 陽性乳癌～周術期治療の現状と今後の展望。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

増田慎三 : HER2 陽性原発性乳癌の治療の現状と展望～術前治療からのアプローチ。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

杉本昌弘、高田正泰、増田慎三、岩田広治、黒井克昌、山城大泰、大野真司、石黒 洋、稲本 俊、戸井雅和 : Trastuzumab を含む術前科学療法を施行された HER2 陽性原発性乳癌の予後予測数理モデルの開発。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

川口英俊、増田慎三、中山貴寛、青儀健二郎、阿南敬生、伊藤良則、大谷彰一郎、佐藤信昭、佐治重衡、徳永えり子、中村清吾、長谷川善枝、藤澤知己、山口美樹、

山下年成、山本 豊、森田智視、戸井雅和、大野真司：大規模コホート研究からみた閉経後 ER 陽性転移・再発乳癌におけるフルベストラントの位置づけ(Safari 試験)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

岩田広治、増田慎三、山内照夫、中村清吾、徳永えり子、高橋将人、田村研治、雷 哲明、金昇晋、六反田奈和：BRCA 変異陽性転移性乳癌に対するオラパリブ単独療法と化学療法を比較する第Ⅲ相試験 (OlympiAD)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

増田慎三、向井博文、井上賢一、雷 哲明、大野真司、橋垣学、村松泰明、梅山佳子、岩田広治、戸井雅和：日本人ホルモン陽性進行乳癌患者における palbociclib の好中球減少マネジメント(PALOMA-2/-3,国内第 2 相試験)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

山内照夫、増田慎三、岩田広治、中村清吾、徳永えり子、高橋将人、田村研治、雷 哲明、金昇晋、六反田奈和：BRCA 変異陽性転移性乳癌に対するオラパリブ単独療法と化学療法を比較する第Ⅲ相試験(OlympiAD) HRQoL の評価。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

西川和宏：胃癌治療ガイドライン改定を踏まえた二次治療戦略-最新の知見を日常臨床にどう活かすか？-。第 73 回日本消化器外科学会総会ランチョンセミナー25、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

西川和宏：胃癌治療の最前線～手術・化学療法・栄養サポートを中心に～。第 91 回日本胃癌学会総会ランチョンセミナー、静岡、2019 年 2 月 28 日

三宅正和、植村守、加藤健志、平尾素宏、宮本敦史、西川和宏、濱直樹、前田栄、浜川卓也、池田正孝、関本貢嗣：当院における下部消化管穿孔に対する内視鏡手術。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、土岐祐一郎、森正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌に対する骨盤内拡大手術における腹腔鏡下手術の新展開。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 6 日

植村 守：腹腔鏡下直腸癌局所再発手術（仙骨合併切除症例）。ビデオ賞受賞 第 72 回手術手技研究会、徳島、2018 年 5 月 12 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：初発直腸癌症例に対する骨盤内蔵全摘術（TPE)における MIS の現状。7th Reduced Port Surgery Forum、札幌、2018 年 8 月 3 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：

仙骨合併切除を伴う直腸癌局所再発症例に対する術前治療。第 56 回日本癌治療学会学術集会、 横浜、2018 年 10 月 19 日

植村 守：ICG・IRIS を用いた近赤外光観察技術で創造する新たな直腸癌手術。第 31 回日本内視鏡外科学会総会ランチョンセミナー、福岡、2018 年 12 月 8 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、朴 正勝、浜川卓也、前田栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：腹腔鏡下骨盤内臓全摘術の実際。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 6 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二：脾癌に対する conversion surgery の臨床的意義。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：噴門側胃切除術食道残胃吻合(circular stapler)の術後成績および体重減少に関連する因子の検討。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

藤原綾子、新谷 康、松村晃秀、大瀬尚子、竹内幸康、徳永俊照、岡見次郎、東山聖彦、坂巻 靖、兒玉 憲、高見康二、大和寛幸、門田嘉久、岩崎輝夫、横内日秀起、西岡清訓、澤端章好、井上匡美、奥村明之進：腹膜播種・悪性胸水を伴う非小細胞肺癌に対する原発巣切除の意義。第 35 回日本呼吸器外科学会総会・学術集会、幕張、2018 年 5 月 18 日

B-4

高見康二、藤原綾子：左上葉切除後の肺塞栓症および肺静脈断端血栓に対し新規経口抗凝固療法で血栓消失を得た肺癌の 1 例。第 35 回日本呼吸器外科学会総会・学術集会、幕張、2018 年 5 月 17 日

高見康二、藤原綾子、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、眞能正孝：すりガラス影から進展し再切除不能となった多発肺癌症例に EGFR-TKI が奏功した 2 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 12 月 1 日

澤田遥奈、藤原綾子、高見康二、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子：肺腺癌との鑑別が困難であった多発線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍の 1 切除例。第 109 回日本肺癌学会関西支部学術集会、大阪、2019 年 2 月 23 日

平尾素宏、山本和義、永妻佑季子、西川和宏、浜川卓也、中森正二、高見康二、加藤健志、宮本敦史、増田慎三、濱 直樹、八十島宏行、水谷麻紀子、三宅正和、植村 守、前田栄、大谷陽子、藤原綾子、関本貢嗣：胃癌手術後 1 年における

sarcopenia 変化の検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7 日

平尾素宏、田中英一、沖田典子、藤中俊之、西川和宏、浜川卓也、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：当院における食道癌脳転移症例 10 例の検討。第 72 回日本食道学会学術集会、宇都宮、2018 年 6 月 28 日

平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、永妻佑季子、谷川 清、西菌博章、高見康二、加藤健志、宮本敦史、増田慎三、濱 直樹、八十島宏行、水谷麻紀子、三宅正和、植村 守、前田栄、大谷陽子、藤原綾子、関本貢嗣：上部消化管悪性疾患患者にたいする術前栄養・運動療法導入が周術期アウトカムに及ぼす効果の調査—研究紹介—。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 6 日

永妻佑季子、平尾素宏、谷川 清、越後朋彦、宗本由香、大土彩子、光野香織、大槻朱美、山内 愛、藤本寿音、荒川和子、東 加織、浜川卓也、西川和宏、関本貢嗣：Stage1 胃癌切除後 1 年間の栄養評価と骨格筋指数 SMI の変化の検討。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 6 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、山本和義、永妻佑季子、加藤健志、宮本敦史、中森正二、関本貢嗣：胃癌切除後サルコペニア変化の検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

堀内哲也、平尾素宏、手島 伸、餐場正明、田代裕尊、高橋忠照、楠本哲也、片岡正人、成田匡大、大賀丈史：上部消化管手術における SSI 防止対策—国立病院機構外科麻酔科グループアンケート調査を中心に—。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

谷島裕之、平尾素宏、湯沢賢治、芳賀克夫、杉谷篤、林 尚子、藤岡正樹、岩代 望、木村俊久、山下素弘：大腸手術時の Surgical site infection 防止策の現状、国立病院機構でのアンケート調査の結果より。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、加藤健志、宮本敦史、濱 直樹、三宅正和、植村 守、前田栄、関本貢嗣：HER2 陽性胃癌の腎門部再発治療後の長期生存例。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

庄司絢香、長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対する一次化学療法 of の検討。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

仁和浩貴、岩崎善敬、平林直樹、加治正英、平尾素宏、藪崎裕、栗田啓、伊藤友一、後藤昌弘、木村 豊、山田 誠、佐藤雄哉、片井 均、寺島雅典、笹子三津留：根治切除可能な大型 3 型・4 型胃癌に対する術前 TS-1+CDDP 併用療法にたよる第 3 相試験。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

Tokunaga M, Machida N, Hirao M, Yabusaki H, Boku N, Yoshikawa T, Terashima M :
The efficacy of preoperative trastuzumab for HER2-positive advanced gastric cancer
with extensive lymph node metastasis. 第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2018 年 3
月 1 日

Yamamoto K, Omori T, Yanagimoto Y, Shinno N, Sugimura K, Miyata H, Yano M,
Nishikawa K, Hirao M, Ooue M, Yasui M, Takahashi H, Fujitani K, Tsujinaka T :
Sarcopenia patients showed worse prognosis after gastrectomy for gastric cancer. 第 91
回日本胃癌学会総会、 静岡、2018 年 3 月 1 日

加藤健志：進行・再発大腸癌治療の実際～二次化学療法を重視した治療戦略～。
第 118 回日本外科学会定期学術集会ランチョンセミナー、東京、2018 年 4 月 5 日
桂宜輝、武田裕、大村仁昭、阪本卓也、河合賢二、稲留遵一、村上剛平、内藤敦、
賀川義規、益澤徹、竹野淳、枝川千代美、加藤健志、田村茂行、村田幸平：大腸
癌肝転移に対する腹腔鏡下肝切除の短期および長期成績。第 118 回日本外科学会
定期学術集会、東京、2018 年 4 月 5 日

河合賢二、村田幸平、賀川義規、内藤 敦、加藤健志、遠矢圭介、湯川芳郎、高瀬
洪生、森 良太、野瀬陽平、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、
竹野 敦、武田裕：強力な化学療法を施行可能な治癒切除不能 StageIV 大腸癌患者
における原発巣切除の意義。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年
4 月 6 日

賀川義規、村田幸平、内藤 敦、河合賢二、加藤健志、遠矢圭介、湯川芳郎、高瀬
洪生、森 良太、野瀬陽平、橋本雅弘、高塚雄一、阪本卓也、村上剛平、桂 宜輝、
稲留淳一、大村仁昭、益澤 徹、竹野 淳、柄川千代美、武田 裕：周術期
XELOX/XELOXIRI を施行した直腸癌切除症例の検討。第 118 回日本外科学会定期
学術集会、東京、2018 年 4 月 6 日

池田正孝、植村 守、三宅正和、塚本 潔、山野智基、内野 基、宮崎道彦、加藤健志、
野田雅史、池内浩基、関本貢嗣、富田尚裕：進行・再発直腸癌手術における
腹腔鏡手術の可能性。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7
日

湯川芳郎、村田幸平、賀川義規、、河合賢二、内藤 敦、大村仁昭、益澤 徹、竹
野 淳、武田裕、加藤健志：閉塞性大腸癌に対してイレウス管留置による減圧後に
腹腔鏡下大腸切除を施行した場合の安全性と予後の検討。第 73 回日本消化器外科
学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

賀川義規、村田幸平、内藤 敦、河合賢二、桂 宜輝、大村仁昭、益澤 徹、竹野淳、
武田裕、加藤健志：TANKO 手術による横行結腸癌に対する D3 郭清の定型化。第
73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

加藤健志、賀川義規、大田貢由、牧山明資、傳田忠道、松田宙、山田康秀、岩佐悟、キムタエウォン、スールイフウア、パクユンスン、森田智視、坂本純一、室圭：進行・再発大腸癌 2 次治療における mXELIRI+Bmab vs. FOLFIRI+Bmab の国際共同第Ⅲ相臨床試験(AXEPT)-日本人対象集団解析一。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2018 年 7 月 19 日

蒲生真紀夫、加藤健志、賀川義規、久保木恭利、吉野孝之、安井博史、山崎健太郎、小松嘉人、佐竹悠良、後藤昌弘、谷岡洋亮、沖英次、小高雅人、牧山明資、傳田忠道、添田純平、渋谷和憲、岩田勝、大庭幸治、山口研成：RAS 野生型進行再発大腸癌に対するパニツムマブと TAS-102 併用療法を検討する第Ⅰ/Ⅱ試験：APOLLON 試験。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2018 年 7 月 19 日

Kotaka M, Munemoto Y, Nakamura M, Takahashi M, Kuroda H, Kato T, Minagawa N, Noura S, Fukunaga M, Kuramochi H, Touyama T, Takahashi T, Akagi Y, Satake H, Kurosawa S, Miura T, Mishima H, Sakamoto J, Oba K, Nagata N：進行再発大腸癌に対し OXA を 6 コースで中断する mFOLFOX6+Pmab 併用療法の検討：SAPPHIRE 試験最終解析。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2018 年 7 月 19 日

山内理海、設楽紘平、山中竹春、傳田忠道、辻靖、小松嘉人、小林良充、古瀬純司、加藤健志、沖英次、安藤高志、萩原康博、大橋靖雄、吉野孝之：REVERCE:Randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab vs. reverse sequence for metastatic colorectal cancer。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2018 年 7 月 19 日

山崎健太郎、結城敏志、谷口浩也、砂川優、川添彬人、浜本康夫、足立雄太、仁科智裕、加藤健志、奥山浩之、濱口哲弥、阿部由紀子、野村尚吾、大津敦、吉野孝之：進行再発大腸癌における Angiogenesis Panel を検討する多施設共同研究：GI-SCREEN CRC-Ukit。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2018 年 7 月 21 日

池田正孝、植村守、三宅正和、木村慶、濱中美千子、馬場谷彰仁、片岡幸三、別府直仁、野田雅史、山野智基、加藤健志、内野基、池内浩基、関本貢嗣、富田尚裕：直腸癌局所再発に対する手術治療。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 20 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、関本貢嗣：隅越分類Ⅱ型痔瘻に対する瘻管くり抜き原発口閉鎖術。第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018 年 11 月 9 日

宮本敦史、濱直樹、前田栄、浜川卓也、植村守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：急性汎発性腹膜炎手術例における SOFA スコアと予後との関連に関する検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 5 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前の体組成が膵癌切除例の予後に及ぼす影響に関する検討。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 19 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵癌切除後の残膵再発に対して残膵切除を行い長期生存が得られた 1 例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前の体組成が膵癌切除例の補助化学療法に及ぼす影響に関する検討。第 49 回日本膵臓学会大会、東京、2018 年 6 月 30 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：浸潤性膵管癌切除後の再発形式からみた再発病巣切除の意義に関する検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

Miyamoto A, Hama N, Maeda S, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Miyazaki M, Kato T, Hirao M, Sekimoto M, Nakmori S : An impact of preoperative body composition on prognosis after curative resection for pancreatic ductal carcinoma。第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2018 年 6 月 8 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：胆道再建後の閉塞性黄疸に対する外科的治療に関する検討。第 54 回日本胆道学会学術集会、幕張、2018 年 9 月 28 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：膵癌切除例における術前の体組成と術後補助化学療法継続性との関連に関する検討。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 18 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前の骨格筋量低下が膵癌切除例の手術成績に及ぼす影響に関する検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 3 日
宮本敦史、山田晃正、後藤邦仁、浅岡忠史、小林省吾、江口英利、清水潤三、金庸国、辻江 正徳、野田剛広、横山茂一、武田和、永野浩昭、土岐祐一郎、森 正樹：肝切除症例におけるドレーン留置に関する前向きコホート研究。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

坂東裕子、増田慎三、伊藤良則、石田和茂、井口研子、水谷麻紀子、小林 心、柏葉匡寛、八十島宏行、笠井宏委、高須賀剛、森田智視、大野真司、戸井雅和：Trastuzumab と Pertuzumab の同時混合点滴の安全性に関する検討(JBCRG-20 sub-study)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、眞能正幸、森 清、関本貢嗣、中森正二：Nab-Paclitaxel(アブラキサン) による肝機能障害の特徴。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

西川和宏、室谷健太、藤谷和正、稲垣 均、赤丸祐介、徳永伸也、高木正和、田村茂行、杉本直俊、重松 忠、吉川貴己、石畝 亨、中村将人、森田智視、円谷 彰、阪本純一、辻仲利政：術後補助療法早期再発例と進行再発癌二次治療例との生存成績に違いはあるか？－TRICS 試験探索的検討－。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7 日

西川和宏、遠藤俊治、川田純司、藤谷和正、平尾素宏、浜川卓也、山本 慧、小林雄太、小林 登、北風雅敏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：切除不能進行胃癌に対する胃空腸バイパス術における術前予後指標の検討。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 5 日

西川和宏、黒川幸典、松山 仁、川端良平、川田純司、竹野淳、間狩洋一、坂井大介、下川敏雄、佐藤太郎：測定可能病変を有していない進行再発胃癌を対象とした S-1+DTX 療法と S-1+CDDP 療法のランダム化第Ⅱ相試験。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、加藤伸弥、萩 美里、下山 遼、山口 歩、山本 慧、小林雄太、小林 登、北風雅敏、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：食道癌術前呼吸訓練の効果。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 3 日

西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、加藤伸弥、下山 遼、山口 歩、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：食道癌における術前呼吸訓練の効果。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 22 日

西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、下山 遼、山口 歩、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：硬膜外麻酔挿入高からみた腹腔鏡下胃切除（体腔内吻合）術後疼痛評価。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 6 日

西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、藤谷和正、岩瀬和裕、濱 直樹、永妻佑季子、大土 彩子、谷川 清、下山 遼、前田 栄、植村 守、三宅正和、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：進行食道癌放射線療法症例における GPS による予後評価。第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会、東京、2019 年 2 月 15 日

西川和宏、長谷川裕子、平尾素宏、浜川卓也、山口 歩、下山 遼、加藤伸弥、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣：進行胃癌ニボルマブ療法の後治療移行。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

西川和宏、楠 誓子、平尾素宏、浜川卓也、遠藤俊治、佐藤広陸、加藤伸弥、山口 歩、下山 遼、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣：幽門側胃切除術後の残胃出血に対し経動脈的塞栓術を施行した 1 例。第 55 回日本腹部救急医学会総会、仙台、2019 年 3 月 7 日

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、宮崎道彦、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における局所進行直腸癌に対する集学的治療。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 5 日

三宅正和、植村 守、宮崎道彦、加藤健志、池田正孝、関本貢嗣：当院における SM 癌に対する診断と治療の経時的比較検討。第 89 回大腸癌研究会、新潟、2018 年 7 月 6 日

三宅正和、加藤健志、池田正孝、植村 守、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、宮崎道彦、関本貢嗣：当院で施行した他臓器浸潤大腸癌に対する外科治療の成績。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

三宅正和、植村 守、加藤健志、池田正孝、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、平尾素宏、宮本敦史、宮崎道彦、関本貢嗣：当院における下部消化管穿孔に対する内視鏡手術。第 55 回日本腹部救急医学会総会、仙台、2019 年 3 月 8 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌に対する腹腔鏡下側方リンパ節郭清術のコツとピットフォール。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 12 日
植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発症例に対する腹腔鏡下手術への適応拡大。第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018 年 11 月 9 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：超音波凝固切開装置を用いた進

行・再発直腸癌における出血制御にこだわった腹腔鏡下側方郭清術。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

Maeda S, Hama N, Miyamoto A, Kitakaze M, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Kato T, Hirao M, Sekimoto M, Nakamori S : Hepatectomy in patients with hemophilia。第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2018 年 6 月 8 日

八十島宏行、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子、増田慎三：術前 pCR 予測の臨床病理学的検討とマイクロアレイ解析を用いた非手術への可能性。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、萩 美里、長田陽子、井上田鶴子、増田慎三：HER2 陽性進行再発乳癌の一次治療における T-DM1 の臨床評価。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、藤原綾子、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣：切除不能膵癌に対する conversion surgery の臨床的意義の検討。第 77 回日本癌学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 28 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、田中英一、岩崎哲也、下山 遼、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：胃癌術後リンパ節再発の十二指腸浸潤部出血に対し姑息的放射線治療で止血を得た 1 例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HALS 胃管再建における気腹下 W-ED チューブ誘導の工夫。第 72 回日本食道学会学術集会、宇都宮、2018 年 6 月 28 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：早期胃癌に対する噴門測胃切除術食道残胃吻合の術後成績および体重減少に関連する因子の検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、長谷川裕子、前田 栄、藤原綾子、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：当院における切除不能進行再発胃癌患者に対するニボルマブ療法の治療成績。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 18 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、藤原綾子、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：化学療法後に切除を行った StageIV 胃癌の治療成績。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：化学療法後に conversion surgery を施行した同時性肝転移を伴う胃癌症例の治療成績。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

藤原綾子、高見康二、木村 剛、安藤性實、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正孝、井上敦夫：Pembrolizumab 投与後に完全切除し得たⅢ期肺多型癌の 1 例。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、東京、2018 年 11 月 29 日

大谷陽子、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、森 清、増田慎三、中森正二、関本貢嗣：エベロリムスの効果予測因子の検討。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森 清、増田慎三：原発性浸潤性乳腺アポクリン癌 18 例の臨床病理学的検討、第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Triple negative 乳癌に対する術前化学療法の現状と課題。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

垣内万依、庄野裕志、水谷麻紀子、萩 美里、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳がんにおけるトラスツズマブ エムタンシンの投与マネージメント。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

朴 正勝、池田正孝、植村守、三宅正和、加藤健志、関本貢嗣：エノキサパリンを用いた大腸癌手術後静脈塞栓症予防における出血性合併症の危険因子に関する検討。第 30 回日本内視鏡外科学会総会、大阪、2018 年 9 月 29 日

朴 正勝、池田正孝、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、関本貢嗣：大腸癌術後の VTE 予防としてのエノキサパリンの有効性・安全性に関する検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 2 日

小林 登、三宅正和、植村 守、加藤健志、加藤伸弥、山口 歩、北風雅敏、小林雄太、山本 慧、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に S 状結腸切除術と悪性リンパ腫生検を同時に施行した一例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

小林 登、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：Conversion surgery を施行した Stage IV 胃癌症例の生存成績の検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

山口 歩、三宅正和、植村 守、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：原発性小腸癌 5 例の検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 6 日

山口 歩、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、加藤健志、池田正孝、関本貢嗣：当院における直腸脱手術に対する Reduced Port Surgery の取り組み。第 72 回手術手技研究会、徳島、2018 年 5 月 11 日

山口歩、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、加藤伸弥、下山 遼、北風雅敏、小林登、小林雄太、山本慧、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HER2 陽性胃癌の術後単発肝転移再発に対して、化学療法後に肝切除を施行した症例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

山口 歩、三宅正和、植村 守、宮崎道彦、加藤健志、池田正孝、関本貢嗣：当院における小腸悪性腫瘍 22 例の検討。第 89 回大腸癌研究会、新潟、2018 年 7 月 6 日

山口 歩、西川和宏、前田 栄、浜川卓也、平尾素宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：HERS2 陽性胃癌術後単発肝転移再発に対して、化学療法後に肝切除を施行した症例。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

山口 歩、植村守、三宅正和、加藤健志、関本貢嗣、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏：直腸癌局所再々発に対して、腹腔鏡下骨盤内臓全摘術を施行した一例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

山口歩：当院での陰圧閉鎖療法について。第 36 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会、大阪、2019 年 2 月 23 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発手術における術後感染性合併症の検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7 日

加藤伸弥、西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、山口 歩、北風雅敏、小林 登、小林雄太、山本 慧、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：DS 療法が奏功した腹膜播種転移胃癌の 1 例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、平尾素宏、宮本敦史、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発手術症例（仙骨合併切除例）における静脈血栓塞栓症に関する検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

加藤伸弥、西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、藤原綾子、前田 栄、植村守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：DS 療法が奏功した胃癌腹膜播種再発の 1 例。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣：左側結腸癌・直腸癌における腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清の当院における現状。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

佐藤広陸、三宅正和、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：尿管皮膚瘻を有する S 状結腸癌患者に、蛍光カテーテル(IRIS)を用い S 状結腸切除術を行った一例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

楠 誓子、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：当院における直腸脱手術での Reduced Port Surgery の取り組み。 7th Reduced Port Surgery Forum、札幌、2018 年 8 月 4 日

楠 誓子、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：直腸癌局所再発手術における骨盤充填の工夫。第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018 年 11 月 10 日

楠 誓子、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：骨盤内拡大手術における術後重症骨盤内感染予防対策としての局所陰圧閉鎖療法の有用性。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

楠 誓子、三宅正和、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：完全内臓逆位に合併した大腸癌に対し腹腔鏡手術を行った二例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

B-5

関本貢嗣：直腸癌術後トラブルの外科治療。第 18 回大腸癌治療フォーラム、大阪、2018 年 6 月 8 日

関本貢嗣：腹腔鏡下骨盤内臓全摘術。第 23 回愛知内視鏡外科学研究会、愛知、2019 年 2 月 16 日

関本貢嗣：コメンテーター 大腸癌の化学療法及び手術手技に関する最新情報。
大腸の会、大阪、2019 年 2 月 20 日

関本貢嗣：骨盤内臓全摘術に伴う W ストーマ 課題と対策。第 35 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会、札幌、2018 年 2 月 24 日

関本貢嗣：進化する大腸がん治療。大腸がんシンポジウム、大阪、2019 年 3 月 10 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。Chugai Colorectal Cancer Symposium in Sendai、仙台、2018 年 4 月 10 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。第 461 回八戸外科集談会、八戸、2018 年 4 月 13 日

加藤健志：大腸癌に対する個別化治療。市民公開講座「知って欲しい！大腸がん治療の現在一早期発見・早期治療 最新手術・抗がん剤治療の最前線、神戸、2018 年 4 月 14 日

加藤健志：大腸癌の治療最前線～2018 Update～。Colorectal Cancer Conference、姫路、2018 年 5 月 11 日

加藤健志：ASCO-GI を踏まえた大腸癌治療の新しい話題。CRC Salvage-line treatment seminar 2018、札幌、2018 年 5 月 12 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。第 12 回大腸癌マネジメントセミナー、福岡、2018 年 5 月 17 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018Update～。Meet the Expert on Colorectal Cancer in SHIGA、草津、2018 年 5 月 29 日

加藤健志：大腸癌治療現場での実践に学ぶ～標準治療と日本型プレシジョン・メディスンを交え～。Oncology ネットフォーラム、大阪、2018 年 6 月 13 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018Update～。第 5 回平成大腸癌カンファレンス、神戸、2018 年 7 月 3 日

加藤健志：大腸癌手術と化学療法。第 89 回大腸癌研究会モーニングセミナーA、新潟、2018 年 7 月 6 日

加藤健志：大腸がん化学療法の治療戦略。CRCC-山口、山口、2018 年 7 月 25 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。Chugai Colorectal Cancer Seminar 2018 in Gifu、岐阜、2018 年 8 月 2 日

加藤健志：大腸がんに対する術後補助化学療法 POST IDEA。7th Reduced Port Surgery Forum 2018 in Sapporo モーニングセミナー2、札幌、2018 年 8 月 4 日

加藤健志：大腸癌化学療法の治療戦略。北関東信越消化管癌化学療法講演会、埼玉、2018 年 8 月 4 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。第 9 回川崎大腸がん化学療法セミナー、川崎、2018 年 9 月 4 日

加藤健志：大腸がんに対する術後補助化学療法 POST IDEA。Hanshin Colorectal Cancer Seminar、尼崎、2018 年 9 月 7 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018 Update～。大腸がん Expert Meeting at 中部、沖縄、2018 年 9 月 28 日

加藤健志：進行・再発大腸癌に対する治療戦略。伊那谷地区消化器癌学術講演会、長野、2018 年 10 月 12 日

加藤健志：大腸癌治療の最前線～2018Update～。第 16 回鹿児島腫瘍制御フォーラム、鹿児島、2018 年 11 月 7 日

加藤健志：進行再発大腸癌の治療戦略。南紀大腸癌化学療法セミナー、田辺、2018 年 11 月 30 日

加藤健志：新ガイドラインを踏まえた進行・再発大腸癌化学療法。第 2 回西濃消化管癌ガイドライン研究会、大垣、2019 年 2 月 7 日

加藤健志：ガイドラインを踏まえた切除不能進行・再発大腸癌に対する化学療法。第 52 回制癌剤適応研究会共催セミナー、神戸、2019 年 3 月 15 日

加藤健志：ガイドラインを踏まえた切除不能進行・再発大腸癌に対する化学療法。第 24 回秋田県大腸癌化学療法セミナー、秋田、2019 年 3 月 30 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、関本貢嗣：次世代への伝承「若手の教育をどうする？」。第 112 回近畿肛門疾患懇談会、大阪、2018 年 6 月 16 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、加藤健志、三宅正和、植村守、中森正二、関本貢嗣：深部痔瘻の手術成績。第 63 回東海肛門疾患懇談会、名古屋、2018 年 7 月 21 日

増田慎三：HR+HER- 進行再発乳癌における分子標的薬物療法の最適化について

現在のエビデンス解釈、日常臨床の課題、副作用マネジメント等について講演、ディスカッション。ABC Forum in Osaka、大阪、2018 年 5 月 25 日

増田慎三：術前化学療法 Failure 予後に関するエビデンス。第 14 回 Osaka Breast Cancer School、大阪、2018 年 6 月 22 日

増田慎三：ER+/HER2-乳癌治療における CDK4/6 阻害剤の基礎と臨床。第 19 回 ホルモンと癌研究会ランチョンセミナー2、宮城、2018 年 6 月 30 日

増田慎三：「イブランスの Clinical Question に応える」。Pfizer Breast Cancer Summit 2017 in Osaka、大阪、2018 年 7 月 6 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌治療のベストストラテジーを考える、第 16 回三河転移性乳癌研究会 愛知、2018 年 7 月 14 日

増田慎三：再発乳癌治療の UP TO DATE。Astrazeneca Breast Cancer Symposium 2018、東京、2018 年 7 月 28 日

増田慎三：BRCA2/1 変異乳癌の個別化医療の新たな展開：リムパーザを如何に使用すべきか？。第 33 回 進行・再発乳癌勉強会、岡山、2018 年 7 月 21 日

増田慎三：HER2 陰性進行再発乳癌における、BCRA 遺伝子変異に基づく新たな治療戦略。第 19 回 乳癌最新情報カンファランス ランチョンセミナー、姫路、2018 年 8 月 4 日

増田慎三：HR 陽性 HER2 陰性MBC 最適な治療ストラテジーを考える。The APEX Web Forum of HALAVEN、大阪、2018 年 8 月 23 日

増田慎三：U3-1402 投与における消化器症状と対処。U3-1402 第 I 相試験研究会、東京、2018 年 7 月 29 日

増田慎三：CDK4/6 阻害剤の展望臨床課題。HALAVEN Meet the Expert、東京、2018 年 8 月 4 日

増田慎三：予後改善を目指した治療ストラテジー～新たな工夫～。The APEX Web Forum of HALAVEN、大阪、2018 年 8 月 29 日

増田慎三：乳癌個別化治療の最新情報について。第 42 回山形県乳腺疾患研究会、山形、2018 年 9 月 1 日

増田慎三：乳癌治療における CDK4/6 阻害薬応用の最前線。日経メディカル Oncology 対談、東京、2018 年 9 月 7 日

増田慎三：ER 陽性原発性乳癌治療の最新動向。北勢地区乳癌研究会、三重、2018 年 11 月 9 日

増田慎三：肺・乳腺疾患の診断・治療に関する最新の知見と共有。第2回肺・乳疾患研究会、大阪、2018年9月22日

増田慎三：専門医に聞く！お悩み解決。Pfizer Oncology Symposium BREAST CANCER 『JOIN2018』、東京、2018年9月29日

増田慎三：HR+HER2-進行再発乳癌の Evidence。Novartis BC Medical Summit、東京、2018年9月30日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。Kurume Breast Cancer Seminar、福岡、2018年10月3日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。御茶ノ水 Oncology Forum 2018、東京、2018年10月4日

増田慎三：HR 陽性 HER2 陰性再発乳がん治療の新展開。福岡乳癌セミナー2018 autumn、福岡、2018年10月10日

増田慎三：BRCA(+)乳癌治療の新たなストラテジー。愛知リムパーザ講演会、名古屋、2018年11月2日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。Chugai Breast Cancer Symposium in 米子、鳥取、2018年11月6日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。Ehime Breast Cancer Forum、愛媛、2018年11月10日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。福岡県 パージェタ-eBC consensus meeting、福岡、2018年11月12日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。第13回城東乳がんカンファレンス、東京、2018年11月13日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。South Osaka Breast Cancer Symposium、大阪、2018年11月15日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。Breast Cancer Meeting in Niigata、新潟、2018年11月16日

増田慎三：ER 陽性原発性乳癌治療の最新動向。第11回阪神乳がんチーム医療を考える会、大阪、2018年11月27日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。Breast Cancer Forum in NARA、奈良、2018 年 12 月 1 日

増田慎三：HR+/HER2-進行再発乳癌治療における CDK4/6 阻害剤の役割。Meet the Specialist in San Antonio、San Antonio、2018 年 12 月 6 日

増田慎三：乳癌薬物治療の最新トピックス。The APEX Academy of HALAVEN in San Antonio、San Antonio、2018 年 12 月 7 日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。HER2 陽性乳癌診療 conference、熊本、2018 年 12 月 13 日

増田慎三：新時代を迎えた HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の治療ストラテジー。乳癌最新治療 Meet The Expert in 倉敷、倉敷、2019 年 1 月 11 日

増田慎三：HER2 陽性乳がんの周術期治療戦略。乳癌学術講演会 2019、東京、2019 年 2 月 9 日

増田慎三：How to optimize the benefit of endocrine therapy to HR+/HER2-mBC patients?。第 25 回日本乳癌疾患研究会 教育講演 1、東京、2019 年 2 月 15 日

増田慎三：リムパーザのエビデンス整理。第 23 回 KBCEC 学術講演会、大阪、2019 年 2 月 22 日

増田慎三：臨床医による大規模第三相試験のデータの解釈。Liily Breast Cancer Webinar、東京、2019 年 3 月 1 日

増田慎三：新たなサブタイプ BRCA+を考える OlympiAD 試験から読み解くリムパーザの使いどころ。第 16 回日本乳癌学会東北地方会 ランチョンセミナー1、仙台、2019 年 3 月 2 日

増田慎三：乳がん治療におけるチーム医療。ベージニオ発売記念講演会 in Sakai、大阪、2019 年 3 月 8 日

増田慎三：HR 陽性 HER2 陰性再発乳がんの最適治療ストラテジーを考える。乳癌治療薬ベージニオ発売記念講演会 in Osaka、大阪、2019 年 3 月 29 日

西川和宏：胃癌の最新治療についてーニボルマブの登場で考える治療戦略ー。西濃消化器がん免疫療法研究会、大垣、2018 年 4 月 19 日

西川和宏：新ガイドラインから考える胃癌 2 次化学療法以降の治療戦略。R307 消化器癌セミナー、甲賀、2018 年 5 月 25 日

西川和宏：進行胃癌二次治療の新たな治療戦略。Taiho GC Seminar 2018 in Fukui、福井、2018 年 6 月 1 日

西川和宏：胃癌周術期化学療法 UP TO DATE。新究極の一手～原点回帰～、大阪、2018 年 6 月 9 日

西川和宏：術後補助化学療法後の早期再発の治療戦略：XParTS I 試験について。中外 e セミナー、東京、2018 年 7 月 4 日

西川和宏：術後補助化学療法後の早期再発例に対する治療戦略を考える。Gastric Cancer Seminar in Osaka、大阪、2018 年 6 月 8 日

西川和宏：胃癌術後補助化学療法後の再発例に対する治療戦略。南風病院消化器癌講演会、鹿児島、2018 年 8 月 3 日

西川和宏：オブジーボの実臨床成績－3rd から 4th へ移行するタイミングについて－。Immno-Oncology for Gastric Cancer Seminar 2018 in Osaka、大阪、2018 年 8 月 23 日

西川和宏：臨床試験のエビデンスと新胃癌治療ガイドライン。第 7 回法円坂消化器フォーラム、大阪、2018 年 8 月 25 日

西川和宏：胃癌周術期栄養介入のエビデンス。第 195 回県北薬剤師勉強会、さいたま、2018 年 11 月 16 日

西川和宏：進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略。第 5 回岩国医療圏化学療法勉強会、岩国、2018 年 11 月 30 日

西川和宏：進行再発胃癌における二次化学療法戦略を考える。Osaka Gastric Cancer Forum、大阪、2019 年 3 月 8 日

西川和宏：胃癌化学療法 up to date～補助治療から進行再発治療まで～。第 3 回大阪消化管癌治療セミナー、大阪、2019 年 3 月 15 日

植村 守：血管処理、郭清。第 47 回腹腔鏡下大腸切除講習会、川崎、2018 年 7 月 21 日

植村 守：腹腔鏡下大腸癌手術の手術手技～技術認定の取得のために。第 12 回北東北 LAC 情報交換会、盛岡、2018 年 11 月 3 日

植村 守：大腸癌腹腔鏡下切除術の集学的治療について。YaCHT、横浜、2019 年 2 月 6 日

水谷麻紀子：多忙な外来診療で痛みと向き合う。第 56 回日本癌治療学会学術集会 イブニングセミナー2、横浜、2018 年 10 月 18 日

水谷麻紀子：Theme「原発性 HEIR2 陽性乳癌に対する治療戦略」。Chugai Breast Cancer Symposium in Osaka、大阪、2018 年 11 月 8 日

萩 美里、増田慎三、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、高見康二、森 清、眞能正幸、関本貢嗣：乳癌肺転移切除後、長期無再発生存が得られた症例。第 623 回 大阪外科集談会、大阪、2018 年 5 月 12 日

萩 美里、大谷陽子、長田陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、増田慎三：乳癌術後 7 年目に穿刺吸引細胞診および針生検部位に胸壁局所再発を来した 1 例。第 16 回日本乳癌学会近畿地方会、大阪、2018 年 12 月 15 日

B-6

平尾素宏：上部消化管癌手術と栄養介入。第 13 回食道・胃外科フォーラム、東京、2019 年 2 月 2 日

宮崎道彦：「直腸肛門の解剖、生理、機能検査、画像診断」。平成 30 年 肛門疾患 Step up セミナー、大阪、2018 年 4 月 14 日

宮崎道彦：「便秘治療、何がどうなったのか？」慢性便秘症 診療ガイドライン 2017 より。第 60 回豊中消化器病懇話会 教育講演、大阪、2018 年 8 月 25 日

宮崎道彦：専門外来における慢性便秘症の治療 ガイドラインに則って。慢性便秘症治療セミナー、大阪、2018 年 9 月 15 日

宮崎道彦：加齢（エイジング）による排便の変化。健康！ねやがわ、大阪、2018 年 11 月 17 日

宮崎道彦：「専門外来における慢性便秘症の治療 ガイドラインに則って」慢性便秘症 診療ガイドライン 2017 より。大阪市平野区医師会学術講演会、大阪、2018 年 11 月 22 日

西川和宏：進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略。第 4 回徳山がんセミナー、山口、2018 年 10 月 31 日

浜川卓也：胃癌・食道癌に対する腹腔鏡・胸腔鏡手術の現状と治療成績。第 7 回法円坂消化器フォーラム、大阪、2018 年 8 月 25 日

佐藤広陸、加藤健志、三宅正和、植村 守、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣：尿管皮膚瘻を伴った S 状結腸癌患者に蛍光発色するカテーテル (IRIS) を用い、S 状結腸切除術を行った一例 優秀演題賞受賞。第 624 回大阪外科集談会、大阪、2018 年 7 月 21 日

B-7

増田慎三：アドバイザリー会議参加。乳癌領域アドバイザリー会議、東京、2018 年 6 月 13 日

増田慎三：アドバイザリー会議参加。LYN-BC アドバイザリーボード会議、東京、2018 年 6 月 14 日

増田慎三：「ATEZOLIZUMAB」の乳癌適応拡大に向けて戦略・安全対策の立案。Advisory Board for ATEZOLIZUMAB on Breast Cancer in Munich 2018、Munich、2018 年 10 月 22 日

増田慎三：アドバイザリー会議参加。イブランスアドバイザリーボード、横浜、2018 年 10 月 18 日

B-8

平尾素宏：食道・胃。食道・胃、神戸、2018 年 12 月 15 日

平尾素宏：食道・胃。食道・胃、東京、2019 年 3 月 16 日

西川和宏：食道・胃。TNM 分類・癌取扱い規約、大阪、2018 年 8 月 19 日

形成外科

吉龍澄子

1999年7月に大阪医療センター皮膚科内に形成外科の常勤医1名が赴任してスタートし、2000年4月1日より診療科として形成外科を標榜しました。2007年4月より外科の中で診療を行ってきましたが、2009年7月より形成外科は外科から独立した診療科となりました。

当院は形成外科学会の教育認定施設に認定され、形成外科専門医取得のための卒後教育にも当たっています。

当科は、自科で行う診療および複数の科とのチーム医療における再建外科を2本の柱として行ってきました。院内での腫瘍外科手術の増加に伴い、チーム医療における再建外科としての比率がやや高くなっています。

自科としての診療では、主に顔面、頭頸部の皮膚悪性腫瘍、眼瞼形成術、皮膚腫瘍、ケロイド、瘢痕拘縮などの皮膚外科手術を扱っています。

顔面の皮膚癌について、当科ではできるだけ整容的にそして侵襲を少なく治療するために、植皮方法や皮弁の切開線の工夫を行ってきました。顔面の腫瘍の中でも特に眼瞼の腫瘍は、腫瘍の治療という点からだけでなく、眼瞼の機能、および整容的にも満足のいく治療を行うのが重要と考えて治療方針を決め、術式も工夫を行っています。また眼球近くの癌でも、できるだけぎりぎりまで眼球温存するよう努めています。腫瘍以外では、眼瞼下垂や睫毛内反症、眼瞼外反などの眼瞼の手術を、ほぼ毎週数例以上行っています。特に眼瞼下垂の手術では整容面にも配慮し、眼窩脂肪の固定術の追加などいくつか工夫を行っています。

その他、治療困難な真性のケロイドに対して、切除後の放射線照射療法を含む治療に取り組んでいます。当科は、全国で唯一ケロイドに対して組織内照射を行っていますので、症例や部位に応じて、切除後放射線外照射（電子線照射）あるいは組織内照射を使い分けて治療しています。ケロイドの他にも術後の創部の瘢痕拘縮の修正術も行っています。

もう1つの診療の柱として当科では、院内の外科系各科の癌の切除後の再建に取りくんできました。頭頸部再建、乳癌再建が主なものですが、その他、四肢、体幹の再建も増加しています。頭頸部再建症例は形成外科開設以来300例を超え、大部分がマイクロサージェリーによる遊離皮弁の症例です。外科、耳鼻科、口腔外科、形成外科、放射線科、脳外科などによるチーム医療体制が良好なため、安定した再建成績を維持できており、そのため現在まで再建皮弁の壊死などの大きな合併症は1例も起こっていません。特に下顎再建では、顔面神経下顎縁枝麻痺による術後の口唇の変形予防のための手術（筋膜移植）も行っています。

乳房再建は、主に自家組織の皮弁による再建を行ってきました。2013年4月よりシリコンインプラントによる乳房再建も保険適応が一部の形で認められたため、人工乳房による再建を再度スタートしました。現在ではシリコンインプラントによる再建術の方が自家組織による再建術よりも少し多くなっています。今後も悪性腫瘍、顔面の形成、再建外科、眼瞼形成外科、皮膚外科を中心に診療する方針

です。

【2018 年度 研究業績発表】

A-1

吉龍澄子：日光角化症「形成外科治療手技全書 腫瘍・母斑・血管奇形」平林慎一、川上重彦 総編集、p26-31、克誠堂、東京、2018 年 4 月

B-4

吉龍澄子、白石万紀子、高木正：眼瞼癌の再建—Functional & minimal invasive な再建を目指して—。第 36 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会、札幌、2018 年 10 月 12 日

吉龍澄子、白石万紀子：下眼瞼の再建—minimal cheek flap の工夫—。第 30 回日本眼瞼義眼床手術学会、大阪市、2019 年 2 月 16 日

吉龍澄子、白石万紀子：上眼瞼陥凹変形に対する眼瞼下垂時の眼窩脂肪の repositioning の工夫。第 24 回日本形成外科手術手技学会 横浜市、2019 年 2 月 23 日

B-5

吉龍澄子、白石万紀子、吉田 謙、古妻理之：ケロイドの術後照射療法 一線量と照射方法の検討—（シンポジウム） 。第 13 回痕・ケロイド治療研究会、東京 2018 年 12 月 1 日

B-6

白石万紀子、吉龍澄子、関本貢嗣：重粒子線治療後に膀胱皮膚瘻を生じ、後大腿皮弁により閉鎖した一例。第 120 回関西形成外科学会学術集会、西宮市 2018 年 11 月 17 日

B-8

吉龍澄子：悪性軟部腫瘍の診断と治療。第 61 回日本形成外科学会総会・学術集会、久留米、2018 年 4 月 10 日

吉龍澄子：ケロイド・肥厚性瘢痕の治療—ケロイドの放射線治療を中心に—。第 10 回日本創傷外科学会総会・学術集会、埼玉市 2018 年 7 月 5 日

整形外科

上田孝文

整形外科は運動器疾患全般を扱う診療科であり、頸部・体幹・骨盤から四肢・手足に至るまでその守備範囲は広い。さらに人口の高齢化に伴い、運動器疾患を有する患者数の増加とともに、骨粗鬆症など QOL に重大な影響を及ぼす疾患を扱う機会も多い。これら広範囲に亘る運動器疾患のうち、当科では、1) 関節外科（主として股関節・膝関節）、2) 脊椎外科、3) 骨・軟部腫瘍、4) 小児整形・足の外科の4つの領域を中心に、高度専門医療を担っているが、骨折など一般運動器外傷についても可能な範囲で、近隣の整形外科病院・診療所とも連携しながら診療体制を整えている。

専門領域のうち、骨・軟部悪性腫瘍（肉腫）に対しては大阪大学整形外科腫瘍グループの基幹施設として、専門病理医との密接な連携による正確な病理組織診断を行いながら、術前・術後化学療法、放射線療法、腫瘍広範切除術および各種患肢再建術を組合せた集学的治療体系を駆使することにより、生命予後の改善を図ると共に良好な術後患肢機能の再建に取り組んでいる。さらには、“希少がん”としての“肉腫”に対する新規治療薬開発のための臨床試験（治験）を全国レベルの多施設共同体制で行っている。小児整形・足の外科の分野では、骨形成不全症、先天性股関節脱臼や先天性内反足、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、先天性二分脊椎に伴う足部変形など幅広い小児運動器疾患に対し高度の専門的治療を提供するとともに、成人の様々な足部変形（ポリオ後遺症や骨折後変形治癒など）に対しても、創外固定法を駆使した外科的変形矯正術を行っている。また我が国の急速な人口高齢化に伴い、患者数が増加している関節外科の分野においては、術前 CT 画像データに基づく術中ナビゲーションを用いたより高精度の人工股関節全置換術を導入・推進するとともに、術後の早期社会復帰を目指した最小侵襲手技（MIS）による全人工膝関節置換術やより低侵襲の片側型人工膝関節置換術も積極的に行っている。さらに脊椎外科分野においても、種々の脊椎変性疾患のみならず化膿性脊椎炎、転移性脊椎腫瘍などに対しても、前方・後方からの脊髄・神経根除圧に加え、各種脊椎インストルメンテーションによる固定手術も積極的に併用し、早期離床・スムーズな社会復帰を図れるよう高度専門治療を行っている。

これら高度な運動器専門診療レベルを維持し、今後さらに発展させるべく、治療成績を解析し学会発表や論文報告を積極的に行うとともに、整形外科専門医を目指す若手スタッフ・レジデントの一般整形外科診療を含む教育や手術トレーニング、医学部学生に対するクリニカルクラークシップなども重視していくことにより、臨床診療・研究・教育においてバランスの取れた高レベルの運動器疾患専門診療の充実を心掛けている。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Aono H, Takenaka S, Nagamoto Y, Tobimatsu, Yamashita T, Furuya M, Iwasaki M: Fusion rate and clinical outcomes in two-level posterior lumbar interbody fusion. *World Neurosurg* 116(4): P. 473-478, 2018 年 4 月 30 日

Hirakawa A, Nishikawa T, Yonemori K, Shibata T, Nakamura K, Ando M, Ueda T, Ozaki T, Tamura K, Kawai A, Fujiwara Y: Utility of Bayesian single-arm design in new drug application for rare cancers in Japan: A case study of phase 2 trial for sarcoma. *Ther Innov Regul Sci* 52(3): 334-338, 2018 年 5 月 16 日

Yamashita T, Okuda S, Aono H, Matsumoto T, Maeno T, Sugiura T, Iwasaki M: Controllable Risk Factors for Neurologic Complications in Posterior Lumbar Interbody Fusion as Revision Surgery. *World Neurosurg* 116(6): e1181-1187, 2018 年 6 月 2 日

Ogura K, Susa M, Morioka H, Matsumine A, Ishii T, Hamada K, Ueda T, Kawai A: Reconstruction using a constrained-type hip tumor prosthesis after resection of malignant periacetabular tumors: A study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). *J Surg Oncol* 117(7): 1455-1463, 2018 年 6 月 16 日

Tsukamoto Y, Futani H, Kihara T, Watanabe T, Kumanishi S, Matsuo S, Hirota S, Ueda T, Yamamoto H, Yoshiya S: An extremely rare case of primary malignancy in giant cell tumor of bone, arising in the right femur and harboring *H3F3A* mutation. *Pathol Res Pract* 214: 1504-1509, 2018 年 8 月 16 日

Nakahara I, Kyo T, Kuroda Y, Miki H: Effect of improved navigation performance on the accuracy of implant placement in total hip arthroplasty with a CT-based navigation system. *J Artif Organs* 21(3): 340-347, 2018 年 9 月 30 日

Nakamura N, Sugano N, Sakai T, Nakahara I: Does Robotic Milling For Stem Implantation in Cementless THA Result in Improved Outcomes Scores or Survivorship Compared with Hand Rasping? Results of a Randomized Trial at 10 Years. *Clin Orthop Relat Res* 476(11): 2169-2173, 2018 年 11 月 30 日

Ishiguro H, Kaito T, Yarimitsu S, Hashimoto K, Okada R, Kushioka J, Chijimatsu R, Takenaka S, Makino T, Sakai Y, Moriguchi Y, Otsuru S, Hart DA, Fujie H, Nakamura N, Yoshikawa H: Intervertebral disc regeneration with an adipose mesenchymal stem cell-derived tissue-engineered construct in a rat nucleotomy model. *Acta Biomaterialia* 87: 118-129, 2019 年 3 月 15 日

A-3

高嶋和磨、李興盛、倉敷哲生、中原一郎、高尾正樹、坂井孝司、菅野伸彦：炭素繊維強化 PEEK 樹脂複合材を用いた大腿骨近位部固定ネイルの安全強度評価、臨床バイオメカニクス、39: p. 181-186、2018 年 4 月 25 日

宮本隆司：人工膝関節置換術の周術期看護ノート整形外科看護、23(6): P.51-56、2018 年 6 月 25 日

池田将吾，岩本圭史，宮本隆司，上田孝文：TKA 後疼痛管理における持続大腿神経ブロックと選択的脛骨神経ブロックの併用効果、中部日本整形外科災害外科学会雑誌、61(4)、P. 845-846、2018 年 7 月 1 日

文勝徹、松岡由希子、北野元裕：二分脊椎による踵足変形に対して腱移行術と inverse Lambrinudi 3 関節固定術を行った 1 例、日本足の外科学会雑誌、39(1)：P. 368-371、2018 年 8 月 31 日

中原一郎、三木秀宣：THA のナビゲーション、整形・災害外科、61(10): P.1207-1216、2018 年 9 月 1 日

三木秀宣：Stryker CT based hip navigation を用いた術前計画とその実際、Stryker's infos、33: P.15-17、2018 年 10 月 1 日

A-4

石黒博之、海渡貴司：【間葉系幹細胞治療の現状と課題】 脂肪由来間葉系細胞を用いた椎間板再生、整形・災害外科、61(11): P.1381-1388、2018 年 10 月 1 日

上田孝文：運動器の 10 年「がんとロコモティブシンドローム」、悪性軟部腫瘍（軟部肉腫）に対する薬物治療の開発状況と今後の展望、クリニシアン、669/65(11-12): 127-133、2018 年 12 月 1 日

B-2

Aono H, Ishii K, Takenaka S, Nagamoto Y, Tobimatsu H, Furuya M, Yamashita T, Iwasaki M: Risk Factors for Kyphosis Recurrence after Temporary Short-segment Fixation for Thoracolumbar Burst Fractures. 45th Annual Meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine、Banff、2018 年 5 月 15 日

Furuya M, Yamashita T, Nagamoto Y, Tobimatsu H, Aono H: Midterm clinical results of temporary short-segment fixation without augmentation for thoracolumbar burst fractures. 45th Annual Meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine、Banff、2018 年 5 月 15 日

Aono H, Tobimatsu H, Takenaka S, Furuya M, Nagamoto Y, Yamashita T, Iwasaki M: Does the duration to the surgery affect the reduction of fractured vertebra in posterior short-segment fixation for thoracolumbar burst fractures?. EuroSpine 2018、Barcelona、2018 年 9 月 19 日

Furuya M, Yamashita T, Aono H: Midterm clinical results of temporary short-segment fixation without augmentation for thoracolumbar burst fractures. EuroSpine 2018、

Barcelona, 2018 年 9 月 19 日

Outani H, Kanzaki R, Hamada K, Takenaka S, Tanaka T, Kakunaga S, Ueda T, Yoshikawa H: Rib sarcoma resection with video-thoracoscopic assistance. 12th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society (APMSTS) 2018 meeting、Jaipur, India、2018 年 10 月 5 日

Takeuchi A, Yamamoto N, Niu X, Chen W-M, Nakamura T, Nathan SS, Ueda T, Iwata S, Kawai A, Kang Y-K, Asavamongkolkul A, Wang EHM, Singh VA, Shirai T, Chung Y-G: Long-term clinical outcomes of 105 patients with diffuse-type tenosynovial giant cell tumor: The East Asia Musculo-skeletal Oncology Group (EAMOG) study. 12th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society (APMSTS) 2018 meeting、Jaipur, India、2018 年 10 月 7 日

Obata H, Ueda T, Naka N, Outani H, Yoshikawa H: Soft tissue sarcomas of the ankle and foot: Clinical outcome and prognostic factors. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting、Rome、2018 年 11 月 15 日

Takenaka S, Araki N, Ueda T, Kakunaga S, Imura Y, Naka N, Outani H, Hamada K, Yasuda N, Yoshikawa H: The clinical outcome of the osteoarticular extracorporeal irradiated autograft for bone sarcoma. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting、Rome、2018 年 11 月 15 日

Kakunaga S, Takenaka S, Imura Y, Outani H, Hamada K, Naka N, Ueda T, Aoki Y: Clinical outcome of periosteal osteosarcoma: A single institutional study. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting、Rome、2018 年 11 月 15 日

B-3

宮本隆司：BCS-TKA における再現性の高い手術手技。第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018 年 4 月 20 日

古家雅之、菊田順一、瀬尾茂人、前田拓樹、柏井将文、吉川秀樹、石井 優：生体骨イメージングで見る破骨細胞・骨芽細胞間の 4D 相互作用。第 38 回日本骨形態計測学会、大阪、2018 年 6 月 22 日

北野元裕、松岡由希子：足部変形を有する二分脊椎症患者の成人後の諸問題。第 43 回日本足の外科学会、木更津、2018 年 11 月 1 日

B-4

青野博之、古家雅之、山下智也：胸腰椎破裂骨折に対する short-segment fixation の椎体矯正の限界－受傷からの日数で整復に差があるか？－。47 回日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018 年 4 月 14 日

山下智也、海渡貴司、石井 賢：骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折後偽関節手術における周術期合併症とその危険因子。47 回日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018 年 4 月 14 日

古家雅之、青野博之、山下智也、上田孝文：感覚神経活動電位を用いた L5 神経根椎間孔狭窄の電気診断の診断感度に影響を与える因子の検討。47 回日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018 年 4 月 14 日

石黒博之、海渡貴司、牧野孝洋、武中章太、橋本国彦、岡田倫太郎、串岡純一、吉川秀樹：ONO-2506 はアストロサイト活性化とグリア瘢痕形成を阻害することで脊髄損傷後の神経障害性疼痛を抑制する。47 回日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018 年 4 月 14 日

石黒博之、海渡貴司、牧野孝洋、武中章太、千々松良太、橋本国彦、岡田倫太郎、串岡純一、森口 悠、中村憲正、吉川秀樹：脂肪由来間葉系幹細胞由来の三次元人工組織による構造的・力学的な椎間板再生。47 回日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018 年 4 月 14 日

池田将吾、岩本圭史、川島邦彦、宮本隆司、上田孝文：TKA 後疼痛管理における持続大腿神経ブロックと選択的脛骨神経ブロックの併用効果。第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018 年 4 月 20 日

古市拓也、角永茂樹、上田孝文：巨脾を伴う後腹膜脱分化型脂肪肉腫に対して術前放射線治療、広範切除術を行った一例。第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018 年 4 月 20 日

濱田健一郎、中 紀文、角永茂樹、中井 翔、王谷英達、竹中 聡、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、吉川秀樹：5 年以上経過観察可能であった 12 歳以下の下肢に生じた骨肉腫症例の術後成績。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 24 日

山下智也、海渡貴司、石井賢：骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折後偽関節手術における周術期合併症とその危険因子。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 24 日

王谷英達、竹中 聡、濱田健一郎、名井 陽、吉川秀樹、上田孝文、中 紀文、荒木信人：初診時転移のない滑膜肉腫の手術成績。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 27 日

石黒博之、海渡貴司、金山完哲、牧野孝洋、武中章太、北口和真、橋本国彦、森口 悠、中村憲正、吉川秀樹：脂肪由来間葉系幹細胞由来の三次元人工組織による組織的・機能的な椎間板再生。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 27 日

竹中 聡、濱田健一郎、王谷英達、中 紀文、荒木信人、上田孝文、名井 陽、吉川秀樹：術中体外放射線照射処理骨の osteoarticular graft の治療成績。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

森井健司、穴澤卯圭、石井 猛、国定俊之、中山ロバート、菊田一貴、浅野尚文、宇高 徹、上田孝文、森岡秀夫：四肢体幹部に発生した脱分化脂肪肉腫の治療成績－JMOG による多施設共同研究－。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

中山ロバート、浅野尚文、小林英介、濱田俊介、川島寛之、濱田健一郎、渡部逸央、麩谷博之、五嶋孝博、森岡秀夫、上田孝文：本邦における淡明細胞型軟骨肉腫の治療成績－日本骨軟部肉腫治療研究会(JMOG)多施設共同研究－。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

角永茂樹、上田孝文、久田原郁夫：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

若松 透、角永茂樹、竹中 聡、伊村慶紀、堀由美子、中 紀文、上田孝文、吉川秀樹：骨外性骨肉腫に対するイホマイド・ドキシソルビシン併用化学療法の有用性の検討。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

王谷英達、竹中 聡、濱田健一郎、中井隆彰、伊村慶紀、田中太晶、田宮大也、大島和也、角永茂樹、中 紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、吉川秀樹：術中体外放射線照射自家骨移植術の長期成績。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

武内章彦、山本憲男、Xiaohui Niu、Wei-Ming Chen、中村知樹、Saminathan Suresh Nathan、上田孝文、岩田慎太郎、川井章、Yong-Koo Kang、Apichat Asavamongkolkul、白井寿治、土屋弘行：びまん型腱滑膜巨細胞腫の長期成績－東アジア骨軟部腫瘍研究グループ多施設共同研究－。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

竹中 聡、角永茂樹、伊村慶紀、宮村能子、橋井佳子、濱田健一郎、王谷英達、中紀文、荒木信人、上田孝文、名井 陽、吉川秀樹：転移性 Ewing 肉腫ファミリー腫瘍の治療経験－大量化学療法の有効性について－。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

池田将吾、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：両大腿骨遠位に発症した chronic expanding hematoma。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

古家雅之：二光子励起生体イメージングを用いた骨芽細胞・破骨細胞コミュニケ

ーションの解明。第 27 回日本骨代謝学会、長崎、2018 年 7 月 27 日

北野元裕、松岡由希子：下腿デグロービング損傷後に生じた尖足変形と凹足変形を創外固定にて同時に矯正した 1 例。第 31 回日本創外固定・骨延長学会、弘前、2018 年 8 月 3 日

青野博之、石井桂輔、武中章大、長本行隆、飛松秀和、古家雅之、山下智也、岩崎幹季：胸腰椎破裂骨折に対する temporary short-segment fixation における後弯再発の危険因子の検討。第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、東京、2018 年 9 月 29 日

古家雅之、山下智也、山本夏希、青野博之：80 歳以上の高齢者に対する PLIF の手術成績。第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、東京、2018 年 9 月 29 日

山本夏希、古家雅之、山下智也、青野博之：PLIF 抜釘後に癒合椎間に骨折を来たしインプラント再設置を要した 1 例。第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、東京、2018 年 9 月 29 日

石黒博之、海渡貴司、牧野孝洋、武中章太、橋本国彦、岡田倫太郎、串岡純一、吉川秀樹：ONO-2506 はアストロサイト活性化を阻害することで脊髄損傷後の神経障害性疼痛を抑制する。33 回日本整形外科学会基礎学術集会、奈良、2018 年 10 月 21 日

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：当科における THA 周術期ステム周囲骨折の後向き調査。第 44 回日本股関節学会、名古屋、2018 年 10 月 26 日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：Mainstay stem を用いた人工股関節全置換術の短期成績。第 44 回日本股関節学会、名古屋、2018 年 10 月 26 日

岩本圭史、宮本隆司、川島邦彦、上田孝文：人工膝関節周囲骨折に対する骨粗鬆症治療状況。第 20 回日本骨粗鬆症学会、長崎、2019 年 10 月 26 日

山本夏希、栗山幸治、片岡利行、安井行彦、難波二郎：陳旧性肘関節脱臼に対し box-loop technique を用いて内外側側副靱帯同時再建術を施行した 1 例。第 32 回日本肘関節学会、小樽、2019 年 2 月 9 日

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：J-Taper ステムを使用した THA の成績。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 15 日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：ADEPT cup を用いた Metal on Metal THA 術後の MRI 評価。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 15 日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：Mainstay stem を用いた人工股関節全置換術の短期成績。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 15 日

宮本隆司、川島邦彦、岩本圭史、上田孝文：Cementless Oxford UKA の短期成績。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 16 日

宮本隆司、川島邦彦、岩本圭史、上田孝文：両十字靱帯温存型 TKA の短期成績。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 16 日

岩本圭史、宮本隆司、峠憲太郎、上田孝文：人工膝関節周囲大腿骨遠位部骨折の治療経験。第 49 回日本人工関節学会、東京、2019 年 2 月 16 日

石原幹也、服部浩佳、西田佳弘、江森誠人、川井 章、上田孝文、松本嘉寛、笹田哲朗、佐藤永一、山田知美、原田直純、珠玖洋、影山慎一：難治性軟部肉腫に対する NY-ESO-1 抗原を標的としたワクチン併用 TCR 遺伝子改変 T 細胞輸注療法の実施施設共同医師主導治験。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2 月 22 日

遠藤誠、高橋俊二、荒木信人、杉浦英志、上田孝文、米本 司、高橋 満、森岡秀夫、平賀博明、比留間 徹、川井 章：悪性軟部腫瘍に対するトラベクテジンの腫瘍反応に関する時間経過分析：国内第 II 相試験の統合解析。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会東京、2019 年 2 月 22 日

竹中聡、濱田健一郎、王谷英達、宮村能子、橋井佳子、磯橋文明、藤田二郎、前田哲生、角永茂樹、上田孝文、伊村慶紀、中 紀文、荒木信人、名井 陽、吉川秀樹：転移性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍の治療経験：大量化学療法の有効性について。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2 月 22 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫に対するデノスマブ治療の臨床成績。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2 月 22 日

北野元裕、松岡由希子：大腿骨遠位骨端線損傷後遺残変形に対する大腿骨延長中に膝関節後方亜脱臼を呈した 1 例。第 32 回日本創外固定・骨延長学会、秋田、2019 年 3 月 2 日

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：ナビゲーションを使用した THA の周術期骨折 第 13 回日本 CAOS 研究会、京都、2019 年 3 月 7 日

黒田泰生、中原一郎、三木秀宣：Mainstay stem を用いた人工股関節全置換術の短期成績。第 13 回日本 CAOS 研究会、京都、2019 年 3 月 7 日

B-5

中原一郎：THA 術中/術後早期骨折。第 2 回 Hip Masters、大阪、2018 年 6 月 2 日

青野博之：胸腰椎骨折に対する後方手術の適応と限界。第 14 回 Spine Trauma Conference、東京、2018 年 7 月 21 日

上田孝文：これだけは知っておきたいー骨・軟部腫瘍における診断と治療のポイント。第 2 回北河内整形外科セミナー関西医科大学整形外科同門会研修会講演 5、枚方、2018 年 9 月 1 日

宮本隆司：JOURNEY II デザインコンセプト。JOURNEY BCS Master Class 2018、大阪、2018 年 9 月 15 日

上田孝文：希少がんとしての骨・軟部肉腫に対する診療アプローチ。第 48 回がんプロ学内講義、大阪狭山、2018 年 9 月 19 日

宮本隆司：Indications - Antero-medial Osteoarthritis。Oxford Partial Knee Instructional Course、東京、2018 年 9 月 22 日

宮本隆司：Surgical Demonstration。Oxford Partial Knee Instructional Course、東京、2018 年 9 月 22 日

宮本隆司：Cementless Oxford - Radiolucent Lines。Oxford Partial Knee Master Course、東京、2018 年 9 月 23 日

中原一郎：整形外科医師が考える医療機器に求めるもの。第 6 回医療健康機器開発研究会、大阪、2018 年 9 月 26 日

三木秀宣：当院における THA 脱臼対策。Hip Forum 2018、東京、2018 年 9 月 29 日

宮本隆司：Soft tissue management and necessity of constrained insert。Complex Primary and Revision Knee Symposium 2018、東京、2018 年 9 月 29 日

中原一郎：なぜ THA にナビゲーションが必要なのか。第 6 回 THA Develop Seminar、大阪、2018 年 10 月 13 日

宮本隆司：両十字靱帯温存型 TKA。 - その適応の決め手と手術手技の knack & pitfall - Journey XR セミナー、山口、2018 年 12 月 27 日

宮本隆司：JOURNEY IIXR の適用と診断。JOURNEY II XR Master Class in Sapporo、札幌、2019 年 1 月 18 日

北野元裕：乳幼児の骨折-虐待や骨疾患との鑑別-。第9回近畿小児整形外科研修、京都、2019年1月26日

上田孝文：軟部肉腫に対する薬物治療－我が国における現状と今後の展望－。The APEX（All Japan Experts）Initiative for STS、東京、2019年2月2日

B-6

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：股関節骨切術後のTHA。第45回関西股関節研究会、大阪、2018年4月14日

池田将吾、岩本圭史、川島邦彦、宮本隆司、上田孝文：TKA 後疼痛管理における持続大腿神経ブロックと選択的脛骨神経ブロックの併用効果。第130回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018年4月20日

古市拓也、角永茂樹、上田孝文：巨脾を伴う後腹膜脱分化型脂肪肉腫に対して術前放射線治療、広範切除術を行った一例。第130回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018年4月20日

久田原郁夫：大腿粘液型軟部腫瘍症例。第91回関西SKR勉強会、大阪、2018年6月2日

古家雅之、菊田順一、瀬尾茂人、前田拓樹、柏井将文、海渡貴司、菊地和也、松田秀雄、吉川秀樹、石井 優：二光子励起生体イメージングを用いた骨芽細胞・破骨細胞コミュニケーションの解明。第20回なにわ骨代謝研究会、大阪、2018年8月25日

前裕和、北野元裕、上田孝文：糖尿病性 Charcot 足の1例。第55回大阪整形外科症例検討会、大阪、2018年9月15日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：脛骨骨幹部骨腫瘍の症例。第19回近畿骨軟部腫瘍談話会、大阪、2018年10月20日

久田原郁夫：鎖骨骨腫瘍症例。第93回関西SKR勉強会、大阪、2018年11月10日

井上 亮、北野元裕、上田孝文：大結節骨折を伴った陳旧性肩関節脱臼の一例。第58回大阪骨折研究会、大阪、2018年12月8日

中原一郎、黒田泰生、三木秀宣：THAにおける大腿骨オカルト骨折の治療経験。第46回関西股関節研究会、大阪、2018年12月15日

松岡由希子、北野元裕、上田孝文：骨軟化症患者の両側大腿骨不全骨折に対し予防的髄内釘を施行した1例、第63回近畿小児整形外科懇話会、京都、2019年1

月 26 日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：腸骨円形細胞骨肉腫の 1 例。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右腸骨骨腫瘍。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

久田原郁夫：骨化を伴った大腿骨軟部腫瘍症例。第 94 回関西 SKR 勉強会、大阪、2019 年 3 月 14 日

B-8

三木秀宣：人生 100 年を健康に歩き続けるために。講演と癒しのコンサート、大阪、2018 年 11 月 17 日

脳神経外科

藤中俊之

脳神経外科では主に脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷などを対象疾患としています。脳血管障害に対しては、脳卒中内科と協力して脳卒中センターとして 24 時間体制で対応しています。急性期脳卒中患者に対しては、病態に応じて、開頭手術や脳血管内治療などの適切な治療を速やかに行い、発症からできるだけ早期にリハビリテーションを開始するとともに、地域連携パスを利用して後方病院でのスムーズな治療の継続を図っています。また、未破裂脳動脈瘤や慢性期脳血管障害に対しても十分な検討とインフォームドコンセントを行ったうえで積極的に治療を行っています。脳血管内治療に関しては、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医が在籍しており、高度な治療、最新のデバイスを用いた治療が可能となっています。実施医や実施施設が限定されている脳動脈瘤に対するフローダイバーターステント（Pipeline）や脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する液体塞栓物質（Onyx）を用いた治療も数多く行っています。新規血管内治療機器の治験や市販後調査、多施設共同研究にも積極的に参加しています。

脳腫瘍については、術前に詳細な画像評価を行い、術中はナビゲーションシステムや脳波・筋電図等によるモニタリングを駆使し安全・確実な手術を行っています。なかでも、中枢神経原発腫瘍の代表である神経膠腫に対しては、術中ナビゲーションやモニタリングに加え、5-アミノレブリン酸による蛍光反応ガイド下に手術を行うことで、機能温存を図りながら最大限の摘出を行うように努めています。特に機能的に重要な部位に発生した腫瘍においては、言語や高次機能を損なうことなく安全に手術を行うため麻酔科、リハビリテーション科の協力のもと覚醒下手術も行っています。また、化学療法、分子標的薬、放射線治療の進歩により癌種ごとの治療方針が必要となっている転移性脳腫瘍や、希少がんである神経膠種や悪性リンパ腫などに対して、疾患ごとに遺伝子診断など先進的な手法も用いて最適な治療方法を検討し集学的な治療を行っています。頭部外傷については救命救急センターと連携し重症頭部外傷にも対応しています。個々の外傷患者の背景や病態は様々ですが、それぞれに最善と考えられる治療方針をとるように検討を行っています。

研修医、レジデント教育にも力を入れています。毎週の症例検討会のほかに納所中内果、救急医との合同症例検討会、抄読会などを行っています。また、顕微鏡手術については手術室外でもトレーニングが行えるよう、実体顕微鏡を購入しシリコンモデルや鶏肉を用いた卓上での組織剥離・血管吻合の練習を奨励しています。当科は日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会の研修施設に認定されており日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医の育成にも注力しています。学会発表についても活発に行っており、順次、論文文化して国内外の医学雑誌に発表しています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Shigemizu D, Miya F, Akiyama S, Okuda S, Boroevich KA, Fujimoto A, Nakagawa H, Ozaki K, Niida S, Kanemura Y, Okamoto N, Saitoh S, Kato M, Yamasaki M, Matsunaga T, Mutai H, Kosaki K, Tsunoda T: IMSindel: An accurate intermediate-size indel detection tool incorporating de novo assembly and gapped global-local alignment with split read analysis. 「Sci Rep」 8(1):5608、2018 年 4 月

Takano K, Kinoshita M, Arita H, Okita Y, Chiba Y, Kagawa N, Watanabe Y, Shimosegawa E, Hatazawa J, Hashimoto N, Fujimoto Y, Kishima H. Influence of region-of-interest designs on quantitative measurement of multimodal imaging of MR non-enhancing gliomas. Oncol Lett. 15(5):7934-7940、2018 年 5 月

Zhu D, Osuka S, Zhang Z, Reichert ZR, Yang L, Kanemura Y, Jiang Y, You S, Zhang H, Devi NS, Bhattacharya D, Takano S, Gillespie GY, Macdonald T, Tan C, Nishikawa R, Nelson WG, Olson JJ, Van Meir EG: BAI1 Suppresses Medulloblastoma Formation by Protecting p53 from Mdm2-Mediated Degradation. 「Cancer Cell」 33(6):1004-1016.e5、2018 年 6 月

Fujita Y, Kinoshita M, Ozaki T, Kitamura M, Nakatsuka SI, Kanemura Y, Kishima H. Enlargement of papillary glioneuronal tumor in an adult after a follow-up period of 10 years: a case report. 「J Surg Case Rep」 2018(6):rjy123、2018 年 6 月

Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y: Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. 「Sci Rep」 8(1):11773、2018 年 8 月

Okita Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Kinoshita M, Nonaka M, Nakajima S, Fujinaka T, Kanemura Y: Stereotactic image-based histological analysis reveals a correlation between (11)C-methionine uptake and MGMT promoter methylation in non-enhancing gliomas. 「Oncol Lett」 16(2):1924-1930、2018 年 8 月
Kajikawa R, Fujinaka T, Nakamura H, Kinoshita M, Nishida T, Kishima H : Carotid artery stenting for patients with occipital-vertebral anastomosis. Interv Neuroradiol. 25(2):212-218、2018 年 9 月 30 日

Hori I, Miya F, Negishi Y, Hattori A, Ando N, Boroevich KA, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S: A novel homozygous missense mutation in the SH3-binding motif of STAMBP causing microcephaly-capillary malformation syndrome. 「J Hum Genet」 63(9):957-963、2018 年 9 月

Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N, Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y: Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. 「J Neurooncol」 140(2):329-339、2018 年 11 月

Okuda T, Hayashi N, Takahashi M, Uzuka T, Okita Y, Otani R, Fujinaka T, Fujita M, Kato A, Narita Y, Nakasu Y : Clinical outcomes of brain metastases from hepatocellular carcinoma: a multicenter retrospective study and a literature review. Int J Clin Oncol. 23(6):1095-1100, 2018 年 12 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG): Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 「Acta Neuropathol Commun」 6(1):134、2018 年 12 月

Eino D, Tsukada Y, Naito H, Kanemura Y, Iba T, Wakabayashi T, Muramatsu F, Kidoya H, Arita H, Kagawa N, Fujimoto Y, Takara K, Kishima H, Takakura N: LPA4-Mediated Vascular Network Formation Increases the Efficacy of Anti-PD-1 Therapy against Brain Tumors. 「Cancer Res」 78(23):6607-6620、2108 年 12 月

Tsuji O, Sugai K, Yamaguchi R, Tashiro S, Nagoshi N, Kohyama J, Iida T, Ohkubo T, Itakura G, Isoda M, Shinozaki M, Fujiyoshi K, Kanemura Y, Yamanaka S, Nakamura M, Okano H: Concise Review: Laying the Groundwork for a First-In-Human Study of an Induced Pluripotent Stem Cell-Based Intervention for Spinal Cord Injury. 「Stem Cells」 37(1):6-13、2019 年 1 月

Nakamura H, Fujinaka T, Nishida T, Kishima H, Sakai N; JR-NET3 study group : Endovascular Therapy for Ruptured Vertebral Artery Dissecting Aneurysms: Results from Nationwide, Retrospective, Multi-Center Registries in Japan (JR-NET3). Neurol Med Chir (Tokyo). 59(1):10-18. 2019 年 1 月 15 日

Yamasaki M, Kanemura Y: X-Linked Hydrocephalus. 「Textbook of Pediatric

Neurosurgery」(Editors: Di Rocco, Concezio, Pang, Dachling, Rutka, James T.)、
P.1-14、Springer International Publishing Copyright Holder Springer Nature Switzerland
AG、First Online: 2017 年 7 月

A-3

西尾雅実、矢野喜寛、高野浩司、江村拓人：CAS 導入後の CEA 治療成績 「脳
卒中の外科」46(6): P411-415、三輪書店、2018 年 11 月 30 日

木下順弘、田中太助、石田健一郎、小島将裕、岩佐信孝、上尾光弘、舘 哲郎、藤
中俊之：重症頭部外傷における横静脈洞閉塞の検討 「日本外傷学会雑誌」、33
巻 1 号 P.1-4、2019 年 1 月

沖田典子、成田善孝：星細胞腫「Clinical Neuroscience」2018 Vol36, p543 545

沖田典子、成田善孝：成人膠芽腫に対する phase study 「脳神経外科」2018 46
巻 7 号 p561-571

A-4

金村米博、岡野栄之：第 2 節 細胞・組織利用再生医療製品の開発 第 6 項 神
経細胞「バイオロジクスの開発と品質・安全性確保 下巻」(早川堯夫 監修)、
P.284-298、株式会社エル・アイ・シー、2018 年 12 月 26 日

A-6

中島 伸：「ムンテラ」の効能 「レジデントノート」16(1)：P.137-139、羊土社、
2018 年 4 月 1 日

中島 伸：久々の災害訓練 「レジデントノート」16(3)：P.461-463、羊土社、2018
年 5 月 1 日

中島 伸：ゴルフが下手なわけ 「レジデントノート」16(4)：P.589-591、羊土社、
2018 年 6 月 1 日

中島 伸：目をやられた！ 「レジデントノート」16(6)：P.1007-1009、羊土社、
2018 年 7 月 1 日

中島 伸：診断書を巡るあれこれ 「レジデントノート」16(7)：P.1171-1173、羊
土社、2018 年 8 月 1 日

中島 伸：胃ろうを作るか否か？ 「レジデントノート」16(9)：P.1595-1597、羊
土社、2018 年 9 月 1 日

中島 伸：外国人患者さんに対する診察のコツ ～原則編～ 「レジデントノート」
16(10)：P.1759-1761、羊土社、2018 年 10 月 1 日

中島 伸:外国人患者さんに対する診察のコツ ～実践編～ 「レジデントノート」 16(12) : P.2133-2135、羊土社、2018 年 11 月 1 日

中島 伸 : 3 番目に多い頭痛 (前編) 「レジデントノート」 16(13) : P.2283-3385、羊土社、2018 年 12 月 1 日

中島 伸 : 3 番目に多い頭痛 (後編) 「レジデントノート」 16(15) : P.2673-2675、羊土社、2019 年 1 月 1 日

中島 伸 : 耳がこわれた ! 「レジデントノート」 16(16) : P.2831-2833、羊土社、2019 年 2 月 1 日

中島 伸 : カルテの書き方 「レジデントノート」 16(18) : P.3235-3237、羊土社、2019 年 3 月 1 日

B-1

Kanemura Y: Adoptive T-cell immunotherapy using autologous lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 22nd International Conference on Brain Tumor Research and Therapy, Bergen, Norway, 2018 年 6 月 26 日

Kanemura Y: New molecular marker and sub prognostic group. SIOP/PROS 2018 Congress and PROS Educational day, Kyoto, Japan, 2018 年 11 月 15 日

B-2

Takamune Achiha, Noriyuki Kijima, Naoki Kagawa, Chisato Yokota, Yasunori Fujimoto, Haruhiko Kishima. : Expression and functional analysis of the CD166/activated leukocyte cell adhesion molecule (ALCAM) in medulloblastoma. International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology. Denver, USA, 2018 年 7 月 1 日

B-3

Kanemura Y: Differentiation method of human iPS cells derived neurons and evaluation of their maturation level. 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会合同年会、神戸市、2018 年 9 月 6 日

Kijima Y, Ramaswamy V, Kagawa N、Hashimoto N, Taylor MD : 遺伝子解析時代における髄芽腫の摘出度と予後との相関についての大規模検討第 23 回日本脳腫瘍の外科学会総会、和歌山市、2018 年 9 月 14 日

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Yamashita S, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Takada A, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K: Significance of molecular classification of

ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 27 日

Kanemura Y (指定討論者): "Pediatric invasive glioma・DIPG""The molecular genetics of pediatric low-grade gliomas: Incidence, prognosis and response to therapy" Lecture: Cynthia E. Hawkins, 第 5 回国際脳腫瘍病理シンポジウム、箱根、2018 年 9 月 28 日

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、寺田栄作、中川僚太、館 哲郎、村上皓紀、金村米博、中島 伸: 大型脳動脈瘤に対する Flow diverter を用いた血管内治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

梅原 徹、有田英之、吉岡絵麻、正札智子、木下 学、児玉良典、香川尚己、藤本康倫、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、深井順也、藤田浩二、阪本大輔、森 鑑二、貴島晴彦、金村米博: 関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおける初発膠芽腫の遺伝子異常. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

藤中俊之: Neuroform Atlas Stent System で変わるコイル塞栓術 ―ここまで出来るステント併用コイル塞栓術―、第 77 回日本脳神経外科学会学術総会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

木下 学、平田岳郎、有田英之、香川尚己、金村米博、下瀬川恵久、橋本直哉、畑澤順、貴島晴彦、手島昭樹、小川和彦: 悪性神経膠腫の放射線治療計画におけるメチオニン/FDG ダブルトレーサー解析の有用性と MRI による治療計画の諸問題について. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

有田英之、大野 誠、中村大志、田村 郁、三宅勇平、齊藤邦昭、田中将太、樋口 英未、沖田典子、深井順也、宇田武弘、森 鑑二、阪本大輔、貴島晴彦、小森隆司、永根基雄、植木敬介、西川 亮、金村米博、成田善孝、市村幸一: IDH 変異型腫瘍における TERT 変異と 1p/19q 共欠失の予後因子としての意義. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、高田 愛、児玉良典、森 鑑二: 関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおけるグリオーマゲノム医療体制構築の試み. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

金村米博: NHO における臨床研究法の取り組みについて―認定臨床研究審査委員会の委員長の立場から―. 第 72 回国立病院総合医学会、神戸市、2018 年 11 月 9 日

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、寺田栄作、中川僚太、舘 哲郎、村上皓紀、金村米博、中島 伸：大型脳動脈瘤に対する Flow diverter を用いた血管内治療成績、第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、仙台市、2018 年 11 月 22 日

藤中俊之：ステントの特徴を生かしたステント併用コイル塞栓術、第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、仙台市、2018 年 11 月 22 日

藤中俊之：LVIS の特徴を活かした脳動脈瘤治療戦略、第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、仙台市、2018 年 11 月 23 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、隅田美穂、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、勝間亜沙子、高田 愛、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた中枢神経疾患再生治療法の開発．第 1 回日本再生医療とリハビリテーション学会学術大会 第 5 回再生医療とリハビリテーション研究会、広島市、2018 年 11 月 23 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、市村幸一、佐々木 惇、井上 健、児玉良典、眞能正幸、平戸純子、義岡孝子、原 純一、坂本博昭、西川 亮：髄芽腫の分子亜群分類：国内症例の特徴と今後の方向性．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

高野浩司、大上拓海、後藤 哲、西尾雅実：中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する治療成績と高齢者における課題。 第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

木嶋教行：A Hematogenous Route for Medulloblastoma Leptomeningeal Metastases、第 36 回日本脳腫瘍学会総会 星野賞受賞講演、小田原市、2018 年 12 月 3 日

梅原 徹、有田英之、吉岡絵麻、正札智子、木下 学、児玉良典、香川尚己、藤本康倫、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、深井順也、藤田浩二、阪本大輔、森 鑑二、貴島晴彦、金村米博：膠芽腫におけるコピー数異常プロファイルの臨床的意義の検討．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

木嶋教行、中川僚太、舘哲郎、村上皓紀、高野浩司、金村米博、中島伸、藤中俊之：コイル塞栓術に適した中大脳動脈瘤についての検討と治療成績、第 48 回日本脳卒中の外科学会総会、横浜市、2019 年 3 月 21 日

藤中俊之：世界最小プロファイルハイブリッドステントの真価 ―Neuroform Atlas™ Stent System― 、STROKE2019、横浜市、2019 年 3 月 23 日

B-4

木嶋教行、中川僚太、寺田栄作、三浦慎平、舘 哲郎、沖田典子、金村米博、中島

伸、藤中俊之：新規カスタムメイドチタン人工頭蓋骨 craniofit 使用の自験例。第 27 回脳神経外科手術と機器学会総会、奈良市、2018 年 4 月 14 日

中川僚太、木嶋教行、館 哲郎、三浦慎平、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：眼窩減圧術後チタン製の人工骨にて眼窩上壁の再建を行った 1 例。第 11 回日本整容脳神経外科学会、奈良市、2018 年 4 月 14 日

木谷 知樹、中村 元、西田武生、高垣匡寿、尾崎友彦、角野喜則、松本勝美、貴島晴彦：3D-TOF MRA 画像解析による M1 蛇行度と中大脳動脈瘤に関する検討。第 27 回日本脳ドック学会、盛岡市、2018 年 6 月 30 日

沖田典子、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、児玉良典、眞能正幸：神経膠腫の非造影病変での定位的評価による MET-PET と MGMT メチル化率の相関性。第 23 回日本脳腫瘍の外科学会、和歌山市、2018 年 9 月 14 日

梅原 徹、有田英之、香川尚己、藤本康倫、金村米博、貴島晴彦：「再発」グリオーマの系統解析～IDH1 変異が「消失」した症例の改正より～。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、上松右二、中尾直之、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

西川真弘、井上明宏、高野昌平、大上史朗、北澤理子、矢野 元、金村米博、田中潤也、大西丘倫、國枝武治：膠芽腫における部位特異的な腫瘍幹細胞の発現解析。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

有田英之、大野 誠、中村大志、田村 郁、三宅勇平、齊藤邦昭、田中將太、樋口芙未、金村米博、市村幸一：IDH 変異型腫瘍における TERT 変異と 1p/19q 共欠失の予後因子としての意義の比較。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

有田英之、梅原 徹、香川尚己、藤本康倫、森井英一、金村米博、貴島晴彦：1p/19q 共欠失と TP53 変異を併せ持つ神経膠腫の分子遺伝学的検討。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 26 日

木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、館 哲郎、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：コイル塞栓術に適した中大脳動脈瘤についての検討と治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

寺田栄作、村上皓紀、中川僚太、館 哲郎、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：Flow Diverter を用いて再治療を行った血管内治療後再発大型内頸

動脈瘤の 8 症例。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

木谷知樹、寺西邦匡、福永貴典、馬場庸平、芝野克彦、梅垣昌士、佐々木学、松本勝美：血腫脳室内穿破の予後および脳室内遊離血腫塊による遅発性急性水頭症についての検討。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

西川真弘、井上明宏、高野昌平、大上史朗、矢野 元、松本 調、末廣 諭、山下大介、尾崎沙耶、渡邊英昭、金村米博、田中潤也、大西丘倫、國枝武治：膠芽腫 Invasion niche に残存する腫瘍幹細胞の発現および機能解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

館 哲郎、木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：頭部外傷における静脈病変の重要性。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

中川僚太、木嶋教行、石田健一郎、村上皓紀、館 哲郎、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：頭部外傷による血管損傷スクリーニングの有用性。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

沖田典子、成田善孝、埜中正博、木下 学、田中英一、中島伸、藤中俊之：悪性神経膠腫での化学放射線治療後の脳体積変化について。日本脳神経外科学会第 77 回学術総会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

宮 冬樹、重水大智、金村米博、齋藤伸治、岡本伸彦、加藤光広、松永達雄、務台英樹、小崎健次郎、角田達彦：exome 解析による疾患原因変異探索の限界を突破するための手法の検証。日本人類遺伝学会第 63 回大会、横浜市、2018 年 10 月 11 日

加藤耕治、宮 冬樹、浜田奈々子、根岸 豊、岸本洋子、小沢 浩、伊東秀記、堀いくみ、服部文子、岡本信彦、加藤光広、角田達彦、金村米博、小崎健次郎、高橋義行、永田浩一、齋藤伸治：MYCN の新生機能獲得型変異は新規の巨脳症症候群の原因となる。日本人類遺伝学会第 63 回大会、横浜市、2018 年 10 月 12 日

木谷知樹、寺西邦匡、福永貴典、馬場庸平、芝野克彦、梅垣昌士、佐々木学、松本勝美：小脳出血に対する手術治療戦略と予後についての検討。第 25 回日本神経内視鏡学会、新潟市、2018 年 10 月 26 日

寺田栄作、村上皓紀、中川僚太、舘 哲郎、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：Flow Diverter を用いて再治療を行った血管内治療後再発大型内頸動脈瘤の9症例。第34回日本脳神経血管内治療学会総会、仙台市、2018年11月22日

木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、舘 哲郎、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：コイル塞栓術に適した中大脳動脈瘤についての検討と治療成績。第34回日本脳神経血管内治療学会総会、仙台市、2018年11月23日

阿知波孝宗、木嶋教行、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、眞能正幸、香川尚己、藤本康倫、埜中正博、西田南海子、山中 巧、原田敦子、森 鑑二、深井順也、露口尚弘、宇田武弘、石橋謙一、友金祐介、阪本大輔、Michael Taylor、金村米博、貴島晴彦：ALCAM の髄芽腫 WNT subgroup における発現と浸潤性への関与。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月2日

有田英之、梅原 徹、阿知波孝宗、木下 学、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：1p/19q 共欠失と TP53 変異を併せ持つ神経膠腫の分子遺伝学検討。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月2日

牧野恭秀、荒川芳輝、吉岡絵麻、正札智子、金村米博、安田崇之、山尾幸広、丹治正大、峰晴陽平、菊池隆幸、宮本 亨：神経膠腫の分子生物学的分類と予後の検討。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月2日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、埜中正博、石橋謙一、佐々木貴浩、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月3日

沖田典子、成田善孝、埜中正博、木下 学、田中英一、中島伸、藤中俊之：悪性神経膠腫での化学放射線治療後の脳体積変化について。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月3日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、埜中正博、岩田亮一、深井順也、井上明宏、沖田典子、川端信司、篠山隆司、田中一寛、露口尚弘、川嶋俊幸、藤田 貢、阿知波孝宗、梅原 徹、樋口裕一郎、末水洋志、森 鑑二、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特性の検討と patient derived xenograft バンク確立の試み。第36回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018年12月3日

香川尚己、橋本直哉、福屋章悟、相原英夫、篠山隆司、國枝武治、中田光俊、北

井隆平、深井順也、木下 学、金村米博、児玉良典、森田智視、阿知波孝宗、有田英之、藤本康倫、貴島晴彦：初発膠芽腫における carmustine wafers 留置と再発時摘出後再留置の有効性と安全性。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

木嶋教行、中川僚太、舘 哲郎、村上皓紀、高野浩司、金村米博、中島 伸、藤中俊之：頭部外傷後頭蓋骨欠損に対する頭蓋形成術時の骨選択。第 42 回日本脳神経外傷学会総会、淡路市、2019 年 3 月 8 日

中川僚太、木嶋教行、村上皓紀、舘 哲郎、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：外傷性後交通動脈解離に対して血管内治療を行った 1 例。第 42 回日本脳神経外傷学会、淡路市、2019 年 3 月 9 日

舘 哲郎、木嶋教行、中川僚太、村上皓紀、高野浩司、金村米博、中島 伸、藤中俊之：中硬膜動静脈瘻を示した急性硬膜外血腫の 3 例。第 42 回日本脳神経外傷学会、淡路市、2019 年 3 月 9 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、山本篤世、山口 亮、峯 裕、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた亜急性期脳梗塞再生治療法の開発。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

福角勇人、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来分化神経細胞の薬剤感受性評価。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

藤中俊之、木嶋教行、高野浩司、中川僚太、舘 哲郎、村上皓紀、金村米博、中島伸：大型脳動脈瘤に対する Flow diverter を用いた血管内治療成績。STROKE2019、横浜市、2019 年 3 月 21 日

兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、隅田美穂、野崎佑衣、勝間亜沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の培養工程で発生する染色体核型異常の特徴。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、隅田美穂、勝間亜沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：デジタル PCR を用いたゲノムコピー数異常検出システムの検証。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

中川僚太、寺田栄作、村上皓紀、舘 哲郎、木谷知樹、高野浩司、金村米博、中島伸、藤中俊之：Flow Diverter を用いて再治療を行った血管内治療後再発大型内頸動脈瘤の 9 症例。STROKE2019、横浜市、2019 年 3 月 23 日

舘 哲郎、木嶋教行、中川僚太、村上皓紀、高野浩司、木谷知樹、金村米博、中島

伸、藤中俊之：未破裂動脈瘤患者における多発性のう胞腎スクリーニングの有用性。STROKE2019、横浜市、2019年3月23日

B-5

藤中俊之：脳動脈瘤塞栓術の合併症と対策。第5回日本脳神経血管内治療学会近畿支部総会、豊中市、2018年9月8日

B-6

宮田真友子、羽柴哲夫、磯崎春菜、李 一、亀井孝昌、岩田亮一、島田志行、吉村晋一、埜中正博、浅井昭雄、金村米博：結節性硬化症の診断過程において無症候性に発見された悪性神経膠腫の一例。第75回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第77回近畿脊椎外科研究会 合同開催 Neurosurgery Kinki 2018 Spring Meeting、豊中市、2018年4月7日

木谷知樹、寺西邦匡、福永貴典、芝野克彦、梅垣昌士、佐々木学、松本勝美：脳室内血腫が遅発性に急性水頭症を来した二例。第75回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中市、2018年4月7日

館 哲郎、木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：雷鳴頭痛と失語症で発症し、多発皮質性くも膜下出血を認めた可逆性脳血管収縮症候群の1例。第76回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第5回日本神経血管内治療学近畿地方会 Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting、豊中市、2018年9月8日

中川僚太、木嶋教行、村上皓紀、館 哲郎、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：外傷性後交通動脈解離に対して血管内治療を行った1例。第76回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第5回日本神経血管内治療学近畿地方会 Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting、豊中市、2018年9月8日

木谷知樹、芝野克彦、寺西邦匡、福永貴典、梅垣昌士、佐々木学、松本勝美：外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻に対し母血管閉塞が奏功した一例。第5回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会、豊中市、2018年9月8日

B-8

藤中俊之：脳神経領域における血管内治療の進歩。第4回大阪東血栓治療研究会、大阪市、2018年7月28日

金村米博：小児脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。日本放射線腫瘍学会小児がん講演会、神戸市、2018年9月15日

藤中俊之：くも膜下出血総論。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2018、神戸市、2018年9月14日

藤中俊之：フローダイバーターの基礎と留置法 大型・巨大動脈瘤への新たな治療
選択肢。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2018、神戸市、2018 年 9 月 13
日

藤中俊之：脳血管内治療の合併症と対策。第 2 回岡山脳血管内治療講演会、岡山
市、2018 年 12 月 20 日

藤中俊之：脳血管内治療の合併症と対策。脳卒中診療を考える会、大阪市、2019
年 2 月 8 日

藤中俊之：外傷性頭頸部血管損傷の診断と治療－CTA によるスクリーニングと血
管内治療について－。第 5 回岩手脳血管内治療ウィンターセミナー、盛岡市、2019
年 2 月 1 日

藤中俊之：ここまできた！最新の脳卒中診療 脳動脈瘤治療用フローダイバータ
ーと新規抗凝固薬の実力。かかりつけ医のためのブレインセミナー、尼崎市、2019
年 2 月 21 日

藤中俊之：脳動脈瘤の最新治療。法円坂フォーラム、大阪市、2018 年 4 月 14 日

心臓血管外科

榊 雅之

近年増加している高齢者や透析患者等のハイリスク症例に対して我々は“低侵襲化と生活の質（QOL）向上を目指した心臓血管外科治療”を診療基本方針とし、エビデンスに基づきながら個々の症例の病態や背景に則した最善の治療を目指しています。また、循環器内科や救命救急センターとの緊密な連携下での緊急手術や迅速かつ開かれた病診連携、病々連携により、地域の循環器診療に貢献しています。以下に当科で施行している主な手術の特色を提示します。

冠動脈バイパス手術：低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術（±人工心肺）を第一選択とし、両側内胸動脈使用を基本とした長期遠隔成績の優れた確実な冠血行再建を提供しています。

弁膜症手術：僧帽弁閉鎖不全症では弁形成術を積極的に行うことにより、術後の抗凝固療法の回避および心機能の回復を目指した QOL を考慮した術式選択をしています。また、当院の特徴として再弁手術症例が多く、臨床研究にて再手術術式の妥当性および安全性を確認しています。

大動脈瘤手術：胸部大動脈瘤および腹部大動脈瘤では積極的にステントグラフト治療を適応することにより、高齢者、脳梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患等のハイリスク症例や破裂等の緊急症例に対しても飛躍的な低侵襲化が得られています。腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療は早期から導入されており、国立病院機構のネットワーク研究に参加することにより長期成績を検討しています。また、急性大動脈解離では、エントリーが弓部に存在する場合には **Open stent graft** を用いた全弓部置換術を行うことで、出血量の減少および手術時間の短縮などの低侵襲化を認めております。さらに **Open stent graft** に関しては、未だ長期成績が不明であるため、力学的な特性の検討や術後遠隔期を見据えた有効性に関する研究を行なっています。

近年高齢化による心臓血管外科手術術後の ADL 低下が危惧されていることより、上記の如く低侵襲手術を積極的に取り入れるとともに、呼吸器合併症予防（ASB、CPAP）の工夫や心臓リハビリプログラムによる早期離床を目指しています。また、新しく心臓血管外科に診療看護師（JNP）が配属されたことにより、患者さんに寄り添った治療が可能となっています。

【2018 年度研究業績発表】

B-2

Kitabayashi K, Sakaki M, Murakami T: The clinical impact of the spring back force of the bending Frozenix produced open stentgraft. 26th Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS)、Moscow、2018 年 5 月 26 日

B-4

北林克清、榊雅之、村上貴志：小児外傷性胸部大動脈損傷に対してステントグラフト内挿術を行った 1 例。第 46 回日本血管外科学会総会、山形、2018 年 5 月 10 日

村上貴志、北林克清、榊雅之：亜急性期 B 型解離を合併した腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術後に malperfusion を呈した 1 例。第 46 回日本血管外科学会総会、山形、2018 年 5 月 10 日

村上貴志、北林克清、榊雅之：狭心症に合併した冠動脈瘤に対する治療の検討。第 23 回冠動脈外科学会、和歌山、2018 年 7 月 12 日

榊雅之、小野原俊博、半田宣弘、向原公介、岡本 実、山本 剛、下江安司、笠島史成、川崎正和、畝 大、佐藤克敏、樋口卓也、今井克彦、石黒真吾：EVAR 後エンドリーク症例における長期予後および追加治療に関する検討。第 49 回日本心臓血管外科学会学術集会、岡山市、2019 年 2 月 13 日

B-6

村上貴志、北林克清、榊雅之：大動脈弁における弁輪部膿瘍を伴う感染性心内膜炎に対する手術成績の検討。第 61 回関西胸部外科学会、名古屋、2018 年 6 月 22 日

B-7

村上貴志：大動脈解離に合併したリコモジュリンの使用経験。DIC 研究会、大阪、2018 年 9 月 21 日

皮膚科

小澤健太郎

当科では、国立病院機構が担うべき医療のなかでも皮膚がんを含めた皮膚腫瘍に重点を置いており、その他にも下肢静脈瘤や炎症性皮膚疾患など幅広い領域の皮膚疾患の診断と治療に取り組んでいます。

皮膚腫瘍に関して当院は、皮膚がんに対する手術療法ならびに化学療法、放射線療法などの集学的な治療を行うことが可能な施設であり、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医をはじめ優れたスタッフと恵まれた医療設備のもと、正確な診断と十分な説明、事実に基づいた治療をモットーに、皮膚がん患者の社会的な生活の質を第一とした診療を行っています。皮膚腫瘍の診断は容易ではないものも多いため、ダーモスコピーによる非侵襲的検査や皮膚生検を積極的に行い、臨床検査科病理部門との合同カンファレンスを行うことで診断精度を高めています。

また、金属アレルギーや接触皮膚炎、薬疹などのアレルギー性疾患、皮膚潰瘍、自己免疫性水疱症など専門性の高い診療にも対応し、難治性皮膚疾患に関しても、地域の医療施設や近隣の総合病院から患者を積極的に受け入れています。

下肢表在静脈の弁不全によって発生する下肢静脈瘤に対する専門外来を開設し、非侵襲的な超音波ドップラー検査を用いた診療を行うとともに、保存的治療に加えて、短期入院による血管内レーザー治療を含めた外科的手術を数多く経験し、良好な治療成績を残しています。臨床研究としては悪性黒色腫に対する免疫療法や分子標的薬の有効性評価、化膿性汗腺炎に対する生物学的製剤の有効性評価の臨床試験に参加しています。また、悪性黒色腫、皮膚付属器悪性腫瘍、メルケル細胞癌の疫学調査についての多施設共同研究も行っています。教育面では当院は大学病院以外では数少ない日本皮膚科学会認定専門医主研修施設で、新専門医制度においても研修基幹施設に認定されており、多様な皮膚疾患の診療を経験できる体制を整えて、皮膚科専門医育成のための医師教育にも取り組んでいます。

【2018 年度 研究業績発表】

A-3

小林佑佳、小澤健太郎、森 清、爲政大幾：右鼻翼部に生じた皮膚限局性結節性アミロイドーシスの 1 例「臨床皮膚科」 72(10):P821-825、医学書院、2018 年 9 月 1 日

小林佑佳、小澤健太郎、米澤陽子、爲政大幾：ニボルマブ開始後 1 年 3 ヶ月後に間質性肺炎を発症した進行期悪性黒色腫の 1 例「臨床皮膚科」 73 (1) : P71-77、医学書院、2019 年 1 月 1 日

東郷さやか、小澤健太郎、川崎紀彦、爲政大幾：術前化学放射線療法による症状改善後に手術を行った左鼠径部原発の有棘細胞癌 A 期例「Skin Cancer」 33(3):P255-259、日本皮膚悪性腫瘍学会、2019 年 2 月

A-5

小澤健太郎：カポジ肉腫の皮膚所見。平成 30 年度日本医療研究開発機構(AMED)エイズ対策
実用化研究事業「カポジ肉腫関連疾患の発症機構の解明と予防および治療法に関する研究」
班「AIDS に合併するカポジ肉腫等の HHV-8 関連疾患における診断と治療の手引き第 3 版」
P17-19、2019 年 3 月 31 日

B-4

藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、池田 彩、小澤健太郎：膝関節、腓腹筋拘縮が関与し
た Lipodermatosclerosis による下腿潰瘍の 1 例。第 117 回日本皮膚科学会総会、広島、2018 年
6 月 1 日

藤森なぎさ、小林佑佳、東郷さやか、加賀野井朱里、小澤健太郎、爲政大幾：免疫チェック
ポイント阻害剤投与中の悪性黒色腫患者に生じた多型紅斑型薬疹の 1 例。第 34 回日本皮膚悪
性腫瘍学会、浜松、2018 年 7 月 6 日

藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、小澤健太郎：後頭部に認めた閉鎖性脳瘤の 1 例
。第 33 回日本皮膚外科学会総会・学術集会、大阪、2018 年 9 月 2 日

B-6

吉田裕梨、小林佑佳、藤森なぎさ、加賀野井朱里、小澤健太郎、芝田孝一：手背に生じた
intravenous pyogenic granulom の 1 例。第 111 回近畿皮膚科集談会、京都、2018 年 7 月 22 日

吉田裕梨、藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、池田 彩、小澤健太郎、松井喜彦：右上腕
に生じた Localized lipoatrophy の 1 例。第 69 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、大阪、2018
年 10 月 28 日

益田知可子、藤森なぎさ、小林佑佳、吉田裕梨、加賀野井朱里、原田 潤、小澤健太郎：左上
胸部に生じた乳房外パジェット病の 1 例。第 472 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、 2019
年 3 月 9 日

B-8

小澤健太郎：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2018 年 4 月
19 日

藤森なぎさ：最近当科で経験した症例。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2018 年 4 月 19
日

小澤健太郎：薬疹について～皮膚科の立場から～。なにわ臨床懇話会、大阪、2018 年 7 月 26
日

原田潤：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚 Joint Meeting 2018、大阪、2018 年 11 月 1
日

小澤健太郎：そのできものは大丈夫？～皮膚の癌と良性腫瘍について～。平成 30 年皮膚の日
講演会、大阪、2018 年 11 月 11 日

泌尿器科

西村健作

泌尿器科では悪性腫瘍・尿路結石症に対する診療が2つの大きな柱になっています。前立腺癌診断ではmultiparametric MRIでのPI-RADSを用いたスコア化により前立腺生検術の適応を決定しています。画像診断に基づいた系統的経直腸・経会陰16ヵ所生検による病理組織診断により治療方針を決定しています。内視鏡手術を積極的に行っており、副腎腫瘍・腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌などにおいて3Dモニターを用いた腹腔鏡手術を標準化しています。尿路結石症ではレーザーを用いた経尿道的腎尿管碎石術（f-TUL）や経皮的腎碎石術を併用したTAPを積極的に行っています。密接に地域連携を行いながら、正確な診断と高い水準の治療を提供できることを基本方針としています。これらの診療内容や治療成績を学会や地域連携フォーラムなどで発表を行い、臨床研究や治験などは悪性腫瘍を中心に積極的に取り組んでいます。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Yamamoto Y, Uemura M, Nakano K, Hayashi Y, Wang C, Ishizuya Y, Kinouchi T, Hayashi T, Matsuzaki K, Jingushi K, Kato T, Kawashima A, Ujike T, Nagahara A, Fujita K, Imamura R, Nonomura N : Increased level and fragmentation of plasma circulating cell-free DNA are diagnostic and prognostic markers for renal cell carcinoma. Oncotarget 9(29): 20467-20475、2018 年 4 月 17 日

Hayashi T, Fujita K, Nojima S, Hayashi Y, Nakano K, Ishizuya Y, Wang C, Yamamoto Y, Kinouchi T, Matsuzaki K, Jingushi K, Kato T, Kawashima A, Nagahara A, Ujike T, Uemura M, Pena MDCR, Gordetsky JB, Tsujikawa K, Netto GJ, Nonomura N : High-fat diet-induced inflammation accelerates prostatic cancer growth via IL6 signaling. Clin Cancer Res 24(17): 4309-4318、2018 年 9 月 1 日

Matsuzaki K, Fujita K, Hayashi Y, Matsushita M, Nojima S, Jingushi K, Kato T, Kawashima A, Ujike T, Nagahara A, Uemura M, Imamura R, Yamaguchi S, Fushimi H, Miyamoto H, Morii E, Nonomura N : STAT3 expression in a prognostic marker in upper urinary tract urothelial carcinoma. ProS One 13(8): e0201256、2018 年 8 月 9 日

Jingushi K, Uemura M, Nakano K, Hayashi Y, Wang C, Ishizuya Y, Yamamoto Y, Hayashi T, Kinouchi T, Matsuzaki K, Kato T, Kawashima A, Ujike T, Nagahara A, Fujita K, Ueda K, Tsujikawa K, Nonomura N: Leukocyte-associated immunoglobulin-like receptor 1 promotes tumorigenesis in RCC. Oncol Rep 41(2): 1293-1303、2019 年 2 月

Yamamoto Y, Uemura M, Fujita M, Maejima K, Koh Y, Matsushita M, Nakano K, Hayashi Y, Ishizuya Y, Wang C, Kinouchi T, Hayashi T, Matsuzaki K, Jinguchi K, Kato T, Kawashima A, Ujike T,

Nagahara A, Fujita K, Imamura R, Nakagawa H, Nonomura N : Clinical signifeye of the mutational landscape and fragmentation of circulating tumor DNA in renal cell carcinoma. Cancer sci. 110(2): 617-628、2019 年 2 月

Hayashi Y, Fujita K, Matsuzaki K, Matsushita M, Koh Y, Nakano K, Wang C, Ishizuya Y, Yamamoto Y, Jingushi K, Kato T, Kawashima A, Ujike T, Nagahara A, Uemura M, Imamura R, Takao T, Takada S, Netto GJ, Nonomura N. Diagnostic potential of TERT promoter and FGFR3 mutations in urinary cell-free DNA in upper tract urothelial carcinoma. Cancer Sci: [Epub ahead of print] 2019 年 3 月 18 日

A-3

栗林宗平、中井康友、辻 博隆、弓場 覚、波多野浩士、中山雅志、垣本健一、西村和郎：原発巣および再発巣の切除の判断に MRI 検査が参考となった後腹膜脂肪肉腫の 1 例、64(4): 145-149、泌尿器科紀要、2018 年 4 月 30 日

洪 陽子、朝倉寿久、片山欽三、鄭 則秀、原田泰規、西村健作：褐色細胞腫に起因する高カテコラミン血症により活性化した褐色脂肪に FDG 集積を認めた 1 例、64(11): 435-438、泌尿器科紀要、2018 年 11 月 30 日

B-2

Matsuzaki K, Fujita K, Shiromizu T, Narumi R, Hayashi Y, Jingushi K, Kato T, Kawashima A, Ujike T, Nagahara A, Uemura M, Tomonaga T, Nonomura N. : Discovery of novel urinary biomarker of bladder cancer by proteomic analysis of urinary and tissue-exudative exosomes. The 16th Urological Association of Asia Congress, Kyoto, 2018 年 4 月 19 日

B-4

原田泰規、朝倉寿久、洪 陽子、片山欽三、鄭 則秀、西村健作：TUL における術前尿管ステント留置の臨床的意義。第 106 回日本泌尿器科学会総会、京都、2018 年 4 月 21 日

鄭 則秀、辻 博隆、松崎恭介、片山欽三、西村健作：回腸導管造設術後の腎盂尿管癌に対する後腹膜鏡下左腎尿管全摘除術の工夫。第 32 回日本泌尿器内視鏡学会、仙台、2018 年 11 月 27 日

片山欽三、辻 博隆、松崎恭介、鄭 則秀、西村健作：外科領域の腹腔鏡手術における尿路再建術の臨床的検討。第 32 回日本泌尿器内視鏡学会、仙台、2018 年 11 月 29 日

B-6

辻 博隆、松崎恭介、片山欽三、鄭 則秀、西村健作：膿腎症を来した尿管 S 状結腸瘻の 1 例。第 239 回日本泌尿器科学会関西地方会、大津、2018 年 10 月 13 日

辻 博隆、松崎恭介、片山欽三、鄭 則秀、西村健作：精巣腫瘍を疑った睪癌傍精巣転移の 1 例。第 240 回日本泌尿器科学会関西地方会、奈良、2019 年 2 月 16 日

B-8

西村健作： 排尿障害の初期対応、最適マネジメントとは。大阪市中央区東医師会学術講演会、2019 年 1 月 16 日、

松崎恭介： 尿路結石治療の変遷、ESWL から内視鏡治療の時代へ。大手門泌尿器連携ネットワーク、大阪、2019 年 3 月 13 日

産科・婦人科

巽 啓司

当院産科は、大阪府周産期搬送ネットワーク（OGCS）加盟施設として、産科救急受け入れ施設となっている。NICUの併設がなく早産や胎児疾患には対応できないが、母体疾患を中心に積極的に受け入れをしている。産科合併症は経過が急で、母体・胎児に重篤な異常をきたすことも多い。また様々な合併症をもつ妊婦も増加しており、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えたりすることがあるため、該当診療科と連携して管理している。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院でもこの傾向は顕著であるが、ハイリスク妊娠の管理に際しては、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドプラー法等により、間接的にはあるが子宮内の胎児の状態を把握し、必要な場合には遅滞なく介入を行う一方、異常なく経過している妊産婦はもちろん、様々な合併症をもった妊娠でも、できるだけ自然なお産を体験してもらえよう努力している。このように、新しい知識・技術を駆使して症例に応じた個別で適切なリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また当科の特徴としては、AIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

当院の婦人科診療の中心は「がん」であり、入院患者の多くは悪性腫瘍患者である。また大阪における子宮がん治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設である。また日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録を通じて、わが国における婦人科腫瘍診療の発展に貢献している。さらに、「がん患者の妊孕能や日常生活機能の温存」、「進行がん患者に対する化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良、手術適応の見直し、最適な補助療法の組み合わせの検討等を進めており、各種学会での演題発表や論文作成を通じて、その成果を順次公表している。一方、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も多数取り扱っている。近年は腹腔鏡下手術の症例数が増加しており、腹腔鏡下悪性腫瘍手術も開始している。また子宮鏡下手術も積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、必要な機能の温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施している。また、大阪府婦人科救急ネットワークの受け入れ施設として、可能な限り婦人科救急にも対応している。

当科は新専門医制度において、京都大学、近畿大学と連携した産婦人科専門医指導施設であり、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期新生児医学会、日本女性医学会等の専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、全国の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきた。また各種臨床試験にも積極的に参加し、新たな治療法の創出に貢献している。

【2018年度 研究業績発表】

A-0

Martin JW, Chen JC, Neidleman J, Tatsumi K, Hu J, Giudice LC, Greene WC, Roan NR. : Potent and rapid activation of tropomyosin-receptor kinase A in endometrial stromal fibroblasts by seminal plasma. Biology of Reproduction, 99(2) : P336–348、2018 年 8 月 1 日

B-2

Okagaki A : Implementation of the Electronic Total Information System for Disaster and DMAT-Supporting Software. Filemaker Developer Conference. Medical session. Gaylord Texan Resort , Dallas, Texas, 2018 年 8 月 9 日

B-4

飛梅孝子、小谷泰史、青木稚人、村上幸祐、高矢寿光、貫戸明子、島岡昌生、中井英勝、辻勲、鈴木彩子、松村謙臣：ジェノゲスト長期投与継続の工夫。第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会、仙台、2018 年 5 月 10 日-13 日

松本久宣、三上哲平、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、伴 建二、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽啓司：卵巣胚細胞腫瘍の傍大動脈リンパ節転移との鑑別を要した Nutcracker syndrome の 1 例。第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会、仙台、2018 年 5 月 10 日-13 日

藤上友輔、伴 建二、三上哲平、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、岡田由貴子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：自然成立した卵管間質部双胎妊娠破裂にてショックを呈した一例。第 70 回日本産婦人科学会、仙台、2018 年 5 月 10 日-13 日

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：災害時統合診療システムの作成および災害訓練における運用結果。第 22 回日本医療情報学会春季学術大会新潟市朱鷺メッセ、新潟、2018 年 6 月 22 日

伴 建二、岡田由貴子、三上哲平、小椋恵利、藤上友輔、矢口愛弓、寺田亜希子、赤木佳奈、松本久宣、飛梅孝子、岡垣篤彦、巽啓司：高度肥満症（初診時の体格指数：BMI = 55.3kg/m²）合併卵巣粘液性嚢胞腺腫症例に術前から集学的管理を行い腹腔鏡下付属器腫瘍摘出術を施行した 1 例。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、松江、2018 年 8 月 2-4 日

B-6

岡垣篤彦：甚大災害対策としての医療情報システム。中部医療の質管理研究会、岐阜、2018 年 5 月 12 日

岡垣篤彦：大阪医療センターの情報システム 10 年。日本ユーザーメード医療 IT 研究会 10 周年記念ミーティング、名古屋、2018 年 9 月 29 日

岡垣篤彦：大阪医療センターの救急、災害システム。日本ユーザーメード医療 IT 研究会北見サイトビジットモーニングセミナー、北見、2019 年 2 月 3 日

越田裕一郎、寺田亜希子、伴 建二、藤上友輔、小椋恵利、赤木佳奈、松本久宣、飛梅孝子、岡垣篤彦、巽 啓司：巨大卵巣腫瘍を形成した虫垂胚細胞カルチノイドの 1 例。第 33 回大阪温知会総会、大阪、2019 年 2 月 16 日

岡垣篤彦：甚大災害時における「被災予測」と「統合診療」に役立つシステムの確立。医療
ITExpo、大阪、2019 年 2 月 22 日

B-8

巽 啓司：女性に寄り添う産婦人科医療のあり方について。平成 30 年度「家族計画・母体保
護法指導者講習会」伝達講習会、大阪、2019 年 1 月 31 日

眼科

大鳥 安正

大阪の中心に位置していることから、近畿圏における主要な基幹病院として病診連携・病病連携の重要性を認識し、紹介元と緊密に連絡を取るようにより、特に緑内障・網膜硝子体疾患においては多くの難治性疾患を受け入れ、最終病院として機能しています。各医員は白内障以外に専門分野を標榜しており、情報収集も怠らず、最新で質の高い医療を提供することを心がけています。また、厚生労働省の政策医療感覚器ネットワーク機関としても全国の多施設共同研究に参加しています。

平成 30 年 4 月から 31 年 3 月の眼科における総手術件数は総計 1,916 件でした。**白内障**：白内障手術件数は最も多く、平成 30 年度の白内障単独手術件数は 1,159 件（1 泊入院 271 件）でした。入院は両眼 4 泊 5 日、片眼 3 泊 4 日、片眼 1 泊 2 日から選択可能です。白内障手術の待ち期間は平均 1 か月程度です。**緑内障**：原発開放隅角緑内障は薬物療法が第一選択ですが、薬物療法で眼圧下降が十分でない場合には外科的治療（平成 30 年度の緑内障手術件数は 411 件）を行っています。低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery, MIGS）も採用しております。また、複数回の緑内障手術でも眼圧下降が得られないような難治な緑内障に対してはチューブシャント手術を行っています。**網膜・硝子体手術**：増殖糖尿病網膜症、増殖硝子体網膜症、網膜剥離、黄斑部手術などを中心に積極的に行っています。平成 30 年度には硝子体手術 305 件、強膜内陥術 7 件が行われ、網膜剥離症例では症例に応じて初診当日入院・当日手術も行っています。硝子体手術は 25 ゲージシステムによる低侵襲硝子体手術を実施し良好な成績を得ています。手術加療だけでなく、加齢黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症や糖尿病黄斑浮腫などに対する抗 Vascular Endothelial Growth Factor（VEGF）抗体の硝子体内注射も積極的に行っています。**その他（眼形成・翼状片など）**：翼状片手術、眼瞼内反症手術など 34 件の手術が行われました。眼部悪性腫瘍は当院の形成外科と連携しております。当院は HIV/AIDS 先端医療開発センターであるため、免疫・感染症内科との連携によりサイトメガロウイルス網膜炎などの HIV 眼合併症の治療も多数行っています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-1

大鳥安正：初期治療の診断治療／1 本目の開放隅角緑内障点眼治療、極早期緑内障の所見がみられる患者への点眼治療を開始した症例、眼科診療ビジュアルレビュー 3、緑内障、シリーズ総編集 大鹿哲郎、大橋裕一、編集 相原一、中山書店、p278-283, 2018 年 5 月 7 日

大鳥安正：続発緑内障を念頭とした隅角鏡検査のコツ、あたらしい眼科、35(8):P1067-1070、メディカル葵出版、大阪、2018年8月20日

大鳥安正：EX-PRESS 併用濾過手術後の濾過胞再建、眼科手術 32(1):P85-89、メディカル葵出版、大阪、2019年1月20日

A-2

雲井美帆、三木篤也：長期点眼治療での注意点／開放隅角緑内障での点眼治療の評価・変更、右眼に視野障害の進行を認め、配合薬点眼に変更した症例、眼科診療ビジュアルラーニング 3、緑内障、シリーズ総編集：大鹿哲郎、大橋裕一、編集：相原一、中山書店、p278-283、2018年5月7日

B-2

Matsuoka T,Otori Y: Rate of anterior chamber depth reduction in eyes with angle closure in late middle age. The 8th World Glaucoma Congress, Melbourne, 2019年3月29日

B-4

辻野知栄子、雲井美帆、橘 依里、横山洵子、内堀裕昭、松田 理、数尾久美子、大鳥安正：閉塞隅角眼に対する suture trabeculotomy 眼内法の眼圧下降効果。第 122 回日本眼科学会総会、大阪、2018年4月22日

松岡孝典、雲井美帆、橘 依里、横山洵子、内堀裕昭、松田 理、数尾久美子、大鳥安正：壮年期の閉塞隅角眼での前房深度減少速度。第 29 回日本緑内障学会、新潟、2018年9月14日

雲井美帆、松岡孝典、橘 依里、横山洵子、内堀裕昭、辻野知栄子、松田 理、数尾久美子、大鳥安正：眼類天疱瘡に Suture trabeculotomy 眼内法を施行した 2 症例。第 29 回日本緑内障学会、新潟、2018年9月15日

大鳥安正：緑内障専門医への紹介のタイミングと治療強化のポイント。非専門医のための緑内障診療ガイドランス～治療の考え方・進め方～。第 72 回日本臨床眼科学会インストラクションコース 11、東京、2018年10月11日

大鳥安正：眼内レンズ偏位のある落屑緑内障の治療、関西中四国緑内障道場、この症例、あなたならどうする？。第 42 回日本眼科手術学会、インストラクションコース 7、横浜、2019年2月2日

B-5

大鳥安正：前視野緑内障の診断と薬物治療開始のタイミング。第 7 回 Mie Ophthalmic Seminar、三重、2018年5月20日

大島 安正：緑内障眼底読影のミニマムエッセンス。中央区勉強会 2018、大阪、2018 年 6 月 15 日

松田 理：日常診療が楽しくなる OCT の話。第 10 回中央区勉強会 2018、大阪、2018 年 6 月 15 日

大島 安正：ドライアイ患者に対する緑内障点眼のベストチョイス。第 12 回箱根ドライアイクラブ in 小田原、神奈川、2018 年 6 月 23 日

大島 安正：病診連携：情報共有と紹介のタイミング。なにわ眼科勉強会、大阪、2018 年 8 月 2 日

大島 安正：前視野緑内障の診断と薬物治療開始のタイミング。宝塚市眼科学術講演会、兵庫、2018 年 8 月 25 日

大島 安正：MIGS を理解し、その適応を考える。第 42 回大阪眼科セミナー、大阪、2018 年 10 月 6 日

大島 安正：隅角検査のポイント。興和 Web カンファランス、大阪、2018 年 10 月 18 日

大島 安正：前視野緑内障と薬物治療開始のタイミング。Glaucoma Clinical Seminar 札幌、北海道、2018 年 11 月 10 日

大島 安正：炭酸脱水酵素阻害剤。Glaucoma Council、東京、2018 年 12 月 1 日

大島 安正：前視野緑内障と薬物治療開始のタイミング。2019 Osaka Tenkomori Conference、大阪、2019 年 1 月 26 日

大島 安正：隅角鏡検査の重要性と MIGS。第 61 回 YCU ティータイム、大阪、2019 年 2 月 9 日

大島 安正：緑内障の診断と治療の進歩～緑内障で失明させないためにできること～。日本眼鏡技術専門学校創立 50 周年記念講演、大阪、2019 年 3 月 8 日

大島 安正：隅角鏡検査の重要性と MIGS。新・眼科診療アップデートセミナー 2019 in Kyoto、京都、2018 年 3 月 24 日

B-6

雲井美帆、松岡孝典、橘 依里、横山洵子、内堀裕昭、辻野知栄子、松田 理、数尾久美子、大島 安正：Suture lotomy が奏功しなかった一例。第 54 回 PACGs、大阪、2018 年 11 月 6 日

松岡孝典：HIVに伴うブドウ膜炎。わからん会、大阪、2019年1月12日

松岡孝典：壮年期の閉塞隅角眼の特徴。第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

雲井美帆：硝子体出血の原因疾患について、第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

橘 依里：緑内障と紛らわしい視野障害について。第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

横山洵子：外傷性緑内障について。第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

松田 理：明日から役立つ！網膜疾患でのOCTの見方。第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

大鳥安正：安全で質の高い医療を提供できる病診連携を目指して。第1回 Hoenzaka Ophthalmic Conference、大阪、2019年2月23日

松岡孝典：壮年期閉塞隅角眼の前房深度減少速度について。第246回 OCC、大阪、2019年3月16日

B-8

大鳥安正：緑内障。富山大学医学部3回生学生講義、富山、2018年6月28日

耳鼻咽喉科

西村 洋

2015 年 4 月 1 日より、前任科長の堀井の新潟大学教授就任に伴い、交代で私（西村）が大阪府立母子保健総合医療センターより着任しました。北村が大阪府立急性期・総合医療センターへ異動になり、森鼻が大阪大学より李医師が堺市立病院より着任しました。専修医の 2 名（山村・秋田）は留任しました。一昨年は科長が西村洋（平成 5 年大阪大学卒）、森鼻哲生（平成 11 年大阪大学卒業）、李杏菜（平成 22 年川崎医科大学卒）、山村裕真（平成 24 年大阪大学卒）、秋田佳名子（平成 25 年近畿大学卒）です。一昨年度の 4 名より 1 名増えて 5 人体制となりました。2017 年 4 月より山村が大学に戻り当院の研修医であった福田雅俊（平成 27 年阪大卒）が新たに耳鼻咽喉科の専修医となりました。2017 年 12 月に秋田が退職となりました。2018 年 3 月末で森鼻と李が退職となり、代わりに 2017 年 4 月より花田、秋田、中（藤原）が採用になりました。2017 年 4 月末で秋田が退職になり、2017 年 5 月より笹井が採用になりました。

私の専門分野は中内耳手術や難聴などの耳科学で、博士課程（大阪大学大学院耳鼻咽喉科）での研究内容は人工内耳装用者の聴覚の中枢機構を脳血流 PET を用いて解明することでした。この研究の内容は英文科学雑誌 **Nature** に発表させていただきました。

今年度より当医療センターで診療をし、またその臨床内容に則した形で、患者さんの治療に繋がる研究をやっていたらと考えています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-3

西村 洋: 小児の難治性疾患—私はこうしている「喉頭乳頭腫」、34(11):1581-1585、JOHNS（東京医学社）、2018 年 11 月

西村 洋: 手話は聴覚野で“聞いて”いた！？「平衡感覚と健康長寿・フレイル対策」北原 紘、P83、先端医学社、2019 年 2 月 28 日

B-3

西村 洋、森鼻哲生: 中耳真珠腫進展度分類 2015 改定案による大阪医療センターの手術症例の検討。日本耳科学会総会学術講演会、大阪、2018 年 10 月 5 日

放射線診断科・放射線治療科

栗山啓子 田中英一

放射線診断科は画像診断と IVR(Interventional Radiology)を実施し、64 列マルチスライス CT2 台、1.5T および 3T の MRI 装置 2 台、アンギオ CT を用いた臨床研究をおこなっている。2018 年度は、常勤医師 5 名、非常勤医師 3 名、および診療放射線技師で研究をおこなった。画像診断では全身の CT と MRI の研究を各分野のエキスパートが学会報告や論文発表をおこなっている。

胸部の CT は肺の画像診断と IVR に有用であり、特にすりガラス濃度を呈する早期の肺腺癌の診断が課題となっている。胸腔鏡下肺生検や上皮内癌の縮小手術の術前に CT ガイド下に色素 (ICG) でマーキングを行い、その安全性と良好な術中視認性の報告を行った。

循環器領域は国立循環器病研究センターと共同研究を行い、成果を上げている。腹部・骨盤領域の画像診断の主力である MRI 診断は、大阪大学大学院医学系研究科・医学部との共同で研究を推進している。

放射線治療科では外部放射線治療装置（リニアック）を 1 台、高線量率小線源治療装置（remote after loading system : RALS）を 1 台保有しており、これらを用いた臨床研究をおこなっている。

特に、小線源治療の研究に関しては、国内のみならず世界をリードできるよう積極的に学会報告や論文発表をおこなっている。近年、特に画像誘導小線源治療（image-based brachytherapy）の前立腺癌、婦人科腫瘍等への臨床応用拡大の研究をすすめている。2018 年度は、常勤医師 2 名、非常勤医師 2 名、研究医員 1 名で研究をおこなった。小線源治療の対象疾患としては、再発婦人科腫瘍、新鮮子宮頸癌、前立腺癌、舌癌などの頭頸部癌、再発直腸癌などである。関西圏外からも患者紹介があり、複数の施設から研修生（医師・放射線技師・看護師）を受け入れた。

平成 28 年度から、日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（研究責任者：大阪歯科大学・秋山広徳、研究分担者：田中英一、古妻理之、辻本豊、吉田謙ら）による「口腔癌 3 次元画像誘導小線源治療におけるリアルタイム線量評価システムの構築」の研究、平成 29 年度から、日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（研究責任者：大阪医科大学・吉田謙、研究分担者：田中英一、古妻理之、辻本豊ら）による「正確な小線源治療を担保するリアルタイム In vivo dosimetry の開発」の研究、日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（研究責任者：京都府立医科大学・山崎秀哉、研究分担者：古妻理之、吉田謙ら）による「子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発」の研究をおこなっており、今年度も継続した。

また、「乳癌における乳房温存術後の組織内照射の治療成績の遡及的研究」、「局所限局口唇癌に対する 3 次元画像誘導高線量率組織内照射単独療法の治療成績お

よび線量一体積評価」、「局所限局可動部舌癌に対する高線量率組織内照射単独療法（54Gy/9回，1日2回照射）の妥当性に関する，急性期粘膜反応の観点からの研究」、「子宮頸部癌新鮮例における画像誘導を用いた小線源治療の最適化」等の研究を継続中である。

外部照射は IMRT などの高精度放射線治療の適応拡大に関する研究をすすめており、前立腺癌根治照射以外に、肺癌術後再発例や脳転移例、脊椎転移例、頭頸部癌術後照射などの臨床例に順次適応拡大をおこなっている。

【2018年度 研究業績発表】

（放射線診断科）

A-0

Nagai K, Kuriyama K, Inoue A, Yoshida Y, Takami K: Computed tomography-guided preoperative localization of small lung nodules with indocyanine green. *Acta Radiol.*;59(7):830-835. 2018 Jul

Nakao YM, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S. Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease.

「Heart」 104(13):1118-1124、2018年

Suzuki A, Yamaguchi S, Li M, Hara Y, Miyauchi H, Ikeda Y, Zhang B, Higashi M, Ikeda Y, Takagi A, Nagasaka H, Kobayashi K, Magata Y, Aoyama T, Hirano KI. Tricaprin Rescues Myocardial Abnormality in a Mouse Model of Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. 「J Oleo Sci」 67(8):983-989、2018年

Tokuda N, Koga M, Ohara T, Minatoya K, Tahara Y, Higashi M, Miyazaki Y, Kajimoto K, Matsubara S, Makita N, Sakamoto Y, Iguchi Y, Mizuno T, Nagatsuka K, Toyoda K.

Urgent Detection of Acute Type A Aortic Dissection in Hyperacute Ischemic Stroke or Transient Ischemic Attack. 「J Stroke Cerebrovasc Dis」 27(8):2112-2117、2018年

Miyauchi H, Hashimoto C, Ikeda Y, Li M, Nakano Y, Kozawa J, Sai E, Nagasawa Y, Sugimura K, Kinugawa S, Kawaguchi K, Shimada K, Ide T, Amano T, Higashi M, Inaba T, Nakamura H, Kobayashi K, Hirano K. Diagnostic Criteria and Severity Score for Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. 「Ann Nucl Cardiol」 4 (1): 94-100、2018年

Kozawa J, Higashi M, Shimomura I, Hirano KI. Intractable Coronary Artery Disease in a Patient with Type 2 Diabetes Presenting with Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. 「Diabetes Care」. Epub ahead of print、2019年

Tsuboyama T, Hori Y, Hori M, Onishi H, Tatsumi M, Sakane M, Ota T, Tomiyama N. Imaging findings of ovarian dysgerminoma with emphasis on multiplicity and vascular architecture: pathogenic implications. Abdom Radiol 43(7):1515-1523、2018 年 7 月

Tsuboyama T, Jost G, Kim T, Hor M, Onishi H, Pietsch H, Tomiyama N. Experimental studies on artifacts and tumor enhancement on gadoxetic acid-enhanced arterial phase liver MRI. 「Acta Radiol」 59(9):1029-1037、2018 年 9 月

Tanaka Y, Tsuboyama T, Yamamoto K, Terai Y, Ohmichi M, Narumi Y. A case of torsion of a normal ovary in the third trimester of pregnancy: MRI findings with emphasis on asymmetry in the diameter of the ovarian veins. Radiol Case Rep 14(3):324-327、2018 年 12 月 11 日

A-2

栗山啓子：最新の肺癌病期分類「胸部の CT 第 4 版」村田喜代史，上甲 剛，村山貞之，酒井文和 編集，p.144-161,メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2018 年 4 月 10 日

A-3

栗城 綾子、山上 宏、斎藤こずえ、殿村 修一、福岡 一樹、吉本 武史、阿部宗一郎、東 将浩、高橋 淳、豊田 一則、長束 一行：超音波ドプラ法による内頸動脈狭窄診断に石灰化病変が及ぼす影響、「脳卒中学会誌」、早期公開、2019 年

山岸 正和、玉木 長良、赤阪 隆史、池田 隆徳、上嶋 健治、上村 史朗、尾辻 豊、木原 康樹、木村 一雄、木村 剛、草間 芳樹、汲田 伸一郎、佐久間 肇、陣崎 雅弘、代田 浩之、竹石 恭知、茅田 浩、近森 大志郎、辻田 賢一、寺岡 邦彦、中嶋 憲一、中田 智明、中谷 敏、野上 昭彦、野出 孝一、野原 淳、平山 篤志、船橋 伸禎、三浦 大、望月 輝一、横井 宏佳、吉岡 邦浩、渡辺 昌文、浅沼 俊彦、石川 友一、大原 貴裕、海北 幸一、笠井 督雄、加藤 恵理、神山 浩、川尻 剛照、木曾 啓祐、北川 寛也、城戸 輝仁、木下利雄、桐山 智成、久米 輝善、倉田 聖、栗栖 智、小菅 雅美、小谷 英太郎、佐藤 明、塩野 泰紹、塩見 紘樹、瀧 淳一、竹内 正明、田中 敦史、田中 信大、田中 良一、中橋 卓也、中原 健裕、野村 章洋、橋本 暁佳、林 研至、東 将浩、廣 高史、深町 大介、松尾 仁司、松本 直也、宮内 克己、宮川 正男、山田 祥岳、吉永 恵一郎、和田 英樹、渡邊 哲：慢性冠動脈疾患診断ガイドライン(2018 年改訂版) 日本循環器学会/循環器病の診断と治療に関するガイドライン、2019 年 3 月 29 日

A-4

栗山啓子：デジタル時代の胸部 X 線写真の診かた、画像処理と視線の動きで隠れた領域の肺癌を見逃さない！日本臨床内科医会誌、33 (2) : p 205-209、2018 年 9 月 10 日

坪山尚寛、竹位応輝、岡田敦彦、和田恵子、栗山啓子：卵巣の画像診断、日本放

射線技術学会誌 74(6) : 606-612、2018 年 6 月

坪山尚寛 : 子宮体癌の筋層浸潤評価はいかに行うか 臨床婦人科産科 72 巻 9 号 896-900. 2018 年 9 月

B-3

Tsuboyama T. Pregnancy-related complications: the appropriate choice of imaging modality and radiological manifestations. 教育講演 第77回日本医学放射線学会総会、横浜、2018年4月19日

Tsuboyama T., Hori Y, Hori M, Onishi H, Tatsumi M, Sakane M, Ota T, Tomiyama N. Imaging findings of ovarian dysgerminoma with emphasis on multiplicity and vascular architecture: implications for pathogenesis. 日本腹部放射線学会打田賞受賞講演、神奈川、2018年5月26日

B4

本田 亨、坪山尚寛、木曾建吾、岸本健太郎、井上敦夫、東 将浩、栗山啓子 : 卵管妊娠の一例、T2 強調像撮像法の違いによる three rings appearance の描出能について、第 54 回日本医学放射線学会秋季臨床大会、福岡、2018 年 10 月 5 日

Tsuboyama T., Jost Gregor, Pietsch Hubertus, Noriyuki Tomiyama. Effect of rapid injection on vascular and tumor enhancement on gadoxetic acid-enhanced arterial phase liver MRI: correlation with dynamic 4D-CT. 第46回日本磁気共鳴医学会大会、金沢、2018年9月7日

高見康二、藤原綾子、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、眞能正幸 : すりガラス影から進展し再切除不能となった多発肺癌症例に EGFR-TKI が奏効した 2 例、第 59 回日本肺癌学会、東京、2018 年 11 月 29 日

藤原綾子、高見康二、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫 : Pembrolizumab 投与後に完全切除し得た III 期肺多型癌の 1 例、第 59 回日本肺癌学会、東京、2018 年 11 月 29 日

八十島宏行、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、森 清、眞能正幸、井上 敦夫、栗山啓子、増田慎三 : 術前 pCR 予測の臨床病理学的検討とマイクロアレイ解析を用いた非手術への可能性、第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三 : Triple negative 乳癌に対する術前化学療法の実状と課題、第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

B-5

坪山尚寛：臨床を前に進める卵巣画像診断 JCRミッドサマーミナー2018、兵庫、2018年7月21日

坪山尚寛：日常臨床における腹部CTプロトコールのちょっとした工夫：ルーチンから緊急まで 第38回関西CT技術シンポジウム、大阪、2018年8月25日

坪山尚寛：産婦人科領域の最新ガイドラインと画像診断 ランチョンセミナー 第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会、福岡、2018年10月6日

坪山尚寛：尿路に影響を与える他領域の疾患 AIMS body imaging 2018、東京、2018年11月4日

坪山尚寛：検査の質と安全性から考える腹部CTプロトコール 第125回高速X線CT研究会、京都、2019年2月15日

B-6

木曾建吾、本田亨、井上敦夫、栗山啓子、高見康二、森 清、田矢直大：ACTH 産生肺カルチノイド腫瘍の一例、第 320 回公益社団法人 日本医学放射線学会関西地方会、大阪市 2018 年 11 月 10 日

B-8

栗山啓子：デジタル時代の胸部 X 線写真の診方、泉州地区臨床談話会、阪南市、2018 年 1 月 18 日

栗山啓子：デジタル時代の胸部 X 線写真の診方、東舞鶴臨床談話会、舞鶴、2018 年 9 月 27 日

（放射線治療科）

A-0

Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, Nakamura S, Aibe N, Shimizu D, Yamada K, Okihara K, Shiraishi T, Kotsuma T, Yoshida K, Tanaka E, Otani K, Yoshioka Y, Ogawa K, Nishikawa T, Okabe H. : Effect of Androgen Deprivation Therapy on Other-Cause of Mortality in Elderly Patients with Clinically Localized Prostate Cancer Treated with Modern Radiotherapy: Is There a Negative Impact? J Clin Med. 11;8(3)、2019 年 3 月

Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, Nakamura S, Yamada K, Okihara K, Shiraishi T, Yoshida K, Kotsuma T, Tanaka E, Otani K, Yoshioka Y, Ogawa K. : High-dose-rate brachytherapy monotherapy versus low-dose-rate brachytherapy with or without external beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer. Radiother Oncol. 132:162-170、2019 年 3 月

Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, Nakamura S, Aibe N, Shimizu D, Nishikawa T, Okabe H, Yoshida K, Kotsuma T, Tanaka E, Otani K, Yoshioka Y, Ogawa K. : Radiotherapy for Elderly Patients Aged ≥ 75 Years with Clinically Localized Prostate Cancer-Is There a Role of Brachytherapy? J Clin Med. 8;7(11)、2018 年 11 月

Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, Nakamura S, Shimizu D, Nishikawa T, Okabe H, Yoshida K, Kotsuma T, Tanaka E, Otani K, Yoshioka Y, Ogawa K. : High-Dose-Rate Brachytherapy Monotherapy versus Image-Guided Intensity-Modulated Radiotherapy with Helical Tomotherapy for Patients with Localized Prostate Cancer. Cancers (Basel). 10;10(9). 2018 年 9 月

Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, Nakamura S, Yoshida K, Kotsuma T, Tanaka E, Otani K, Yoshioka Y, Ogawa K. : Comparison of three moderate fractionated schedules employed in high-dose-rate brachytherapy monotherapy for clinically localized prostate cancer. Radiother Oncol. 129:370-376、2018 年 11 月

A-2

上田麻里：密封小線源治療における吸収線量の標準計測法（小線源標準計測法 18）
川村慎二、岡本裕之、小島 徹、高橋 豊、武中 正、花田剛士、山田崇裕、荒木不次男、五十嵐仁、熊崎祐、黒岡将彦、黒沢忠弘、佐方周防、阪間 稔、筑間晃比古、根本幹央、橋本光康、水野秀之、三村功一、P.203-206、通商産業研究社、2018 年 3 月 30 日

B-4

細川 徹：BCP 作成に向けて放射線部門での取り組み For BCP(Business continuity planning) making, match by a radiation section。第 25 回日本集団災害医学会、鳥取、2019 年 3 月 20 日

細川 徹、木村 裕、中尾 弘：チーム医療推進への取り組み Ver.2＜読影能力の向上を目指し 5 年を終えて＞。第 72 回国立病院総合医学会、神戸国際展示場、2018 年 11 月 10 日

進藤雅之、藤崎宏、佐藤一哉、狭間 竜、西牧晃二、市岡利治、高柳秀彦、西野敏弘、中尾弘：Exposure Index を利用した X 線撮影画像の撮影線量と画質の最適化について～体内金属陰影が Exposure Index に及ぼす影響について～。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

細川 徹、木村 裕、中尾 弘：チーム医療推進への取り組み Ver.2～読影能力の向上を目指し 5 年を終えて～。第 72 回国立病院総合医学会、兵庫、2018 年 11 月 10 日

木村 裕、細川 徹、藤田浩二、西野敏弘、中尾 弘：10sCBCT と 20sCBCT の性能評価及び画質評価。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

伴 春奈、飯塚祐一郎、藤田浩司、高柳秀彦、藤崎 宏、西野敏博、中尾 弘、東将造：個人被ばく線量管理における水晶体専用線量計の使用経験について。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

B-5

細川 徹：頭部 CT 読影入門見逃してはいけない画像所見。国立病院機構近畿放射線技師会フレッシューズセミナー、大阪、2018 年 5 月 12 日

細川 徹：頭部 CT 画像読影～所見を見逃さない～。国立病院機構近畿放射線技師会頭部読影講習会、大阪、2018 年 8 月 11 日

細川 徹：頭部 CT 画像読影～所見を見逃さない～。国立病院機構近畿放射線技師会腹部読影講習会、大阪、2018 年 11 月 24 日

B-6

伴 春奈、飯塚祐一郎、藤田浩司、高柳秀彦、藤崎 宏、野敏博、中尾 弘、東将造：個人被ばく線量管理における水晶体専用線量計の使用経験。第 27 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2018 年 9 月 22 日

狭間 竜、藤崎 宏、市岡利治、進藤雅之、佐藤一哉、高柳秀彦、西野敏博、中尾 弘：X 線撮影における患者の体内金属陰影が Exposure Index に及ぼす影響に関する検討。第 27 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、大阪、2018 年 9 月 22 日

狭間 竜、藤崎 宏、市岡利治、進藤雅之、佐藤一哉、高柳秀彦、西野敏博、中尾 弘：X 線撮影における患者の体内金属陰影が Exposure Index に及ぼす影響に関する検討。第 106 回関西画像研究会、大阪、2018 年 10 月 13 日

狭間 竜、藤崎 宏、市岡利治、進藤雅之、佐藤一哉、高柳秀彦、西野敏博、中尾 弘：X 線撮影における患者の体内金属陰影が Exposure Index に及ぼす影響に関する検討。第 2 回 DR 連合フォーラム、大阪、2018 年 11 月 23 日

佐藤一哉、市岡利治、藤崎 宏：散乱線除去処理を利用した胸部病室撮影条件の検討。第 106 回関西画像研究会、大阪、2018 年 10 月 13 日

B-8

山田賢磨、細川 徹、平田紘晟：腹部 CT 読影入門。近畿放射線技師会第二回読影講習会、大阪、2018 年 8 月 11 日

山田賢磨、細川 徹、木村 裕、伴 春奈、西牧晃二：所見の見かた書きかた。第 5 回知っとこ会。大阪、2019 年 3 月 16 日

細川 徹：これだけは知っとこ概論。第 5 回これだけは知っとこ会、大阪、2019 年 3 月 16 日

伴 春奈、細川 徹、木村 裕、山田賢磨、西牧晃二：基本として知っておくべきこと～胸部領域～。第 5 回これだけは知っとこ会、大阪、2019 年 3 月 16 日

西牧晃二、細川 徹、木村 裕、山田賢磨、伴 春奈：基本として知っておくべきこと～胸部領域～。胸部症例検討 第 5 回これだけは知っとこ会、大阪、2019 年 3 月 16 日

細川 徹、木村 裕、山田賢磨、伴 春奈、西牧晃二：「実際に所見をあげてみよう」。第 5 回 これだけはしっとこ会、大阪、2019 年 03 月 16 日

山田賢磨、細川 徹、和田恵子、大西幸代、上垣忠明：胸部一般撮影の基礎－ポジショニングに必要な知識－。平成 30 年度フレッシューズセミナー、大阪、2018 年 5 月 12 日

水野雄貴：「患者入退出管理システムの開発」「直腸ガス吸引用カテーテルの開発」。次世代医療システム産業化フォーラム 2018 第 7 回例会、大阪、2019 年 2 月 15 日

口腔外科

有家 巧

当科では口腔、顎、顔面領域に生じる疾患を治療対象としています。すなわち 1) 歯および歯周組織疾患 2) 口腔粘膜疾患 3) 顎骨疾患 4) 唾液腺疾患 5) 顎関節疾患 6) 神経疾患 7) 血液疾患（診断と口腔粘膜出血の処置）8) リンパ系疾患などの口腔外科疾患を扱っています。特に悪性腫瘍の治療においては頭頸部カンファレンスと病理カンファレンスを行い、関連科の協力を得て集学的な治療を積極的に行っています。一方総合病院の口腔外科として、一般開業歯科医院では治療困難な全身管理（全身麻酔および周術期管理を含む）を要する患者さんの歯科治療や、入院患者さんの口腔管理も行っています。なかでも口腔ケアは、放射線治療、化学療法、骨髄移植、全身麻酔の術前（上部消化管疾患、肺がん等）、人工呼吸器装着および各種感染症などの患者における治療の遂行および入院期間に影響を与える大きな要因として認識され、十分な対応が求められています。教育面では当科は歯学部学生の早期臨床体験を受け入れ、歯科医師卒後研修の研修指定病院としてマッチングに参加し、1名の歯科医師臨床研修医を教育しています。また日本口腔外科学会および日本顎関節学会の研修指定機関に指定され、専門医取得のための卒後教育も積極的に行っています。臨床研究としては口腔顎顔面悪性腫瘍術後における顎骨再建と口腔機能再建、非関節性開口障害の診断と治療をそのテーマとしています。

【2018年度 研究業績発表】

B-4

濱田裕之、鹿野 学、有家 巧：頬粘膜に生じた唾液腺導管癌の1例。第42回日本頭頸部癌学会、東京、2018年6月15日

有家 巧、後藤倫子、齋藤佑太、藤原彩也香、白尾浩太郎、鹿野 学：下顎に生じた歯原性粘液線維腫の1例。第72回国立病院総合医学会、神戸、2018年11月9日

齋藤佑太、鹿野 学、白尾浩太郎、後藤倫子、中島章宏、藤原彩也香、中嶋正博、有家 巧：上顎に生じた粘液腫の1例。第63回日本口腔外科学会総会・学術大会、幕張、2018年11月3日

安井大樹、藤井智子、木村一貴、大西祐一、西川哲成、和唐雅博、富永和也、白尾浩太郎、鹿野 学、中嶋正博：原発性骨内癌の2例。第63回日本口腔外科学会総会・学術大会、幕張、2018年11月3日

有家 巧、鹿野 学：歯科受診を契機にHIV感染症と診断された1例。第32回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018年12月2日

B-5

鹿野 学、白尾浩太郎、後藤倫子、齊藤佑太、藤原彩也香、有家 巧：左側舌縁部に生じた低異型度悪性末梢神経鞘腫の 1 例。第 49 回日本口腔外科学会近畿支部学術集会、東大阪、 2018 年 6 月 23 日

救命救急センター

木下順弘

【診療対象】

大阪医療センターの救命救急センターでは、特に重症度の高い院外救急患者の受け入れをおこなっている。頻度の高い病態としては重症外傷（頭部、顔面頸部、胸部、腹部、骨盤四肢、それらの複合外傷）を対象に、救急指導医、あるいは救急科専門医が初期診療から手術、集中治療全身管理、回復期リハビリまでを中心に診療している。また突然の心停止（CPA）患者については、救急現場での救急救命士による特定行為の指示に始まり、来院直後の初期蘇生、循環不安定例では経皮的心肺補助装置（PCPS）を超早期に装着し、低酸素性脳障害（PCAS）の軽減のため脳低体温療法をおこなっている。救急科専門医、集中治療専門医、外傷専門医などの資格と経験を活かし、できるだけ多くの命を救うことができるよう各科の専門医師や看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師、理学療法士などのコメディカルスタッフとも連携をしている。

救急患者においては、しばしば精神疾患を有する重症患者もある。身体疾患の治療が優先されるが、できる限り早期より精神科医師の診療を開始し、両科が協調して診療をおこなっている。

その他の救急疾患としては、急性薬物中毒、熱傷、重症感染症、ショック、意識障害又は昏睡、急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪、急性心不全又は慢性心不全の急性増悪、循環・呼吸についての厳重な監視を要する病態にも対応している。

【チーム医療】

救命救急センターの患者は、救急科の担当医が中心となり、救命病棟の看護師と協力しながら、チームとして対応する。他のチームのメンバーには、薬剤師、臨床工学技士、栄養士、理学療法士が常時参加し、必要に応じて放射線技師、医療ソーシャルワーカー、事務職員その他も加わる。

【臨床研究】

救命救急センターにおいて数多く対応する重要臓器不全患者の診療技術向上に関する工夫や新たな取り組みを研究テーマとして、救急科専門医、外傷専門医、集中治療専門医、熱傷専門医と認定看護師らが中心となり、臨床研究を行い、学会等に発信する。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Matsuyama T, Iwami T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Irisawa T, Abe Y, Nishimura T, Uejima T, Ohishi Y, Kiguchi T, Kishi M, Kishimoto M, Nakao S, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Izawa J, Shimamoto T, Hatakeyama T, Fujii T, Sado J, Kawamura T, Shimazu T, Kitamura T: Prognostic Impact of Serum Albumin Concentration for Neurologically Favorable Outcome in Patients Treated with Targeted Temperature Management After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Multicenter Prospective Study. Ther Hypothermia Temp Manag. ;8(3):165-172. 2018 年 9 月

Matsumura Y, Matsumoto J, Kondo H, Idoguchi K, Ishida T, Okada Y, Kon Y, Oka K, Ishida K, Toyoda Y, Funabiki T; DIRECT-IABO Investigators.: Early arterial access for resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta is related to survival outcome in trauma. J Trauma Acute Care Surg. 85(3):507-511. doi:10.1097/TA.0000000000002004. 2018 年 9 月

Irisawa T, Matsuyama T, Iwami T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Noguchi K, Nishimura T, Uejima T, Yagi Y, Kiguchi T, Kishimoto M, Matsuura M, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Kitamura T, Shimazu T; CRITICAL Study investigators. Resuscitation. : The effect of different target temperatures in targeted temperature management on neurologically favorable outcome after out-of-hospital cardiac arrest: A nationwide multicenter observational study in Japan (the JAAM-OHCA registry). 133:82-87. 2018 年 11 月

Kinoshita T, Yamakawa K, Matsuda H, Yoshikawa Y, Wada D, Hamasaki T, Ono K, Nakamori Y, Fujimi S : The Survival Benefit of a Novel Trauma Workflow that Includes Immediate Whole-body Computed Tomography, Surgery, and Interventional Radiology, All in One Trauma Resuscitation Room: A Retrospective Historical Control Study. 「Annals of surgery」 269(2):P370-376、2019 年 2 月

Matsuyama T, Iwami T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Irisawa T, Abe Y, Nishimura T, Uejima T, Ohishi Y, Kiguchi T, Kishi M, Kishimoto M, Nakao S, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Izawa J, Shimamoto T, Hatakeyama T, Fujii T, Sado J, Shimazu T, Kawamura T, Kitamura T : Effect of Serum Albumin Concentration on Neurological Outcome After Out-of-Hospital Cardiac Arrest (from the CRITICAL [Comprehensive Registry of Intensive Cares for OHCA Survival] Study in Osaka, Japan). Am J Cardiol. 15;121(2):156-161、2018 年 1 月

Shimizu K, Ogura H, Kabata D, Shintani A, Tasaki O, Ojima M, Ikeda M, Shimazu T : Association of prophylactic synbiotics with reduction in diarrhea and pneumonia in mechanically ventilated critically ill patients: A propensity score analysis. J Infect Chemother. 24(10):795-801、2018 年 10 月

Hirose T, Ogura H, Takahashi H, Ojima M, Jinkoo K, Nakamura Y, Kojima T, Shimazu T : Serial change of C1 inhibitor in patients with sepsis: a prospective observational study. J Intensive Care. 4;6:37、2018 年 7 月

Shimizu K, Yamada T, Ogura H, Mohri T, Kiguchi T, Fujimi S, Asahara T, Yamada T, Ojima M, Ikeda M, Shimazu T : Synbiotics modulate gut microbiota and reduce enteritis and ventilator-associated pneumonia in patients with sepsis: a randomized controlled trial. Crit Care. 27;22(1):239、2018 年 9 月

A-1

上尾光弘、福井次矢、高木 誠、小室一成編集：頭蓋直達牽引法「今日の治療指針 2019」、P.113、医学書院、東京、2019 年 1 月

木下順弘：急性中毒の診断と分析、日本集中治療医学会専門医テキスト第 3 版 日本集中治療医学会教育委員会編集、p742-747、真興交易医書出版、2019 年 3 月 25 日

A-3

木下順弘、田中太助、石田健一郎、小島将裕、岩佐信孝、上尾光弘、舘哲郎、藤中俊之：重症頭部外傷における横静脈洞閉塞の検討、33：p1-4、日本外傷学会誌、2019 年 1 月
(<https://doi.org/10.11382/jjast.33.1>)

A-4

木下順弘：救急医療におけるメディカルコントロールとは、97：p42-43、大阪救急、2018 年 9 月 30 日

B-3

下野圭一郎、平島園子(※1)、長塚美和(※1)、太田裕子(※1)、中倉晴香、小島 将裕、田中太助、石田健一郎、曾我部 拓、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘(※1)地域医療連携室：当救命救急センターでの多職種倫理カンファレンスにおける医療ソーシャルワーカーの役割。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

小池 薫、織田 順、鮎川勝彦、荒木 尚、有本秀樹、伊関 憲、澤野宏隆、沢本圭悟、福田龍将、本間康一郎、守谷 俊、湯本哲也、木下順弘、横田裕行、木下浩作、磯田菊生：3 学会合同による終末期医療の現状調査について。第 46 回日本救急医学会、横浜、2018 年 11 月 19 日

B-4

吉川吉曉、米田和弘、宮尾大樹、中島紳史、大須賀章倫、黒木雄一、上山昌史：気道熱傷に対する蘇生輸液量の検討。第 44 回日本熱傷学会総会・学術集会、東京、2018 年 5 月 18 日

木下順弘、田中太助、石田健一郎、小島将裕、岩佐信孝、上尾光弘、定光大海、舘哲郎、藤中俊之：開頭手術を要した鈍的頭部外傷における静脈洞閉塞の検討。第 32 回日本外傷学会、京都、2018 年 6 月 21 日

尾嶋美里、石田健一郎、山口壽美枝、森寛泰、福田貴史、竹本雪子、小笠原充幸、木下順弘、中島 伸：総合診療科が応需する 2 次救急搬送の現状調査と今後の課題に関する研究。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

曾我部 拓、木下順弘:当院での急変時対応システムの運用状況。第 46 回日本救急医学会総会・学術集会、横浜、2018 年 11 月 19 日

田中太助、石田健一郎、中倉晴香、小島将裕、曾我部 拓、木下順弘：急性中毒症例の搬送困難例における背景因子の検討。第 46 回日本救急医学会総会・学術会、横浜、2018 年 11 月 19 日

中倉晴香、石田健一郎、小島将裕、田中太助、下野圭一郎、島原由美子、岩佐信孝、上尾光弘、木下順弘：重症頭部外傷で中枢神経感染合併に関連する因子の検討。第 46 回日本救急医学会総会・学術集会、横浜、2018 年 11 月 20 日

鷺島克之、木下順弘：法的脳死判定（BDA）における無呼吸試験（AT）中の血圧変動解析。第 46 回日本救急医学会、横浜、2018 年 11 月 21 日

尾嶋美里、石田健一郎、山口壽美枝、森 寛泰、福田貴史、竹本雪子、小笠原充幸、木下順弘、中島 伸：総合診療科に所属する診療看護師の 2 次救急外来での活動。第 18 回日本病院総合診療医学会、沖縄、2019 年 2 月 15 日

B-8

上尾光弘：Advanced Burn Life Support コース講師。日本熱傷学会、川崎市、2018 年 5 月 19 日

上尾光弘：大阪トライアスロン大会医療班。大阪、2018 年 6 月 10 日

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会講師。大阪府医師会館、大阪、2018 年 11 月 4 日

上尾光弘：大阪医療センターICLS コース講師（院内）。2018 年 9 月 22 日

上尾光弘：大阪医療センターICLS コース講師（院内）。2018 年 11 月 11 日

上尾光弘：大阪医療センターICLS コース講師（院内）。2019 年 2 月 24 日

麻酔科

渋谷博美

麻酔科は、多くの診療科の多岐にわたる手術に対応し、新生児を除く幅広い年齢層の手術麻酔を年間およそ 3600 症例施行しています。社会の高齢化に伴い、年々合併症を伴う手術が増加していますが、麻酔科術前外来にて、リスクを評価し、合併症に対して他科へのコンサルトや担当診療科と合同カンファレンスを行うことで、良質な麻酔が施行できるように努めています。このように麻酔科は、各診療科とコミュニケーションをとり、情報共有することで、より一層安全な麻酔が施行できるようにしています。また、麻酔法も、吸入麻酔や静脈麻酔による全身麻酔に加え、硬膜外麻酔の適応のない症例に対しては、抹消神経ブロックによる鎮痛方法も取り入れ、痛みのない術後を心がけています。

教育面では、医学部の学生によるクリニカルクラシックを受け入れ、実践現場での知識を得てもらい、初期研修医には、手技だけでなく術前評価や麻酔法の選択、合併症に対する対策のほか、手術中の循環管理、術後鎮痛などの周術期管理の研修を行なっています。専攻医に対しては、日本麻酔科学会の認定施設として、また、大阪大学、大阪市立大学、奈良県立医科大学、および関西医科大学の専門研修プログラムの専門医研修連携施設（A）として、専門医になるための深い知識と技術を取得できるように教育しています。

研究面では、周術期管理に難渋した希少な症例の報告だけでなく、臨床研究も行っています。麻酔法や輸液の種類や量、周術期の病態変化や術後鎮痛についてなど、retrospective に検証し、質の高い医療ができるように研究を行っているほか、より安全で快適な麻酔にするための麻酔法についての研究も行い、現場につなげています。また、麻酔科の関連学会にも積極的に参加し、研究発表だけでなく、多くの新しい情報の取得と現在の知識の再確認を行っています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Eriko Takeyama, Aiko Wada, Eizo Amano, Hiroshi Shibuya : Oesophageal submucosal hematoma after flow diverter embolization with favourable outcome treated by discontinuing postoperative antiplatelet therapy for only three days: a case report. 「Journal of Anesthesia」2019（5:2）：P2-4,2019 年 1 月 8 日

B-3

渋谷博美：続けるための働き方を考えよう～女性医師～。日本麻酔科学会第 65 回学術集会、横浜、2018 年 5 月 18 日

B-4

藤井裕美、天野栄三、上田祥弘、前田晃彦、松田智明、渋谷博美：歯科口腔外科

悪性腫瘍手術におけるマイクロサージェリー下遊離組織移植後の移植組織モニタリング評価と麻酔及び手術因子の関連についての検討。日本麻酔科学会第 65 回学術集会、横浜、2018 年 5 月 18 日

樋口美奈、上田祥弘、石井裕子、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：当院血管撮影室（アンギオ室）における全身麻酔下脳血管内手術で生じた偶発症 4 症例。第 38 回日本臨床麻酔学会、小倉、2018 年 11 月 2 日

B-6

西村暢征、福光一夫、渋谷博美：術後に脊髄髄外腫瘍が判明した緊急帝王切開術の一例～麻酔方法はどうするべきであった？～。日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会、大阪、2018 年 9 月 1 日

竹山恵梨子、和田愛子、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：2 剤併用抗血栓療法下フローダイバーターステンント留置術後に特発性食道粘膜下血腫を発症した 1 例。日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会、大阪、2018 年 9 月 1 日

臨床検査科

眞能 正幸



1.概況

臨床検査部門は病院基本方針の1つである「質の高い医療の継続」の一旦を担うため『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命としている。12月には精度管理項目を強化した医療法が施行され、臨床検査の精度担保が必須事項となったことから、益々精度保証に対する関心が高まっている中、当科はいち早く臨床検査室の国際規格である ISO15189 認定を平成26年11月13日 国内第86番目の施設として取得した。今年度8月には第1回更新審査を受審し、認定範囲を生理検査部門にも拡大した。

また、二交替勤務、輸血管理当直を早期より導入し休日・夜間を含む24時間体制で緊急検査、輸血管理・検査に対応している。スタッフは医師3名と臨床検査技師41名、検査助手3名で運営している。

・各部門について

外来検査部門：6個のブースと車椅子用ブース1つを設け、外来患者の採血を実施している。今年度3月には患者の利便性を考慮した採血室のレイアウト変更も実施し、より使いやすい採血室となった。採血は検査業務の入口であり、その9割以上を臨床検査技師が実施している。また、入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備し、各病棟へ搬送している。併設の一般検査室では検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。

総合検査部門：血液中心とした体液中の成分を様々な分析機で検査している。緊急検査は30分以内、至急検査や診察前検査は約60分以内を目途に診療科に報告している。更に多くの治験にも協力しており、検体の処理や保管を実施している。この他、輸血血液製剤の一元化管理を行い、安全かつ効率的な血液製剤の利用に努めている。

微生物検査部門：臨床検体からの細菌分離、同定検査、薬剤感受性検査の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査、結核菌、HCV、HBV および HIV のリアルタイム PCR 法による高感度測定や、HIV 薬剤耐性遺伝子解析や MRSA の遺伝子型（POT 法）の検出も行っている。これらの情報は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT 会議や ICT ラウンド資料として院内感染防止に貢献している。

病理検査部門：術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため4大学より病理専門医を招聘している。

生理検査部門：心電図、脳波、呼吸機能、超音波など実際の患者を対象とした部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、特に超音波検査についてはエコーセンターとして、各診療科の超

音波検査の受付を一括して行っている。

2.活動報告

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府臨床衛生検査技師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去6年間）を示す。

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
総合評価点	99.7	98.8	98.1	98.3	98.3	98.8
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
-------	-------	-------	-------	-------	-------

臨床検査科として、ISO15189 認定(RML00860)の他、日本臨床細胞学会(No.466)、日本病理学会研修認定施設 (No.5011)などの施設認定を取得している。また、細胞検査士（5名）、超音波検査士（4名）、認定輸血検査技師（4名）、糖尿病療養指導士（1名）の認定技師が在籍している。

3.今後の課題と目標

当科でも世代交代の波は急激に押し寄せている。特に当院は近畿グループの中においても人材育成を担う中心的な施設の1つであり、臨床検査技師の人材育成に力を入れている。特に入職後3年目までの技師を対象に複数部門(総合検査は必須)を積極的に経験させてジェネラリストとしての基礎を育てると共に、自身の適性や今後の方向性を自覚することにより将来認定資格取得を含めた専門性を高める起点となるよう努めている。

チーム医療の推進にも積極的にに関わり、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム）、肝臓病教室、ICT（感染対策チーム）での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加、さらに ISO15189 認定施設として診療機能、治験業務の質向上に貢献していく。

現在実施している各種臨床病理カンファレンス（乳腺腫瘍、呼吸器腫瘍、皮膚科疾患、肝生検、肝胆膵腫瘍、骨軟部腫瘍等）を継続し、病理診断や臨床診断・治療の質の向上に今後も努めていく。また、職員研修部との共催で月1回のCPCを充実させ、若手臨床医の教育にも貢献していく。

（文責 佐野 隆宏・眞能 正幸）

【2018年度研究業績発表】

A-0

Nishimura R, Murata Y, Mori K, Yamashiro K, Kuraoka K, Ichihara S, Taguchi K, Suzuki H, Ito M, Yamashita N. Evaluation of the HER2 and hormone receptor status in metastatic breast cancer using cell blocks: a multi-institutional study. 「Acta Cytologica」

62(4) : 288-294、Epub 2018 年 5 月 15 日

Sugase T, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Hashimoto T, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Mano M, Morii E, Mori M, Doki Y : Histological changes of superficial esophageal squamous cell carcinoma after preoperative chemotherapy. 「Esophagus」. 2018 Jun 16. doi: 10.1007/s10388-018-0626-8. [Epub ahead of print]、2018 年 6 月 16 日

Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y : Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. 「Scientific Reports」 8(1):11773、2018 年 8 月 6 日

Okita Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Kinoshita M, Nonaka M, Nakajima S, Fujinaka T, Kanemura Y : Stereotactic image-based histological analysis reveals a correlation between 11C-methionine uptake and MGMT promoter methylation in non-enhancing gliomas. 「Oncology Letters」 16(2):1924-1930、2018 年 8 月

Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N, Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y : Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. 「Journal Neuro-Oncology」 140(2):329-339、2018 年 11 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG) : Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 「Acta Neuropathologica Communications」 6(1):134、2018 年 12 月 4 日

A-3

小林佑佳、小澤健太郎、森 清、爲政大幾：右尾翼部に生じた皮膚限局性結節性アミロイドーシスの1例「臨床皮膚科」72(10)：P.821-825、医学書院、2018年9月

B-3

加奥節子、東野英利子、藤本泰久：乳房超音波講習会における総合判定と今後の課題、日本乳癌検診学会学術総会、大阪、2018年11月23日

B-4

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、眞能正幸、森 清、関本貢嗣、中森正二：Nab-Paclitaxel(アブラキサン)による肝機能障害の特徴。第26回日本乳癌学会学術総会、京都、2018年5月17日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Tripile negative 乳癌に対する術前化学療法の現状と課題。第26回日本乳癌学会学術総会、京都、2018年5月17日

八十島宏行、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子、増田慎三：術後 pCR 予測の臨床病理学的検討とマイクロアレイ解析を用いた非手術への可能性。第26回日本乳癌学会学術総会、京都、2018年5月17日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森 清、増田慎三：原発性非浸潤性乳腺アポクリン癌18例の臨床病理学的検討。第26回日本乳癌学会学術総会、京都、2018年5月17日

大谷陽子、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、森 清、増田慎三、中森正二、関本貢嗣：エベロリムスの効果予測因子の検討。第26回日本乳癌学会学術総会、京都、2018年5月17日

高田耕自、古屋晃子、富田加奈江、佐野隆宏、池田弘和、眞能正幸：輸血後感染症検査実施率向上の取り組み時に見られたHBV感染症 第66回日本輸血細胞治療学会総会、栃木、2018年5月26日

長友 萌、森 清、原田和弥、笹 倫郎、竹中明美、眞能正幸：肺癌における腺癌と扁平上皮癌の細胞像 第59回日本臨床細胞学会総会、札幌、2018年6月2日

中島静、村上麻里子、高田耕自、初山弘幸、藤野正裕、佐野隆宏、眞能正幸：尿化学検査における添加剤の影響について 第72回国立病院総合医学会、神戸、2018年11月9日

三代勇樹、村上麻里子、中島 静、高田耕自、初山弘幸、藤野正裕、佐野隆宏、眞能正幸：薬物血中濃度（TDM）における各種採血管の影響について 第72回国立病院総合医学会、神戸、2018年11月9日

佐藤 圭、常松裕子、竹田真未、初山弘幸、藤野正裕、佐野隆宏、眞能正幸：当院における 6 年間の抗酸菌ボトルの検出状況と有用性について。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

藤原綾子、高見康二、木村 剛、安藤性實、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫：Pembrolizumab 投与後に完全切除し得た 期肺多型癌の 1 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 11 月 29 日

B-6

中島 静、村上麻里子、高田耕自、佐野隆宏、眞能正幸：尿化学検査における添加剤の影響について。第 45 回国立病院臨床検査技師協会 近畿支部総学会、神戸、2018 年 6 月 16 日

三代勇樹、村上麻里子、中島 静、高田耕自、佐野隆宏、眞能正幸：尿化学検査における添加剤の影響について。第 45 回国立病院臨床検査技師協会 近畿支部総学会、神戸、2018 年 6 月 16 日

B-8

初山弘幸：JAB ISO15189 技術審査員への道のり（病理・細胞診部門での必要とされる資質）。第 8 回病理技術向上講座、滋賀県臨床検査技師会、草津市、2019 年 2 月 2 日

リハビリテーション科

上田孝文

急性期総合病院における当科の役割として急性発症後の早期機能回復、外傷後または外科術後の早期機能回復を目的に主科の医師、看護師などと連携をとりながら理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3部門が超早期から積極的に介入している。機能回復に時間がかかる疾患については最善の状態の後継病院へ引き継げるように、また外科術後などでは自宅退院を目指して最大の機能回復を図っている。

リハビリテーション科の診療体制は当科の専従医師による障害診断と理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの治療的特性に合わせた処方が出され、治療は各専門職の療法士が担当している。

平成30年度の療法士のスタッフ体制（31.3.31現在）は19人体制で、うち理学療法士12人、作業療法士4人、言語聴覚士3人である。

リハビリテーション科へ依頼される診療科は整形外科、総合内科、脳内科、脳外科、救命科、外科、循環器内科、消化器科、心臓外科、感染内科（HIV）等ほぼ全科に渡っている。

整形外科関連では人工関節（股・膝関節）や脊椎術後患者でクリティカルパスに基づいて良質で均質なリハを実施し、在院日数短縮とQOL向上を両立している。特に人工膝関節置換術患者は術前から退院後まで筋力、関節可動域ADL等、運動機能を定量的に評価し、術後3週間で退院できるように短期集中型治療を行っている。また脳内科からは脳梗塞、脳外科からは脳内出血、脳腫瘍、頭部外傷術後、など幅広い疾患に対応している。両科とも脳卒中ケアユニット（SCU）から一般病棟まで関わり、定期的なカンファレンスを行い患者の早期治療方針決定と最良な状態で後継病院に円滑に連携できるよう実施している。また、平成28年1月から循環器内科、心疾患の急性期に対する心臓リハを離床から歩行300mまで心臓負荷テストのプロトコールに従って理学療法および作業療法が携わるようになり、前年比実施単位数10.6%増と実績を伸ばした。さらに平成28年11月からは心臓外科術後の急性期心臓リハビリテーションもプロトコールに従って実践している。また、30年度リハビリテーション科全体の実施単位数は77,343単位で前年比2.7%増となった。29年度以降、救急搬送患者の増大により、救急救命室でのリハビリテーション実施が増大した。

理学療法（PT）は徒手または機械器具で四肢・体幹の運動機能回復を図り、ベッド上の起居動作、

移乗動作、歩行から階段昇降動作などの移動動作の獲得を目的とし実践している。四肢・体幹の運動障害だけでなく、呼吸、循環障害に対しても適応がある。これら呼吸・循環障害を有する患者に関して、それぞれ呼吸ケアチームに参画、心臓リハに関しても定期的なカンファレンスを開催し、他職種と共同し

最良の治療を目指している。また、平成 30 年 4 月より IUC 早期離床プロジェクトにおいて、超早期からの ADL アップに向け、カンファレンスを週 1 回定期的に行い、看護部と連携を取りながらリハビリテーションを実施している。

作業療法（OT）は作業を治療手段とする特性から上肢の運動機能回復、特に手指などの細かな運動や持久力の回復を図り、食事、排尿・排便などのトイレ動作、更衣、整容、入浴などの日常生活活動（ADL）・身のまわり動作（self care）の獲得を目的に実践している。これが理学療法との役割分担の違いである。特に急性期においても食事とトイレ動作の生命維持に関わる ADL の回復が重要となる。他には ADL に関わる高次脳機能障害に対しても適応がある。

言語聴覚療法（ST）は主に脳疾患から由来する失語症、構音障害などの言語障害や摂食嚥下障害の回復に適した技術で、これらの障害に対するアプローチのほかに高次脳機能障害の評価、未破裂動脈瘤、脳腫瘍、水頭症などの術前評価、頭部外傷後遺症の評価などを行い、必要に応じてこれらに対する治療や援助にも取り組んでいる。平成 27 年度から耳鼻咽喉科における人工内耳術後のリハビリテーションにも ST が取り組んでいる。

病院全体として在院日数短縮化の方針の中で、現在はリハビリテーション科のスタッフも充実してきており、当院の急性期リハビリテーションのニーズに応えられるようになってきている。また心臓リハや廃用症候群など潜在的にリハビリテーションが必要と考えられる患者は多く、需要の拡大が見込まれる。

今後は更にチームアプローチとして各部門が充実したリハビリテーション医療と在院日数短縮化が両立できるノウハウを確立することが当面の課題である。効果的で効率のよいリハビリテーション医療を短期間に実施し、成果を上げることができるよう努力している。

また平成 30 年度は主演者発表では国立病院総合医学会で理学療法部門が 2 題発表し、うち 1 題がベストポスター賞を受けた。

文責 西菌博章

【2018 年度 研究業績発表】

B-4

今中辰茂、西菌博章、青野幸余：股関節離断術後の股義足作製に至るまでの理学療法経過。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

大西幸代、佐藤直美、今中辰茂、高田聖子、西菌博章、飯田吉則、青野幸余：当院における心臓リハビリテーションの取り組み。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

臨床腫瘍科

久田原郁夫

臨床腫瘍科は、平成 11 年に設立され、腫瘍内科、腫瘍外科、緩和ケア内科の 3 科の総合科となっています。腫瘍内科・腫瘍外科に所属する医師は、兼任で各々の専門領域（呼吸器、消化器、骨軟部）のがん診療をおこなっています。緩和ケア内科医師はがんサポートチームとして薬剤師、看護師、心理士と共に入院患者の緩和ケアを担当しています。

毎週開催している臨床腫瘍科カンファレンスでは、外来化学療法室で発生した毒性の分析と検討および新規の症例検討をおこなっています。また定期的行事として、Cancer Board およびオンコロジーセミナーを開催しております。これらの行事はがんの診断、治療に関して総合的かつ横断的に討論し知識を深めるよい機会となっています。

がんの種類は多彩でその臨床像も個人によって一様ではありません。また、新規の抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤が続々と発売され国内外で多くの臨床試験がおこなわれ治療方法の選択肢が広がってきています。各種の画像診断、病理診断および分子生物学的診断も日々進歩をとげています。このような環境で、診断、治療において主科のみならず個別的でかつ総合的な判断が求められる機会が増えてきています。またがん治療に特化した看護師、薬剤師が積極的に介入することで患者さんは多くの恩恵を受けています。このように今や、がん治療はチーム医療が基本となっておりますが、臨床腫瘍科はその司令塔の役目を担っていきたいと考えています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Hasegawa H, Ando M, Yatabe Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K. Site-specific Chemotherapy Based on Predicted Primary Site by Pathological Profile for Carcinoma of Unknown Primary Site. Clin Oncol (R Coll Radiol) 30(10):667-673、2018 年 10 月

Masuishi T, Taniguchi H, Eto T, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Ishihara M, Tanaka T, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Nomura M, Sato Y, Mishima H, Muro K. Morphologic Response and Tumor Shrinkage as Early Predictive Markers in Unresectable Colorectal Liver Metastases. Anticancer Res 38(11):6501-6506、2018 年 11 月

Nishioka M, Okuyama T, Uchida M, Aiki S, Ito Y, Osaga S, Imai F, Akechi T : What is the appropriate communication style for family members confronting difficult surrogate decision-making in palliative care?: A randomized video vignette study in medical staff

with working experiences of clinical oncology. 「Jpn J Clin Oncol.」 49(1) : 48-56、2019 年 1 月 1 日

Nishikawa K, Murotani K, Fujitani K, Inagaki H, Akamaru Y, Tokunaga S, Takagi M, Tamura S, Sugimoto N, Shigematsu T, Yoshikawa T, Ishiguro T, Nakamura M, Hasegawa H, Morita S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J, Tsujinaka T. A study of second-line irinotecan plus cisplatin vs. irinotecan alone in platinum-naïve patients with early relapse of gastric cancer refractory to adjuvant S-1 monotherapy: exploratory subgroup analysis of the randomized phase III TRICS trial. Cancer Chemother Pharmacol [Epub ahead of print]、2019 年 2 月 26 日

A-2

相木佐代 : 終末期と Advance Care Planning 「G ノート増刊 終末期を考える」 岡村知直、柏木秀行、宮崎万友子編集、5(6) : P27-32、羊土社、東京、2018 年 9 月 1 日

相木佐代 : 腹部膨満感をなんとかする 何をやってもどうしようもないとき 悪性消化管閉塞対策に + α を「緩和ケア」 山口崇・田村恵子編集、28(6) : P447、青海社、東京、2018 年 11 月 15 日

B-2

Aiki S, Okuyama T, Sugano K, Kubota Y, Imai F, Nishioka M, Ito Y, Iida S, Komatsu H, Akechi T : Cognitive Dysfunction Among Newly Diagnosed Older Patients With Hematological Malignancy: Frequency, Clinical Indicators, And Predictors. The 20th International Psycho-Oncology Society World Congress、HongKong、2018 年 11 月 1 日

Hasegawa H, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M and Mita E: Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019、San Francisco、2019 年 1 月 17-19 日

Masahito Kotaka, Hironaga Satake, Koji Oba, Yoshinori Kagawa, Hisateru Yasui, Masato Nakamura, Takanori Watanabe, Toshihiko Matsumoto, Takayuki Kii, Tetsuji Terazawa, Akitaka Makiyama, Nao Takano, Mitsuru Yokota, Yoshihiro Okita, Koreatsu Matoba, Hiroko Hasegawa, Akihito Tsuji, Naoki Nagata, Junichi Sakamoto, Takeshi Kato: Multicenter phase Ib/ II study of biweekly trifluridine/tipiracil with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study). American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019、San Francisco、2019 年 1 月 17-19 日

Shoji A, Hasegawa H, Fujii Y, Kato S, Kiyota R, Shinkai K, Tashiro T, Ishihara A,

Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M and Mita E: Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018、San Francisco、2018 年 1 月 18 日

Hasegawa H, Seiichiro Mitani², Takeru Wakatsuki³, Hiroki Hara⁴, Daisuke Takahari³, Keisho Chin³, Motohiro Hirao⁵, Shigenori Kadowaki², Kei Muro²
Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2018、San Francisco、2018 年 1 月 18 日

B-3

相木佐代、渡邊理香、栗生正義、引持志津香、松井春希：認知機能障害による離院のため、施設管理及び強制退院に至った症例。第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

B-4

藤原綾子、高見康二、木村 剛、安藤性實、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫：Pembrolizumab 投与後に完全切除し得た 期肺多形癌の 1 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 11 月 29 日

高見康二、藤原綾子、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、眞能正幸：すりガラス影から進展し再切除不能となった多発肺癌症例に EGFR-TKI が奏効した 2 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 12 月 1 日

王谷英達、竹中 聡、濱田健一郎、中井隆彰、伊村慶紀、田中大晶、田宮大也、大島和也、角永茂樹、中 紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、吉川秀樹：術中体外放射線照射自家骨移植術の長期成績。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

角永茂樹、上田孝文、久田原郁夫：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 12 日

池田将吾、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：両大腿骨遠位に発症した chronic expanding hematoma。第 51 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018 年 7 月 13 日

相木佐代、奥山徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

相木佐代、奥山徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。第 31 回日本サイコオンコロジー学会総会、金沢、2018 年 9 月 21 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：高齢者胃がんにおける化学療法のマネージメント。第 25 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 19 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：当院での高齢者切除不能胃癌症例に対する二次治療としてのパクリタキセル療法とパクリタキセル＋ラムシルマブ療法に関する検討。第 16 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2018 年 7 月 20 日

庄司絢香、長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：Efficacy and prognostic factor analysis in first-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer。第 91 回日本胃癌学会学術集会、静岡、2019 年 2 月 28 日

長谷川裕子：当院における胃癌化学療法の現況。第 4 回大阪消化器内科専攻医セミナー、大阪、2018 年 7 月 27 日

長谷川裕子：高齢者胃がん症例における RAM+PTX 療法。Young GI oncologist seminar、東京、2018 年 11 月 11 日

長谷川裕子：当院における消化器癌治療のとりくみ。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 7 日

B-5

相木佐代、光野香織：当院における個別栄養食事管理加算の運用について。第 28 回なにわ緩和ケアカンファレンス、大阪、2019 年 3 月 14 日

B-6

久田原郁夫：大腿粘液型軟部腫瘍症例。第 91 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年 6 月 14 日

久田原郁夫：仙骨骨腫瘍症例。第 92 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年 9 月 6 日

久田原郁夫：鎖骨骨腫瘍症例。第 93 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年 11 月 15 日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：脛骨骨幹部骨腫瘍の症例。第 19 回近畿骨軟部腫瘍談話会、大阪、2018 年 10 月 26 日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：腸骨円形細胞骨肉腫の 1 例。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右腸骨骨腫瘍。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

澤田遥奈、藤原綾子、高見康二、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子：肺腺癌との鑑別が困難であった多発線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍の 1 切除例。第 109 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2019 年 2 月 23 日

久田原郁夫：骨化を伴った大腿骨軟部腫瘍症例。第 94 回関西 SKR 勉強会、大阪、2019 年 3 月 14 日

B-8

青野奈々：「緩和ケア概論」。大阪府立急性期総合医療センター がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2018 年 7 月 7 日

青野奈々：「療養場所の選択と地域連携」。大阪医療センター がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2018 年 12 月 16 日

長谷川裕子：大腸癌化学療法の実際～基礎から BRAF まで～。大腸がん治療セミナー、大阪、2018 年 3 月 16 日

長谷川裕子：当院における RAM+FOLFIRI の使用経験療法。大阪大腸癌治療講演会、大阪、2019 年 3 月 14 日

薬剤部

山崎邦夫

大阪医療センターの運営方針に基づき、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、がんサポートチーム、NST、ICT、外来化学療法室でのがん薬物療法支援等）を実践し、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを薬剤部の基本方針としている。

1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

注射処方の投与量、投与速度、配合変化等の確認を行い、病棟に設置したクリーンベンチ内で注射薬の無菌調製を行っている（35,011 件/年）。

抗がん剤の調製はレジメンと処方内容を確認し、薬剤部内無菌室で調製している（17,825 件/年）。

2) 入院時の持参薬確認

薬剤師による持参薬報告、服用状況の確認を行うことにより、医療安全の向上と持参薬服用の適正化に取り組んでいる。

3) 処方提案・支援

主治医に対する主な処方提案・支援として、持参薬の代替薬の提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計等を行っている。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

採用医薬品情報の提供や医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

5) 薬剤管理指導業務

薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用モニタリングを実施し、薬学的アプローチを積極的に実施している。

2. 外来服薬支援指導

HIV 感染症専門薬剤師が「お薬の相談室」に常駐し長期的な支援体制を構築しており、外来における指導件数は 3,260 件/年であった。また、外来化学療法室では治療計画、副作用等について指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者の指導件数は 538 件/年であった。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告は 30 件/年の報告を、また、プリアボイド報告として

は日本病院薬剤師会に 197 件/年の報告を行っている。

4. 治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCP を遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。

5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設・がん薬物療法認定薬剤師研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設・薬物療法専門薬剤師研修施設、日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師研修施設等の認定を受けている。また、薬学部実務実習生は 24 名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

【2018 年度 研究業績発表】

A-3

今西嘉生里、中蔵伊知郎、坂倉広大、佐光留美、山崎邦夫：病棟専任薬剤師を中心とした注射用抗菌薬の用法用量適正化に関する検討、日本病院薬剤師会雑誌. 54(9):p1131-1136、2018 年 9 月

治田匡平、市田裕之、石樋康浩、宇高歩、日笠真一、尾崎淳子、大槻真央、矢倉裕輝、吉野宗宏、古西満、杉山幸正：外来 HIV 感染症診療における薬剤師介入に対する患者評価、医療薬学. 45(1):P 44-53、2019 年

A-5

矢倉裕輝、大石裕樹、森本清香、冨島公介、櫛田宏幸、吉野宗宏、佐光留美、土井敏行、林稔展、山脇一浩、西野隆、山崎邦夫：外来 HIV 感染症診療での抗 HIV 薬の開始，変更時における薬剤師介入が患者へもたらす効果に関するアンケート調査、医療. 72(6):P282-286、2018 年

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の薬物動態および製剤学的観点からの適正使用に関する研究、日本エイズ学会誌. 20(2):P124-131. 2018 年

A-6

庄野裕志：抗がん薬曝露対策ファイル NHO ネットワーク共同研究参加 32 施設からの提言、P56-61、じほう、2018 年 7 月 25 日

明石直子：抗がん薬曝露対策ファイル NHO ネットワーク共同研究参加 32 施設からの提言、P138-139、じほう、2018 年 7 月 25 日

矢倉裕輝：Evidence Update 2019 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用す

る 抗ウイルス薬「薬局」、70 (1) : P127-131、南山堂、2019 年 1 月 5 日

矢倉裕輝 : HIV 治療時に遭遇する薬物相互作用 月刊薬事、61 (4) : P657-662、じほう、2019 年 3 月 1 日

B-2

Yagura H、Watanabe D、Nakauchi T、Tomishima K、Nishida Y、Yoshino M、Yamazaki K、Uehira T、Shirasaka T : Association of tenofovir level and discontinuation due to impaired renal function. HIV Drug Therapy 2018, 2018 年 10 月 29 日

B-3

宮部貴識 : 外来がん医療と緩和医療の統合～ライブカンファで考える多職種連携～。第 23 回日本緩和医療学会、神戸、2018 年 6 月 15 日

宮部貴識 : 薬学的視点からのオピオイドの適正使用。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 18 日

矢倉裕輝 : これから HIV 診療に取り組む方々へ薬剤師の立場から : (アドヒアランス向上のために)。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 2 日

矢倉裕輝 : 血中濃度測定およびその評価について。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 3 日

富島公介、大石裕樹 : 耐性ウイルス発現症例に対する ART レジメンの提案。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

B-4

仲野宏紀、明石直子、和田知未、井出恭子、福田利明、佐光留美、山崎邦夫 : 終末期がん患者のせん妄に対するアセナピン舌下錠の使用調査。第 12 回日本緩和医療薬学会年会、東京、2018 年 5 月 27 日

今西嘉生里、中蔵伊知郎、坂倉広大 : 血液培養陽性患者を対象とした介入が黄色ブドウ球菌菌血症の適正治療に及ぼす影響。第 66 回日本化学療法学会総会、岡山、2018 年 5 月 31 日

中蔵伊知郎、坂倉広大、今西嘉生里、上地隆史 : 点滴静注用メトロニダゾール (IV-MNZ) の日本人を対象とした実臨床使用における安全性に関して。第 66 回日本化学療法学会総会 岡山、2018 年 5 月 31 日

小林恭子、田所知美、松田恭子、辻本有希恵、森下典子、上松正朗、是恒之宏 : 認定臨床研究審査委員会に関する取り組み。第 18 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2018in 富山、富山、2018 年 9 月 16 日

仲野宏紀、明石直子、和田知未、井出恭子、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：放射線治療による口腔粘膜潰瘍にオピオイド鎮痛薬を使用し、ケミカルコーピングが疑われたがん患者の 1 例。第 31 回サイコオンコロジー学会総会、金沢、2018 年 9 月 21 日

中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018 年 10 月 25 日

松田恭子、安井みのり、堀尾綾香、島津章：治験における個人情報管理について。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

足立紗知、井後星哉、交久瀬綾香、清水彩加、吉村芙美、江原美里、大矢博己、矢淵慈子、新田 亮、小川智子、中内崇夫、松尾友香、矢倉裕輝、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫、調剤過誤対策チームの活動がもたらす効果。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

飯沼公英、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：備蓄薬の適正化に向けた取り組み～コンセプトの明確化～。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

清水彩加、小川智子、明石直子、萬浪綾乃、庄野裕志、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：当院における乳癌患者に対するパルボシクリブ投与症例の安全性の検討。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：初回治療におけるエルビテグラビル/コビススタット/エムトリシタビン/デノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の治療成績。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

小川智子、明石直子、萬浪綾乃、清水彩加、庄野裕志、大谷陽子、宮部貴識、佐光留美、増田慎三、山崎邦夫：がん化学療法後の発熱性好中球減少症治療中にセフェピム脳症が疑われた一例。第 28 回日本医療薬学会年会、神戸、2018 年 11 月 23 日

今西嘉生里、中蔵伊知郎、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：腎機能正常患者を対象としたバンコマイシン維持投与量の検討。第 28 回医療薬学会、神戸、2018 年 11 月 24 日

中蔵伊知郎、今西嘉生里、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：メロペネム水和物後発医薬品 2 剤間における安全性に関する比較検討。第 28 回医療薬学会、神戸、2018 年 11 月 25 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊

熊素子、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ラルテグラビル/ エトラビルン/ ダルナビル/ リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。

第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、上平朝子、白阪琢磨：新規抗痙攣薬に変更を行うことで抗 HIV 薬との相互作用が回避できた 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 3 日

中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：当院における抗 HIV 療法施行患者のポリファーマシーに関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 4 日

中蔵伊知郎、廣田和之、上地隆史、上平朝子、坪倉美由紀、山崎邦夫：IMP-6 カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)が臨床検体から検出された症例に関しての後方視的調査。第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会、神戸、2019 年 2 月 22 日

B-5

宮部貴識：モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル、タペンタドール、ヒドロモルファン、メサドン、6 つのオピオイドどうするの？あなたならどう使い分ける？適正使用に向けた薬学的視点からのオピオイド鎮痛薬。第 1 回日本緩和医療学会関西支部学術大会、大阪、2018 年 11 月 11 日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の TDM と PK/PD/PG。第 65 回日本化学療法学会西日本支部総会、鹿児島、2018 年 11 月 18 日

矢倉裕輝：HIV 感染症の外来診療における薬剤師の役割。第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、奈良、2019 年 1 月 20 日

B-6

交久瀬綾香、中蔵伊知郎、今西嘉生里、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：血液透析患者を対象としたバンコマイシン投与後の血中濃度測定意義について。第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、奈良、2019 年 1 月 19 日

井後星哉、中蔵伊知郎、今西嘉生里、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ (ESBL) 産生グラム陰性菌菌血症に対する CMZ の安全性に関する後ろ向き観察研究。第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、奈良、2019 年 1 月 20 日

苗村彰浩、篠原莉奈、足立紗知、井後星哉、交久瀬綾香、清水彩加、中内崇夫、松尾友香、矢倉裕輝、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：調剤過誤対策チームの活動がもたらす効果 第 3 報。近畿国立病院薬剤師会学術集会、神戸、2019 年 3 月 2 日

B-7

中蔵伊知郎：AST 活動における薬剤師の役割について。8th Infection control forum in Southern Area of Osaka 【ISAO】、大阪、2018 年 8 月 16 日

冨島公介：知っておくべき抗 HIV 療法と日和見感染症・性感染症への対応。関西 HIV 臨床カンファレンス、大阪、2018 年 10 月 27 日

中内崇夫：肺結核で AIDS 発症した 1 例。関西 HIV 臨床カンファレンス、大阪、2019 年 2 月 16 日

B-8

矢倉裕輝：ドルテグラビルの薬理特性と服薬相談の実際。第 3 回 ViiV HIV Webinar 2018、大阪、2018 年 4 月 24 日

矢倉裕輝：当院における抗 HIV 薬の処方トレンドについて。第 7 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2018 年 5 月 12 日

小林恭子：認定臨床研究審査委員会の要件と現状について。平成 30 年度臨床研究・治験研修、京都、2018 年 6 月 29 日

矢倉裕輝：HIV 患者の服薬支援について。兵庫県薬剤師 HIV セミナー、神戸、2018 年 7 月 10 日

中内崇夫：抗 HIV 薬の最新動向-最新の治療薬・留意点など および新たな血液病治療における薬剤師の役割。相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 15 日

宮部貴識：緩和ケア領域の鎮静について皆で考える「緩和ケア領域の鎮静とは」。緩和医療ファーマシューティカルケア研究会・大阪（第 4 回例会）、大阪、2018 年 8 月 4 日

矢倉裕輝：薬物治療マネジメントにおける薬剤師の役割を考える。第 4 回日本医薬品安全性学会学術大会ランチョンセミナー、岡山、2018 年 8 月 18 日

矢倉裕輝：長期治療を見据えた服薬相談の実際。第 10 回宮城県 HIV/AIDS 学術講演会、仙台、2018 年 8 月 25 日

矢倉裕輝：外来診療における慢性疾患に対する薬剤師の役割。第 28 回日本医療薬学会年会メディカルセミナー、神戸、2018 年 11 月 25 日

矢倉裕輝：服アド手帖にみる ART と服薬支援のいま・むかし。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 ランチョンセミナー、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝：血友病診療の現状と薬剤師が果たすべき役割。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 イブニングセミナー、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝：高齢化や ADL 低下、他疾患で服薬の継続が難しくなったケースの実践的アドバイス。第 10 回沖縄 HIV 臨床カンファレンス、沖縄、2019 年 2 月 2 日

富島公介：ちゃんと抑えられます、HIV 感染症。大切な人のためにも。大阪府臨床検査技師会 府民公開講座 HIV 予防啓発講演会、大阪、2019 年 2 月 2 日

矢倉裕輝：長期薬物治療における薬剤師の果たすべき役割について。平成 30 年度愛知県病院薬剤師会 HIV 部会講演会、名古屋、2019 年 2 月 16 日

看護部

伊藤文代

平成 30 年度看護部は「信頼される看護、間違えない看護、危機をチャンスに!! いや!!それ以上に!!」をスローガンに、1. プロフェッショナルとしての看護を実践する、2. 看護実践力、臨床判断力を身につける、3. やりがいをもって健康的に働く を目標に掲げた。研究業績の主な取り組みとしては、看護師長会を中心に取り組んでいる誤薬ゼロ対策やチーム医療の推進、退院支援等に関するテーマに着目し研究を行い、学会で成果や提言を報告した。

1. 誤薬を起こす看護師の特性要因に関する研究

誤薬ゼロに向けて誤薬防止の取り組みを強化しているが、誤薬インシデントがゼロにつながらないのには個々の看護師のヒューマンファクターが影響しているのではないかと考え、専門職業人としての個人特性に焦点を当て、誤薬を起こす看護師の特性要因を明らかにする。

2. 薬剤確認方法の違いによるエラー検出率の実態調査

薬剤の与薬時の確認不足が原因の内服インシデントが減少しない現状があり、薬剤確認方法の違いによるエラー検出率の差を明らかにし、確認の精度が向上する方法を検討した。

3. 心臓カテーテル室におけるタイムアウトの実態調査

医療事故を未然に防ぎ、患者が安心・安全に検査を受けるために、心臓カテーテル室でタイムアウトを導入した。心臓カテーテル治療におけるタイムアウトの実態を明らかにし、実施率の上昇に向けて取り組んだ。

4. 救命救急センター後方精神科病棟の看護師が感じる自殺未遂患者の関わりの困難さ

精神科病棟において看護師が感じる自殺未遂患者の関わりの困難さを明らかにする。

5. 当病院 2 型糖尿病患者に対して災害対策について集団指導することでの効果

2 型糖尿病患者で教育入院する患者に災害時の対応について集団指導を行うことで、災害対策に対する意識と行動に変化があったかどうかを明らかにする。

6. 病棟看護師が退院支援看護師に期待する関わりについて

病棟看護師が退院支援看護師に期待する関わりを明らかにすることで、病棟看護師と退院支援看護師の連携を強化し、退院支援を推進する。

7. 平成 30 年度診療報酬改定に伴う入退院支援加算取得のための取り組み

診療報酬改定に伴い、入退院支援加算が新設された。入院センターを設置し、入院前から入院決定した患者に対し、入院加療のイメージを持てるよう説明や問診を行い業務改善に取り組むことで、入院時支援加算算定につながった。

著述 (5 題)、発表は第 20 回日本医療マネジメント学会 (6 題)、第 72 回国立病院

総合医学会（3題）、第16回国立病院看護研究学会（2題）、第22回日本看護管理学会（1題）、第60回近畿地区国立病院看護学会（3題）、第32回日本エイズ学会学術集会（2題）、日本医療マネジメント学会第12回大阪支部学術集会（3題）、第32回近畿エイズ研究会学術集会（1題）、第34回日本環境感染学会学術集会（1題）、第8回日本在宅看護学会学術集会（1題）、第44回日本脳卒中学会学術集会（1題）であった。

【2018年度 研究業績発表】

A-3

沖華津葉、安居栞、門間亮、井上唯：臓器別がん Basic&New ～症例 FILE つき～ 大腸がん YORI-SOU がんナーシング、8（5）：69～85、メディカ出版、2018年10月

岩本奈緒、藤井育子、青木尚子、小庭美世：がん・化学療法・内視鏡 腹部手術歴のある患者の大腸内視鏡検査時の看護・介助―挿入困難への対応、隔月刊誌 消化器看護、23（3）：66～74、日総研出版、2018年8月

青木尚子、藤井敏子：がん・化学療法・内視鏡 院内感染アウトブレイクを経験したからこそわかった内視鏡室の感染対策すべきこと、隔月刊誌 消化器看護、23（6）：63～69、日総研出版、2019年2月

B-3

伊藤文代、高田幸子：看護師の業務動線の可視化による効率性に関する研究～経験年数の違いによる検討～。第20回日本医療マネジメント学会学術総会、札幌、2018年6月8日

莉山有香、角野郁子、城戸朗子、糠塚里恵 伊藤文代：看護師長が考える看護師の誤薬特性。第20回日本医療マネジメント学会学術総会、札幌、2018年6月8日

浅野弘美、莉山有香、角野郁子、糠塚理恵、古川八重子、東 有紀子：薬剤確認方法の違いによるエラー検出率の実態調査。第20回日本医療マネジメント学会学術総会、2018年6月9日

齊藤友香、木口裕香子、増田雅子、伊藤文代：システム化した退院支援の実施と効果に関する報告。第20回日本医療マネジメント学会学術、札幌、2018年6月8日

伊藤文代、高田幸子：看護師の業務動線の可視化による効率性に関する研究～看護業務内容と業務数に対する経験年数との関連～。第22回日本看護管理学会学術集会、2018年8月24日

東政美、中濱智子、下司有加、武部美紀、伊藤文代、白坂琢磨：生活習慣病を併発している HIV 陽性者の生活習慣に対する意識変化。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 2 日

角野郁子、近藤美由紀、伊藤文代：誤薬を起こす看護師の特性要因に関する研究。第 16 回国立病院看護研究学会学術集会、広島、2018 年 12 月 8 日

齊前裕一郎：病棟看護師が退院支援看護師に期待する関わりについて。第 8 回日本在宅看護学会学術集会、静岡、2018 年 12 月 8 日

森永瑞穂、松田 愛、三ヶ森朋子、菱田千珠、池上剛史：当院における脳梗塞院内発症方発見までにかかる時間とその要因の現状調査。第 44 回日本脳卒中学会学術集会、横浜、2019 年 3 月 23 日

B-4

角野郁子、近藤美由紀、伊藤文代：看護師長会誤薬予防グループとリスクマネージャー会と看護師長会のコラボレーションによる誤薬減少への取り組み。第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会、札幌、2018 年 6 月 8 日

近藤美由紀、角野郁子、伊藤文代：多職種で取り組む転倒予防チームの効果。第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会、札幌、2018 年 6 月 8 日

武部美紀：平成 30 年度診療報酬改定に伴う入退院支援加算取得のための取り組み。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

大津あやか：心臓カテーテル室におけるタイムアウトの実態。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

山脇葉月、山崎晏奈、山口愛美、神木京子：当院 2 型糖尿病患者に対して災害対策について集団指導することでの効果。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

米田奈津子、山口愛美、神木京子：HIV/AIDS 患者が受診・内服中断する原因と看護のポイントの考察。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 2 日

堀田亜州美、若狭秀和、山内紀美：当院における CKD 患者への集団指導の実際。第 16 回国立病院看護研究学会学術集会、広島、2018 年 12 月 8 日

坪倉美由紀、中蔵伊知郎、廣田一之、上地隆史、上平朝子：当院の血液培養コンタミネーションの現状調査。第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会、神戸、2019 年 2 月 22 日

B-5

東政美、増田雅子、中本弘香、伊藤文代：HIV/AIDS に関する知識習得に向けた情報発信の効果。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、2018 年 6 月 2 日

武藤恵子、粕谷多佳子、糠塚里恵：救命救急センター後方精神科病棟の看護師が感じる自殺未遂患者の関わりの困難さ。第 60 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2018 年 10 月 13 日

綾部志津、木口裕香子、増田雅子：自宅退院が困難な事例の退院支援看護師による考察。近畿地区国立病院第 60 回看護学会、大阪、2018 年 10 月 13 日

角野郁子、近藤美由紀、伊藤文代：多職種での誤薬防止グループ・転倒予防グループの取り組みの効果。日本医療マネジメント学会 第 12 回大阪支部学術集会、大阪、2019 年 3 月 2 日

山口由香梨、山内紀美：眼科領域におけるインシデントの取り組み。日本医療マネジメント学会 第 12 回大阪支部学術集会、大阪、2019 年 3 月 2 日

木口裕香子、増田雅子、伊藤文代：システム化した退院支援の実施と効果に関する報告。日本医療マネジメント学会 第 12 回大阪支部学術集会、大阪、2019 年 3 月 2 日

B-6

井上日向子、中谷香菜、荻山有香：オストメイト・看護師それぞれが重要と考える退院指導。近畿地区国立病院第 60 回看護学会、大阪、2018 年 10 月 13 日

栄養管理部

谷川 清

栄養管理室では、栄養士がチーム医療の一員として専門性を発揮すると共に、各科カンファレンスへの積極的な参加と栄養士の病棟担当制の推進によりメディカルスタッフとの連携強化を図り、入院患者の栄養状態維持改善、免疫力低下防止、治療効果及びQOL向上に向け継続的に努めている。

栄養食事指導では、個人指導と各種教室である集団指導を実施し行っているが、糖尿病や腎臓病、循環器疾患等の慢性疾患や術前術後等についても積極的な取り組みを行い研究にも繋がっている。

食事提供では、術前術後の栄養管理、化学療法での食欲低下患者、摂食嚥下障害患者等への個々に対応した食事の提供を行っているが、昨年同様にアレルギー対応についても増加傾向にある。

今年度の、栄養管理室で行った主な取り組みについて下記に示す。

1. 栄養サポートチーム

平成 25 年 6 月より栄養サポートチームを嚥下障害・内科系疾患とがん・外科系疾患のチーム体制により専門性に特化した細やかな対応を継続して実施している。栄養士の病棟担当制により、医師、看護師との連携やアセスメントの充実をはかると共に職員間の栄養管理についての理解も深まりより重点的な活動が行われた。年間依頼件数は 575 件、年間算定件数は 729 件となった。また歯科医師連携加算は 80 件の算定件数となった。

2. 栄養食事指導

術前術後患者、糖尿病教育入院、循環器疾患、腎臓病、摂食嚥下障害やサルコペニア等の栄養食事指導を積極的に実施している。平成 29 年 2 月からの栄養指導室増設と栄養士曜日担当制により充実が図られた。指導病名別では、糖尿病、腎臓病、肝臓病、循環器疾患、がんが多くを占めている状況に特に変化はなかった。年間指導件数は、3,918 件であった。

3. 1 型糖尿病専門外来指導

1 型糖尿病患者を対象に、平成 25 年 7 月より食事や活動、インスリン量などについての外来栄養指導を開始、インスリンポンプ導入患者に対するカーボカウント、ポンプ機能等の説明、患者自身による食事に合わせたインスリン調整など内容的にも充実したものとなっている。外来患者数の増により更なる要望に対応するため平成 29 年 1 月より更に枠を増やし今年度は 495 件の指導を行ったが増加傾向にある。

4. 糖尿病透析予防指導管理料

平成 24 年度から新設され、現在糖尿病内科医師、専任看護師、専任管理栄養

士でチームにより月 4 回実施、平成 30 年度は年間 100 件であった。

5. Nutrition Week

栄養管理の最新・高度の知識・技術を修得させ、サービスの質と提供体制の均質化及び向上を図ることを目的として、ニュートリションウィークを今年度も開催した。

日本病態栄養学会「NST 実習技能研修」として 6 月 18 日～6 月 22 日に開催を予定していたが、大阪北部地震のため急遽 6 月 19 日～6 月 23 日に変更し実施した。当院と機構病院、民間病院より 22 名を受け入れた。

6. NST セミナー

チームの活性化と栄養療法の質的向上を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士等に

よる、全職員を対象としたセミナーを年間 7 回開催。参加人数は延べ 187 名。

【2018 年度 研究発表業績】

B-4

永妻佑季子：Stage 1 胃癌切除後 1 年間の栄養評価と骨格筋指数 SMI の変化の検討。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 6 日

B-8

宗本由香：当院における栄養指導の実際～糖尿病透析予防を実施して～。糖尿病実地医家の会、大阪、2018 年 4 月 11 日

永妻佑季子：FGM・SAP 使用患者に対するカーボカウント指導の実際。中央区 1 型糖尿病治療を考える会 2018、大阪、2018 年 7 月 12 日

宗本由香、岩谷博次、堀田亜州美、今西嘉生里：腎臓いきいき！健康寿命を！。第 63 回おおさか健康セミナー、大阪、2018 年 7 月 14 日

光野香織：病院栄養士の役割について。京都女子大学キャリア開発、京都、2018 年 7 月 14 日

宗本由香、瀧秀樹、益田貴史、光井絵里、福山雅代：糖尿病の合併症～神経障害・腎症を中心に～。第 64 回おおさか健康セミナー、大阪、2018 年 10 月 20 日

永妻佑季子：インスリンポンプを活用した栄養指導の実際～カーボカウントを中心に～。インスリンポンプ淀川連携セミナー「チームでおこなう CSII/SAP 療法」、大阪、2018 年 11 月 29 日

宗本由香：多様化する病院栄養士業務の実際。兵庫県栄養士養成施設協会先輩栄

養士に聞く、兵庫、2019 年 2 月 22 日

光野香織、相木佐代：当院における個別栄養食事管理加算の実際。第 28 回なにわ
緩和カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 14 日

ケアサポートチーム

久田原 郁夫

当院の緩和ケアチームは 2004 年に、院内のがん緩和ケアを目的として多業種からなる「がんサポートチーム」という名称で発足しました。当初はがん告知の補助やオピオイドの使用方法などの依頼がありましたが、がん医療従事者の緩和ケア研修会の受講者の増加や緩和ケアに対する認識が上昇してくるにつれ、チームが受けるコンサルテーションの内容も多岐で複雑になってきています。チームでは他業種カンファレンスを毎週行い症例ごとの問題点を取り上げ、回診や診察を通じて改善策を検討し主治医や病棟看護師へと提案しています。病状の変化や新たな問題点の出現に対して、前線の実動メンバーは迅速に行動し対応策の構築に努めています。

最近の緩和ケアはがんのみならず苦痛を伴う全ての患者を対象にするという趨勢になってきており、それに伴い当チームはがん以外の疾患も対応するため名称を「ケアサポートチーム」に改めました。また心不全など循環器疾患に対する緩和ケアが保険で認められるようになり、実際当院でも循環器疾患のコンサルテーションに対して介入を行っています。

月 1 回の運営会議では、介入件数や症例インシデントの解析、緩和に関連する学会、研究会、セミナーの報告や開催計画について討論しています。

ケアは患者本人、家族に対して総合的になされますが、将来意思決定ができなくなった場合にどのようなケアを希望して行くのかを家族や医療従事者とともに話し合い共有するアドバンスケアプランニング(ACP)の整備が求められています。対象者への ACP 導入時期や方法についてはまだ議論がありますが、ACP は世界的に健康人に対しても行われており緩和ケアを受ける患者に対しては必須の項目になっていくと思われます。それらの点を踏まえチームでは ACP の体制整備に対する取り組みを始めています。

構成メンバー

医師： 久田原郁夫（室長、臨床腫瘍科、整形外科）、廣常秀人（緩和ケア内科）、相木佐代（緩和ケア内科）、田宮裕子（精神科）、青野奈々（緩和ケア内科）

看護師：井出恭子（がん性疼痛看護認定看護師）、齊藤明音（副看護師長、緩和ケア認定看護師）、上田純子（副看護師長、がん性疼痛看護認定看護師）、道川綾加（副看護師長、緩和ケア認定看護師）、四方文子（副看護師長、乳がん看護認定看護師）

薬剤師：宮部貴識（副薬剤部長）、明石直子（主任）、仲野宏紀

MSW: 関根知嘉子、長谷川友美

栄養士：光野香織

心理士：森田真子心理士、富田朋子心理士

【実績】

2018 年 4 月～2019 年 3 月末日まで：新規患者数 289 件、末期心不全 新規件数 10 件

セミナー開催： がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、法円坂緩和ケアセミナー

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Nishioka M, Okuyama T, Uchida M, Aiki S, Ito Y, Osaga S, Imai F, Akechi T : What is the appropriate communication style for family members confronting difficult surrogate decision-making in palliative care?: A randomized video vignette study in medical staff with working experiences of clinical oncology. 「Jpn J Clin Oncol.」49(1): 48-56、2019 年 1 月 1 日

A-2

相木佐代：終末期と Advance Care Planning 「G ノート増刊 終末期を考える」岡村知直、柏木秀行、宮崎万友子編集、5(6)：P27-32、羊土社、東京、2018 年 9 月 1 日

相木佐代：腹部膨満感をなんとかする 何をやってもどうしようもないとき 悪性消化管閉塞対策に+αを「緩和ケア」山口崇・田村恵子編集、28(6)：P447、青海社、東京、2018 年 11 月 15 日

B-2

Aiki S, Okuyama T, Sugano K, Kubota Y, Imai F, Nishioka M, Ito Y, Iida S, Komatsu H, Akechi T : Cognitive Dysfunction Among Newly Diagnosed Older Patients With Hematological Malignancy: Frequency, Clinical Indicators, And Predictors. The 20th International Psycho-Oncology Society World Congress、HongKong、2018 年 11 月 1 日

Shikata A, Suzuki K, Yamanaka M:Experience of Young Patients with Breast Cancer Undergoing Postoperative Endocrine Therapy,International Conference on Cancer Nursing,Auckland,2018 年 9 月 24 日

B-3

相木佐代、渡邊理香、栗生正義、引持志津香、松井春希：認知機能障害による離院のため、施設管理及び強制退院に至った症例。第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

富田朋子 総合病院における全科対応の臨床心理室としての取り組み。第 72 回国立病院総合医学会 神戸 2018 年 11 月 9 日

B-4

相木佐代、奥山 徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。

第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

相木佐代、奥山 徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。

第 31 回日本サイコオンコロジー学会総会、金沢、2018 年 9 月 21 日

仲野宏紀、明石直子、和田知未、井出恭子、福田利明、佐光留美、山崎邦夫：終末期がん患者のせん妄に対するアセナピン舌下錠の使用調査。第 12 回日本緩和医療薬学会年会、東京、2018 年 5 月 27 日

仲野宏紀、明石直子、和田知未、井出恭子、宮部貴識、佐光留美、山崎邦夫：放射線治療による口腔粘膜潰瘍にオピオイド鎮痛薬を使用し、ケミカルコーピングが疑われたがん患者の 1 例。第 31 回サイコオンコロジー学会総会、金沢、2018 年 9 月 21 日

B-5

森田眞子：「服薬支援～カウンセラーの視点から」、服薬支援ロールプレイ指導。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 7 日

関根知嘉子：シンポジウム 2 地域でがん患者と家族を支えるために～病院と地域の視点から ACP のあり方を考える。第 1 回日本緩和医療学会関西支部学術大会、大阪市、2018 年 11 月 11 日

相木佐代、光野香織：当院における個別栄養食事管理加算の運用について。第 28 回なにわ緩和ケアカンファレンス、大阪、2019 年 3 月 14 日

森田眞子：HIV とカウンセリング。大阪大学医学部公衆衛生学実習、大阪、2018 年 7 月 5 日

森田眞子：HIV 陽性者が自分らしく生きられる社会をめざして～いっしょに居られる“わたし”であるために～。大阪市教育センター教職員地域研修 都島区人権教育講演会、大阪、2018 年 8 月 29 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

森田眞子、安尾利彦：グループワークファシリテーション。なのはな主催新入職者向けセルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

森田眞子：ゲイライフとこころの健康～疲れた時の対処法～。大阪府/MASH 大阪 MSM 対象 STI 学習会、大阪、2018 年 10 月 8 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。エイズ予防財団平成 30 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2018 年 10 月 18・19 日

森田眞子：HIV 感染症と心理支援。奈良県立医科大学 4 回生実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

森田眞子：ファシリテーション。たんぽぽの会（薬害エイズ遺族の会）、京都、2018 年 11 月 4 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

森田眞子：Living with HIV：自分らしく生きられる社会をめざして～HIV 感染症を通じて考える～。大阪市立ビジネスフロンティア高校人権教育研修会、大阪、2018 年 11 月 28 日

森田眞子：HIV 診療におけるチーム医療。大阪府立大学およびハワイパシフィック大学学生訪問・講義、大阪、2018 年 12 月 21 日

中濱智子、富島公介、岡本学、富田朋子：チーム医療の実際～多職種との協働～。HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

富田朋子：ファシリテーション。H30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

富田朋子：SST について。西 7 病棟勉強会、大阪医療センター、2018 年 11 月 16 日

富田朋子：事例発表。HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2018 年 12 月 14 日

富田朋子：事例発表。関西ロールシャッハ研究会、大阪、2019 年 2 月 24 日

青野奈々：「緩和ケア概論」。がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪府立急性期総合医療センター、大阪、2018 年 7 月 7 日

青野奈々：「療養場所の選択と地域連携」。がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪医療センター、大阪、2018 年 12 月 16 日

井出恭子、上田純子、齊藤明音、長谷川友美、森田眞子、宮部貴識、仲野宏紀：ファシリテーション。がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪

医療センター、大阪、2018 年 12 月 16 日

齊藤明音：特別講義。「緩和ケア」、大阪医療センター附属看護学校、2018 年 12 月 14 日

齊藤明音：成人経過別援助論。「終末期にある人への看護援助」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 2 月 7 日

齊藤明音：成人経過別援助論。「看取り期の看護」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 2 月 14 日

井出恭子：平成 30 年度新採用オリエンテーション。「与薬管理」、大阪医療センター、2018 年 4 月 9 日

井出恭子：静脈注射プログラム。「麻薬の静脈投与管理上の注意点」、大阪医療センター、2019 年 1 月 16 日

井出恭子：ファシリテーション。平成 30 年度 ACTy ラダー教育研修プログラム、レベル 「人生の最終段階の看護」、2018 年 12 月 25 日

井出恭子：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の看護上の問題の理解と支援「診断期・治療期・長期生存期・再発期・終末期における看護と緩和ケア」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

井出恭子：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の看護上の問題の理解と支援「高齢がん患者の特徴と看護上の問題」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

齊藤明音：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の看護上の問題の理解と支援「AYA 世代のがん患者の特徴と看護上の問題」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

齊藤明音：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の看護上の問題の理解と支援「がん患者とその子供の支援」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

齊藤明音：平成 30 年度がん看護セミナー。がん看護実践で必要なスキル「コミュニケーションスキル」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

長谷川友美：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の看護上の問題の理解と支援「がん患者が抱える社会的問題（就労）」、大阪医療センター、2018 年 7 月 28 日

井出恭子：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の症状マネジメント、大阪医療センター、2018 年 10 月 6 日

道川綾加：平成 30 年度がん看護セミナー。がん患者の症状マネジメント「事例展開」、大阪医療センター、2018 年 10 月 6 日

道川綾加：平成 30 年度がん看護セミナー。尊厳ある存在として患者理解と支援「EOL の概念と ACP について」、大阪医療センター、2018 年 12 月 15 日

道川綾加：平成 30 年度がん看護セミナー。尊厳ある存在として患者理解と支援「尊厳ある死を迎えるための見取りのプロセス」、大阪医療センター、2018 年 12 月 15 日

道川綾加：平成 30 年度がん看護セミナー。尊厳ある存在として患者理解と支援「Grief の看護」、大阪医療センター、2018 年 12 月 15 日

相木佐代：平成 30 年度がん看護セミナー。尊厳ある存在として患者理解と支援「スピリチュアルペインとケア」、大阪医療センター、2018 年 12 月 15 日

相木佐代：平成 30 年度がん看護セミナー。尊厳ある存在として患者理解と支援「スピリチュアルケアの実際」、大阪医療センター、2018 年 12 月 15 日

井出恭子：オンコロジーセミナー。がんサポートチームから見た麻薬のリスクマネジメント、大阪医療センター、2018 年 5 月 16 日

井出恭子：成人経過別援助論。「終末期看護の考え方」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 1 月 22 日

井出恭子：成人経過別援助論。「終末期にある人の特徴と理解」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 1 月 29 日

道川綾加：成人経過別援助論。「慢性期看護の考え方」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 1 月 31 日

道川綾加：成人経過別援助論。「慢性期にある人への看護」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 2 月 7 日

道川綾加：成人経過別援助論。「慢性期にある人への看護（事例）」、大阪医療センター附属看護学校、2019 年 2 月 14 日

上田純子：成人援助論演習。「乳がん患者の看護：対象理解・がん疼痛の理解・呼吸困難の理解と看護」、大阪医療センター附属看護学校、2018 年 9 月 27 日、10 月 11 日、10 月 25 日

上田純子、四方文子：成人援助論演習。「乳がん患者の看護、乳がん患者の看護過程」、大阪医療センター附属看護学校、2018 年 11 月 1 日

四方文子：成人援助論演習。「乳がん患者の看護：対象理解」、大阪医療センター附属看護学校、2018 年 9 月 7 日、9 月 14 日

B-8

森田真子：「職場のメンタルヘルス（ハラスメント防止を含む）」（講義・実習）。人事院平成 30 年度近畿地区新採用職員研修、大阪、2018 年 4 月 6 日、10 日

臨床心理室

廣常秀人

1. スタッフ

臨床心理室長：廣常秀人

常勤スタッフ：安尾利彦、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木薫、西川歩美

非常勤スタッフ：牧寛子

遺族専門家相談員：塩飽耕規

2. 概要

平成 19 年 7 月より臨床心理室は、①病院の理念に基づく事業であること、②質の高い医療の提供に貢献すること、③疾患と心理状態の関連が研究されていること、④医療者 患者関係と保健行動との関連が医療の効果を左右すること、⑤診療科間のサービスの格差をなくすこと、以上 5 点の目的や理由により、全診療科の患者やその家族等に対応可能な臨床心理室として再編された。今年度より常勤心理療法士 6 名、非常勤心理療法士 1 名、遺族健診・相談担当の心理療法士 1 名の、合計 8 名体制となった。

現在臨床心理室は、臨床心理室運営委員会で審議した活動目標や計画をもとに、患者や家族等の心理相談、心理検査、各診療科・チームとのリエゾン・コンサルテーションといった心理臨床活動に加え、臨床心理室内のカンファレンス、臨床心理学専攻の大学院生の実習受け入れ、近畿グループ管内のメンタルヘルス相談、心理に関する研修の企画・運営・講義・講演、そして、研修を主に行っている。

当臨床心理室では従来日々の臨床に加えて、厚生労働行政推進調査事業費補助金による HIV 関連の研究班に分担研究者や協力者として参与し、HIV 陽性者の心理学的問題や、HIV 医療における心理臨床に関する研究を積み重ねている。また、各種セミナーや研修会において積極的に事例発表を行い、自己研鑽に務めている。調査研究や事例研究を心理臨床学会や日本エイズ学会などの学会において発表することにより、総合病院における臨床心理室の役割を他施設に伝え、医療の総合的な充実に資すること、当臨床心理室にとって重要な任務であると認識している。

【2018年度 研究業績発表】

A-5

安尾利彦、西川歩美、水木薫：HIV陽性者の心理的問題点と対策の検討。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に関する研究」平成30年度（分担）研究報告書、P.28-31、2019年3月

B-3

冨田朋子：総合病院における全科対応の臨床心理室としての取り組み。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

安尾利彦：長期療養におけるコミュニケーションの重要性。HIV 感染症薬物療法認定・専門薬剤師認定講習会、第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 1 日

西川歩美：心理士からみた HIV 陽性者の受診中断の背景に関する検討。ワークショップ看護、第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

B-4

塩飽耕規：精神分析的心理療法における「症状」のゆくえ—現代ヒステリー者と現代精神分析的心理療法—。日本精神分析的心理療法フォーラム第7回大会、大阪、2018年6月16日

水木薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV 陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 1 日

塩飽耕規：セラピストの身体図式を使った心理療法—自閉症児のプレイセラピーを例に—。メルロ＝ポンティサークル第 24 回大会、京都、2018 年 9 月 9 日

B-8

安尾利彦：健康管理・メンタルヘルスについて。大阪医療センター新採用職員研修、大阪医療センター、大阪、2018 年 4 月 3 日

森田真子：「職場のメンタルヘルス（ハラスメント防止を含む）」（講義・実習）。人事院平成 30 年度近畿地区新採用職員研修、大阪、2018 年 4 月 6 日、10 日

宮本哲雄：HIV 感染症と物資依存。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 6 日

森田真子：服薬支援～カウンセラーの視点から。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 7 日

森田真子：服薬支援ロールプレイ指導。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 7 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談交流会、静岡、2018 年 6 月 30 日、7 月 1 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談交流会、静岡、2018 年 6 月 30 日、7 月 1 日

森田眞子：HIV とカウンセリング。大阪大学医学部公衆衛生学実習、大阪、2018 年 7 月 5 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 22 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 22 日

森田眞子：HIV 陽性者が自分らしく生きられる社会をめざして～いっしょに居られる“わたし”であるために～。大阪市教育センター教職員地域研修 都島区人権教育講演会、大阪、2018 年 8 月 29 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

安尾利彦：HIV とカウンセリング。HIV 感染症研修会、大阪、2017 年 10 月 2 日

中濱智子、富島公介、岡本学、富田朋子：チーム医療の実際～多職種との協働～。HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

安尾利彦：ストレスとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

安尾利彦：セルフケアとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

安尾利彦：グループファシリテーション。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、2018 年 10 月 4 日

森田眞子：ゲイライフとこころの健康～疲れた時の対処法～。大阪府/MASH 大阪 MSM 対象 STI 学習会、大阪、2018 年 10 月 8 日

宮本哲雄：神経心理検査と事例検討。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 12 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。エイズ予防財団平成 30 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2018 年 10 月 18 日、19 日

森田眞子：HIV 感染症と心理支援。奈良県立医科大学 4 回生実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

富田朋子：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

安尾利彦：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

宮本哲雄：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

森田眞子：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

富田朋子：SST について。大阪医療センター西 7 階病棟勉強会、大阪、2018 年 11 月 16 日

森田眞子：Living with HIV：自分らしく生きられる社会をめざして～HIV 感染症を通じて考える～。大阪市立ビジネスフロンティア高校人権教育研修会、大阪、2018 年 11 月 28 日

安尾利彦：座長。ワークショップ看護、第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

宮本哲雄：座長。カウンセリング、第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

富田朋子：事例発表。HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2018 年 12 月 14 日

宮本哲雄：事例発表。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2018 年 12 月 14 日

森田真子：HIV 診療におけるチーム医療。大阪府立大学およびハワイパシフィック大学学生訪問・講義、大阪、2018 年 12 月 21 日

安尾利彦：全体振り返り。平成 30 年度院内防災訓練、大阪、2019 年 1 月 19 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 30 年度遺族・患者相談員合同研修会、大阪、2019 年 2 月 17 日

富田朋子：事例発表。関西ロールシャッハ研究会、大阪、2019 年 2 月 24 日

安尾利彦：職員のメンタルヘルス。平成 30 年度国立病院機構臨床検査技師長協議会近畿支部第 2 回研修会、大阪、2019 年 3 月 16 日

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」

1. 構成メンバー

関本貢嗣副院長、大西明子副看護部長、廣常秀人精神科長、疇地道代精神科医、宗清大祐管理課長、山本紗世職員研修部係長、安尾利彦心理療法士

2. 概要

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」は、当院の職員のメンタルヘルス、中でも主に1次予防（メンタルヘルスに関する情報提供・教育研修・環境改善）と2次予防（メンタルヘルス不調の早期把握・早期対策）に関する企画、立案、評価、対策を行う組織横断的なチームである。

平成18年の厚生労働省からの「労働者の心の健康づくりのための指針」の改定に基づき、「事業者が自らの事業所におけるメンタルヘルスカを積極的に推進すること」との指針に従い、平成23年4月からの院内での立ち上げの準備期間を経て、安全衛生員会のもとで平成24年1月から本格的な活動を開始した。

チームの愛称である「なのはな」は、菜の花の花言葉「豊かな日々」「快活」に由来しており、「職員一人ひとりが心豊かに、生き生きと働くための職場づくりをサポートしたい」という願いが込められている。

「なのはな」がこれまでに取り組んできた主な活動は大きく分けて、1) 職員からの個別相談、2) チームの広報と情報提供、3) 教育研修、4) 危機介入、5) 健康診断時のセルフチェックの実施、6) 各部署訪問による労働環境改善の働きかけ、以上6つである。

- 1) 職員からの個別相談：相談窓口を設け、本人およびその上司や同僚からの相談について、精神科医1名と臨床心理士1名が対応している（精神科診療や心理療法の提供はせず、コンサルテーションのみとしている）。
- 2) チームの広報と情報提供：ネームプレートに入れることができる、相談窓口を記載したカードを作成した。また院内広報誌になのはな便りを掲載した。
- 3) 教育研修：新入職者オリエンテーション時の講義に加え、ラインケア研修、セルフケア研修を企画運営またはその協力をしている。
- 4) 危機介入：入院患者の自殺が発生した際、現場に暴露された職員の個別面談、グループミーティングを行った。また発生部署の職員全員に対して、急性ストレス障害に関する情報提供を行った。
- 5) 健康診断時のセルフチェックの実施：平成27年度より義務化されたストレスチェック制度に先駆けて、問診票とともに仕事の疲労度セルフチェックを配布し、任意・匿名で回収し、希望者には書面で結果のフィードバックを行った。義務化によって導入された制度に移行した。
- 6) 各部署訪問による労働環境改善の働きかけ：了解が得られた部署に対して、職業性ストレス簡易調査票によるアンケートを実施し、その結果をもとにその職場の職員が主体的に改善点を検討・実施し、再度同じ調査票を用いて改善度を評価した。

3. 今年度の主な活動状況

- 1) 定例連絡会議：計 10 回（平成 30 年 4 月 19 日、5 月 17 日、6 月 14 日、7 月 19 日、8 月 16 日、10 月 11 日、11 月 22 日、12 月 20 日、平成 31 年 2 月 28 日、3 月 14 日）
- 2) 研修会（企画運営および協力）：新規採用職員研修（平成 30 年 4 月 3 日）、新採用臨床研修医オリエンテーション（4 月 18 日）、安全衛生研修「対人ストレスへの気づき、理解、対処のヒント―事例を中心に、ああ、実感！―」（演者：大阪樟蔭女子大学心理学科名誉教授 夏目誠）」（5 月 16 日）、メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修（10 月 4 日）

【2018 年度 研究業績発表】

A-6

安尾利彦：なのはな便り。「全職員対象研修会レポート」大阪医療センター院内報 法円坂だより 149 号、pp.5-6、2018 年 6 月

B-8

安尾利彦：健康管理・メンタルヘルスについて。大阪医療センター新採用職員研修、大阪医療センター、大阪、2018 年 4 月 3 日

疇地道代：「医療従事者のメンタルヘルス」。平成 30 年度大阪医療センター新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2018 年 4 月 18 日

疇地道代：司会。安全衛生研修「対人ストレスへの気づき、理解、対処のヒント―事例を中心に、ああ、実感！―」（演者：大阪樟蔭女子大学心理学科名誉教授 夏目誠）、大阪、2018 年 5 月 16 日

安尾利彦：ストレスとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

安尾利彦：セルフケアとは。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

安尾利彦：グループファシリテーション。大阪医療センターメンタルヘルスサポートチーム「なのはな」主催事務・コメディカル新入職者セルフケア研修、大阪、2018 年 10 月 4 日

安尾利彦：職員のメンタルヘルス。平成 30 年度国立病院機構臨床検査技師長協議

会近畿支部第 2 回研修会、大阪、2019 年 3 月 16 日

臨床工学室

榑 雅之

1. 臨床工学室スタッフ紹介

榑 雅之

(医師、心臓血管外科科長、手術部長、臨床工学室室長)

林輝行 (臨床工学技士長)

- ・体外循環技術認定士
- ・補助人工心臓管理技術認定士 (小児用含む)
- ・日本体外循環技術医学会 全国代議員
- ・日本体外循環技術医学会 近畿地方会 理事

宮川幸恵 (主任臨床工学技士)

- ・体外循環技術認定士
- ・透析技術認定士
- ・日本体外循環技術医学会代議員 安全委員・情報委員・地方代議員
- ・大阪府臨床工学技士会学術委員

樋口栄二 (臨床工学技士)

- ・呼吸療法認定士
- ・救急救命士

藤井順也 (臨床医工学技士)

- ・体外循環技術認定士
- ・呼吸療法認定士
- ・ITE (Intervention Technical Expert)
- ・日本 DMAT 隊員
- ・大阪 DMAT 隊員
- ・臨床検査技師

井戸紀之 (臨床工学技士)

- ・ITE (Intervention Technical Expert)

黒木亮佑 (臨床工学技士)

- ・呼吸療法認定士
- ・臨床検査技師

町屋敷薫 (臨床工学技士)

- ・呼吸療法認定士

高橋俊平 (臨床工学技士)

丸宮和也 (臨床工学技士)

2. 概要

臨床工学室は、生命維持管理装置の管理・操作を中心に業務を行うとともに、当直およびオンコール体制にて緊急業務に対しても 365 日 24 時間、柔軟に対応している。また、生命維持管理装置の動作点検を日々行い医療安全の向上に

貢献している。

a.手術室部門

心臓血管外科手術における人工心肺装置および周辺機器の管理・操作業務を週3回の定期手術のほか、緊急手術や術中の医療機器のトラブルにも対応している。

b. 循環部門

心臓カテーテル室におけるカテーテルインターベンションおよび不整脈業務を行い、循環器外来にて外来患者のペースメーカーチェックを行っている。また、手術室・心臓カテーテル室・初療室・各種集中治療室における経皮的心肺補助装置（PCPS）・大動脈内バルーンポンピング（IABP）の管理・操作業務を行っている。

c. 血液浄化部門

人工腎室に臨床工学技士2~3名を常駐させ、入院患者を対象とした各種血液浄化装置の管理・操作業務を行っている。また、重症患者に対しては集中治療室にて、持続緩徐式血液透析濾過療法などの各種急性血液浄化療法の管理・操作を行っている。

d. ME 機器部門

中央管理室の医療機器における日常点検と物品管理、病棟での医療機器トラブル対応を行っている。また、一般病棟および集中治療室に貸し出された全ての人工呼吸器が正常に作動しているか、毎日、使用病棟を巡回し、人工呼吸器の動作点検を行っている。この巡回業務は機械的人工呼吸療法時の事故防止の観点から大きな成果を上げている。

e. 教育・研修

生命維持管理装置（人工呼吸器、IABP、PCPS、CHDFなど）の院内向けの勉強会を定期的に実施している。臨床工学室内の教育体制としては、新人教育プログラムなどを設けるとともに、認定士資格取得に向けたスキルアップ教育も行っている。

3. 業務実績

手術室部門

人工心肺症例数：76件

補助循環部門

PCPS 症例数：24件（述べ136日）

IABP 症例数：25件（述べ154日）

血液浄化部門

血液透析（HD or HDF）：1821件

持続的血液浄化（CHDF）：566件

単純血漿交換（PE）：31件

エンドトキシン吸着（ET-A）：5件

腹水還元濾過療法（CART）：5件

教育・研修

臨床実習生 8 名受入れ

院内勉強会の実施

開催回数：98 回

4. 学術業績：

林輝行：英文共著 1 編、共同執筆 2 冊、招聘講演等：2 演題、

シンポジウム等：1 演題、座長：2 回

宮川幸恵：一般演題 1 演題、座長：1 回

藤井純也：一般演題 1 演題、教育講演 1 演題

* 詳細 (<http://www.onh.go.jp/rinko/data.html>)

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Fukushima N, Tatsumi E, Seguchi O, Takewa Y, Hamasaki K, Onda K, Yamamoto H, Hayashi T, Fujita T, Kobayashi J : Assessment of Safety and Effectiveness of the Extracorporeal Continuous-Flow Ventricular Assist Device (BR16010) Use as a Bridge-to-Decision Therapy for Severe Heart Failure or Refractory Cardiogenic Shock: Study Protocol for Single-Arm Non-randomized, Uncontrolled, and Investigator-Initiated Clinical Trial, 「Cardiovascular Drugs and Therapy」 32 (4) : P 373-379、2018 年 8 月

A-2

小川浩司、中崎宏則、守田佳保里、林 輝行：「不整脈デバイス治療バイブル適応・治療・管理まで全てマスター」：P31-37、P38-45、P67-70、P95-99、P281-285、南江堂、2018 年 7 月 25 日

近藤智勇、林 輝行：「補助人工心臓治療チーム実践ガイド」改訂版(2)：P294-298、P302-303、メジカルビュー社、2018 年 11 月 10 日

A-3

湊 拓巳、峰松佑輔、宮川幸恵、藤井順也：「ICT を利用した血液浄化装置の遠隔監視の試み」：31 (1) : 12-18、医工学治療学会雑誌、2019

B-3

林 輝行：「ポンプ道」を究めたい！。第 44 回日本体外循環技術医学会大会、金沢、2018 年 11 月 11 日

B-4

宮川幸恵：医療機器における受入れ点検の重要性。第 28 回日本臨床工学会、神奈川、2018 年 5 月 27 日

B-5

藤井順也：放射線領域における植え込み型デバイスの注意点と対策。第 18 回近畿救急 撮影セミナー、大阪、2019 年 2 月 15 日

B-7

藤井順也：超高齢化社会を見据えた Medical Wearable Device の提案。次世代医療システム産業化フォーラム(2018 年度)、大阪、2019 年 2 月 16 日

B-8

林 輝行：補助循環－基礎と臨床－。三重県周術期セミナー、三重、2019 年 2 月 24 日

林 輝行：熱苦しみのススメー医療事故に耐性を持つ組織への道程。医療法人社団宏和岡村記念病院 医療安全講習会、静岡、2018 年 6 月 19 日

Hayashi T：Cardioplegia。1st NCGM Perfusionist Training Course：Myanmar、2018 年 10 月 1 日

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Yasaka M, Koretsune Y, Yamashita T, Oda E, Matsubayashi D, Ota K, Kobayashi M, Matsushita Y, Kaburagi J, Ibusuki K, Takita A, Iwashita M, Yamaguchi T : Recurrent Stroke and Bleeding Events after Acute Cardioembolic Stroke-Analysis Using Japanese Healthcare Database from Acute-Care Institutions, 「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」、27 (4) : P1012-1024、2018 年 4 月

Sakaguchi T, Watanabe M, Kawasaki C, Kuroda I, Abe H, Date M, Ueda Y, Yasumura Y, Koretsune Y : A novel scoring system to predict delirium and its relationship with the clinical course in patients with acute decompensated heart failure, 「Journal of Cardiorogy」 71 : P564-569、2018 年 6 月

Ohmori H, Nakamura M, Kada A, Saito A.M, Sanayama Y, Shinagawa T, Fujita H, Wakisaka A, Maruhashi K, Okumura O, Takizawa N, Murata H, Inoue M, Kaneko H, Taniguchi H, Kawasaki M, Sano N, S.Akaboshi S, Tanuma N, Sone S, Kumode M, Takechi T, Koretsune Y, Sumimoto R. Miyanomae T: Multicenter, Open-Label, Randomized Controlled Trial of Warfarin and Edoxaban Tosilate Hydrate for the Treatment of Deep Vein Thrombosis in Person with Severe Motor Intellectual Disabilities, 「Kurume Medical Journal」、65 : P11-16, 2018 年 8 月 30 日

Koretsune Y, Kumagai K, Uchiyama S, Yamashita T, Yasaka M, Watanabe-Fujinuma E, Banderas BF, Akiyama S, Okayama Y, Briere J.B, Dickie G, Cano S: Patient-reported treatment satisfaction with rivaroxaban in Japanese non-valvular atrial fibrillation patients: an observational study, 「Current Medical Research and Opinion」 32 : P1-19、2018 年 8 月

Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Yasaka M, Yamaguchi T, Akishita M, Hasebe, N, Kario K, Mizokami Y, Nagata K, Nakamura M, Terauchi Y, Yamamoto T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A : Prospective observational study in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: Rationale and design of the All Nippon AF In the Elderly (ANAFIE) Registry, 「Journal of Cardiorogy」 72 : P300-306、2018 年 10 月、
<https://doi.org/j.jjcc.2018.02.018>

Koretsune Y, Yamashita T, Yasaka M, Ono Y, Hirakawa T, Ishida K, Kuroki D, Sumida T, Urushihara H: Comparative effectiveness and safety of warfarin and dabigatran in patients with non-valvular atrial fibrillation in Japan: A claims database analysis, 「Journal of Cardiology」、published on line、2018 年 11 月 23 日、
<https://doi.org/10.1016/j.jjcc.2018.09.004>

Koretsune Y, Etoh T, Katsuda Y, Suetsugu T, Kumeda K, Sakuma I, Eshima K, Shibuya M, Ando S, Yokota N, Goto S, Pieper K, Allu J, Kakkar A.K, :Risk Profile and 1-Year Outcome of Newly Diagnosed Atrial Fibrillation in Japan -Insights From GARFIELD - AF -, 「Circulation Journal」、83 : (1)、P67-74、2018 年 12 月

Goto S, Angchaisuksiri P, Bassand J.P, Camm A.J, Dominguez H, Illingworth L, Gibbs H, Goldhaber S.Z, Goto S, Jing Z.C, Haas S, Kayani G, Koretsune Y, Lim T.W, Oh S, Sawhney J.P.S, Turpie A.G.G, Eickels M.V, Verheugt F.W.A, Kakkar A.K : Management and 1-year outcomes of patients with newly diagnosed atrial fibrillation and chronic kidney disease: Results from the prospective GARFIELD-AF registry, 「Journal of American Heart Association」、2019;8:e010510.DOI:10.1161/JAHA.118.010510

Yamashita T, Koretsune Y, Ishikawa M, Shiosakai K, Kogure S: Postmarketing surveillance on edoxaban in patients with nonvalvular atrial fibrillation (ETNA-AF-Japan): Three-month interim analysis results, 「Journal of Arrhythmia」、DOI:10.1002/joa3.12149

Koretsune Y, Kusakawa K, Harada K.H, Koizumi A, Uchiyama S, Atarashi H, Okumura K, Yasaka M, Yamashita T, Taniguchi A, Fukaya T, Inoue H: Characteristics of Japanese Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation on Anticoagulant Treatment: A Descriptive Analysis of J-dabigatran Surveillance and JAPAF study, Cardiol Ther ,<https://doi.org/10.1007/s40119-019-0129-2>, Published online:11 February, 2019

A-4

安部晴彦、是恒之宏：海外・日本の心房細動の抗血栓療法ガイドラインの特徴と違い「心房細動 最新医学別冊診断と治療のA B C」、P203-209、2018 年 5 月

山下武志、増田慶太、河村祐一郎、西原崇創、富田 威、奥山祐司、安喰恒輔、高橋直彦、是恒之宏、池田隆徳、志賀 剛、大塚崇之、速水紀幸、吉田明弘、天野恵子、朝田一生、河野律子、安部治彦、清水昭彦、栗田隆志、清水 渉、松村昌治、住友尚方、庄司正昭：ああ～どうする？この不整脈、「jmed56 あなたも名医」、日本医事新報社、P38-41、2018 年 6 月 25 日

是恒之宏：抗凝固療法 update－循環器内科医の立場から－、「日本臨床内科医学会誌」、33 (1)、P48-54、2018 年 6 月

安部晴彦、是恒之宏：循環器疾患 同種薬の特徴と使い分け 抗血栓薬（経口抗凝固薬、抗血小板薬）、今日の治療指針私はこう治療している TODAY'S THERAPY 2019、「医学書院」、P346-348、2019 年 1 月

A-6

是恒之宏：SERIES サブコホートのご紹介。アセスメントマーカー、「ANAFIE 通信」、2018 年 5 月

是恒之宏：何事もバランスよく、とびらの言葉、「医療の広場」、P3、2018 年 7 月 10 日

是恒之宏：レジストリーデータから学ぶ抗凝固療法の課題。「Medical Tribune」、51(16)、2018 年 8 月 2 日

B-1

Koretsune Y: Updates From Asian RWE and AF Registries (ANAFIE (Japan) Safety in Elderly Patients), Daiichi Sankyo Asian Summit on AF and VTE、成都、2019 年 1 月 25 日

Koretsune Y. National Focus: Japan GARFIELD-AF and GARFIELD-VTE Ambassadors meeting、アブダビ、2019 年 2 月 23 日

B-2

Koretsune Y, Yamashita Y, Kim Y.H, Wang C.C, Bruggenjurgan B, Levy P, Lee B.C, Caterina R.De, Kirchhof P: The Global ETNA-AF registry programme: Snapshot baseline demographics and patient characteristics from 24,431 atrial fibrillation patients on edoxaban, ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018 年 8 月 25 日

Caterina R.De, Bruggenjurgan B, Kim Y.H, Koretsune Y, Lee B.C, Levy P, Yamashita T, Wang C.C, Kirchhof P: Baseline stroke and bleeding risks in the Global Edoxaban Treatment in Routine Clinical Practice in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation programme (Global ETNA-AF): First snapshot analysis, ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018 年 8 月 26 日

Caterina R.DE, Bruggenjurgan B, Kim Y.H, Koretsune Y, Lee B.C, Levy P, Yamashita T, Wang C.C, Kirchhof P: Prior antithrombotic therapy: A snapshot of 24,431 patients from the Global Edoxaban Treatment in Routine Clinical Practice in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation programme (Global ETNA-AF), ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018 年 8 月 27 日

B-4

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後、PCPS が必要となる因子の検討。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P264、大阪市、2018 年 9 月 8 日

中村雅之、栗田政樹、上田恭敬、伊達基郎、篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、

尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P266、大阪市、2018 年 9 月 8 日

加藤大志、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：スタチンによる無症候性筋障害を継続的な CPX 結果から鑑別しえた症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P309、大阪市、2018 年 9 月 9 日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流から重度へ憎悪した心不全の一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P311、大阪市 2018 年 9 月 9 日

是恒之宏、山下武志、佐藤剛、塩境一仁、小暮誠二：非弁膜症性心房細動患者に対するエドキサバンの使用実態に関する大規模観察研究－リクシアナ錠・OD 錠特定使用成績調査中間集計。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P329、大阪市、2018 年 9 月 9 日

B-8

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第 465 回始良地区内科医会学術講演会、霧島、2018 年 5 月 18 日

是恒之宏：高齢者心房細動の抗凝固療法－その実態と課題。東京葛飾スカイツリーセミナー2018、東京、2018 年 5 月 26 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第 112 回日本循環器学会中国・四国合同地方会、広島、2018 年 6 月 2 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。淡路循環器病研究会、洲本、2018 年 7 月 5 日

是恒之宏：Real World Data はあなたの Real World ？。イグザレルト WEB カンファレンス、大阪、2018 年 11 月 6 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Total Care Support Seminar ～高齢者疾患を考える～、豊中、2018 年 11 月 27 日

是恒之宏：抗凝固薬のリアルワールド。不整脈エキスパートラウンドテーブル、大阪、2019 年 1 月 31 日

是恒之宏：高齢者の心房細動のトータルケア。第 9 回高齢者トータルケアセミナー

一、鹿児島、2019 年 2 月 1 日

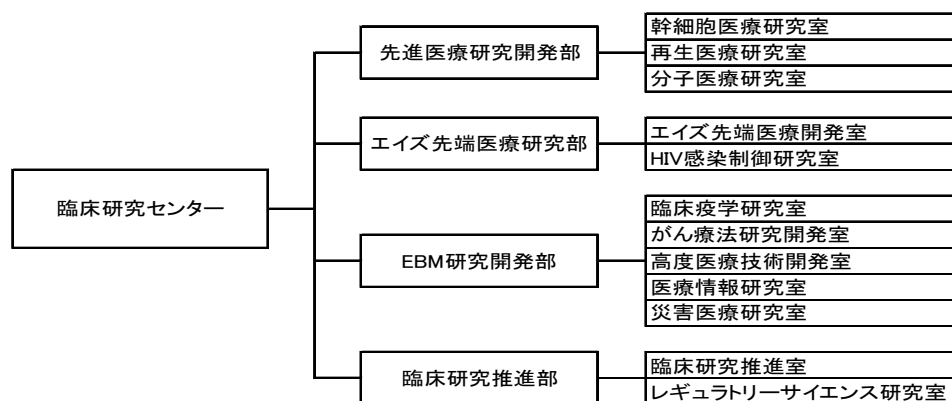
是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。DOAC Forum in KAZUSA、千葉県木更津市、2019 年 3 月 1 日

－臨床研究センター－

臨床研究センター

センター長 上松正朗

本年度当臨床研究センターはセンターとなって 11 年目を迎えた。国立病院機構では平成 17 年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は常に 1-2 位の座を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコール作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、大阪医療センターの治験を含めた臨床研究への積極的な取り組みが評価されたものとする。平成 20 年度臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなったが、それにともない、1 部 5 室体制から 2 部 9 室体制へと改編され、従来病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成 23 年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3 部 11 室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成 18 年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととした。平成 25 年度 DMAT 西日本拠点に指定されたのに伴い、平成 26 年度から災害医療研究室を加え 4 部 12 室体制となった。平成 30 年度の構成は以下のとおりである。



先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）の作製と、iPS 細胞から神経幹細胞（神経系細胞を供給する能力を持つ幹細胞）への分化誘導を行い、再生医療や、神経毒性評価系の構築に向けた技術開発、及び疾患の発症メカニズムの研究を行っている。また、当センター脳神経外科及び再生医療研究室と共同で、各種脳腫瘍の遺伝子変異解析と、新規腫瘍マーカーの探索を実施している。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。さらに悪性脳腫瘍の新規診断・治療法開発を目標に、分子遺伝学的解析を実施している。

分子医療研究室

分子医療研究室では多施設共同研究として難治性脳形成障害症の診断基準作成及び新規治療法開発に向けた病態解析研究を支援する臨床病態、画像情報、遺伝子情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）などのデータバンク構築を実施中である。

エイズ先端医療研究部

エイズ先端医療開発室

大阪医療センターでは、HIV感染症の専門的診療は感染症内科が担い、他の機能はエイズ先端医療研究部がコーディネートしている。臨床研究の主なテーマとしてHIV感染症の病態解析や治療に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究取り組んでいる。教育・研修では院外向けと共に、院内での研修については、看護部、医療相談室、臨床心理室等と共に職員研究部と協働で実施し、多くの参加者を得ている。

HIV 感染制御研究室

エイズ先端医療開発室と共同で、HIV感染症の診療における多く問題に対して研究を行っている。厚生労働省エイズ対策研究事業を中心に、HIV感染症の病態における種々の問題点の解明に取り組み、多施設共同臨床調査や臨床的課題について取り組んでいる。

EBM 研究開発部

臨床疫学研究室

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討している。肝炎に関する種々の研究を積極的に推進している。さらに HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討している。A 型肝炎についても HAV 株が EuroPride であることを報告した。

がん療法研究開発室

本研究室では、最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を目的として、がん細胞やがん組織を

用いた基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究（橋渡し研究、トランスレーショナルリサーチ）を行っている。

高度医療技術開発室

医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における産学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでゆくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。平成30年度は、昨年のCT画像検査、心エコー検査に関する研究を進め、それぞれ報告を行った。（AHA2018）この研究が、心エコー図学会に認められ海外発表優秀論文賞を受賞した。

医療情報研究室

医療情報研究室では、医療へのIT応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準 電子カルテについて、あるいはSS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHRといった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。2018年には「医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析」というテーマでワークショップを主催した。。

災害医療研究室

主要な研究テーマのひとつは災害時医療情報の応用で、厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療記録票を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を報告し、厚生労働省の進めている災害急性期医療対応の判断根拠となるデータを作成した。今年度は医療情報部岡垣が、医療情報の災害活用

に関し複数回の国内学会発表をおこなった。また、国際学会ではファイルメーカーを応用した災害時の医療情報収集と整理、解析の方法を研究発表した。

臨床研究推進部

臨床研究推進室

臨床研究推進室は、CRCおよび治験事務局として治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。受託研究と各種臨床研究関連指針が適応される自主研究は、それぞれ独立した2つのIRB（第1委員会・第2委員会）により審議を行っている。この2つのIRBは、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けており、iPadを導入し、ペーパーレスとしている。

また、昨年度から臨床研究法上の臨床研究審査委員会として厚生労働大臣から認定を取得すべく準備を行い、平成30年3月31日に認定を取得した。国立病院機構では5機関が認定されており、4月以降は情報共有を行いつつ審査体制の整備に努め、平成31年1月から審査意見業務を開始した。

治験実績では、国立病院機構内施設で全国3位の成績であった。請求金額総額は3億円に達する見通しであり、昨年度を上回ることができた。

自主研究の支援に関しては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいた質の高い臨床研究の実施をより進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。また確実な同意書管理のための支援も継続的に取り組んでいる。臨床研究法準拠の研究についても、同様の支援を行うこととしている。

レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成23年4月に設立され、8年が経過した。平成30年度においては、日本のデータベースを用いた急性期脳卒中後のイベント解析、抗凝固薬服用に関する患者満足度調査、75歳以上の高齢者心房細動ANAFIEレジストリープロトコル論文、claim databaseを用いたワルファリンとダビガトランの有効性安全性の比較検討、国際心房細動レジストリーGARFIELD研究の慢性腎不全サブ解析、日本コホートサブ解析をそれぞれ論文化し発表した。

【2018年度 研究業績発表】

A-0

Hashimoto T, Ako J, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T,

Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M; J-MINUET investigators. Pre-Procedural Thrombolysis in Myocardial Infarction Flow in Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction. *Int Heart J*. 2018 Sep 26;59(5):920-925. doi: 10.1536/ihj.17-518. Epub 2018 Aug 29. PubMed PMID: 30158385.

Okuno S, Ishihara T, Iida O, Asai M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Matsuda Y, Takahara M, Uematsu M, Mano T. Association of Subclinical Intrastent Thrombus Detected 9 Months After Implantation of 2nd-Generation Drug-Eluting Stent With Future Major Adverse Cardiac Events - A Coronary Angioscopic Study. *Circ J*. 2018 Aug 24;82(9):2299-2304. doi: 10.1253/circj.CJ-18-0098. Epub 2018 Jul 3. PubMed PMID: 29973431.

Kanda T, Uematsu M, Fujita M, Iida O, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Tsujimura T, Matsuda Y, Okuno S, Mano T. A novel predictor of clinical outcomes in patients with heart failure with preserved left-ventricular ejection fraction: a pilot study. *Heart Vessels*. 2018 Dec;33(12):1490-1495. doi: 10.1007/s00380-018-1211-8. Epub 2018 Jun 22. PubMed PMID: 29934800.

Horiuchi Y, Aoki J, Tanabe K, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Yasuda S, Noguchi T, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Shibata Y, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET investigators. A High Level of Blood Urea Nitrogen Is a Significant Predictor for In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction. *Int Heart J*. 2018 Mar 30;59(2):263-271. doi: 10.1536/ihj.17-009. Epub 2018 Feb 20. PubMed PMID: 29459576.

Ishihara T, Awata M, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Uematsu M, Mano T. Satisfactory arterial repair 1 year after ultrathin strut biodegradable polymer sirolimus-eluting stent implantation: an angioscopic observation. *Cardiovasc Interv Ther*. 2019 Jan;34(1):34-39. doi: 10.1007/s12928-018-0510-4. Epub 2018 Jan 15. PubMed PMID: 29335827.

Kanda T, Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Sunaga A, Tsujimura T, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M. Comparison of the origin and coupling interval between ectopy with and without atrial fibrillation initiation. *J Cardiol*. 2018 Jan;71(1):59-64. doi: 10.1016/j.jjcc.2017.06.002. Epub 2017 Jul

13. PubMed PMID: 28712522.

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Combinations of Mitral Annulus and Aortic Valve Calcifications Detected by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. (Japanese Society of Echocardiography Distinguished Abstract Award for Overseas Congress) 「Circulation」 2018;138:A15629、2018 年 11 月 5 日

Shinouchi K, Ueda Y, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Kosugi S, Iida Y, Toriyama C, Ohashi T, Nakamura M, Fukushima T, Horiuchi K, Mishima T, Abe H, Awata M, Date M, Uematsu M, Koretsune Y: Relation of Chronic Total Occlusion to In-Hospital Mortality in the Patients with Sudden Cardiac Arrest Due to Acute Coronary Syndrome. 「Am J Cardiol」 PII: S0002-9149(19)30322-4. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.amjcard.2019.02.059>、2019 年 2 月 21 日

A-3

安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、堀内恒平、福島貴嗣、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 心肺運動負荷試験 (CPX) が有用と考えられた高齢者大動脈弁狭窄症の一例「Osaka Heart Club」、2018 年 4 月 26 日

B-2

Yasumura K, Abe H, Iida Y, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Nishida H, Idemoto A, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: A New Prognostic Indicator in Patients with Acute Decompensated Heart Failure Including both Ambulatory and Nutritional Statuses. ESC2018、Munich、2018 年 8 月 28 日

Kosugi S, Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Iida Y, Ohashi T, Toriyama C, Nakamura M, Fukuashima T, Horiuchi K, Date M, Uematu M, Koretsune Y, Ueda Y: One and A Half Months After the Implantation of Drug-Coated Stent at the Culprit of Acute Coronary Syndrome. TCT2018、San Diego、2018 年 9 月 21 日

Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Iida Y, Toriyama C, Nakamura M, Kosugi S, Ohashi T, Date M, Uematsu M, Koretsune Y, Ueda Y: Very Early Phase Neoatherosclerosis in Everolimus-Eluting Stent: Angioscopic Finding in Patient. TCT2018、San Diego、2018 年 9 月 21 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama

C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y : Combinations of Mitral Annulus and Aortic Valve Calcifications Detected by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. AHA2018、 Chicago、2018 年 11 月 10 日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Differential Impact of Echocardiographic Inferior Vena Cava Measurements on Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure: Comparison with Preserved and Reduced Left Ventricular Ejection Fraction. AHA2018、 Chicago、2018 年 11 月 10 日

B-3

上松正朗：労務管理からみた循環器内科医師の現状と問題点・循環器医療従事者の働き方改革と心身・行動医学、第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 9 日

上松正朗：心エコーの極意；心エコー図でみえるもの、みえないもの。一般財団法人 日本心エコー図学会 第 15 回秋期講習会、東京、2018 年 10 月 21 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群による心停止患者を救う：CTO 病変に対する PCI の意義。CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 3 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：慢性完全閉塞病変が急性冠症候群による心停止患者の予後に与える影響。 CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 4 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：経胸壁心エコーによる大動脈弁および僧帽弁石灰化の診断：心臓 CT との比較研究。第 29 回日本心エコー図学会学術集会、盛岡市、2018 年 4 月 27 日

彦惣俊吾、小島貴行、Bolrathanak Oeun、中谷大作、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、土肥智晴、世良英子、中本敬、坂田泰史：Characteristics of Elderly HFpEF Patients-Implications from PURSUIT-HFpEF study。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月

29 日

B-4

上松正朗：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後、PCPS が必要となる因子の検討、第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 8 日

上松正朗：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例、第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 8 日

上松正朗：スタチンによる無症候性筋障害を継時的な CPX 結果から鑑別しえた症例、第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 9 日

上松正朗：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流が軽度から重度へ増悪した心不全の一例、第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 9 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Improvement of Left Ventricular Function by Amino Acid Replenishment in Hemodialysis Patients with Reduced Left Ventricular Ejection Fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Influence of Coronary Artery Calcification on Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Patients without History of Coronary Artery Disease. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

Nakamura M, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Iida Y, Toriyama C, Ohashi T, Ozaki T, Kosugi S, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M: Prognostic Impact Differs between Left and Right Ventricular Longitudinal Function in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

Toriyama C, Abe H, Nishida H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Limitations of Left Ventricular Outflow Tract Velocity Time Integral as a Surrogate for Stroke Volume in Preserved Ejection Fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

Shinouchi K, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Iida Y, Ohashi T, Toriyama C,

Ozaki T, Kosugi S, Nishida H, Kato T, Mishima T, Abe H, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Chronic Total Occlusion Dependent on Infarct-related Artery was Associated with In-hospital Mortality of Sudden Cardiac Arrest Acute Coronary Syndrome Patients. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki S, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Calcifications of Mitral Annulus and Aortic Valve by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 経食道心エコー図検査で二重心房中隔に心房中隔欠損症の合併が疑われた一例。第 91 回日本超音波医学会学術集会、神戸市、2018 年 6 月 8 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 大動脈弁石灰化の弁尖数と冠動脈石灰化との関係: 経胸壁心エコーと心臓 C T による研究。第 91 回日本超音波医学会学術集会、神戸、2018 年 6 月 8 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井手本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏: 急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後、P C P S が必要となる因子の検討。第 38 回心筋梗塞研究会、東京都、2018 年 7 月 7 日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬: 安静時酸素摂取量による体組成予測についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

中村雅之、栗田政樹、上田恭敬、伊達基郎、篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏: 血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 8 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松

正朗、是恒之宏：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後，PCPSが必要となる因子の検討。第66回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018年9月8日

加藤大志、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：スタチンによる無症候性筋障害を継時的なCPX結果から鑑別しえた症例。第66回日本心臓病学会学術集会、大阪、2018年9月9日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧房弁逆流が軽度から重度へ増悪した心不全の一例。第66回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018年9月9日

栗田政樹、上田恭敬、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第32回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018年9月9日

小杉隼平、栗田政樹、篠内和也、安部晴彦、三嶋 剛、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性冠症候群の責任病変にdrug-coated stentを留置し、52日後に血管内視鏡で観察し得た一例。第32回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018年9月29日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：冠危険因子の管理された患者の大動脈にプラーク破綻を認めた一例。第32回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018年9月29日

小杉隼平、栗田政樹、篠内和也、安部晴彦、三嶋 剛、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性冠症候群の責任病変にdrug-coated stentを留置し、52日後に血管内視鏡で観察し得た一例。第32回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018年11月16日

篠内和也、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：上行大動脈人工血管置換術後の心嚢液貯留にアスピリンが著効した2例。

第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 16 日

尾崎立尚、栗田政樹、大橋拓也、鳥山智恵子、飯田吉則、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：一過性冠攣縮により虚血性心肺停止をきたした症例の診断に迫る。第 32 回日本冠疾患学会学術集会、熊本市、2018 年 11 月 17 日

山元博義、加藤弘康、国重めぐみ、小杉元宏、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：Prognostic Usefulness and Determinants of Six-minute Walk Distance for Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: From the PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：Short-term Prognostic Predictability of Echocardiographic Cardiac Contractility Parameters: In-sights from PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

玉置俊介、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、福並正剛、坂田泰史：Plasma Volume Status is Useful for Prediction of Change in Nutritional Status during Hospitalization in ADHF Patients with Preserved LVEF. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：Specialized Phenotyping Algorithm for Japanese HFpEF Patients is Needed for the Effective Treatment and Prognostic Estimation: Learnings from PURSUIT-HFpEF Registry. 第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 31 日

西田博毅、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：アミノ酸補充療法は左室収縮能が低下した人工透析心不全患者の左室機能を改善する。第 4 回日本心筋症研究会、奈良、2018 年 6 月 2 日

飯田吉則、安部晴彦、是恒之宏、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、三嶋 剛、篠内和也、井手本明子、加藤大志、安村かおり、西田博毅、尾崎立尚、鳥山智恵子、中村雅之：心肺運動負荷試験における嫌気性代謝閾値ポイントの再現性についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、

2018 年 7 月 14 日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心肺運動負荷試験によりスタチンの無症候性筋障害の存在を指摘しえた症例。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、加藤大志、井出本明子、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右橈骨動脈アプローチの PCI で腕頭動脈の蛇行を避ける方法。CVIT2018、神戸市、2018 年 8 月 2 日

B-5

上松正朗：臨床研究法施行から半年を経て「認定臨床研究審査委員会の立場から」。第 3 回日本臨床薬理学会 近畿地方会、兵庫、2018 年 10 月 27 日

B-6

中村雅之、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、堀内恒平、福島貴嗣、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：エベロリムス溶出性ステント留置 1 年後に血管内視鏡でステントストラットに沿って黄色プラークの増生を認めた一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右橈骨動脈アプローチの PCI で腕頭動脈の蛇行を避ける方法。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：Orsiro SES 留置 1 ヶ月後に血管内視鏡で観察し得た 1 例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した 2 例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した2症例。第43回近畿心血管イメージング研究会、大阪市、2018年10月20日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性心筋梗塞患者と安定狭心症患者における血栓形成能の検討。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

鳥山智恵子、篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：洞停止を契機とした急性心不全治療後に塞栓による急性心筋梗塞を来した1例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

福島貴嗣、安部晴彦、飯田吉則、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：高度僧帽弁閉鎖不全症に対して薬物療法のみに経過観察できた超高齢女性の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、鳥山智恵子、大橋拓也、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流の増悪を確認できた心不全の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

大橋拓也、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、是恒之宏：ペースメーカー植え込み術後慢性期にPacemaker-twiddler's syndrome を認めた一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

堀内恒平、安部晴彦、飯田吉則、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：子宮頸癌でポート留置後に上大静脈から右房内血栓が見つかりリバーロキサバン強化療法が有効であった一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群に対して DES 留置後 3 ヶ月で再狭窄をきたした一例。第 32 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2019 年 2 月 9 日

篠内和也：ACS 患者に DCS 留置し、1 ヶ月半後と 1 年後に血管内視鏡で観察した 1 例。第 11 回近畿血管内視鏡研究会、大阪市、2019 年 2 月 23 日

小杉隼平、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、加藤大志、篠内和也、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心嚢液消退後に機能性僧帽弁逆流と肺高血圧が出現した一例。第 45 回日本超音波医学会関西地方学術集会、神戸市、2018 年 10 月 20 日

中嶋真理子、尾崎立尚、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右心不全増悪を契機に前縦隔悪性腫瘍を診断しえた 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪市、2018 年 9 月 22 日

宮原 智、飯田吉則、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：トルバプタン導入によりループループ利尿薬減量がかなった重症慢性心不全の 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪市、2018 年 9 月 22 日

中村雅之、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、堀内恒平、福島貴嗣、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：エベロリムス溶出性ステント留置 1 年後に血管内視鏡でステントストラットに沿って黄色プラークの増生を認めた一例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右橈骨動脈アプローチの PCI で腕頭動脈の蛇行を避ける方法。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：Orsiro SES 留置 1 ヶ月後に血管内視鏡で観察し得た 1 例。第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018 年 10 月 13 日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した2例。第31回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2018年10月13日

鳥山智恵子、栗田政樹、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、安部晴彦、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右冠動脈起始異常により運動時に致死性不整脈を発症した2症例。第43回近畿心血管イメージング研究会、大阪市、2018年10月20日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性心筋梗塞患者と安定狭心症患者における血栓形成能の検討。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

鳥山智恵子、篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：洞停止を契機とした急性心不全治療後に塞栓による急性心筋梗塞を来した1例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

福島貴嗣、安部晴彦、飯田吉則、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：高度僧帽弁閉鎖不全症に対して薬物療法のみで経過観察できた超高齢女性の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、鳥山智恵子、大橋拓也、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流の増悪を確認できた心不全の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

大橋拓也、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、是恒之宏：ペースメーカー植え込み術後慢性期にPacemaker-twiddler's syndrome を認めた一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

堀内恒平、安部晴彦、飯田吉則、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：子宮頸癌でポート留置後に上大静脈から右房内血栓が見つかりリバーロキサパン強化療法が有効であった一例。第 126 回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018 年 11 月 24 日

篠内和也、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性冠症候群に対して DES 留置後 3 ヶ月で再狭窄をきたした一例。第 32 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中市、2019 年 2 月 9 日

小杉隼平、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、加藤大志、篠内和也、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心嚢液消退後に機能性僧帽弁逆流と肺高血圧が出現した一例。第 45 回日本超音波医学会関西地方学術集会、神戸市、2018 年 10 月 20 日

幹細胞医療研究室

室長 正札智子

【概要】

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）の作製と、iPS 細胞から神経幹細胞（神経系細胞を供給する能力を持つ幹細胞）や、神経系細胞への分化誘導を行い、再生医療や、神経毒性評価系の構築に向けた技術開発、及び疾患の発症メカニズムの研究を行っています。また当センター脳神経外科及び再生医療研究室と共同で、各種脳腫瘍の遺伝子変異解析と、新規腫瘍マーカーの探索を実施しています。

【研究テーマ】

1. 神経疾患原因遺伝子の変異解析と疾患細胞の特性解析

難治性脳形成障害症などの神経疾患をお持ちの患者様より、ゲノム DNA をご提供頂き、疾患を起因する原因遺伝子の変異解析を行っています。また遺伝子変異による疾患発症メカニズムについて、疾患細胞や遺伝子組換え技術を用いて分子的解析を進めています。

2. ヒト iPS 細胞由来神経幹細胞の作製と培養法の検討

神経幹細胞は、自己増殖能と神経系細胞に特化した分化能を保持しながら、長期に維持・培養することができるため、再生医療研究や創薬研究での有用性が高い細胞です。そこで、iPS 細胞から神経幹細胞や神経系細胞を誘導し、再生医療への応用や、神経毒性評価系の構築を目指した研究を行っています。またそれらの細胞について詳細に特性解析を行い、より良い分化誘導法の開発を進めるとともに、安全性や品質の評価方法について検討を行っています。

3. 脳腫瘍患者摘出手術検体の遺伝子解析と新規腫瘍マーカーの探索

大阪医療センター及び近隣施設の神経膠腫の患者様より、摘出腫瘍組織をご提供いただき、発症原因や予後との関連が示唆されている遺伝子の分子診断を行っています。検出された遺伝子変異や異常分子の結果は、診断や治療方針の参考にして戴くために迅速なフィードバックを行っています。また腫瘍組織から樹立し、長期培養に成功した神経膠腫由来細胞の生物学的特性解析を行い、iPS 細胞由来神経幹細胞の腫瘍化リスクの指標となるマーカーの探索を実施しています。また、小児に発症例の多い脳腫瘍である髄芽腫と上室種については、全国より検体を収集して分子診断を行っています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y:

Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. 「Sci Rep」 8(1):11773、2018 年 8 月

Okita Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Kinoshita M, Nonaka M, Nakajima S, Fujinaka T, Kanemura Y: Stereotactic image-based histological analysis reveals a correlation between (11)C-methionine uptake and MGMT promoter methylation in non-enhancing gliomas. 「Oncol Lett」 16(2):1924-1930、2018 年 8 月

Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N, Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y: Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. 「J Neurooncol」 140(2):329-339、2018 年 11 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG): Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 「Acta Neuropathol Commun」 6(1):134、2018 年 12 月

B-3

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Yamashita S, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Takada A, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K: Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 27 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、高田 愛、児玉良典、森 鑑二：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおけるグリオーマゲノム医療体制構築の試み。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、隅田美穂、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、勝間亜沙子、高田 愛、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた中枢神経疾患再生治療法の開発。第 1 回日本再生医療とリハビリテーション学会学術大会 第 5 回再生医療とリハビリテーション研究会、広島市、2018 年 11 月 23 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、市村幸一、佐々木 惇、井上 健、児玉良典、眞能正幸、平戸純子、義岡孝子、原 純一、坂本博昭、西川 亮：髄芽腫の分子亜群分類：国内症例の特徴と今後の方向性．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

梅原 徹、有田英之、吉岡絵麻、正札智子、木下 学、児玉良典、香川尚己、藤本康倫、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、深井順也、藤田浩二、阪本大輔、森 鑑二、貴島晴彦、金村米博：膠芽腫におけるコピー数異常プロファイルの臨床的意義の検討．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

B-4

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、上松右二、中尾直之、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、森鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析．第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、上松右二、中尾直之、森鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析．一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

阿知波孝宗、木嶋教行、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、眞能正幸、香川尚己、藤本康倫、埜中正博、西田南海子、山中 巧、原田敦子、森 鑑二、深井順也、露口尚弘、宇田武弘、石橋謙一、友金祐介、阪本大輔、Michael Taylor、金村米博、貴島晴彦：ALCAM の髄芽腫 WNT subgroup における発現と浸潤性への関与．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

牧野恭秀、荒川芳輝、吉岡絵麻、正札智子、金村米博、安田崇之、山尾幸広、丹治正大、峰晴陽平、菊池隆幸、宮本 亨：神経膠腫の分子生物学的分類と予後の検討．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、埜中正博、石橋謙一、佐々木貴浩、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、埜中正博、岩田亮一、深井順也、井上明宏、沖田典子、川端信司、篠山隆司、田中一寛、露口尚弘、川嶋俊幸、藤田 貢、阿知波孝宗、梅原 徹、樋口裕一郎、末水洋志、森 鑑二、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特性の検討と patient derived xenograft バンク確立の試み．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、山本篤世、山口 亮、峯 裕、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた亜急性期脳梗塞再生治療法の開発。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

福角勇人、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来分化神経細胞の薬剤感受性評価。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、隅田美穂、野崎佑衣、勝間亜沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の培養工程で発生する染色体核型異常の特徴。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、隅田美穂、勝間亜沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：デジタル PCR を用いたゲノムコピー数異常検出システムの検証。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

再生医療研究室

金村米博

【概要】

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっています。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施しています。また、悪性脳腫瘍の新規診断・治療法開発を目標に、分子遺伝学的解析を実施しています。

【主な研究テーマ】

1. 治療用ヒト細胞培養プロセスの開発

治療に使用する各種ヒト細胞を培養・加工するヒト細胞培養専用施設（セルプロセッシングセンター）の管理・運用を担当し、セルプロセッシングセンター内でのヒト細胞培養プロトコルの開発を行っています。また、細菌・真菌検査や遺伝子検査などを組み込んだ治療用ヒト細胞の品質検査法の開発などを行なっています。

2. 医療用ヒト幹細胞の品質管理技術の開発

再生医療に使用する細胞として、組織幹細胞であるヒト神経幹細胞および間葉系幹細胞さらにヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞などを主な研究対象として、細胞増殖能、染色体構造、細胞表面マーカー発現様式、細胞分化能等を詳細に解析してこれら細胞の生物学的特性を明らかにし、医療応用するための細胞の品質管理に必要な項目の策定とその検査方法の開発を行っています。

3. ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索

ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を主に使用して、各種薬剤の毒性評価をハイスループットで評価するシステムの開発を行っています。また、ヒト神経前駆細胞やグリオーマ幹細胞を標的とする新規治療薬候補化合物の探索を実施しています。

4. 悪性脳腫瘍の分子遺伝学的解析

悪性グリオーマを対象として、関西地域を中心とした 50 以上の医療機関で構成される「関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク」を主宰し、脳腫瘍検体レジストリーを行い、WHO 分類に基づく中央遺伝子診断の実施と、大規模症例を用いた悪性グリオーマの分子遺伝学的特性解析を実施しています。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Shigemizu D, Miya F, Akiyama S, Okuda S, Boroevich KA, Fujimoto A, Nakagawa H, Ozaki K, Niida S, Kanemura Y, Okamoto N, Saitoh S, Kato M, Yamasaki M, Matsunaga T, Mutai H, Kosaki K, Tsunoda T: IMSindel: An accurate intermediate-size indel detection tool incorporating de novo assembly and gapped global-local alignment with split read analysis. 「Sci Rep」 8(1):5608、2018 年 4 月

Zhu D, Osuka S, Zhang Z, Reichert ZR, Yang L, Kanemura Y, Jiang Y, You S, Zhang H, Devi NS, Bhattacharya D, Takano S, Gillespie GY, Macdonald T, Tan C, Nishikawa R, Nelson WG, Olson JJ, Van Meir EG: BAI1 Suppresses Medulloblastoma Formation by Protecting p53 from Mdm2-Mediated Degradation. 「Cancer Cell」 33(6):1004-1016.e5、2018 年 6 月

Fujita Y, Kinoshita M, Ozaki T, Kitamura M, Nakatsuka SI, Kanemura Y, Kishima H. Enlargement of papillary glioneuronal tumor in an adult after a follow-up period of 10 years: a case report. 「J Surg Case Rep」 2018(6):rjy123、2018 年 6 月

Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y: Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. 「Sci Rep」 8(1):11773、2018 年 8 月

Okita Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Kinoshita M, Nonaka M, Nakajima S, Fujinaka T, Kanemura Y: Stereotactic image-based histological analysis reveals a correlation between (11)C-methionine uptake and MGMT promoter methylation in non-enhancing gliomas. 「Oncol Lett」 16(2):1924-1930、2018 年 8 月

Hori I, Miya F, Negishi Y, Hattori A, Ando N, Boroevich KA, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S: A novel homozygous missense mutation in the SH3-binding motif of STAMBP causing microcephaly-capillary malformation syndrome. 「J Hum Genet」 63(9):957-963、2018 年 9 月

Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N, Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y: Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai

Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. 「J Neurooncol」 140(2):329-339、2018 年 11 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG): Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 「Acta Neuropathol Commun」 6(1):134、2018 年 12 月

Eino D, Tsukada Y, Naito H, Kanemura Y, Iba T, Wakabayashi T, Muramatsu F, Kidoya H, Arita H, Kagawa N, Fujimoto Y, Takara K, Kishima H, Takakura N: LPA4-Mediated Vascular Network Formation Increases the Efficacy of Anti-PD-1 Therapy against Brain Tumors. 「Cancer Res」 78(23):6607-6620、2018 年 12 月

Tsuiji O, Sugai K, Yamaguchi R, Tashiro S, Nagoshi N, Kohyama J, Iida T, Ohkubo T, Itakura G, Isoda M, Shinozaki M, Fujiyoshi K, Kanemura Y, Yamanaka S, Nakamura M, Okano H: Concise Review: Laying the Groundwork for a First-In-Human Study of an Induced Pluripotent Stem Cell-Based Intervention for Spinal Cord Injury. 「Stem Cells」 37(1):6-13、2019 年 1 月

Yamasaki M, Kanemura Y: X-Linked Hydrocephalus. 「Textbook of Pediatric Neurosurgery」 (Editors: Di Rocco, Concezio, Pang, Dachling, Rutka, James T.)、P.1-14、Springer International Publishing Copyright Holder Springer Nature Switzerland AG、First Online: 2017 年 7 月

A-4

金村米博、岡野栄之:第2節 細胞・組織利用再生医療製品の開発 第6項 神経細胞「バイオロジクスの開発と品質・安全性確保 下巻」(早川堯夫 監修)、P.284-298、株式会社エル・アイ・シー、2018 年 12 月 26 日

B-1

Kanemura Y: Adoptive T-cell immunotherapy using autologous lymphokine-activated alpha beta T-cells improves Temozolomide-induced lymphopenia in patients with glioma. 22nd International Conference on Brain Tumor Research and Therapy, Bergen,

Norway, 2018 年 6 月 26 日

Kanemura Y: New molecular marker and sub prognostic group. SIOP/PROS 2018 Congress and PROS Educational day, Kyoto, Japan, 2018 年 11 月 15 日

B-3

Kanemura Y: Differentiation method of human iPS cells derived neurons and evaluation of their maturation level. 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会合同年会、神戸市、2018 年 9 月 6 日

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Yamashita S, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Takada A, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K: Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 27 日

Kanemura Y (指定討論者): "Pediatric invasive glioma・DIPG""The molecular genetics of pediatric low-grade gliomas: Incidence, prognosis and response to therapy" Lecture: Cynthia E. Hawkins, 第 5 回国際脳腫瘍病理シンポジウム、箱根、2018 年 9 月 28 日

藤中俊之、木嶋教行、沖田典子、寺田栄作、中川僚太、館 哲郎、村上皓紀、金村米博、中島 伸: 大型脳動脈瘤に対する Flow diverter を用いた血管内治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

梅原 徹、有田英之、吉岡絵麻、正札智子、木下 学、児玉良典、香川尚己、藤本康倫、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、深井順也、藤田浩二、阪本大輔、森 鑑二、貴島晴彦、金村米博: 関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおける初発膠芽腫の遺伝子異常。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

木下 学、平田岳郎、有田英之、香川尚己、金村米博、下瀬川恵久、橋本直哉、畑澤順、貴島晴彦、手島昭樹、小川和彦: 悪性神経膠腫の放射線治療計画におけるメチオニン/FDG ダブルトレーサー解析の有用性と MRI による治療計画の諸問題について。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

有田英之、大野 誠、中村大志、田村 郁、三宅勇平、齊藤邦昭、田中将太、樋口英未、沖田典子、深井順也、宇田武弘、森 鑑二、阪本大輔、貴島晴彦、小森隆司、永根基雄、植木敬介、西川 亮、金村米博、成田善孝、市村幸一: IDH 変異型腫瘍における TERT 変異と 1p/19q 共欠失の予後因子としての意義。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、高田 愛、児玉良典、森 鑑二：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークにおけるグリオーマゲノム医療体制構築の試み．一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

金村米博：NHO における臨床研究法の取り組みについて－認定臨床研究審査委員会の委員長の立場から－．第 72 回国立病院総合医学会、神戸市、2018 年 11 月 9 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、隅田美穂、吉岡絵麻、山本篤世、半田有佳子、勝間亜沙子、高田 愛、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた中枢神経疾患再生治療法の開発．第 1 回日本再生医療とリハビリテーション学会学術大会 第 5 回再生医療とリハビリテーション研究会、広島市、2018 年 11 月 23 日

金村米博、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、市村幸一、佐々木 惇、井上 健、児玉良典、眞能正幸、平戸純子、義岡孝子、原 純一、坂本博昭、西川 亮：髄芽腫の分子亜群分類：国内症例の特徴と今後の方向性．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

梅原 徹、有田英之、吉岡絵麻、正札智子、木下 学、児玉良典、香川尚己、藤本康倫、沖田典子、埜中正博、宇田武弘、深井順也、藤田浩二、阪本大輔、森 鑑二、貴島晴彦、金村米博：膠芽腫におけるコピー数異常プロファイルの臨床的意義の検討．第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

B-4

梅原 徹、有田英之、香川尚己、藤本康倫、金村米博、貴島晴彦：「再発」グリオーマの系統解析～IDH1 変異が「消失」した症例の改正より～．第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、上松右二、中尾直之、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析．第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

西川真弘、井上明宏、高野昌平、大上史朗、北澤理子、矢野 元、金村米博、田中潤也、大西丘倫、國枝武治：膠芽腫における部位特異的な腫瘍幹細胞の発現解析．第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

有田英之、大野 誠、中村大志、田村 郁、三宅勇平、齊藤邦昭、田中將太、樋口 英未、金村米博、市村幸一：IDH 変異型腫瘍における TERT 変異と 1p/19q 共欠失の予後因子としての意義の比較．第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 25 日

有田英之、梅原 徹、香川尚己、藤本康倫、森井英一、金村米博、貴島晴彦：1p/19q 共欠失と TP53 変異を併せ持つ神経膠腫の分子遺伝学的検討。第 36 回日本脳腫瘍病理学会学術集会、東京都、2018 年 9 月 26 日

木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、舘 哲郎、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：コイル塞栓術に適した中大脳動脈瘤についての検討と治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

寺田栄作、村上皓紀、中川僚太、舘 哲郎、木嶋教行、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：Flow Diverter を用いて再治療を行った血管内治療後再発大型内頸動脈瘤の 8 症例。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 10 日

西川真弘、井上明宏、高野昌平、大上史朗、矢野 元、松本 調、末廣 諭、山下大介、尾崎沙耶、渡邊英昭、金村米博、田中潤也、大西丘倫、國枝武治：膠芽腫 Invasion niche に残存する腫瘍幹細胞の発現および機能解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

舘 哲郎、木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：頭部外傷における静脈病変の重要性。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

中川僚太、木嶋教行、石田健一郎、村上皓紀、舘 哲郎、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：頭部外傷による血管損傷スクリーニングの有用性。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 11 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床・病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。一般社団法人日本脳神経外科学会第 77 回学術集会、仙台市、2018 年 10 月 12 日

宮 冬樹、重水大智、金村米博、齋藤伸治、岡本伸彦、加藤光広、松永達雄、務台英樹、小崎健次郎、角田達彦：exome 解析による疾患原因変異探索の限界を突破するための手法の検証。日本人類遺伝学会第 63 回大会、横浜市、2018 年 10 月 11 日

加藤耕治、宮 冬樹、浜田奈々子、根岸 豊、岸本洋子、小沢 浩、伊東秀記、堀いくみ、服部文子、岡本信彦、加藤光広、角田達彦、金村米博、小崎健次郎、高橋義行、永田浩一、齋藤伸治：MYCN の新生機能獲得型変異は新規の巨脳症症候群の原因となる。日本人類遺伝学会第 63 回大会、横浜市、2018 年 10 月 12 日

阿知波孝宗、木嶋教行、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、眞能正幸、香川尚己、藤本康倫、埜中正博、西田南海子、山中 巧、原田敦子、森 鑑二、深

井順也、露口尚弘、宇田武弘、石橋謙一、友金祐介、阪本大輔、Michael Taylor、金村米博、貴島晴彦：ALCAM の髄芽腫 WNT subgroup における発現と浸潤性への関与。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

有田英之、梅原 徹、阿知波孝宗、木下 学、香川尚己、金村米博、貴島晴彦：1p/19q 共欠失と TP53 変異を併せ持つ神経膠腫の分子遺伝学検討。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

牧野恭秀、荒川芳輝、吉岡絵麻、正札智子、金村米博、安田崇之、山尾幸広、丹治正大、峰晴陽平、菊池隆幸、宮本 亨：神経膠腫の分子生物学的分類と予後の検討。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 2 日

深井順也、児玉良典、廣瀬隆則、正札智子、兼松大介、吉岡絵麻、沖田典子、友金祐介、木下 学、泉本修一、有田英之、森内秀祐、露口尚弘、寺川雄三、宇田武弘、中島義和、西田南海子、埜中正博、石橋謙一、佐々木貴浩、藤田浩二、上松右二、中尾直之、森 鑑二、金村米博：高齢者低悪性度神経膠腫の臨床病理像：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク登録症例の解析。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

木嶋教行、兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、半田有佳子、森内秀祐、埜中正博、岩田亮一、深井順也、井上明宏、沖田典子、川端信司、篠山隆司、田中一寛、露口尚弘、川嶋俊幸、藤田 貢、阿知波孝宗、梅原 徹、樋口裕一郎、末水洋志、森 鑑二、金村米博：グリオーマ初代培養確立株の特性の検討と patient derived xenograft バンク確立の試み。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

香川尚己、橋本直哉、福屋章悟、相原英夫、篠山隆司、國枝武治、中田光俊、北井隆平、深井順也、木下 学、金村米博、児玉良典、森田智視、阿知波孝宗、有田英之、藤本康倫、貴島晴彦：初発膠芽腫における carmustine wafers 留置と再発時摘出後再留置の有効性と安全性。第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会、小田原市、2018 年 12 月 3 日

金村米博、正札智子、福角勇人、兼松大介、山本篤世、山口 亮、峯 裕、中村雅也、岡野栄之：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた亜急性期脳梗塞再生治療法の開発。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

福角勇人、半田有佳子、正札智子、金村米博：ヒト iPS 細胞由来分化神経細胞の薬剤感受性評価。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

兼松大介、正札智子、吉岡絵麻、隅田美穂、野崎佑衣、勝間亜沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞の培養工程で発生する染色体核型異常の特徴。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、隅田美穂、勝間重沙子、山本篤世、半田有佳子、福角勇人、中村雅也、岡野栄之、金村米博：デジタル PCR を用いたゲノムコピー数異常検出システムの検証。第 18 回日本再生医療学会総会、神戸市、2019 年 3 月 22 日

B-6

宮田真友子、羽柴哲夫、磯崎春菜、李 一、亀井孝昌、岩田亮一、島田志行、吉村晋一、埜中正博、浅井昭雄、金村米博：結節性硬化症の診断過程において無症候性に発見された悪性神経膠腫の一例。第 75 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第 77 回近畿脊椎外科研究会 合同開催 Neurosurgery Kinki 2018 Spring Meeting、豊中市、2018 年 4 月 7 日

館 哲郎、木嶋教行、寺田栄作、中川僚太、村上皓紀、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：雷鳴頭痛と失語症で発症し、多発皮質性くも膜下出血を認めた可逆性脳血管収縮症候群の 1 例。第 76 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第 5 回日本神経血管内治療学近畿地方会 Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting、豊中市、2018 年 9 月 8 日

中川僚太、木嶋教行、村上皓紀、館 哲郎、寺田栄作、沖田典子、金村米博、中島伸、藤中俊之：外傷性後交通動脈解離に対して血管内治療を行った 1 例。第 76 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 第 5 回日本神経血管内治療学近畿地方会 Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting、豊中市、2018 年 9 月 8 日

B-8

金村米博：小児脳腫瘍の遺伝子診断と治療法選択への応用。日本放射線腫瘍学会小児がん講演会、神戸市、2018 年 9 月 15 日

分子医療研究室

上松正朗

分子医療研究室では多施設共同研究として難治性脳形成障害症の診断基準作成及び新規治療法開発に向けた病態解析研究を支援する臨床病態、画像情報、遺伝子情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）などのデータバンク構築を実施中である。研究組織で独自に構築したデータサーバー難治性脳形成障害症（fetal brain malformation 以下 FBM）（<http://fms.fetal-brain-malformation.jp>）を使用して、2009 年 12 月～2018 年 11 月までの期間で、症例登録協力施設 48 施設から 451 件が登録された。48 施設から提供された DNA 試料 588 検体、培養細胞試料 299 検体を分離・樹立し保管した。エキスパートによる画像診断、病理診断、そして標的遺伝子のみならず次世代シーケンサーを駆使した遺伝子解析を施行した。その結果、約 260 例で確定診断が得られた。幹細胞研究室と共同で、患者由来試料から分離した線維芽細胞、神経幹細胞、間葉系細胞（臍帯由来）、血液細胞の特性解析を行い、並行してそれら細胞から疾患 iPS 細胞の樹立を実施し、その特性解析を実施している。

これら研究成果は、FBM の遺伝子診断のみならず分子病態解析、予防法の確立、新規治療法開発の研究に大きく貢献するものである。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Shigemizu D, Miya F, Akiyama S, Okuda S, Boroevich KA, Fujimoto A, Nakagawa H, Ozaki K, Niida S, Kanemura Y, Okamoto N, Saitoh S, Kato M, Yamasaki M, Matsunaga T, Mutai H, Kosaki K, Tsunoda T: IMSindel: An accurate intermediate-size indel detection tool incorporating de novo assembly and gapped global-local alignment with split read analysis. 「Sci Rep」 8(1):5608、2018 年 4 月

Hori I, Miya F, Negishi Y, Hattori A, Ando N, Boroevich KA, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S: A novel homozygous missense mutation in the SH3-binding motif of STAMBP causing microcephaly-capillary malformation syndrome. 「J Hum Genet」 63(9):957-963、2018 年 9 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M,

Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG): Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors. 「Acta Neuropathol Commun」 6(1):134、2018 年 12 月

A-2

Yamasaki M, Kanemura Y: X-Linked Hydrocephalus. 「Textbook of Pediatric Neurosurgery」 (Editors: Di Rocco, Concezio, Pang, Dachling, Rutka, James T.)、P.1-14、Springer International Publishing Copyright Holder Springer Nature Switzerland AG、First Online: 2017 年 7 月

エイズ先端医療開発室

エイズ先端医療研究部長 白阪琢磨

エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室と HIV 感染制御研究室から構成されている。

当院は薬害 HIV 裁判の和解に基づく恒久対策の一環として、平成 9 年にエイズ診療における近畿ブロックのブロック拠点病院に選定され、診療(全科対応体制)、臨床研究、教育・研修、情報発信の 4 機能を担っている。院内設置の HIV/AIDS 先端医療開発センターが関連部署と緊密な連携を取り任務を遂行している。HIV 感染症の専門的診療は感染症内科が担い、他の機能はエイズ先端医療研究部がコーディネートしている。臨床研究では厚生労働行政推進調査事業費補助金によるエイズ対策政策研究事業(平成 30 年度は指定研究「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者 白阪琢磨)、指定研究「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」(研究分担者 渡邊大))などを実施し、臨床研究の主なテーマとして HIV 感染症の病態解析や治療に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究に取り組んでいる。平成 30 年度の独立行政法人国立病院機構の NHO ネットワーク共同研究課題として、「感染早期患者に対する MVC による強化療法の効果に関する研究(H29-NHO(エイズ)-01)」(研究代表者 白阪琢磨)の研究を遂行した。血液製剤による感染者の多くは加齢に伴う長期療養が重大な課題となっており、厚生労働行政推進調査事業費補助金によるエイズ対策政策研究事業「非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究」班の研究分担(消化器内科 三田英治)を担当し研究協力も行っている。重複感染の C 型肝炎に対しては厚生労働行政推進調査事業費補助金によるエイズ対策政策研究事業指定研究班(江口班(研究分担者 上平朝子))の研究分担を担当している。教育・研修では院外向けと共に、院内での研修については、看護部、医療相談室、臨床心理室等と共に職員研究部と協働で実施し、多くの参加者を得ている。これらの研究成果は学会あるいは論文として発表した。情報発信については当院のホームページ内に HIV/AIDS 先端医療開発センター(<https://osaka.hosp.go.jp/khac/>)を設け、厚労科研の成果の一部(HAART Support)や HIV 感染症/AIDS に関する情報を発信しており、ホームページは 1999 年に開設以来アクセス数は 71 万件を超え、多くの方の利用を得ている。

平成 25 年 4 月には大阪大学大学院医学系研究科の連携大学院(エイズ先端医療学)が併設され、平成 26 年度から 1 名の大学院生を受け入れた。

今後も、HIV/AIDS 先端医療開発センターの研究部門として HIV 感染症/AIDS に関する臨床研究、教育・研修、情報発信を進め、特に急性感染期の HIV 感染症の診断と治療を新たなテーマとして研究を推進して行きたい。

【2018 年度研究業績発表】

A-0

Koizumi Y, Imadome KI, Ota Y, Minamiguchi H, Kodama Y, Watanabe D, Mikamo H, Uehira T, Okada S, Shirasaka T : Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. 「J Clin Immunol.」 38(4):478-483、2018 May

Yonemura T, Okada N, Sagane K, Okamiya K, Ozaki H, Iida T, Yamada H, Yagura H : Effects of Milk or Apple Juice Ingestion on the Pharmacokinetics of Elvitegravir and Cobicistat in Healthy Japanese Male Volunteers: A Randomized, Single-Dose, Three-Way Crossover Study. 「Clin Pharmacol Drug Dev. 」 7(7):737-743. 2018 Sep、Epub 2018 Jan 24

Yotsumoto M, Ito Y, Hagiwara S, Terui Y, Nagai H, Ota Y, Ajisawa A, Uehira T, Tanuma J, Ohyashiki K, Okada S : HIV positivity may not have a negative impact on survival in Epstein-Barr virus-positive Hodgkin lymphoma: A Japanese nationwide retrospective survey. 「Oncol Lett.」 16(3):3923-3928、2018 Sep、Epub 2018 Jul 11

Watanabe D, Uehira T, Suzuki S, Matsumoto E, Ueji T, Hirota K, Minami R, Takahama S, Hayashi K, Sawamura M, Yamamoto M, Shirasaka T : Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study. 「BMC Infect Dis.」 19(1):11、2019 Jan 5

Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E : Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. 「Hepatology Research」 Epub ahead of print 2019 Jan 17

A-3

治田匡平、市田裕之、石樋康浩、宇高歩、日笠真一、尾崎淳子、大槻真央、矢倉裕輝、吉野宗宏、古西満、杉山幸正：外来 HIV 感染症診療における薬剤師介入に対する患者評価「医療薬学」45(1):44-53、2019 年

A-4

白阪琢磨：Hand in Hand～HIV 治療と精神科の連携～No.20『急がれるエイズ治療拠点病院と地域の精神科との連携』「コリウス」Vol.20、2018 年 4 月 20 日

白阪琢磨：逆転写酵素阻害薬 HIV-1 reverse transcriptase inhibitors「医学のあゆみ」265(7) P.557-561、2018 年 5 月 19 日発行

白阪琢磨：ガイドライン改訂の Points『DHHS ガイドライン改訂のポイント』「HIV 感染症と AIDS の治療 2018 年 5 月号」9(1) P.11-19、2018 年 5 月

白阪琢磨：topics「エイズ診療」について「皮膚病診療 2018 年 10 月号」40(10)P.974-982、株式会社協和企画、2018 年 10 月

白阪琢磨：HIV 感染防ぐのにゲノム編集は必要？専門家に聞く「朝日新聞デジタル」、2018 年 12 月 7 日

白阪琢磨：HIV 治療薬『より相互作用の少ない薬剤開発を』『日刊薬業(web/紙面)」、2018 年 12 月 7 日

白阪琢磨：抗 HIV 薬「治療薬ハンドブック 2019」、株式会社じほう、2019 年 1 月

西田恭治：血友病保因者と女性血友病「日本血栓止血学会誌」29(6)：P687-690、一般社団法人日本血栓止血学会、2018 年 12 月 1 日

来住知美：慢性疾患「治療 おとなのワクチン」100(8):948-951、南山堂、2018 年 8 月 1 日

A-5

矢倉裕輝、大石裕樹、森本清香、富島公介、櫛田宏幸、吉野宗宏、佐光留美、土井敏行、林稔展、山脇一浩、西野隆、山崎邦夫：外来 HIV 感染症診療での抗 HIV 薬の開始、変更時における薬剤師介入が患者へもたらす効果に関するアンケート調査「医療」72(6): 282-286、2018 年

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の薬物動態および製剤学的観点からの適正使用に関する研究「日本エイズ学会誌」20. 124-131、2018 年

渡邊 大：TAF の安全性評価「第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー6）記録集」2018 年 8 月

松下修三、岡 慎一、鯉渕智彦、渡邊 大：多様化する HIV 患者と 1 日 1 回投与のアイセントレス®の位置付けを含んだ ART の最適化「アイセントレス®錠 600mg 発売記念座談会記録集」2018 年 10 月

白阪琢磨：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 30 年度研究報告書、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究」平成 30 年度研究報告書、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する

研究」平成 30 年度研究報告書、P.82-86、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」総合研究報告書、P.111-117、2019 年 3 月 31 日

白阪琢磨：エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究。公益財団法人友愛福祉財団委託事業「エイズ発症予防に資するための血液製剤による HIV 感染者の調査研究」平成 30 年度報告書、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.58-61、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 検査受検勧奨に関する研究」総合研究報告書、P.71-74、2019 年 3 月 31 日

上平朝子：重複感染者の過去のデータ解析（肝線維化及び発癌について）。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者の肝移植に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.16-18、2019 年 3 月 31 日

渡邊 大：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.54-57、2019 年 3 月 31 日

安尾利彦、西川歩美、水木薫：HIV 陽性者の心理的問題点と対策の検討。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究」平成 30 年度研究報告書、P.28-31、2019 年 3 月 31 日

A-6

矢倉裕輝：Evidence Update 2019 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する 抗ウイルス薬「薬局」70（1）P.127-131、南山堂、東京、2019 年 1 月 5 日

矢倉裕輝：HIV 治療時に遭遇する薬物相互作用「月刊薬事」61（4）P.657-662、じほう、東京、2019 年 3 月 1 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T: Association of tenofovir level and discontinuation due to impaired renal function. HIV Drug Therapy Glasgow 2018, Glasgow, 2018 年 10 月 29

日

B-3

渡邊 大：長期管理時代における TAF の役割 TAF の安全性評価。第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会、岡山、2018 年 5 月 31 日

白阪琢磨：Hemodialysis of people with HIV infection。第 63 回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、2018 年 6 月 29 日

矢倉裕輝：これから HIV 診療に取り組む方々へ薬剤師の立場から（アドヒアランス向上のために）。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 2 日

富島公介、大石裕樹：耐性ウイルス発現症例に対する ART レジメンの提案。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

西川歩美：心理士からみた HIV 陽性者の受診中断の背景に関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

上平朝子：HIV 感染症の最新治療。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

西田恭治：血友病診療の現状と薬剤師が果たすべき役割。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

渡邊 大：「抗 HIV 薬の薬物動態、薬剤間相互作用と薬剤耐性」～PK/PD/PG のアプローチからウイルス学的失敗ゼロを目指す～ 薬剤耐性 HIV の臨床経験と抗 HIV 薬の薬物動態。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝：「抗 HIV 薬の薬物動態、薬剤間相互作用と薬剤耐性」～PK/PD/PG のアプローチからウイルス学的失敗ゼロを目指す～ 血中濃度測定およびその評価について。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

安尾利彦：長期療養におけるコミュニケーションの重要性。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝：血友病診療の現状と薬剤師が果たすべき役割。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝：服アド手帖にみる ART と服薬支援のいま・むかし。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

西田恭治：HIV 感染の歴史から学ぶ世界の血液製剤供給。第 32 回日本エイズ学会

学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

上平朝子：CRE のアウトブレイク対策。第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会、神戸、2019 年 2 月 22 日

B-4

上地隆史：Campylobacter jejuni 菌血症と Helicobacter cinaedi 菌血症の臨床的・細菌学的検討。第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018 年 6 月 1 日

伊熊素子、西田恭治、山本雄大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：血友病個別化治療時代におけるアルブトレペノナコグアルファによる 4 週間隔定期補充療法の可能性。第 40 回日本血栓止血学会学術集会、札幌、2018 年 6 月 29 日

白阪琢磨：HIV 感染症の診断と治療－HIV 感染症の治癒は可能か？。日本臨床検査自動化学会第 50 回大会、神戸、2018 年 10 月 13 日

白阪琢磨：てんかんと服薬アドヒアランス 他領域に学ぶ服薬アドヒアランス「HIV 患者における現状と問題点。第 52 回日本てんかん学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 27 日

上平朝子：院内感染アウトブレイク！当院における CPE アウトブレイクの現状と対策。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

富田朋子：総合病院における全科対応の臨床心理室としての取り組み。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：初回治療におけるエルビテグラビル/コピシスタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の治療成績。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

白阪琢磨：性感染症の課題－HIV 感染症と梅毒－。日本性感染症学会第 31 回学術大会、東京、2018 年 11 月 25 日

廣田和之、山本雄大、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、上地隆史、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：溶血性貧血を契機に多中心性キャスルマン病と診断された HIV 感染者の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

小島洋子、川畑拓也、森 治代、木村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドックにおける HIV 検査の

現状調査。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

東 政美、中濱智子、下司有加、武部美紀、伊藤文代、白阪琢磨：生活習慣病を併発している HIV 陽性者の生活習慣の改善に対する意識変化。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

水木薫、安尾利彦、西川歩美、白阪琢磨：HIV 陽性者の行動面の障害を伴う問題の心理的背景に関する研究。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

白阪琢磨：ゼロを目指して—今、できること。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

白阪琢磨、橋本修二、川戸美由紀、大金美和、岡本 学、渦永博之、日笠聡、福武勝幸、八橋 弘、岡慎一：血液製剤による HIV 感染者の調査成績第 1 報 健康状態と生活状況の概要。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉：HIV 関連神経認知障害（HAND）と脳構造。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：細胞性免疫能が低下した HIV-1 感染者における LDH と β -D グルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、白阪琢磨：自発検査で判明した新規 HIV 感染者の受検動機。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：TDF から TAF に変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：当院の 2 剤レジメンの現状。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、上平朝子、白阪琢磨：新規抗痙攣薬に変更を行うことで抗 HIV 薬との相互作用が回避できた 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術

集会、大阪、2018 年 12 月 3 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ラルテグラビル/エトラビル/ダルナビル/リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST 合剤で薬疹、ペンタミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

山本雄大、伊熊素子、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ニューモシスチス肺炎に肺ノカルジア症を合併した後天性免疫不全症候群の 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

北島平太、廣田和之、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法後に肝臓及び脾臓の病変増悪を認めた肺結核の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

青木理恵子、織田幸子、白野倫徳、松浦基夫、外川正夫、谷口春記、来住知美、宇高 歩、今井由三代、林 滋：女性 HIV 陽性者交流会を通じたエンパワメント。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

毛受矩子、来住知美、高野正子：大阪検査相談・啓発・支援センターにおける動向と女性の HIV 含む性感染症の動向。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久：エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、潟永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：当院における

抗 HIV 療法施行患者のポリファーマシーに関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018 年 12 月 4 日

B-5

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の TDM と PK/PD/PG。第 66 回日本化学療法学会西日本支部総会、鹿児島、2018 年 11 月 18 日

矢倉裕輝：HIV 感染症の外来診療における薬剤師の役割。第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、奈良、2019 年 1 月 20 日

東 政美：チーム医療における連携～看護師の立場から～。日本病院薬剤師会近畿学術大会、奈良、2019 年 1 月 20 日

B-6

渡邊 大、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法中の HIV 感染者における細胞内 HIV-1-DNA 量の測定法間の差異に関する検討。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

川畑拓也、小島洋子、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：健診センター・人間ドック施設における HIV 検査の現状に関するアンケート調査結果。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

東 政美、中本弘香、増田雅子：HIV/AIDS に関する知識習得に向けた情報発信の効果。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

上地隆史：国内外の HIV/AIDS 診療の状況について。第 37 回びわ湖国際医療フォーラム、大津、2018 年 7 月 28 日

白阪琢磨：HIV 感染症は治療で感染を防止できます。第 91 回大阪透析研究会、大阪、2018 年 9 月 2 日

中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018 年 10 月 25 日

廣田和之、上地隆史、北島平太、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子：両側内因性眼内炎で失明に至った糖尿病患者の一例。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018 年 10 月 25 日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨：大阪のエイズ診療ブロック拠点病院における A 型急性肝炎の流行。第 88 回日本感染症学会西日本地方会学術集会、鹿児島、

2018年11月17日

B-7

渡邊 大: プレジコビックス®配合錠によって何が変わったか? ~発売後1年を経過して~。HIV Web Conference、2018年4月18日

上平朝子: 受診中断患者への対応。平成30年度北海道HIV/AIDS医療者研修会(第29回北海道HIV臨床カンファレンス)、札幌、2018年6月16日

渡邊 大: HIV感染者の病態と考えるべき課題ー最近の話題。HIV感染症学術講演会ーアイセントレス®10年の軌跡ー、大阪、2018年6月24日

白阪琢磨: 抗HIV薬の変革と将来~アイセントレスへの期待~。アイセントレス東京学術講演会、東京、2018年7月11日

白阪琢磨: HIV感染症 インテグラーゼ阻害薬が果たした役割~今後の展望~。近畿フロンティア研究会、大阪、2018年7月14日

渡邊 大: 抗HIV薬の最新動向ー治療の最新動向、診療ガイドライン、PreP、TasPなどー。2018年度相談事業相談員研修、大阪、2018年7月15日

白阪琢磨: 抗HIV療法の進歩はHIVの驚異的変異のスピードを凌駕したか?。第20回白馬シンポジウムin屋久島、鹿児島、2018年9月5日

富島公介: 知っておくべき抗 HIV 療法と日和見感染症・性感染症への対応。関西 HIV 臨床カンファレンス、大阪、2018 年 10 月 27 日

西田恭治: セッション 4。エイフスチラ発売 1 周年記念講演会、東京、2018 年 11 月 24 日

上平朝子: HIV陽性者のこれから 高齢化とエンディング。第10回沖縄HIV臨床カンファレンス、沖縄、2019年2月2日

中内崇夫: 肺結核で AIDS 発症した 1 例。関西 HIV 臨床カンファレンス、大阪、2019 年 2 月 16 日

渡邊 大: 大阪医療センターの診療経験から考えるHIV診療の未来。平成30年度宮崎県エイズ研修会、宮崎、2019年3月2日

白阪琢磨: 今後の HIV 診療の期待と課題~2 剤併用療法 (GEMINI 試験) に HIV 治療にどう活かすべきか~。ViiV HIV Update 2019、大阪、2019 年 3 月 30 日

B-8

伊熊素子：HIV 及び感染症全般について。奈良市歯科医師会 学術講演会、奈良、2018 年 4 月 5 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題。青森県血友病ケアセミナー、青森、2018 年 4 月 7 日

白阪琢磨：概論。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 4 月 19 日

上地隆史：RTV と COBI の相互作用の違いと DRV/c 製剤への切替メリット。HIV Expert Meeting、東京、2018 年 4 月 21 日

矢倉裕輝：ドルテグラビルの薬理特性と服薬相談の実際。第 3 回 ViiV HIV Webinar 2018、大阪、2018 年 4 月 24 日

矢倉裕輝：当院における抗 HIV 薬の処方トレンドについて。第 7 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2018 年 5 月 12 日

西田恭治：血友病と薬害エイズ。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 5 月 31 日

富島公介：HIV と服薬指導。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 5 月 31 日

白阪琢磨：HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府平成 30 年度 HIV/AIDS 基礎研修、大阪、2018 年 6 月 1 日

西田恭治：血友病保因者の諸問題－医療者は気付きを、保因者は自覚を－。平成 30 年ゆうゆう会、大阪、2018 年 6 月 3 日

宮本哲雄：HIV 感染症と物資依存。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 6 日

森田真子：服薬支援～カウンセラーの視点から。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 7 日

森田真子：服薬支援ロールプレイ指導。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2018 年 6 月 7 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度大阪大学医学部公衆衛生学実習。2018 年 6 月 14 日

上平朝子：HIV 針刺し暴露後予防。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛

生学実習、大阪、2018 年 6 月 14 日

吉本 尚、来住知美、堀越 健、杉谷真季、田中いつみ、山田祐揮、今江章宏、渡部 健、香田将英、五嶋 嶺、村山 愛、高瀬義祥、宇井睦人、近藤 論、岡崎友里：学生・研修医×わかつて医師のつどい@三重。第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、三重、2018 年 6 月 16 日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第 16 回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2018 年 6 月 22 日

東 政美：HIV 陽性者の外来支援。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 6 月 28 日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 6 月 28 日

上平朝子：HIV 感染症。関西医科大学 3 回生講義感染症コース、大阪、2018 年 6 月 29 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談交流会、静岡、2018 年 6 月 30 日、7 月 1 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談交流会、静岡、2018 年 6 月 30 日、7 月 1 日

森田眞子：HIV とカウンセリング。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 7 月 5 日

岡本 学：HIV とソーシャルワーク。平成 30 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生学実習、大阪、2018 年 7 月 5 日

矢倉裕輝：HIV 患者の服薬支援について。兵庫県薬剤師 HIV セミナー、兵庫、2018 年 7 月 10 日

西田恭治：海外の血友病治療の取り組み。第 18 回 Haemostasis 研究会、東京、2018 年 7 月 14 日

中内崇夫：抗 HIV 薬の最新動向-最新の治療薬・留意点など、および新たな血液病治療における薬剤師の役割。相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 15 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 22 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 31 年度遺族相談員研修会、大阪、2018 年 7 月 22 日

白阪琢磨：日本の HIV/エイズの感染動向と HIV 医療体制。エイズ予防財団平成 30 年度 HIV/エイズ基礎研修会、大阪、2018 年 7 月 27 日

西田恭治：保因者ケアの必要性和実践。第 9 回大阪へモフィリアフォーラム 血友病治療～今できること、将来の可能性～、大阪、2018 年 8 月 4 日

白阪琢磨、東 政美、岡本 学：HIV 感染症における看護・介護上の標準予防策の実際。千里中央病院職員向け HIV 感染症研修、大阪、2018 年 8 月 14 日

矢倉裕輝：薬物治療マネジメントにおける薬剤師の役割を考える。第 4 回日本医薬品安全性学会学術大会、岡山、2018 年 8 月 18 日

矢倉裕輝：長期治療を見据えた服薬相談の実際。第 10 回宮城県 HIV/AIDS 学術講演会、宮城、2018 年 8 月 25 日

白阪琢磨：HIV 陽性者の人権課題～HIV、AIDS 等の現状と課題～。大阪府人権総合講座 人材養成コース（前期）、大阪、2018 年 8 月 29 日

森田眞子：HIV 陽性者が自分らしく生きられる社会をめざして～いっしょに居られる“わたし”であるために～。大阪市教育センター教職員地域研修 都島区人権教育講演会、大阪、2018 年 8 月 29 日

西田恭治：今考えるべき血友病保因者診断のこと。第 11 回北陸へモフィリア懇話会、金沢、2018 年 9 月 1 日

西田恭治：保因者を含めた軽・中等症血友病の止血管理。へモフィリアシンポジウム 2018 in 広島、広島、2018 年 9 月 2 日

東 政美：HIV/AIDS の概要 歴史・動向。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

渡邊大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

中内崇夫：抗 HIV 療法について 服薬支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景 薬害エイズについて。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

岡本学:社会資源の活用。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

東 政美: HIV 陽性者の看護① 療養支援: 外来受診者の動向・外来療養支援の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

森田真子: HIV 陽性者の心理的支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

東 政美: HIV 陽性者の看護② HIV 陽性者の療養支援における課題。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

HIV 診療チーム: HIV 陽性者の看護③ チーム医療: チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 11 日

西田恭治: ナースも気づかなかった血友病保因者問題。第 8 回とちぎ血友病看護ネットワーク、栃木、2018 年 9 月 14 日

来住知美: A 型肝炎 2018。第 40 回京滋 HIV カンファレンス勉強会、京都府立医科大学、2018 年 9 月 19 日

白阪琢磨: HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。高齢者等介護施設のための HIV/エイズ研修会、大阪、2018 年 9 月 20 日

来住知美、寺前晃介: 大阪の HIV 感染症と性感染症—情報 UP DATE—。大阪府健康医療部主催 MSM 対象 STI 勉強会、2018 年 9 月 24 日

上平朝子: CRE アウトブレイクの経験～医師の視点から見た AMR 対策～。第 8 回北陸地区感染対策セミナー、金沢、2018 年 9 月 29 日

渡邊 大: 疫学と抗 HIV 治療ガイドライン。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大: HIV 感染症の診断。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

矢倉裕輝: 抗 HIV 薬の特徴と薬剤師の役割。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大、矢倉裕輝: 初回抗 HIV 療法の実際。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

西田恭治: 血友病診療・凝固因子製剤の使い方。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、

大阪、2018 年 10 月 1 日

岡本学：HIV 感染者に対するソーシャルワーク。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

上地隆史：日和見感染症（PCP）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

廣田和之：日和見感染症（CMV）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

来住知美：日和見感染症（抗酸菌症）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

上地隆史、廣田和之、寺前晃介、北島平太：症例検討（医師・薬剤師向け）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

中濱智子、岡本学、富島公介、富田朋子：症例検討（他職種との連携）。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

上平朝子：針刺し暴露後対策。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

中濱智子：外来・病棟看護と療養支援。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

安尾利彦：HIV とカウンセリング。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 2 日

渡邊大：HIV 急性感染。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 4 日

森田真子：ゲイライフとこころの健康～疲れた時の対処法～。大阪府/MASH 大阪 MSM 対象 STI 学習会、大阪、2018 年 10 月 8 日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 9 日

西田恭治：血友病診療の実際。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 10 日

渡邊大：新規抗 HIV 薬。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 10 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 12 日

宮本哲雄：神経心理検査と事例検討。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2018 年 10 月 12 日

渡邊 大：女性と HIV。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 15 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 16 日

東政美：在宅療養支援の実際。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 16 日

上地隆史：日和見感染症診療（HIV 脳症、PML、クリプトコッカス症）。平成 30 年 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 18 日

岡本学：HIV 感染症と物質依存。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 24 日

上平朝子：CRE のアウトブレイクの対策。小牧市民病院 院内感染対策研修会、小牧、2018 年 10 月 19 日

森田眞子：グループワークファシリテーション。エイズ予防財団平成 30 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2018 年 10 月 18 日、19 日

西田恭治：血友病のエイジングケアと保因者ケアを考える。血友病地域治療勉強会～エイジング・保因者ケアを考える～、名古屋、2018 年 10 月 20 日

西田恭治：血友病保因者の現状と課題。第 14 回鹿児島へモフィリア勉強会、鹿児島、2018 年 10 月 27 日

上平朝子：HIV 感染症の基礎知識。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

上地隆史：PCP、カポジ肉腫など。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

来住知美：抗酸菌感染症。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 30 日

中濱智子：陽性妊婦の看護支援。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、

大阪、2018 年 10 月 30 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

西田恭治：薬害 HIV。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診断。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

岡本 学：HIV とソーシャルワーク。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

上平朝子：大阪医療センターにおける CRE のアウトブレイクの経験。大阪労災病院講演会、堺、2018 年 11 月 1 日

北島平太：症例検討。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

寺前晃介：症例検討。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

森田眞子：HIV 感染症と心理支援。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

富島公介：薬剤師の役割と服薬指導。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

東 政美：陽性者の看護支援。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 11 月 1 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

富田朋子：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

安尾利彦：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

宮本哲雄：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

森田眞子：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

塩飽耕規：ファシリテーション。平成 30 年度薬害 HIV 遺族交流会、京都、2018 年 11 月 4 日

中山久仁子、千葉大、守屋章成、菅長麗依、来住知美、武内治郎、坂西雄太、西岡洋右、岩田健太郎：第 1 回 プライマリ・ケアのためのワクチン&渡航医学。セミナー「ワクチン・渡航医学 虎の穴」、2018 年 11 月 3 日・4 日

東 政美：HIV/AIDS の概要：歴史・動向。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景：薬害エイズについて。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

東 政美：HIV 陽性者の看護① 療養支援：外来受診者の動向・外来療養支援の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

富島公介：抗 HIV 療法について：服薬支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

岡本 学：社会資源の活用。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

東 政美：HIV 陽性者の看護② HIV 陽性者の療養支援における課題。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

HIV 診療チーム：HIV 陽性者の看護③ チーム医療：チーム診療の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 13 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の現状と支援。大阪府立大学 公衆衛生看護学 I、大阪、2018 年 11 月 13 日

矢倉裕輝：外来診療における慢性疾患に対する薬剤師の役割。第 28 回日本医療薬学会年会メディカルセミナー、兵庫、2018 年 11 月 25 日

森田眞子：Living with HIV：自分らしく生きられる社会をめざして～HIV 感染症を通じて考える～。大阪市立ビジネスフロンティア高校人権教育研修会、大阪、2018 年 11 月 28 日

上平朝子：HIV 感染症治療の最前線と HIV 感染対策について。大阪府医師会 平成 30 年度「HIV 医療講習会」、大阪、2018 年 11 月 29 日

白阪琢磨：感染症患者の看護。大阪赤十字看護専門学校 講義、大阪、2018 年 12 月 6 日

廣田和之：B 型肝炎の基礎知識。厚生科研エイズ対策研究事業 感染症研修会、神戸、2018 年 12 月 8 日

廣田和之：ノロウイルス感染症の基礎知識。厚生科研エイズ対策研究事業 感染症研修会、神戸、2018 年 12 月 8 日

渡邊 大：近畿ブロックにおける病院連携とブロック拠点病院の役割。近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、大阪、2018 年 12 月 10 日

中濱智子：HIV と看護。大阪赤十字看護専門学校、大阪、2018 年 12 月 11 日

西田恭治：『知る』ことから始めてみませんか？世界の血友病事情のいま。ヘモフィリア Today! Web セミナー、大阪、2018 年 12 月 12 日

来住知美：性感染症予防出前授業 ココロとカラダの健康教室、和泉市立はつが野学園、和泉市、2018 年 12 月 12 日

富田朋子：事例発表。HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2018 年 12 月 14 日

宮本哲雄：事例発表。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2018 年 12 月 14 日

森田眞子：HIV 診療におけるチーム医療。大阪府立大学およびハワイパシフィック大学学生訪問・講義、大阪、2018 年 12 月 21 日

上地隆史：日和見疾患の病態と治療：ニューモシスチス肺炎・HIV 脳症・サイトメガロウイルス網膜炎。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

富島公介：服薬支援の実際：服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり。
平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

廣田和之：性感染症の基礎知識。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、
大阪、2019 年 1 月 7 日

渡邊 大：HIV 陽性妊婦の治療と支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コ
ース、大阪、2019 年 1 月 7 日

中濱智子：周産期看護の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大
阪、2019 年 1 月 7 日

中濱智子：困難症例の実際（外来）。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コ
ース、大阪、2019 年 1 月 7 日

東 政美：初診時の問診について：問診のポイント。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護
師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 8 日

西田恭治：取り残された血友病保因者問題～医療者は気付きを～。静岡県小児血
友病懇話会（東部エリア）、静岡、2019 年 1 月 17 日

西田恭治：血友病診療連携という日本独自の最新の取り組みと今後の活動につい
て～世界との繋がりを踏まえて～。Hemophilia Advocacy Advisory Board
Summit-2019、Brussels、2019 年 1 月 23 日

矢倉裕輝：高齢化や ADL 低下、他疾患で服薬の継続が難しくなったケースの実践
的アドバイス。第 10 回沖縄 HIV 臨床カンファレンス、沖縄、2019 年 2 月 2 日

富島公介：ちゃんと抑えられます、HIV 感染症。大切な人のためにも。大阪府臨
床検査技師会 府民公開講座 HIV 予防啓発講演会、大阪、2019 年 2 月 2 日

上平朝子：標準予防策の基本と HIV の感染対策。第 46 回法円坂地域医療フォー
ラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

西田恭治：血友病患者における HIV 感染の歴史-そして現在の止血治療環境-。第
46 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

渡邊 大：HIV 感染症の治療と期待される地域連携。第 46 回法円坂地域医療フォー
ラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

中濱智子：HIV/AIDS の基礎知識。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、
2019 年 2 月 9 日

中濱智子：HIV/AIDS 患者の看護の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、2019 年 2 月 9 日

岡本 学：社会制度について。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、2019 年 2 月 9 日

矢倉裕輝：長期薬物治療における薬剤師の果たすべき役割について。平成 30 年度愛知県病院薬剤師会 HIV 部会講演会、愛知、2019 年 2 月 16 日

西川歩美：ファシリテーション。平成 30 年度遺族・患者相談員合同研修会、大阪、2019 年 2 月 17 日

白阪琢磨：HIV 感染症で期待される病診連携と新たな課題。平成 30 年度 HIV 地域医療連携研修会、大阪、2019 年 3 月 2 日

中濱智子：HIV/AIDS の基礎知識。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、2019 年 3 月 16 日

中濱智子：HIV/AIDS 患者の看護の実際。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、2019 年 3 月 16 日

岡本 学：社会制度について。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護セミナー、大阪、2019 年 3 月 16 日

B-9

白阪琢磨：明日へのことば「エイズ治療最前線の 30 年」。NHK 関西発ラジオ深夜便)、NHK ラジオ第 1、2018 年 6 月 9 日 (2017 年 11 月 11 日再放送)

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 2 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 9 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 1-③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 10 月 16 日

辻 宏幸：世界エイズデー イベントについて。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 11 月 20 日

辻 宏幸：HIV 感染症の現状と啓発について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 11 月 27 日

辻 宏幸：HIV 感染症の検査について。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2018 年 12 月 4 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-①。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 15 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-②。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 22 日

白阪琢磨：HIV 感染症・エイズについて 2-③。FM 大阪ラジオ「HIV/AIDS 啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2019 年 1 月 29 日

HIV 感染制御研究室

渡邊 大

当研究室は、白阪琢磨が室長を兼任しているエイズ先端医療開発室と共同で、HIV 感染症の診療における多く問題に対して研究を行っております。

近年の抗 HIV 療法の進歩により、多くの症例でウイルス抑制が得られるようになりました (Jpn J Infect Dis. 2017)。しかし、長期間生存している潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、一生の内服加療を強いられます。細胞中の残存プロウイルス量は、抗 HIV 療法を行っている場合、潜伏感染細胞数を示していると考えられています。我々は残存プロウイルス量の高感度の測定法の開発を行い、早期に治療を開始した症例では残存プロウイルス量が低く抑えられていることを明らかにしました (BMC Infect Dis. 2011)。

抗 HIV 療法によって長期間血中ウイルス量が測定感度未満に押さえられていたとしても、免疫系は改善に回復したわけではありません。その例として、ウイルス量が抑えられていた症例においても血中インターフェロン γ が持続的に高値を示す症例 (Viral Immunol. 2010) が存在し CD4 数の回復が不十分であること (BMC Infect Dis. 2018)、水痘帯状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫の回復は不十分なこと (J Med Virol. 2013) を報告しました。抗 HIV 薬の副作用も完全には解決されていません。テノホビルによって血中ミトコンドリア CK 活性は上昇すること (J Infect Chemother. 2012)、ドルテグラビルの神経精神系有害事象はその血中濃度や UGT1A1 遺伝子多型と関連すること (BMC Infect Dis. 2017)、ドルテグラビル投与例における腎機能評価が困難であること (J Infect Chemother. 2018) ddI の長期内服に伴う非硬性門脈圧亢進症を呈した症例 (J Infect Chemother. 2014) を報告しました。

薬剤耐性検査や薬剤血中濃度は HIV 感染者の治療において欠かすことのできない検査です。当研究室ではこれらに関する研究も行っております (Antiviral Res. 2010, J Infect Chemother. 2015, Inter Med. 2016)。

抗 HIV 療法以外にも、さまざまな課題が残されています。急性 HIV 感染症 (AIDS Res Ther. 2015)、ヒトヘルペス 8 感染症 (J Infect Chemother. 2017, Inter Med. 2014)、ウイルス性肝炎、発がんの問題などがあげられます。当研究室では、厚生労働省エイズ対策研究事業を中心に、この病態における問題点の解明に取り組み、多施設共同臨床調査や臨床的課題について取り組んでおります。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Koizumi Y, Imadome KI, Ota Y, Minamiguchi H, Kodama Y, Watanabe D, Mikamo H, Uehira T, Okada S, Shirasaka T : Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. 「J Clin Immunol.」 38(4):478-483、2018 年 5

月

Watanabe D, Uehira T, Suzuki S, Matsumoto E, Ueji T, Hirota K, Minami R, Takahama S, Hayashi K, Sawamura M, Yamamoto M, Shirasaka T : Clinical characteristics of HIV-1-infected patients with high levels of plasma interferon- γ : a multicenter observational study. 「BMC Infect Dis.」 19(1):11、2019 年 1 月 5 日

Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E : Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. 「Hepatology Research」 Epub ahead of print 2019 年 1 月 17 日

A-5

渡邊 大 : TAF の安全性評価「第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー6）記録集」2018 年 8 月

松下修三、岡 慎一、鯉渕智彦、渡邊 大 : 多様化する HIV 患者と 1 日 1 回投与のアイセントレス[®]の位置付けを含んだ ART の最適化「アイセントレス[®]錠 600mg 発売記念座談会記録集」2018 年 10 月

渡邊 大 : 近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」平成 30 年度研究報告書、P.54-57、2019 年 3 月 31 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Nishida Y, Yoshino M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T: Association of tenofovir level and discontinuation due to impaired renal function. HIV Drug Therapy Glasgow 2018, Glasgow, 2018 年 10 月 29 日

B-3

渡邊 大 : 長期管理時代における TAF の役割 TAF の安全性評価。第 92 回日本感染症学会総会・学術講演会、岡山、2018 年 5 月 31 日

渡邊 大 : 「抗 HIV 薬の薬物動態、薬剤間相互作用と薬剤耐性」～PK/PD/PG のアプローチからウイルス学的失敗ゼロを目指す～ 薬剤耐性 HIV の臨床経験と抗 HIV 薬の薬物動態。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

B-4

伊熊素子、西田恭治、山本雄大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨 : 血友病個別化治療時代におけるアルブトレペノナコグアルファによる 4 週間隔定期補充療法の可能性。第 40 回日本血栓止血学会学術

集会、札幌、2018 年 6 月 29 日

中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：初回治療におけるエルビテグラビル/コビススタット/エムトリシタビン/デノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の治療成績。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 10 日

廣田和之、山本雄大、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、上地隆史、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：溶血性貧血を契機に多中心性キャスルマン病と診断された HIV 感染者の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

小島洋子、川畑拓也、森 治代、木村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドックにおける HIV 検査の現状調査。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 2 日

加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉：HIV 関連神経認知障害（HAND）と脳構造。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：細胞性免疫能が低下した HIV-1 感染者における LDH と β -D グルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、白阪琢磨：自発検査で判明した新規 HIV 感染者の受検動機。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：TDF から TAF に変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

上平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨：当院の 2 剤レジメンの現状。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ラルテグラビル/エトラビルリン/ダルナビル/リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST 合剤で薬疹、ペントミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

山本雄大、伊熊素子、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ニューモシスチス肺炎に肺ノカルジア症を合併した後天性免疫不全症候群の 1 例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

北島平太、廣田和之、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法後に肝臓及び脾臓の病変増悪を認めた肺結核の一例。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 3 日

横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡 慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊 大、藤井輝久：エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、潟永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018 年 12 月 4 日

B-6

渡邊 大、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：抗 HIV 療法中の HIV 感染者における細胞内 HIV-1-DNA 量の測定法間の差異に関する検討。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

川畑拓也、小島洋子、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸：健診センター・人間ドック施設における HIV 検査の現状に関するアンケート調査結果。第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018 年 6 月 2 日

中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討。第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018 年 10 月 25 日

廣田和之、上地隆史、北島平太、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子：両側内因性眼内炎で失明に至った糖尿病患者の一例。

第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018年10月25日

来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨：大阪のエイズ診療ブロック拠点病院におけるA型急性肝炎の流行。第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、鹿児島、2018年11月17日

B-7

渡邊 大：プレジコビックス®配合錠によって何が変わったか？～発売後1年を経過して～。HIV Web Conference、2018年4月18日

渡邊 大：HIV感染者の病態と考えるべき課題－最近の話題。HIV感染症学術講演会－アイセントレス®10年の軌跡－、大阪、2018年6月24日

渡邊 大：抗HIV薬の最新動向－治療の最新動向、診療ガイドライン、PreP、TasPなど－。2018年度相談事業相談員研修、大阪、2018年7月15日

渡邊 大：大阪医療センターの診療経験から考えるHIV診療の未来。平成30年度宮崎県エイズ研修会、宮崎、2019年3月2日

B-8

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度大阪大学医学部公衆衛生学実習。2018 年 6 月 14 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 9 月 10 日

渡邊 大：疫学と抗 HIV 治療ガイドライン。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大、矢倉裕輝：初回抗 HIV 療法の実際。平成 30 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2018 年 10 月 1 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 4 日

渡邊 大：新規抗 HIV 薬。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、大阪、2018 年 10 月 10 日

渡邊 大：女性と HIV。平成 30 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2018 年 10 月 15 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 30 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2018 年 10 月 31 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識：HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2018 年 11 月 12 日

渡邊 大：近畿ブロックにおける病院連携とブロック拠点病院の役割。近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、大阪、2018 年 12 月 10 日

渡邊 大：HIV 陽性妊婦の治療と支援。平成 30 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2019 年 1 月 7 日

渡邊 大：HIV 感染症の治療と期待される地域連携。第 46 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2019 年 2 月 9 日

臨床疫学研究室

室長 三田英治

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討しています。代表的な研究内容を示します。

インターフェロンフリー治療によって C 型肝炎は HCV 排除が期待できる時代になりましたが、残された少数の難治例に対する最適治療法を検討しています。インターフェロンフリー治療は非代償性肝硬変にまで適応が拡大されましたが、肝予備能が低下した症例に投薬するため、死亡例が出ています。より安全に治療できる条件とその有効性を検証しています。同じく心機能低下や腎機能低下症例に対する治療法も検討しています。

Genotype 3 型の C 型肝炎も 1 型や 2 型に比べて難治例と言えますが、ソホスブビル・リバビリン併用 24 週治療は安全に遂行でき有効な治療法と示しました。HIV 感染合併例でのインターフェロンフリー治療の成績もまとめ、論文化しています。

次に B 型肝炎では、核酸アナログの長期投与成績から導かれる耐性化の問題点を検討しています。そしてラミブジン・アデホビル併用療法効果不良例に対し、アデホビルを TDF に切り替えることの有効性と安全性を明らかにしました。現在はさらに TDF から TAF への切り替えを検証しています。近年散発的に発生している B 型急性肝炎では genotype A が大半を占めますが、その特徴を解析し、慢性化への関与についても検討しています。また HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討しています。

A 型急性肝炎も MSM を中心に流行しており、その HAV 株が EuroPride であることを報告しました。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Tanaka S, Kishi T, Ishihara A, Watanabe D, Uehira T, Ishida H, Shirasaka T, Mita E :

Outbreak of hepatitis A linked to European outbreaks among men who have sex with men in Osaka, Japan, from March to July 2018. *Hepatol Res.* 2019, in press、2019 年

Hitomi Y, Ueno K, Kawai Y, Nishida N, Kojima K, Kawashima M, Aiba Y, Nakamura H, Kouno H, Kouno H, Ohta H, Sugi K, Nikami T, Yamashita T, Katsushima S, Komeda T, Ario K, Naganuma A, Shimada M, Hirashima N, Yoshizawa K, Makita F, Furuta K, Kikuchi M, Naeshiro N, Takahashi H, Mano Y, Yamashita H, Matsushita K, Tsunematsu S, Yabuuchi I, Nishimura H, Shimada Y, Yamauchi K, Komatsu T, Sugimoto R, Sakai H, Mita E, Koda M, Nakamura Y, Kamitsukasa H, Sato T, Nakamuta M, Masaki N, Takikawa H, Tanaka A, Ohira H, Zeniya M, Abe M, Kaneko S, Honda M, Arai K, Arinaga-Hino T, Hashimoto E, Taniai M, Umemura T, Joshita S, Nakao K, Ichikawa T, Shibata H, Takaki A, Yamagiwa S, Seike M, Sakisaka S, Takeyama Y, Harada M, Senju M, Yokosuka O, Kanda T, Ueno Y, Ebinuma H, Himoto T, Murata K, Shimoda S, Nagaoka S, Abiru S, Komori A, Migita K, Ito M, Yatsushashi H, Maehara Y, Uemoto S, Kokudo N, Nagasaki M, Tokunaga K, Nakamura M : POGUT1, the putative effector gene driven by rs2293370 in primary biliary cholangitis susceptibility locus chromosome 3q13.33. *Sci Rep.* 14;9(1):102、2019 年 1 月

Yamada R, Hiramatsu N, Oze T, Urabe A, Tahata Y, Morishita N, Kodama T, Hikita H, Sakamori R, Yakushijin T, Yamada A, Hagiwara H, Mita E, Oshita M, Itoh T, Fukui H, Inui Y, Hijioka T, Inada M, Katayama K, Tamura S, Inoue A, Imai Y, Tatsumi T, Hamasaki T, Hayashi N, Takehara T : Incidence and risk factors of hepatocellular carcinoma change over time in patients with hepatitis C virus infection who achieved sustained virologic response. Hepatol Res. 2019, in press.、2019 年

Sakakibara Y, Nakazuru S, Akasaka T, Ishida H, Mita E : A case of Behçet's disease with esophageal ulcers. Gastrointest Endosc. 89(2):430-431、2019 年 2 月

Yoshio S, Mano Y, Doi H, Shoji H, Shimagaki T, Sakamoto Y, Kawai H, Matsuda M, Mori T, Osawa Y, Korenaga M, Sugiyama M, Mizokami M, Mita E, Katayama K, Tanaka J, Kanto T : Cytokine and chemokine signatures associated with hepatitis B surface antigen loss in hepatitis B patients. JCI Insight. 18;3(20)、2018 年 10 月

Takehara T, Sakamoto N, Nishiguchi S, Ikeda F, Tatsumi T, Ueno Y, Yatshihashi H, Takikawa Y, Kanda T, Sakamoto M, Tamori A, Mita E, Chayama K, Zhang G, De-Oertel S, Dvory-Sobol H, Matsuda T, Stamm LM, Brainard DM, Tanaka Y, Kurosaki M : Efficacy and safety of sofosbuvir-velpatasvir with or without ribavirin in HCV-infected Japanese patients with decompensated cirrhosis: an open-label phase 3 trial. J Gastroenterol. 54(1):87-95、2019 年 1 月

Nakazuru S, Sakakibara Y, Ishida H, Mori K, Mita E : Gastric metastasis from pancreatic neuroendocrine tumor. Gastrointest Endosc. 88(3):559-560、2018 年 9 月

Akasaka T, Takeuchi Y, Ishida H, Mita E : A novel gel immersion technique using a bipolar needle-knife in endoscopic submucosal dissection for superficial gastrointestinal neoplasms. Ann Gastroenterol. 31(2):247、2018 年 3 月－4 月

Doi A, Hikita H, Sakamori R, Tahata Y, Kai Y, Yamada R, Yakushijin T, Mita E, Ohkawa K, Imai Y, Furuta K, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T. Nonstructural protein 5A/P32 deletion after failure of ledipasvir/sofosbuvir in hepatitis C virus genotype 1b infection. Hepatology. 68(1):380-383、2018 年 7 月

A-2

加藤聖也、三田英治 : C 型肝炎をより理解するためのウイルス遺伝子とヒト遺伝子。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P60-63、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

新海数馬、三田英治 : ゲノタイプ 2 型に対するインターフェロンフリー治療。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P93-95、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

東 瀬菜、三田英治 : インターフェロン治療。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P96-97、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治 : B 型肝炎の自然史と診断 1 診断の第一歩と HBV マーカーでのフォローの基

本。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P109-110、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：B 型慢性肝炎の自然史と診断 3 B 型慢性肝疾患患者の自然経過。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P116-118、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

庄司絢香、三田英治：B 型慢性肝炎の治療 3 核酸アナログ。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P130-139、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：HIV 感染者の B 型肝炎。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P165-168、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

三田英治：HIV 感染者の C 型肝炎。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P169-174、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

岩崎哲也、三田英治：合併症の管理 1 肝性脳症の診断と治療。肝炎診療バイブル改訂 4 版、P233-237、メディカ出版、大阪、2018 年 5 月 1 日

B-2

Yoshio S, Doi H, Shimagaki T, Sakamoto Y, Kawai H, Osawa Y, Korenaga M, Mita E, Katayama K, Tanaka J, Kanto T : CXCL13 and IL-21 Are Potential Biomarkers Associating with HBsAg Loss in Patients with Acute or Chronic Hepatitis B. The Liver Meeting 2018, American Association for the Study of Liver Diseases, San Francisco、2018 年 11 月 9 日－13 日

Tahata Y, Sakamori R, Urabe A, Yamada R, Ohkawa K, Hiramatsu N, Hagiwara H, Oshita M, Mita E, Tamura S, Imai Y, Kodama T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T : The Comparison of Hepatocellular Carcinoma Occurrence Rates in Patients with Sustained Virologic Response between Interferon-Based and Interferon-Free Therapy: A Propensity Score Matched Cohort from 4558 Patients The Liver Meeting 2018, American Association for the Study of Liver Diseases, San Francisco、2018 年 11 月 9 日－13 日

Doi A, Hikita H, Kai Y, Tahata Y, Kodama T, Hagiwara H, Inui Y, Mita E, Yamada R, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T : Hepatitis C Viral Diversity Declines during the Course of Direct-Acting Antiviral Therapy and Affects Antiviral Therapeutic Effect. The Liver Meeting 2018, American Association for the Study of Liver Diseases, San Francisco、2018 年 11 月 9 日－13 日

Hasegawa H, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S, Ishida H, Hirao M, Mita E : Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019. San Francisco、2019 年 1 月 17 日－19 日

B-3

石田 永、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、三田英治：HIV 感染が B

型急性肝炎の重症度に与える影響について。第 44 回日本急性肝不全研究会、大阪、2018 年 6 月 13 日

石田 永、田中聡司、三田英治：HIV 感染合併 C 型慢性肝炎に対する IFN フリー治療は極めて有効である。パネルディスカッション 3「C 型肝炎～完全制圧を目指した治療戦略～」。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

田中聡司、石田 永、三田英治：MSM 間で流行する 2018 年度 A 型急性肝炎の検討。シンポジウム 9「ウイルス肝炎の基礎と臨床 どこまで解明されたか」。第 42 回日本肝臓学会東部会、東京、2018 年 12 月 8 日

榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：Clinical features of emergent endoscopy for acute upper gastrointestinal bleeding。第 14 回日本消化管学会、東京、2018 年 2 月 9 日

榊原祐子、石田 永、三田英治：Clinical features of emergent endoscopy for acute upper gastrointestinal bleeding。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 20 日

榊原祐子、東 瀬菜、別所宏紀、河本泰治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：小腸内視鏡検査におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有用性と安全性。第 15 回日本消化管学会総会学術集会、佐賀、2019 年 2 月 1 日

B-4

田中聡司、石原朗雄、石田 永、三田英治：HIV/HBV 重複感染者に対する TDF/TAF 含有 ART における HBs 抗原陰性化例の解析。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 19 日

河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HBV/HIV 重複感染例に発症した A 型急性肝炎。第 44 回日本急性肝不全研究会、大阪、2018 年 6 月 13 日

三田英治：口演セッション 37「HCV 臨床 6」司会。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

ト部彩子、阪森亮太郎、山田涼子、田畑優貴、土井喜宣、飯尾禎元、小川弘之、金子 晃、萩原秀紀、三田英治、伊藤敏文、田村信司、今井康陽、小玉尚宏、疋田隼人、巽 智秀、竹原徹郎：Genotype 1 型 C 型慢性肝疾患に対する Elbasvir/Grazoprevir 療法の安全性および治療効果について—多施設共同研究—。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

森下直紀、阪森亮太郎、ト部彩子、甲斐優吾、田畑優貴、山田涼子、小玉尚宏、疋田隼人、土井喜宣、田村信司、萩原秀紀、今井康陽、飯尾禎元、三田英治、巽 智秀、竹原徹郎：ダク

ラタスビル・アスナプレビル併用療法の治療効果予測における NS5A-L31-Y93 二重変異測定
の意義。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

小森敦正、勝島慎二、杉 和洋、高野浩嗣、太田 肇、島田昌明、有尾啓介、酒井浩徳、長沼
篤、小松達司、蒔田富士雄、吉澤 要、菊池真大、佐藤丈顕、古田 清、真野 浩、肱岡泰三、
林 亨、三田英治、八橋 弘：C 型肝炎ウイルス駆除後に発現量が変化する血清 miRNA の検索。
第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15 日

甲斐優吾、疋田隼人、土居 哲、田畑優貴、森下直紀、山田涼子、小玉尚宏、阪森亮太郎、平
松直樹、三田英治、萩原秀紀、田村信司、今井康陽、巽 智秀、竹原徹郎：DAA 治療におけ
る HCV ゲノム多様性の変化とその意義。第 54 回日本肝臓学会総会、大阪、2018 年 6 月 14-15
日

岩崎哲也、中水流正一、三田英治：Roux-en-Y 再建症例に対するダブルバルーン内視鏡挿入
における新規輸入脚判定法の有用性に関する検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、
2018 年 5 月 11 日

岩崎哲也、中水流正一、三田英治：術後再建腸管におけるダブルバルーン内視鏡挿入時新規
輸入脚判定法の検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 3 日

清木祐介、宮崎哲郎、田中聡司、石原朗雄、来住知美、上平朝子、白阪琢磨、石田 永、三田
英治：2018 年 A 型急性肝炎流行に関する検討。第 18 回日本病院総合診療医学会学術総会、
沖縄、2019 年 2 月 16 日

加藤聖也、榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、清田良介、新海数馬、田代 拓、石原朗雄、岩崎
哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における
HIV 感染者に対する *H.pylori* 除菌療法の検討。JDDW、神戸、2018 年 11 月 1 日

庄司絢香、榊原祐子、藤井祥史、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原
朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：虚血性腸炎の発
生部位別にみた背景疾患と臨床経過の検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、2018
年 5 月 11 日

藤井祥史、榊原祐子、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎哲也、石原
朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：当院における大
腸憩室出血の再出血に関与する因子についての検討。第 95 回日本消化器内視鏡学会総会、東
京、2018 年 5 月 12 日

B-6

氏本大介、榊原祐子、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、田代 拓、新海数馬、清田良介、岩崎
哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：脳動
脈瘤に対するステント留置後に特発性食道粘膜下血腫を発症した 1 例。第 100 回日本消化器
内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2018 年 5 月 26 日

三田英治：消化器 1、一般演題座長。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月

22 日

西村佑子、田中聡司、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、石原朗雄、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治：HIV 感染症に合併した C 型急性肝炎の 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

山田恵理子、東 瀬菜、石原朗雄、田中聡司、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田 永、三田英治、上平朝子：ddl によって加速された HIV 感染合併 C 型慢性肝疾患における門脈圧亢進症を長期管理している 1 例。第 221 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2018 年 9 月 22 日

齋藤未佑、石田 永、河本泰治、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、三田英治：IFN フリー治療により高ビリルビン血症増悪を来した HIV 感染合併ゲノタイプ 3 型 C 型慢性肝炎の 1 例。第 109 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2018 年 9 月 29 日

河本泰治、榊原祐子、東 瀬菜、別所宏紀、藤井祥史、加藤聖也、庄司絢香、田代 拓、岩崎哲也、石原朗雄、田中聡司、長谷川裕子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：大腸全摘後に特発性血小板減少性紫斑病を合併した潰瘍性大腸炎の一例。第 109 回日本消化器病学会近畿支部例会、大阪、2018 年 9 月 29 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中 聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：P77-2 高齢者胃がんにおける化学療法のマネージメント。第 25 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 19 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中 聡司、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：P2-070 当院での高齢者切除不能胃癌症例に対する二次治療としてのパクリタキセル療法とパクリタキセル＋ラムシルマブ療法に関する検討。第 16 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2018 年 7 月 20 日

庄司絢香、長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田永、平尾素宏、三田英治：P1-34-5 Efficacy and prognostic factor analysis in first-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer。第 91 回、日本胃癌学会学術集会、静岡、2019 年 2 月 28 日

齋藤未祐、榊原祐子、東 瀬菜、別所宏紀、河本泰治、藤井祥史、庄司絢香、加藤聖也、石原朗雄、岩崎哲也、田中聡司、赤坂智史、中水流正一、石田 永、三田英治：広範な食道潰瘍を呈した完全型ベーチェット病の 1 例。第 101 回日本消化器病内視鏡学会近畿支部例会 大阪、2018 年 11 月 10 日

B-8

三田英治：当院での使用経験 ～ TDF から TAF へ ～。ベムリディ発売 1 周年記念講演会 in OSAKA、大阪（帝国ホテル大阪）、2018 年 1 月 27 日

三田英治：ウイルス肝炎と肝癌の征圧にむけた取り組み。大阪市中央区南医師会学術講演会、大阪（アークホテル大阪心斎橋）、2018 年 5 月 26 日

三田英治：特別演題座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪（大阪キャッスルホテル）、2018 年 7 月 14 日

三田英治：講演座長「第三部：HIV/HBV 合併感染症の残された問題」。第 6 回 Japan HIV and Hepatitis Study Group 研究会、東京（JP Tower Hall & Conference）、2018 年 7 月 8 日

三田英治：特別講演座長。第 4 回法円坂消化器疾患フォーラム、大阪、2018 年 7 月 14 日

三田英治：講演 2 座長。慢性便秘症治療セミナー、大阪（ホテルグランヴィア大阪）、2018 年 9 月 15 日

三田英治：特別講演座長。肝疾患連携フォーラム、大阪（KKR ホテル大阪）、2018 年 9 月 20 日

三田英治：一般講演＋特別講演座長。Hepatitis Expert Meeting、大阪（ホテル阪急インターナショナル）、2018 年 12 月 6 日

三田英治：C 型肝炎治療の最前線。Hyogo Hepatitis Forum 2018、神戸（ORIENTAL HOTEL）、2018 年 12 月 20 日

がん療法研究開発室

室長 中森正二

がんが日本人の死因のトップとなって久しい。国立がん研究センターのがん情報サービス (ganjoho.jp) によれば、2017 年の年間がん罹患数は 100 万人を超え、がんによる死亡者数は約 38 万人と報告されている。2018 年は本庶佑博士のがんに対する免疫治療薬の開発によりノーベル賞を受賞され、がん免疫治療法が脚光を浴びているが、すべてのがんに効果があるわけではなく、がんに対する有効な治療法の開発の重要性は変わっていない。

免疫治療を含め従来の多くのがん治療法の有効性は、症例ごと、施設ごとの経験から得られたものであり、複数施設における大規模な臨床試験による治療効果の検証が必須となっている。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。さらに、発がん、増殖、転移といったがん自体やそれに伴う病態に関わる遺伝子や蛋白、糖鎖といった数多くの分子の異常が報告され、これらの分子の特徴や機能が新しいがんの診断法や治療に応用され、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。

本研究室では、このような最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を目的として、がん細胞やがん組織を用いた基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究（橋渡し研究、トランスレーショナルリサーチ）を行っている。その具体的プロセスとして、1) 基礎研究との有機的な共同研究：臨床材料を用いて得られた研究結果と臨床資料との対応、臨床材料を用いた網羅的遺伝子解析や網羅的ペプチド蛋白解析、糖鎖解析を利用した発がん、増殖、転移に関わる責任分子の抽出、同定し、治療標的分子を明らかにする。2) 分子異常に基づいた新たな腫瘍マーカーの開発。3) 抗がん剤や放射線治療の感受性や耐性に関与する分子の探索と分離、同定、その臨床応用の研究を行っている。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Hagiwara Y, Ohashi Y, Uesaka K, Boku N, Fukutomi A, Okamura Y, Konishi M, Matsumoto I, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sakamoto H, Morinaga S, Kainuma O, Imai K, Sata N, Hishinuma S, Ojima H, Yamaguchi R, Hirano S, Sudo T; JASPAC 01 Study Group : Health-related quality of life of adjuvant chemotherapy with S-1 versus

gemcitabine for resected pancreatic cancer: Results from a randomised phase III trial (JASPAC 01) 「Eur J Cancer」 93 : P79-88、2018 年 4 月 1 日

Todaka A, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Boku N, Mori K, Fukutomi A : Nationwide Multicenter Observational Study of FOLFIRINOX Chemotherapy in 399 Patients With Unresectable or Recurrent Pancreatic Cancer in Japan. 「Pancreas」 47 (5) : P631-636、2018 年 5 月 1 日

Kinoshita M, Takemura S, Tanaka S, Shinkawa H, Hama No G, Ito T, Koda M, Aota T, Nakanuma Y, Sato Y, Nakamori S, Arimoto A, Yamamoto T, Toyokawa H, Kubo S : The Clinical Significance of Fluorine-18 Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography in Patients with Occupational Cholangiocarcinoma. 「Asian Pac J Cancer Prev」 19 (7) : P1753-1759、2018 年 7 月 1 日

Kusano M, Aoyama T, Okabayashi K, Hirata K, Tsuji Y, Nakamori S, Asahara T, Ohashi Y, Yoshikawa T, Sakamoto J, Oba K, Saji S. : A randomized phase III study of hepatic arterial infusion chemotherapy with 5-fluorouracil and subsequent systemic chemotherapy versus systemic chemotherapy alone for colorectal cancer patients with curatively resected liver metastases (Japanese Foundation for Multidisciplinary Treatment of Cancer 32). 「J Hepatobiliary Pancreat Sci」 14 (Suppl) : P761-766、2018 年 9 月 1 日

Yamada S, Kobayashi A, Nakamori S, Baba H, Yamamoto M, Yamaue H, Fujii T. : Resection for recurrent pancreatic cancer in the remnant pancreas after pancreatectomy is clinically promising: Results of a project study for pancreatic surgery by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. 「Surgery」 164 (5) : P1049-1056、2018 年 11 月 1 日

Sano K, Yamamoto M, Mimura T, Endo I, Nakamori S, Konishi M, Miyazaki M, Wakai T, Nagino M, Kubota K, Unno M, Sata N, Yamamoto J, Yamaue H, Takada T; Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. : Outcomes of 1,639 hepatectomies for non-colorectal non-neuroendocrine liver metastases: a multicenter analysis. 「J Hepatobiliary Pancreat Sci」 25 (11) : P465-475、2018 年 11 月 1 日

Ioka T, Ueno M, Ueno H, Park JO, Chang HM, Sasahira N, Kanai M, Chung IJ, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hara H, Sugimori K, Furuse J, Maguchi H, Furukawa M, Fukuzawa K, Kim JS, Yukisawa S, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I. : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: a randomised, open-label, phase 3 study (GRAPE trial). 「Eur J Cancer」 106 : P78-88、2019 年 1 月 1 日

Nagai K, Kuriyama K, Inoue A, Yoshida Y, Takami K: Computed tomography-guided preoperative localization of small lung nodules with indocyanine green. 「Acta Radiol.」 59(7) : P830-835、2018 年 7 月

Sugase T, Makino T, Yamasaki M, Tanaka K, Hashimoto T, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Mano M, Morii E, Mori M, Doki Y : Histological changes of superficial esophageal squamous cell carcinoma after preoperative chemotherapy. 「Esophagus」 . 2018 Jun 16. doi: 10.1007/s10388-018-0626-8. [Epub ahead of print]、2018 年 6 月 16 日

Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y : Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. 「Scientific Reports」 8(1):P11773、2018 年 8 月 6 日

Okita Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Kinoshita M, Nonaka M, Nakajima S, Fujinaka T, Kanemura Y : Stereotactic image-based histological analysis reveals a correlation between 11C-methionine uptake and MGMT promoter methylation in non-enhancing gliomas. 「Oncology Letters」 16(2):P1924-1930、2018 年 8 月

Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N, Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y : Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. 「Journal Neuro-Oncology」 140(2):P329-339、2018 年 11 月

Fukuoka K, Kanemura Y, Shofuda T, Fukushima S, Yamashita S, Narushima D, Kato M, Honda-Kitahara M, Ichikawa H, Kohno T, Sasaki A, Hirato J, Hirose T, Komori T, Satomi K, Yoshida A, Yamasaki K, Nakano Y, Takada A, Nakamura T, Takami H, Matsushita Y, Suzuki T, Nakamura H, Makino K, Sonoda Y, Saito R, Tominaga T, Matsusaka Y, Kobayashi K, Nagane M, Furuta T, Nakada M, Narita Y, Hirose Y, Ohba S, Wada A, Shimizu K, Kurozumi K, Date I, Fukai J, Miyairi Y, Kagawa N, Kawamura A, Yoshida M, Nishida N, Wataya T, Yamaoka M, Tsuyuguchi N, Uda T, Takahashi M, Nakano Y, Akai T, Izumoto S, Nonaka M, Yoshifuji K, Kodama Y, Mano M, Ozawa T, Ramaswamy V, Taylor MD, Ushijima T, Shibui S, Yamasaki M, Arai H, Sakamoto H, Nishikawa R, Ichimura K; Japan Pediatric Molecular Neuro-Oncology Group (JPMNG) : Significance of molecular classification of ependymomas: C11orf95-RELA fusion-negative supratentorial ependymomas are a heterogeneous group of tumors.

「Acta Neuropathologica Communications」 6(1):P134、2018 年 12 月 4 日

Hirakawa A, Nishikawa T, Yonemori K, Shibata T, Nakamura K, Ando M, Ueda T, Ozaki T, Tamura K, Kawai A, Fujiwara Y: Utility of Bayesian single-arm design in new drug application for rare cancers in Japan: A case study of phase 2 trial for sarcoma. Ther Innov Regul Sci 52(3): 334-338, 2018 年 5 月 16 日

Ogura K, Susa M, Morioka H, Matsumine A, Ishii T, Hamada K, Ueda T, Kawai A: Reconstruction using a constrained-type hip tumor prosthesis after resection of malignant periacetabular tumors: A study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG). J Surg Oncol 117(7): 1455-1463, 2018 年 6 月 16 日

Tsukamoto Y, Futani H, Kihara T, Watanabe T, Kumanishi S, Matsuo S, Hirota S, Ueda T, Yamamoto H, Yoshiya S: An extremely rare case of primary malignancy in giant cell tumor of bone, arising in the right femur and harboring H3F3A mutation. Pathol Res Pract 214: 1504-1509, 2018 年 8 月 16 日

Hirao M, Yamada T, Michida T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mita E, Mano M, Sekimoto M. : Peritoneal Seeding after Gastric Perforation during Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Cancer. 「Dig Surg」 35(5) : P457-460、2018 年 8 月 1 日

Kurokawa Y, Doki Y, Mizusawa J, Terashima M, Katai H, Yoshikawa T, Kimura Y, Takiguchi S, Nishido Y, Fukushima N, Iwasaki Y, Kaji M, Hirao M, Katayama H, Sasako M. : Bursectomy versus omentectomy alone for resectable gastric cancer (JCOG1001): a phase 3, open-label, randomised controlled trial. 「Lancet Gastroenterol Hepatol」 3(7) : P460-468、2018 年 7 月 1 日

Nakamura Y, Yamanaka T, Chin K, Cho H, Katai H, Terashima M, Misawa K, Hirao M, Yoshida K, Oki E, Sasako M, Emi Y, Bando H, Kawashima Y, Fukunaga T, Gotoh M, Ishibashi T, Shitara K. : Survival Outcomes of Two Phase 2 Studies of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Plus Oxaliplatin or Capecitabine Plus Oxaliplatin for Patients with Gastric Cancer After D2 Gastrectomy. 「Ann Surg Oncol」 26(2) : P465-472、2019 年 2 月 1 日

Nishikawa K, Aoyama T, Oba M, Yoshikawa T, Matsuda C, Munemoto Y, Takiguchi N, Tanabe K, Nagata N, Imano M, Oshiro M, Fukushima R, Kataoka M, Morita S, Tsuburaya A, Mishima H, Kono T, Sakamoto J. : The clinical impact of Hangeshashinto (TJ-14) in the treatment of chemotherapy-induced oral mucositis in gastric cancer and colorectal cancer: Analyses of pooled data from two phase II randomized clinical trials. (HANGESHA-G and HANGESHA-C) 「Journal of Cancer」 9(10) : P1725-1730、2018 年 4 月 19 日

Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Kobayashi M, Kawada J, Fukushima R, Matsui T, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Takahashi M, Hirabayashi N, Sato S, Nemoto H, Rino Y, Nakajima J, Aoyama T, Miyagi Y, Oriuchi N, Yamaguchi K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J. : A randomised phase II trial of capecitabine plus cisplatin versus S-1 plus cisplatin as a first-line treatment for advanced gastric cancer: Capecitabine plus cisplatin ascertainment versus S-1 plus cisplatin randomised PII trial. (XParTS II) 「Eur J Cancer」 101 : P220-228、2018 年 8 月 7 日

Nishikawa K, Tsuburaya A, Yoshikawa T, Takahashi M, Tanabe K, Yamaguchi K, Yoshino S, Namikawa T, Aoyama T, Rino Y, Kawada J, Tsuji A, Taira K, Kimura Y, Kodaera Y, Hirashima Y, Yabusaki H, Hirabayashi N, Fujitani K, Miyashita Y, Morita S, Sakamoto J. : A phase II trial of capecitabine plus cisplatin (XP) for patients with advanced gastric cancer with early relapse after S-1 adjuvant therapy: XParTS-I trial. 「Gastric Cancer」 21(5) : P811-818、2018 年 9 月 1 日

Nishina T, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Mitome T, Kageyama H, Hyodo I. : Early tumor shrinkage and depth of response in patients with advanced gastric cancer: a retrospective analysis of a randomized phase III study of first-line S-1 plus oxaliplatin vs. S-1 plus cisplatin 「Gastric Cancer」 22(1) : P138-146、2019 年 1 月 15 日

Shitara K, Doi T, Mikhail Dvorkin, Wasat Mansoor, Hendrik-Tobias Arkenau, Aliaksandr Prokharau, Maria Alsina, Michele Ghidini, Catia Faustino, Vera Gorbunova, Edvard Zhavrid, Nishikawa K, Hosokawa A, Şuayib Yalçın, Fujitani K, Giordano D Beretta, Eric Van Cutsem, Robert E Winkler, Lukas Makris, David H Ilson, Josep Tabernero. : Trifluridine/tipiracil versus placebo in patients with heavily pretreated metastatic gastric cancer (TAGS): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. 「Lancet Oncol」 19 (11) : P1437-1448、2018 年 11 月 1 日

Takashima A, Shitara K, Fujitani K, Koeda K, Hara H, Nakayama N, Hironaka S, Nishikawa K, Kimura Y, Amagai K, Fujii H, Muro K, Esaki T, Choda Y, Takano T, Chin K, Sato A, Goto M, Fukushima N, Hara T, Machida N, Ohta M, Boku N, Shimura M, Morita S, Koizumi W. : Peritoneal metastasis as a predictive factor for nab-paclitaxel in patients with pretreated advanced gastric cancer: an exploratory analysis of the phase III ABSOLUTE trial. 「Gastric Cancer」 22(1) : P155-163、2019 年 1 月 15 日

Endo S, Ikenaga M, Ohta K, Ueda M, Tsuda Y, Kato R, Itakura H, Matsuyama J, Nishikawa K, Yamada T. : Prognostic factors for cytology-positive gastric cancer. 「Surg Today」 49(1) : P56-64、2019 年 1 月 15 日

Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, Oshima T, Nunobe S, Hiki N : Effects of perioperative Eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on lean body mass after total gastrectomy for gastric cancer. 「Journal of Cancer」 10(5) : P1070-1076、2019 年 1 月 19 日

Masuda N, Inoue K, Nakamura R, Rai Y, Mukai H, Ohno S, Hara F, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Huang X, Iwata H : Palbociclib in combination with fulvestrant in patients with hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer: PALOMA-3 subgroup analysis of Japanese patients. 「Int J Clin Oncol」 24(3) : P262-273、2019 年 3 月

Nakayama T, Sagara Y, Takashima T, Matsunami N, Masuda N, Miyoshi Y, Taguchi T, Aono T, Ito T, Kagimura T, Noguchi S : Randomized phase II study of anastrozole plus tegafur-uracil as neoadjuvant therapy for ER-positive breast cancer in postmenopausal Japanese women (Neo-ACET BC). 「Cancer Chemother Pharmacol」 81(4) : P755-762、2018 年 4 月

Ueno T, Masuda N, Kamigaki S, Morimoto T, Akiyama F, Kurosumi M, Tsuda H, Mikami Y, Tanaka S, Morita S, Toi M. : A multicenter phase II trial of neoadjuvant letrozole plus low-dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer (JBCRG-07):therapeutic efficacy and clinical implications of circulating endothelial cells.「Cancer Medicine」 7(6) : P2442-2451、2018 年 6 月

Yoshida K, Otani Y, Nose T, Yoden E, Asahi S, Tsukiyama I, Dokiya T, Saeki T, Fukuda I, Sekine H, Kumazaki Y, Takahashi T, Kotsuma T, Masuda N, Nakashima K, Matsumura T, Nakagawa S, Tachiiri S, Moriguchi Y, Itami J, Oguchi M : Case report of a dose-volume histogram analysis of rib fracture after accelerated partial breast irradiation: interim analysis of a Japanese prospective multi-institutional feasibility study. 「J Contemp Brachytherapy」 10(3) : P274-278、2018 年 6 月

Rugo HS, Turner NC, Finn RS, Joy AA, Verma S, Harbeck N, Masuda N, Im SA, Huang X, Kim S, Sun W, Iyer S, Schnell P, Bartlett CH, Johnston S : Palbociclib plus endocrine therapy in older women with HR+/HER2- advanced breast cancer: a pooled analysis of randomised PALOMA clinical studies. 「Eur J Cancer」 101 : P122-123、2018 年 9 月

Takada M, Sugimoto M, Masuda N, Iwata H, Kuroi K, Yamashiro H, Ohno S, Ishiguro H, Inamoto T, Toi M : Prediction of postoperative disease-free survival and brain metastasis for HER2-positive breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy plus trastuzumab using a machine learning algorithm. 「Breast Cancer Res Treat」 172(3) : P611-613、2018 年 12 月

Yamamoto Y, Iwata H, Ueno T, Taira N, Kashiwaba M, Takahashi M, Tada H, Tsugawa K, Toyama T, Niikura N, Hara F, Fujisawa T, Yoshinami T, Saji S, Takano T, Masuda N, Morita S, Toi M, Ohno S : A randomized, open-label, Phase III trial of pertuzumab retreatment in HER2-positive locally advanced/metastatic breast cancer patients previously treated with pertuzumab, trastuzumab and chemotherapy: the Japan Breast Cancer Research Group-M05 PRECIOUS study. 「Jpn J Clin Oncol」 48(9) : P855-859、2018 年 9 月

Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Bailey H, Cherbavaz DB, Jakubowski DM, Sugiyama N, Chao C, Ohashi Y : Validation of the 21-gene test as a predictor of clinical response to neoadjuvant hormonal therapy for ER+, HER2-negative breast cancer: the TransNEOS study. 「Breast Cancer Res Treat」 173(1) : P123-133、2019 年 1 月

Mukai H, Shimizu C, Masuda N, Ohtani S, Ohno S, Takahashi M, Yamamoto Y, Nishimura R, Sato N, Ohsumi S, Iwata H, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Lu DR, Toi M : Palbociclib in combination with letrozole in patients with estrogen receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer: PALOMA-2 subgroup analysis of Japanese patients. 「Int J Clin Oncol」 24(3) : P274-287、2019 年 3 月

Ueno T, Masuda N, Kamigaki S, Morimoto T, Saji S, Imoto S, Sasano H, Toi M : Differential Involvement of Autophagy and Apoptosis in Response to Chemoendocrine and Endocrine Therapy in Breast Cancer. 「Int J Mol Sci」 20(4) : E984、2019 年 2 月

Hasegawa H, Ando M, Yatabe Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K. Site-specific Chemotherapy Based on Predicted Primary Site by Pathological Profile for Carcinoma of Unknown Primary Site. 「Clin Oncol (R Coll Radiol)」 30(10):667-673、2018 年 10 月

Masuishi T, Taniguchi H, Eto T, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Ishihara M, Tanaka T, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Nomura M, Sato Y, Mishima H, Muro K. Morphologic Response and Tumor Shrinkage as Early Predictive Markers in Unresectable Colorectal Liver Metastases. 「Anticancer Res」 38(11):6501-6506、2018 年 11 月

Nishikawa K, Murotani K, Fujitani K, Inagaki H, Akamaru Y, Tokunaga S, Takagi M, Tamura S, Sugimoto N, Shigematsu T, Yoshikawa T, Ishiguro T, Nakamura M, Hasegawa H, Morita S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J, Tsujinaka T. A study of second-line irinotecan plus cisplatin vs. irinotecan alone in platinum-naïve patients with early relapse of gastric cancer refractory to adjuvant S-1 monotherapy: exploratory subgroup analysis of the randomized phase III TRICS trial. 「Cancer Chemother

Pharmacol」 2019 年 2 月[Epub ahead of print]

Nishioka M, Okuyama T, Uchida M, Aiki S, Ito Y, Osaga S, Imai F, Akechi T : What is the appropriate communication style for family members confronting difficult surrogate decision-making in palliative care?: A randomized video vignette study in medical staff with working experiences of clinical oncology. 「Jpn J Clin Oncol.」 49(1): 48-56、2019 年 1 月 1 日

A-2

栗山啓子：最新の肺癌病期分類「胸部の CT 第 4 版」村田喜代史、上甲 剛、村山貞之、酒井文和 編集、p.144-161、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、2018 年 4 月 10 日

平尾素宏：食道がん 受診から診断、治療、経過観察への流れ 「がん情報サービス でんし冊子」 P.2-21、2018 年

西川和宏：化学療法誘発性口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯：HANGESHA-C・HANGESHA-G プール解析 「漢方医学」 42 (4) P.144-147、2018 年

増田慎三：Palbociclib＋Fulvestrant 療法「エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2018」 P.277-280、メディカルレビュー社、東京、2018 年 6 月 1 日

増田慎三：Palbociclib＋Letrozole 療法「エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2018」 P.281-283、メディカルレビュー社、東京、2018 年 6 月 1 日

増田慎三：Palbociclib＋Letrozole 療法 章 総論 1.乳癌治療の基本アルゴリズム 「乳癌 薬物療法ハンドブック」佐治重衡、P.2-13、株式会社南江堂、東京、2019 年 1 月 31 日

明石直子、庄野裕志、安原加奈、八十島宏行、増田慎三：大阪医療センターにおける研究・調査の結果「抗がん薬曝露対策ファイル」 P.56-61、株式会社じほう、東京、2018 年 7 月

相木佐代：終末期と Advance Care Planning 「G ノート増刊 終末期を考える」岡村知直、柏木秀行、宮崎万友子編集、5(6)：P27-32、羊土社、東京、2018 年 9 月 1 日

相木佐代：腹部膨満感をなんとかする 何をやってもどうしようもないとき 悪性消化管閉塞対策に＋αを「緩和ケア」山口崇・田村恵子編集、28(6)：P447、青海社、東京、2018 年 11 月 15 日

A-3

村上弘大、三宅正和、植村 守、宮崎道彦、池田正孝、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に切除した低異型度虫垂粘液性腫瘍の2例「日外科系連会誌」 43（2）P.204-209、2018年6月1日

北風雅敏、平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：右鎖骨下動脈起始異常を合併する食道癌切除術の工夫「日外科系連会誌」 43（6）P.1021-1026、2018年

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：脾癌切除後の残脾再発に対して残脾切除を行い長期生存が得られた1例「癌と化学療法」 46（2）P.330-332、2019年2月1日

増田慎三：乳癌の治療 乳癌の薬物療法 CDK4/6 阻害薬「日本臨牀」76(5)：P.801-810、日本臨牀社、2018年5月1日

増田慎三：OlympiAD 試験「CANCER BOARD of the BREAST」4(2)：P.60-61、メディカルレビュー社、2018年8月

増田慎三：特集 術前・術後補助化学療法の現在とこれから 1.各がん腫における術前・術後補助化学療法現在 3) 乳がん「臨床腫瘍プラクティス」14(3)：P.173-176、ヴァン メディカル、2018年8月10日

田中希世、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、関本貢嗣、中森正二、増田慎三：Pertuzumab 併用療法を施行した HER2 陽性進行・再発乳癌例の検討「臨牀と研究」95(10)：P.95-100、大道学館、2018年10月20日

A-4

栗山啓子：デジタル時代の胸部 X 線写真の診かた 画像処理と視線の動きで隠れた領域の肺癌を見逃さない！「日本臨床内科医会会誌」33（2）：p.205-209、2018年9月10日

坪山尚寛、竹位応輝、岡田敦彦、和田恵子、栗山啓子：卵巣の画像診断「日本放射線技術学会誌」74(6)：p.606-612、2018年6月

上田孝文：運動器の10年「がんとロコモティブシンドローム」. 悪性軟部腫瘍（軟部肉腫）に対する薬物治療の開発状況と今後の展望「クリニシアン」669/65(11-12)：p.127-133、2018年12月1日

A-5

増田慎三：乳がん薬物療法に関する臨床試験データの医学的解釈と臨床的位置づけ、副作用に対するマネジメント「Breast cancer Round table discussion 記録集」2018年10月

増田慎三：日本人ホルモン陽性進行乳癌患者における palbociclib の好中球減少マネジメント (PALOMA-2/-3、国内第 2 相試験)「第 26 回日本乳癌学会学術総会 記録集」2018 年 7 月

A-6

増田慎三：監修「MARIANNE 試験データブック」中外製薬株式会社、2018 年 5 月

増田慎三：監修「消化管潰瘍・出血・穿孔～アバスチン治療中に気を付けたい副作用～」中外製薬株式会社、2018 年 6 月

B-1

Robson ME, Im SA, Senkus E, Xu B, Domchek S, Masuda N, Delaloge S, Li W, Tung N, Armstrong A, Wu W, Goessl C, Runswick S, Conte P. OlympiAD final overall survival: Olaparib versus chemotherapy treatment of physician's choice (TPC) in patients with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm). American Association for Cancer Research, Chicago, USA, 2018 年 4 月 15 日

Im SA, Masuda N, Im YH, Inoue K, Kim SB, Redfern A, Lombard J, Lu D, Theall KP, Gauthier E, Mukai H, Ro J. Efficacy and safety of palbociclib plus endocrine therapy (ET) for HR+/HER2- advanced breast cancer (ABC) in the Asian-pacific (AP) region. Australia, 2018 年 8 月 1 日

Imoto S, Saito MO, Masuda N, Nagashima T, Wada N, Takashima T, Kitada M, Kawada M, Hayashida T, Taguchi T, Aihara T, Miura D, Toh U, Yoshida M, Sugae S, Yoneyama K, Matsumoto H, Jinno H, Sakamoto J. Observational study of axilla treatment for breast cancer patients with 1 to 3 positive micrometastases or macrometastases in sentinel lymph nodes. International Sentinel Node Society Biennial Meeting, 東京, 2018 年 10 月 11 日

Iwata H, Masuda N, Yamamoto Y, Fujisawa T, Toyama T, Taira N, Kashiwaba M, Ohtani S, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamagushi T, Ohashi Y. Distant disease-free survival (DDFS) according to response category in neoadjuvant endocrine therapy (NET): 6-Year analysis in phase III NEOS trial. European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Yap YS, Masuda N, Ito Y, Ishikawa T, Kim SJ, Aruga T, Toyama T, Saeki T, Yamanaka T, Saito M, Watanabe J, Takahashi M, Nakamura S, Inoue K, Jose Suarez-Vizcarra, He W, Solovieff N, Su F, Chiu J. Biomarker analyses of Asian women with hormone receptor-positive (HR+), HER2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC) receiving ribociclib (RIB) + endocrine therapy (ET). European Society for Medical Oncology Asia 2018 Congress, 2018 年 11 月 23 日

B-2

Uemura M, Miyake M, Miyazaki M, Kato T, Ikeda M, Hamakawa T, Maeda S, Hama N, Nishikawa K, Miyamoto A, Hirao M, Mizushima T, Yamamoto H, Mori M, Nakamori S, Sekimoto M : Laparoscopic surgery for locally recurrent rectal cancer with concomitant sacrectomy. 26th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery, London, 2018 年 5 月 31 日

Yamagishi T, Matsui M, Sekizuka T, Ito H, Fukushima M, Uehira T, Tsubokura M, Miyamoto A, Nakamori S, Tawa A, Yoshida H, Kuroda M, Suzuki S, Shibayama K, Matsui T, Oishi K. : A prolonged multispecies outbreak of carbapenemase-producing Enterobacteriaceae due to transmissible plasmid with carbapenemase gene. ID Week, SanFrancisco, 2018 年 10 月 3 日

Morishita S, Takita M, Yoshizawa A, Kamei K, Nakamori S, Ishihara S, Kuramochi H, Yokoyama Y, Uchiyama T, Murohisa G, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A. : FOLFIRINOX for recurrent pancreatic cancer after resection: nationwide multicenter observational study by Japan Adjuvant Study Group of Pancreatic Cancer (JASPAC) ESMO, Munich, 2018 年 10 月 19 日

Takeuchi A, Yamamoto N, Niu X, Chen W-M, Nakamura T, Nathan SS, Ueda T, Iwata S, Kawai A, Kang Y-K, Asavamongkolkul A, Wang EHM, Singh VA, Shirai T, Chung Y-G: Long-term clinical outcomes of 105 patients with diffuse-type tenosynovial giant cell tumor: The East Asia Musculo-skeletal Oncology Group (EAMOG) study. 12th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society (APMSTS) 2018 meeting, Jaipur, India, 2018 年 10 月 7 日

Outani H, Kanzaki R, Hamada K, Takenaka S, Tanaka T, Kakunaga S, Ueda T, Yoshikawa H: Rib sarcoma resection with video-thoracoscopic assistance. 12th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society (APMSTS) 2018 meeting, Jaipur, India, 2018 年 10 月 5 日

Obata H, Ueda T, Naka N, Outani H, Yoshikawa H: Soft tissue sarcomas of the ankle and foot: Clinical outcome and prognostic factors. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting, Rome, 2018 年 11 月 15 日

Takenaka S, Araki N, Ueda T, Kakunaga S, Imura Y, Naka N, Outani H, Hamada K, Yasuda N, Yoshikawa H: The clinical outcome of the osteoarticular extracorporeal irradiated autograft for bone sarcoma. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting, Rome, 2018 年 11 月 15 日

Kakunaga S, Takenaka S, Imura Y, Outani H, Hamada K, Naka N, Ueda T, Aoki Y: Clinical outcome of periosteal osteosarcoma: A single institutional study. 23rd Connective Tissue Oncology Society (CTOS) 2018 annual meeting, Rome, 2018 年 11

月 15 日

Hirao M, Tanaka E, Okita Y, Fujinaka T, Nishikawa K, Hamakawa T, Mano M, Nakamori S. : Brain Metastasis from Thoracic Esophageal Cancer at a Single Institute. ISDE2018, ISDE2018 年 9 月 17 日

Iwasaki Y, Terashima M, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura K, Katai H, Yoshikawa T, Ito Y, Kaji M, Kimura Y, Hirao M, Yamada M, Kurita A, Takagi M, Gotoh M, Takagane A, Yabusaki H, Hirabayashi N, Sano T, Sasako M : Randomized phase III trial of gastrectomy with or without neoadjuvant S-1 plus cisplatin for type 4 or large type 3 gastric cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0501). 2018 ASCO Annual Meeting, Chicago, 2018 年 6 月 3 日

Hamakawa T, Hirao M, Nishikawa K, Fujiwara A, Maeda S, Uemura M, Miyake M, Hama N, Miyamoto A, Kato T, Takami K, Nakamori S, Sekimoto M : The Effect of Preoperative Breathing Exercise in Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer. ISDE2018, Vienna, 2018 年 9 月 17 日

Nishikawa K, Koizumi W, Tsuburaya A, Yamanaka T, Morita S, Fujitani K, Akamaru Y, Shimada K, Hosaka H, Nakayama N, Miyashita Y, Tsujinaka T, Sakamoto J : Meta-analysis of biweekly irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone as second-line treatment for advanced gastric cancer. ESMO2018, Munich, 2018 年 10 月 21 日

Nishikawa K, Kimura Y, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Tamura S, Kawabata R, Kawada J, Yanagimoto Y, Kawase T, Takagi M, Fukui J, Takeno A, Fujii C, Yamada T, Shimokawa T, Imamura H. : Long-term effects of an oral elemental nutritional supplement on post-gastrectomy body weight loss in gastric cancer patients. ASCO-G I 2019 San Francisco, 2019 年 1 月 17 日

Masuda N, Noguchi S, Ishikawa T, Aruga T, Kim SJ, Toyama T, Saeki T, Saito M, Yamanaka T, Watanabe J, Nakamura S, Takahashi M, Inoue K, Gounaris I, Han Y, Tanay S. Samant, Gazdaru M, Ito Y. Ribociclib (RIB) + endocrine therapy (ET) in Japanese women with hormone receptor-positive (HR+), HER2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC). European Society for Medical Oncology Asia, Singapore, 2018 年 11 月 23 日

Masuda N, Yonemori K, Takahashi S, Kogawa T, Nakayama T, Iwase H, Takahashi M, Toyama T, Saeki T, Saji S, Inoue K, Onuma H, Tajima N, Shiose Y, Chen S, Guevara F, Yu C, Ueno S, Iwata H. Single agent activity of U3-1402, a HER3-targeting antibody-drug conjugate, in HER3-overexpressing metastatic breast cancer: Updated results of a phase 1/2 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 5 日

Masuda N, Yamashita T, Saji S, Araki K, Ito Y, Takano T, Takahashi M, Tsurutani J, Koizumi K, Kitada M, Kojima Y, Sagara Y, Tada H, Iwasa T, Kadoya T, Iwatani T, Hasegawa H, Morita S, Ohno S. A phase III trial to compare eribulin mesylate + trastuzumab (H) + pertuzumab (P) with paclitaxel or docetaxel + HP for HER2-positive advanced or metastatic breast cancer (JBCRG-M06/ EMERALD). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Ruddy KJ, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Li W, Tung NM, Armstrong AC, Bannister W, Goessl C, Degboe A, Hettle R, Conte PF. EORTC QLQ-C30 (QLQ-C30) symptoms in patients (pts) with HER2-negative metastatic breast cancer (mBC) and a germline BRCA mutation (gBRCAm) receiving olaparib vs chemotherapy treatment of physician's choice (TPC) in OlympiAD. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Tung MN, Im S-A, Senkus-Konefka E, Xu B, Domchek SM, Masuda N, Li W, Armstrong AC, Conte PF, Wu W, Goessl C, Runswick S, Robson ME. Olaparib versus chemotherapy treatment of physician's choice in patients with a germline BRCA mutation and HER2-negative metastatic breast cancer (OlympiAD): Efficacy in patients with visceral metastases. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Verma S, Im S-A, Ro J, Bondarenko I, Masuda N, Colleoni M, Verma S, Schnell P, Bananis E, Lu DR, Ettl J, Cristofanilli M, Rugo HS, Finn RS. Hematologic adverse events following palbociclib (PAL) dose reduction in patients (pts) with hormone receptor-positive (HR+)/human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2-) advanced breast cancer (ABC): Pooled analysis from randomized phase 2 and 3 studies.. American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Ozaki Y, Matsumoto K, Takahashi M, Mukohara T, Futamura M, Masuda N, Tsurutani J, Yoshimura K, Minami H, Takano T. Phase II study of a combination therapy of nivolumab, bevacizumab and paclitaxel in patients with HER2-negative metastatic breast cancer as a first-line treatment (WJOG9917B, NEWBEAT trial). American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018 年 6 月 2 日

Watanabe KI, Aogi K, Kitabe M, Sangai T, Ohtani S, Aruga T, Kawaguchi H, Fujisawa T, Maeda S, Morimoto T, Morita S, Masuda N, Toi M, Ohno S. Clinical efficacy of eribulin as first- or second-line treatment for patients with recurrent HER2-negative breast cancer: a phase II randomized study (JBCRG-19). European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Shimomura A, Tamura K, Mizutani T, Shibata T, Hara F, Fujisawa T, Niikura N, Hojo T, Kambayashi C, Saji S, Masuda N, Sawaki M, Yamamoto N, Nagashima F, Shien T, Iwata

H. A phase III study comparing trastuzumab emtansine with trastuzumab, pertuzumab, and docetaxel in elderly patients with advanced stage HER2-positive breast cancer. (JCOG1607 HERB TEA study). European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Ota T, Takada T, Fukui t, Nakahara Y, Kudo K, Okabe T, Hayashi H, Otani S, Hiyoshi Y, Yonesaka K, Sugiura T, Suzumura T, Terashima M, Nakano Y, Hasegawa Y, Tsukuda H, Matsui K, Masuda N, Fukuoka M. Serum biomarkers during the first cycle of anti-PD-1 antibody therapies in non-small cell lung cancer. European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Ohe Y, Yamamoto M, Gemma A, Kusumoto M, Yamada I, Ishii T, Masuda N. Safety profile and effectiveness of alectinib in the real world surveillance study of 1251 Japanese patients with ALK-positive non-small cell lung cancer. European Society for Medical Oncology, Munich, Germany, 2018 年 10 月 18 日

Shimomura A, Masuda N, Kawauchi J, Takizawa S, Ichikawa M, Matasuzaki J, Kuroi K, Hara H, Yamamoto N, Inoue K, Suganuma N, Aogi K, Ohno S, Tamura K, Ochiya T, Toi M. Predicting pathological complete response by the combination of microRNAs in patients with HER2-positive primary breast cancer who received neoadjuvant combination therapy of trastuzumab, lapatinib and paclitaxel: Results from JBCRG-16 (NeoLath) study. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Yasojima H, Sato N, Masuda N, Morimoto T, Ueno T, Kanbayashi C, Kaneko K, Saji S, Sasano H, Morita S, Ohno S, Toi M. Neoadjuvant exemestane or exemestane plus docetaxel and cyclophosphamide tailored by clinicopathological response to 8-12 weeks' exemestane exposure for ER+/HER2- postmenopausal breast cancer patients. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 7 日

Ozaki Y, Kitano S, Matsumoto K, Takahashi M, Mukohara T, Futamura M, Masuda N, Tsurutani J, Yoshimura K, Minami H, Takano T. Biomarker study of patients with HER2-negative metastatic breast cancer receiving combination therapy with nivolumab, bevacizumab and paclitaxel as first-line treatment (WJOG9917BTR). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 5 日

Hojo T, Masuda N, Shibata T, Mizutani T, Shien T, Kinoshita T, Iwatani T, Kanbayashi C, Kitagawa D, Tsuneizumi M, Iwata H. A randomized controlled trial comparing post-operative intensive follow-up with standard follow-up in high-risk breast cancer patients (JCOG1204: INSPIRE). San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA, 2018 年 12 月 6 日

Hasegawa H, Ishihara A, Iwasaki T, Tanaka T, Akasaka T, Sakakibara Y, Nakazuru S,

Ishida H, Hirao M and Mita E: Efficacy and prognostic factor analysis in second-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer. American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019、San Francisco、2019 年 1 月 17 日

Kotaka M, Satake H, Oba K, Kagawa Y, Yasui H, Nakamura M, Watanabe T, Matsumoto T, Kii T, Terazawa T, Makiyama A, Takano N, Yokota M, Okita Y, Matoba K, Hasegawa H, Tsuji A, Nagata N, Sakamoto J, Kato T : Multicenter phase Ib/ II study of biweekly trifluridine/tipiracil with bevacizumab combination for patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies (BiTS study). American society of clinical oncology gastrointestinal symposium 2019. San Francisco、2019 年 1 月

Aiki S, Okuyama T, Sugano K, Kubota Y, Imai F, Nishioka M, Ito Y, Iida S, Komatsu H, Akechi T : Cognitive Dysfunction Among Newly Diagnosed Older Patients With Hematological Malignancy: Frequency, Clinical Indicators, And Predictors. The 20th International Psycho-Oncology Society World Congress、HongKong、2018 年 11 月 1 日

B-3

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、土岐祐一郎、森 正樹、中森正二、関本貢嗣：直腸癌に対する骨盤内拡大手術における腹腔鏡下手術の新展開。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 6 日

前田 栄、濱直樹、宮本敦史、植村 守、三宅正和、西川和宏、平尾素宏、加藤健志、関本貢嗣、中森正二： 膵癌に対する conversion surgery の臨床的意義。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

福田泰也、山本和義、平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、森 正樹、土岐祐一郎、関本貢嗣：術前サルコペニアを有する高齢者胃癌患者に対する術後アウトカム向上を目指した術前栄養・運動介入の試み。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 5 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：初発直腸癌症例に対する骨盤内蔵全摘術（TPE)における MIS の現状。 7th Reduced Port Surgery Forum、札幌、2018 年 8 月 3 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：仙骨合併切除を伴う直腸癌局所再発症例に対する術前治療。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 19 日

三宅正和、植村 守、加藤健志、平尾素宏、宮本敦史、西川和宏、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、池田正孝、関本貢嗣：当院における下部消化管穿孔に対する内視鏡手術。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：噴門側胃切除術食道残胃吻合(circular stapler)の術後成績および体重減少に関連する因子の検討。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：脾頭十二指腸切除後の腹腔内出血に対して外科的治療によって救命し得た 2 例。第 43 回日本外科系連合学会学術集会、東京、2018 年 6 月 23 日

西川和宏：胃癌治療の最前線～手術・化学療法・栄養サポートを中心に～。第 91 回日本胃癌学会総会ランチョンセミナー、静岡、2019 年 2 月 28 日

西川和宏、設樂紘平、細川 歩、藤谷和正、保坂尚志、肥田圭介、間狩洋一、天貝賢二、行澤斉悟、David H Ilson、Josep Tabernero、土井俊彦：切除不能進行再発胃癌に対する Trifluridine/Tipiracil の国際共同試験：TAGS。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

増田慎三：HER2 陽性原発性乳癌の治療の現状と展望～術前治療からのアプローチ。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

増田慎三、向井博文、井上賢一、雷 哲明、大野真司、橋垣学、村松泰明、梅山佳子、岩田広治、戸井雅和：日本人ホルモン陽性進行乳癌患者における palbociclib の好中球減少マネジメント(PALOMA-2/-3,国内第 2 相試験)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

増田慎三：HER2 陽性乳癌～周術期治療の現状と今後の展望。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

杉本昌弘、高田正泰、増田慎三、岩田広治、黒井克昌、山城大泰、大野真司、石黒 洋、稲本 俊、戸井雅和：Trastuzumab を含む術前科学療法を施行された HER2 陽性原発性乳癌の予後予測数理モデルの開発。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 16 日

川口英俊、増田慎三、中山貴寛、青儀健二郎、阿南敬生、伊藤良則、大谷彰一郎、佐藤信昭、佐治重衡、徳永えり子、中村清吾、長谷川善枝、藤澤知己、山口美樹、山下年成、山本豊、森田智視、戸井雅和、大野真司：大規模コホート研究からみた閉経後 ER 陽性転移・再発乳癌におけるフルベストラントの位置づけ(Safari 試験)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

岩田広治、増田慎三、山内照夫、中村清吾、徳永えり子、高橋将人、田村研治、雷 哲明、金昇晋、六反田奈和：BRCA 変異陽性転移性乳癌に対するオラパリブ単独療法と化学療法を比較する第 Ⅲ 相試験（OlympiAD）。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

山内照夫、増田慎三、岩田広治、中村清吾、徳永えり子、高橋将人、田村研治、雷 哲明、金昇晋、六反田奈和：BRCA 変異陽性転移性乳癌に対するオラパリブ単独療法と化学療法を比較する第 Ⅲ 相試験（OlympiAD）HRQoL の評価。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 18 日

相木佐代、渡邊理香、栗生正義、引持志津香、松井春希：認知機能障害による離院のため、施設管理及び強制退院に至った症例。第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

B-4

三宅正和、植村 守、池田正孝、加藤健志、宮崎道彦、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：当院における局所進行直腸癌に対する集学的治療。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 5 日

山口 歩、三宅正和、植村 守、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：原発性小腸癌 5 例の検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 6 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発手術における術後感染性合併症の検討。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7 日

Maeda S, Hama N, Miyamoto A, Kitakaze M, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Kato T, Hirao M, Sekimoto M, Nakamori S : Hepatectomy in patients with hemophilia. 第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2018 年 6 月 8 日

小林 登、三宅正和、植村 守、加藤健志、加藤伸弥、山口 歩、北風雅敏、小林雄太、山本 慧、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、中森正二、関本貢嗣：腹腔鏡下に S 状結腸切除術と悪性リンパ腫生検を同時に施行した一例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

山口 歩、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、加藤伸弥、下山 遼、北風雅敏、小林 登、小林雄太、山本慧、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HER2 陽性胃癌の術後単発肝転移再発に対して、

化学療法後に肝切除を施行した症例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、平尾素宏、宮本敦史、中森正二、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発手術症例（仙骨合併切除例）における静脈血栓塞栓症に関する検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、中森正二、関本貢嗣：直腸癌に対する腹腔鏡下側方リンパ節郭清術のコツとピットフォール。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

本田 亨、坪山尚寛、木曾建吾、岸本健太郎、井上敦夫、東 将浩、栗山啓子：卵管妊娠の一例 T2 強調像撮像法の違いによる three rings appearance の描出能について。第 54 回日本医学放射線学会秋季臨床大会、福岡、2018 年 10 月 5 日

高見康二、藤原綾子、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、眞能正幸：すりガラス影から進展し再切除不能となった多発肺癌症例に EGFR-TKI が奏効した 2 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 12 月 1 日

藤原綾子、高見康二、木村 剛、安藤性實、宮本 智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫：Pembrolizumab 投与後に完全切除し得た 期肺多形癌の 1 例。第 59 回日本肺癌学会学術集会、東京、2018 年 11 月 29 日

池田将吾、岩本圭史、川島邦彦、宮本隆司、上田孝文：TKA 後疼痛管理における持続大腿神経ブロックと選択的脛骨神経ブロックの併用効果。第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018 年 4 月 20 日

古市拓也、角永茂樹、上田孝文：巨脾を伴う後腹膜脱分化型脂肪肉腫に対して術前放射線治療、広範切除術を行った一例。第 130 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、松山、2018 年 4 月 20 日

濱田健一郎、中 紀文、角永茂樹、中井 翔、王谷英達、竹中 聡、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、吉川秀樹：5 年以上経過観察可能であった 12 歳以下の下肢に生じた骨肉腫症例の術後成績。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 24 日

王谷英達、竹中 聡、濱田健一郎、名井 陽、吉川秀樹、上田孝文、中 紀文、荒木信人：初診時転移のない滑膜肉腫の手術成績。第 91 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2018 年 5 月 27 日

竹中 聡、濱田健一郎、王谷英達、中 紀文、荒木信人、上田孝文、名井 陽、吉川秀樹：術中体外放射線照射処理骨の osteoarticular graft の治療成績。第 51 回日本

整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月12日

森井健司、穴澤卯圭、石井 猛、国定俊之、中山ロバート、菊田一貴、浅野尚文、宇高 徹、上田孝文、森岡秀夫：四肢体幹部に発生した脱分化脂肪肉腫の治療成績－JMOGによる多施設共同研究－。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月12日

中山ロバート、浅野尚文、小林英介、濱田俊介、川島寛之、濱田健一郎、渡部逸央、麩谷博之、五嶋孝博、森岡秀夫、上田孝文：本邦における淡明細胞型軟骨肉腫の治療成績－日本骨軟部肉腫治療研究会(JMOG)多施設共同研究－。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月12日

角永茂樹、上田孝文、久田原郁夫：下腿後面の悪性軟部腫瘍に対して術前化学療法・放射線治療を施行した治療経験。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月12日

若松 透、角永茂樹、竹中 聡、伊村慶紀、堀 由美子、中 紀文、上田孝文、吉川秀樹：骨外性骨肉腫に対するイホマイド，ドキソルビシン併用化学療法の有用性の検討。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月13日

王谷英達、竹中 聡、濱田健一郎、中井隆彰、伊村慶紀、田中太晶、田宮大也、大島和也、角永茂樹、中紀文、名井 陽、久田原郁夫、荒木信人、上田孝文、吉川秀樹：術中体外放射線照射自家骨移植術の長期成績。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月13日

武内章彦、山本憲男、Xiaohui Niu、Wei-Ming Chen、中村知樹、Saminathan Suresh Nathan、上田孝文、岩田慎太郎、川井 章、Yong-Koo Kang、Apichat Asavamongkolkul、白井寿治、土屋弘行：びまん型腱滑膜巨細胞腫の長期成績－東アジア骨軟部腫瘍研究グループ多施設共同研究－。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月13日

竹中 聡、角永茂樹、伊村慶紀、宮村能子、橋井佳子、濱田健一郎、王谷英達、中紀文、荒木信人、上田孝文、名井 陽、吉川秀樹：転移性 Ewing 肉腫ファミリー腫瘍の治療経験－大量化学療法の有効性について－。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月13日

池田将吾、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：両大腿骨遠位に発症した chronic expanding hematoma。第51回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、静岡、2018年7月13日

石原幹也、服部浩佳、西田佳弘、江森誠人、川井 章、上田孝文、松本嘉寛、笹田哲朗、佐藤永一、山田知美、原田直純、珠玖洋、影山慎一：難治性軟部肉腫に対

する NY-ESO-1 抗原を標的としたワクチン併用 TCR 遺伝子改変 T 細胞輸注療法
多施設共同医師主導治験。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、
東京、2019 年 2 月 22 日

遠藤 誠、高橋俊二、荒木信人、杉浦英志、上田孝文、米本 司、高橋 満、森岡秀
夫、平賀博明、比留間 徹、川井章：悪性軟部腫瘍に対するトラベクテジンの腫瘍
反応に関する時間経過分析：国内第 II 相試験の統合解析。第 2 回日本サルコーマ
治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2 月 22 日

竹中 聡、濱田健一郎、王谷英達、宮村能子、橋井佳子、磯橋文明、藤田二郎、前
田哲生、角永茂樹、上田孝文、伊村慶紀、中 紀文、荒木信人、名井 陽、吉川秀
樹：転移性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍の治療経験：大量化学療法の有効性に
ついて。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2
月 22 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨巨細胞腫に対するデノスマブ治療の臨床成
績。第 2 回日本サルコーマ治療研究学会(JSTAR)学術集会、東京、2019 年 2 月 22
日

平尾素宏、田中英一、沖田典子、藤中俊之、西川和宏、浜川卓也、眞能正幸、中
森正二、関本貢嗣：当院における食道癌脳転移症例 10 例の検討。第 72 回日本
食道学会学術集会、宇都宮、2018 年 6 月 28 日

平尾素宏、浜川卓也、西川和宏、永妻佑季子、谷川 清、西園博章、高見康二、加
藤健志、宮本敦史、増田慎三、濱 直樹、八十島宏行、水谷麻紀子、三宅正和、植
村 守、前田 栄、大谷陽子、藤原綾子、関本貢嗣：上部消化管悪性疾患患者にた
いする術前栄養・運動療法導入が周術期アウトカムに及ぼす効果の調査－研究紹
介－。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 6 日

平尾素宏、西川和宏、浜川卓也、加藤健志、宮本敦史、濱 直樹、三宅正和、植村
守、前田 栄、関本貢嗣：HER2 陽性胃癌の腎門部再発治療後の長期生存例。第 91
回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、田中英一、岩崎哲也、下山 遼、前田 栄、植村 守、
三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：胃癌
術後リンパ節再発の十二指腸浸潤部出血に対し姑息的放射線治療で止血を得た 1
例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

加藤伸弥、西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、山口 歩、北風雅敏、小林 登、小林
雄太、山本慧、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮
崎道彦、加藤健志、高見康二、中森正二、関本貢嗣：DS 療法が奏功した腹膜播種
転移胃癌の 1 例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

浜川卓也、平尾素宏、西川和宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：HALS 胃管再建における気腹下 W-ED チューブ誘導の工夫。第 72 回日本食道学会学術集会、宇都宮、2018 年 6 月 28 日

永妻佑季子、平尾素宏、谷川 清、越後朋彦、宗本由香、大土彩子、光野香織、大槻朱美、山内 愛、藤本寿音、荒川和子、東 加織、浜川卓也、西川和宏、関本貢嗣：Stage1 胃癌切除後 1 年間の栄養評価と骨格筋指数 SMI の変化の検討。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 6 日

小林 登、西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：Conversion surgery を施行した Stage IV 胃癌症例の生存成績の検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

谷島裕之、平尾素宏、湯沢賢治、芳賀克夫、杉谷 篤、林 尚子、藤岡正樹、岩代 望、木村俊久、山下素弘：大腸手術時の Surgical site infection 防止策の現状、国立病院機構でのアンケート調査の結果より。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

堀内哲也、平尾素宏、手島 伸、餐場正明、田代裕尊、高橋忠照、楠本哲也、片岡正人、成田匡大、大賀丈史：上部消化管手術における SSI 防止対策－国立病院機構外科麻酔科グループアンケート調査を中心に－。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

三宅正和、加藤健志、池田正孝、植村 守、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、宮崎道彦、関本貢嗣：当院で施行した他臓器浸潤大腸癌に対する外科治療の成績。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 11 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：早期胃癌に対する噴門測胃切除術食道残胃吻合の術後成績および体重減少に関連する因子の検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

楠誓子、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：当院における直腸脱手術での Reduced Port Surgery の取り組み。7th Reduced Port Surgery Forum、札幌、2018 年 8 月 4 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、長谷川裕子、前田 栄、藤原綾子、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：当院における切除不能進行再発胃癌患者に対するニボルマブ療法の治療成績。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 18 日

朴 正勝、池田正孝、植村 守、三宅正和、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、関本貢嗣：大腸癌術後の VTE 予

防としてのエノキサパリンの有効性・安全性に関する検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 2 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：超音波凝固切開装置を用いた進行・再発直腸癌における出血制御にこだわった腹腔鏡下側方郭清術。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、藤原綾子、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：化学療法後に切除を行った Stage 胃癌の治療成績。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

山口 歩、西川和宏、前田栄、浜川卓也、平尾素宏、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：HERS2 陽性胃癌術後単発肝転移再発に対して、化学療法後に肝切除を施行した症例。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 23 日

楠 誓子、植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：骨盤内拡大手術における術後重症骨盤内感染予防対策としての局所陰圧閉鎖療法の有用性。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

加藤伸弥、西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：DS 療法が奏功した胃癌腹膜播種再発の 1 例。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、朴 正勝、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：腹腔鏡下骨盤内臓全摘術の実際。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 6 日

楠 誓子、三宅正和、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：完全内臓逆位に合併した大腸癌に対し腹腔鏡手術を行った二例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

加藤伸弥、植村 守、三宅正和、宮崎道彦、加藤健志、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣：左側結腸癌・直腸癌における腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清の当院における現状。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 7 日

山口 歩、植村 守、三宅正和、加藤健志、関本貢嗣、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏：直腸癌局所再々発に対して、腹腔鏡下骨盤内臓全摘術を施行した一例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

佐藤広陸、三宅正和、植村 守、加藤健志、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、平尾素宏、関本貢嗣：尿管皮膚瘻を有する S 状結腸癌患者に、蛍光カテーテル(IRIS)を用い S 状結腸切除術を行った一例。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 8 日

庄司絢香、長谷川裕子、平尾素宏、三田英治：高齢者切除不能胃癌に対する一次化学療法を検討。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

仁和浩貴、岩崎善敬、平林直樹、加治正英、平尾素宏、薮崎 裕、栗田 啓、伊藤友一、後藤昌弘、木村豊、山田 誠、佐藤雄哉、片井 均、寺島雅典、笹子三津留：根治切除可能な大型 3 型・4 型胃癌に対する術前 TS-1+CDDP 併用療法にたよる第 3 相試験。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

浜川卓也、西川和宏、平尾素宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：化学療法後に conversion surgery を施行した同時性肝転移を伴う胃癌症例の治療成績。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

Tokunaga M, Machida N, Hirao M, Yabusaki H, Boku N, Yoshikawa T, Terashima M, : The efficacy of preoperative trastuzumab for HER2-positive advanced gastric cancer with extensive lymph node metastasis. 第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

Yamamoto K, Omori T, Yanagimoto Y, Shinno N, Sugimura K, Miyata H, Yano M, Nishikawa K, Hirao M, Ooue M, Yasui M, Takahashi H, Fujitani K, Tsujinaka T : Sarcopenia patients showed worse prognosis after gastrectomy for gastric cancer. 第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

三宅正和、植村 守、加藤健志、池田正孝、前田 栄、浜川卓也、濱 直樹、西川和宏、平尾素宏、宮本敦史、宮崎道彦、関本貢嗣：当院における下部消化管穿孔に対する内視鏡手術。第 55 回日本腹部救急医学会総会、仙台、2019 年 3 月 8 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二：術前の体組成が膵癌切除例の予後に及ぼす影響に関する検討。第 104 回日本消化器病学会総会、東京、2018 年 4 月 19 日

Miyamoto A, Hama N, Maeda S, Hamakawa T, Uemura M, Miyake M, Nishikawa K, Miyazaki M, Kato T, Hirao M, Sekimoto M, Nakamori S : An impact of preoperative body composition on prognosis after curative resection for pancreatic ductal carcinoma. 第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会、横浜、2018 年 6 月 8 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 膵癌切除後の残膵再発に対して残膵切除を行い長期生存が得られた 1 例。第 40 回日本癌局所療法研究会、東京、2018 年 6 月 15 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 術前の体組成が膵癌切除例の補助化学療法に及ぼす影響に関する検討。第 49 回日本膵臓学会大会、東京、2018 年 6 月 30 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、植村 守、三宅正和、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 浸潤性膵管癌切除後の再発形式からみた再発病巣切除の意義に関する検討。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 13 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 胆道再建後の閉塞性黄疸に対する外科的治療に関する検討。第 54 回日本胆道学会学術集会、幕張、2018 年 9 月 28 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 膵癌切除例における術前の体組成と術後補助化学療法継続性との関連に関する検討。第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 18 日

宮本敦史、濱 直樹、前田 栄、浜川卓也、植村 守、三宅正和、西川和宏、宮崎道彦、加藤健志、平尾素宏、関本貢嗣、中森正二 : 術前の骨格筋量低下が膵癌切除例の手術成績に及ぼす影響に関する検討。JDDW2018、神戸、2018 年 11 月 3 日

宮本敦史、山田晃正、後藤邦仁、浅岡忠史、小林省吾、江口英利、清水潤三、金庸国、辻江正徳、野田剛広、横山茂一、武田 和、永野浩昭、土岐祐一郎、森正樹 : 肝切除症例におけるドレーン留置に関する前向きコホート研究。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 24 日

前田 栄、濱 直樹、宮本敦史、浜川卓也、植村 守、三宅正和、藤原綾子、西川和宏、加藤健志、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣 : 切除不能膵癌に対する conversion surgery の臨床的意義の検討。第 77 回日本癌学会学術集会、大阪、2018 年 9 月 28 日

植村 守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：直腸癌術後局所再発症例に対する腹腔鏡下手術への適応拡大。第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018 年 11 月 9 日

楠 誓子、植村守、三宅正和、加藤健志、池田正孝、宮崎道彦、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、水島恒和、山本浩文、森 正樹、関本貢嗣：直腸癌局所再発手術における骨盤充填の工夫。第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018 年 11 月 10 日

西川和宏、室谷健太、藤谷和正、稲垣 均、赤丸祐介、徳永伸也、高木正和、田村茂行、杉本直俊、重松忠、吉川貴己、石畝 亨、中村将人、森田智視、円谷 彰、阪本純一、辻仲利政：術後補助療法早期再発例と進行再発癌二次治療例との生存成績に違いはあるか？－TRICS 試験探索的検討－。第 118 回日本外科学会定期学術集会、東京、2018 年 4 月 7 日

西川和宏、遠藤俊治、川田純司、藤谷和正、平尾素宏、浜川卓也、山本 慧、小林雄太、小林 登、北風雅敏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、中森正二、関本貢嗣：切除不能進行胃癌に対する胃空腸バイパス術における術前予後指標の検討。日本外科代謝栄養学会第 55 回学術集会、大阪、2018 年 7 月 5 日

西川和宏、黒川幸典、松山 仁、川端良平、川田純司、竹野淳、間狩洋一、坂井大介、下川敏雄、佐藤太郎：測定可能病変を有していない進行再発胃癌を対象とした S-1+DTX 療法と S-1+CDDP 療法のランダム化第 Ⅲ 相試験。第 73 回日本消化器外科学会総会、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、加藤伸弥、下山 遼、山口 歩、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：食道癌における術前呼吸訓練の効果。第 80 回日本臨床外科学会総会、東京、2018 年 11 月 22 日

西川和宏、浜川卓也、平尾素宏、下山 遼、山口 歩、藤原綾子、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、関本貢嗣：硬膜外麻酔挿入高からみた腹腔鏡下胃切除（体腔内吻合）術後疼痛評価。第 31 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2018 年 12 月 6 日

西川和宏、平尾素宏、浜川卓也、藤谷和正、岩瀬和裕、濱 直樹、永妻佑季子、大土彩子、谷川 清、下山遼、前田 栄、植村 守、三宅正和、宮本敦史、加藤健志、関本貢嗣：進行食道癌放射線療法症例における GPS による予後評価。第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会、東京、2019 年 2 月 15 日

西川和宏：胃癌周術期における治療戦略。第 91 回日本胃癌学会総会ランチョンセミナー、静岡、2019 年 2 月 28 日

西川和宏、長谷川裕子、平尾素宏、浜川卓也、山口 歩、下山 遼、加藤伸弥、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣：進行胃癌ニボルマブ療法の後治療移行。第 91 回日本胃癌学会総会、静岡、2019 年 3 月 1 日

西川和宏、楠 誓子、平尾素宏、浜川卓也、遠藤俊治、佐藤広陸、加藤伸弥、山口歩、下山 遼、前田栄、植村 守、三宅正和、濱 直樹、宮本敦史、宮崎道彦、加藤健志、関本貢嗣：幽門側胃切除術後の残胃出血に対し経動脈的塞栓術を施行した 1 例。第 55 回日本腹部救急医学会総会、仙台、2019 年 3 月 7 日

坂東裕子、増田慎三、伊藤良則、石田和茂、井口研子、水谷麻紀子、小林 心、柏葉匡寛、八十島宏行、笠井宏委、高須賀剛、森田智視、大野真司、戸井雅和：Trastuzumab と Pertuzumab の同時混合点滴の安全性に関する検討(JBCRG-20 sub-study)。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、森川希実、萩 美里、長田陽子、井上田鶴子、増田慎三：HER2 陽性進行再発乳癌の一次治療における T-DM1 の臨床評価。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

森川希実、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、大谷陽子、眞能正幸、森 清、関本貢嗣、中森正二：Nab-Paclitaxel(アブラキサン) による肝機能障害の特徴。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

萩 美里、大谷陽子、森 清、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、井上敦夫、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸、増田慎三：Triple negative 乳癌に対する術前化学療法の実状と課題。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

八十島宏行、森川希実、大谷陽子、水谷麻紀子、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子、増田慎三：術前 pCR 予測の臨床病理学的検討とマイクロアレイ解析を用いた非手術への可能性。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

長田陽子、大谷陽子、森川希実、八十島宏行、水谷麻紀子、眞能正幸、森 清、増田慎三：原発性浸潤性乳腺アポクリン癌 18 例の臨床病理学的検討、第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

大谷陽子、水谷麻紀子、八十島宏行、森川希実、森 清、増田慎三、中森正二、関本貢嗣：エベロリムスの効果予測因子の検討。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

垣内万依、庄野裕志、水谷麻紀子、萩 美里、森川希実、大谷陽子、八十島宏行、

増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳がんにおけるトラスツズマブ エムタンシンの投与マネージメント。第 26 回日本乳癌学会学術総会、京都、2018 年 5 月 17 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中 聡、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：当院での高齢者切除不能胃癌症例に対する二次治療としてのパクリタキセル療法とパクリタキセル＋ラムシルマブ療法に関する検討。第 16 回日本臨床腫瘍学会、神戸、2018 年 7 月 20 日

長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、田中 聡、榊原祐子、赤坂智史、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：高齢者胃がんにおける化学療法のマネージメント。第 25 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2018 年 10 月 19 日

庄司絢香、長谷川裕子、石原朗雄、岩崎哲也、赤坂智史、榊原祐子、中水流正一、石田 永、平尾素宏、三田英治：Efficacy and prognostic factor analysis in first-line chemotherapy for elderly patients with metastatic gastric cancer.第 91 回、日本胃癌学会学術集会、静岡、2019 年 2 月 28 日

相木佐代、奥山 徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。第 23 回日本緩和医療学会学術大会、神戸、2018 年 6 月 15 日

相木佐代、奥山 徹、菅野康二、久保田陽介、今井文信、西岡真広、伊藤嘉規、飯田真介、小松弘和、明智龍男：高齢血液がん患者の認知機能障害の頻度と関連および予測因子の検討。第 31 回日本サイコオンコロジー学会総会、金沢、2018 年 9 月 21 日

B-5

上田孝文：これだけは知っておきたいー骨・軟部腫瘍における診断と治療のポイントー。第 2 回北河内整形外科セミナー関西医科大学整形外科同門会研修会講演 5、枚方、2018 年 9 月 1 日

上田孝文：希少がんとしての骨・軟部肉腫に対する診療アプローチ。第 48 回がんプロ学内講義、大阪狭山、2018 年 9 月 19 日

上田孝文：軟部肉腫に対する薬物治療ー我が国における現状と今後の展望ー。The APEX (All Japan Experts) Initiative for STS、東京、2019 年 2 月 2 日

西川和宏：胃癌の最新治療についてーニボルマブの登場で考える治療戦略ー。西濃消化器がん免疫療法研究会、大垣、2018 年 4 月 19 日

西川和宏：術後補助化学療法後の早期再発例に対する治療戦略を考える。Gastric Cancer Seminar in Osaka、大阪、2018 年 6 月 8 日

西川和宏: 進行再発胃癌における二次化学療法戦略を考える。Osaka Gastric Cancer Forum、大阪、2019 年 3 月 8 日

西川和宏: 胃癌化学療法 up to date～補助治療から進行再発治療まで～。第 3 回大阪消化管癌治療セミナー、大阪、2019 年 3 月 15 日

増田慎三: HR+HER- 進行再発乳癌における分子標的薬物療法の最適化について現在のエビデンス解釈、日常臨床の課題、副作用マネジメント等について講演、ディスカッション。ABC Forum in Osaka、大阪、2018 年 5 月 25 日

増田慎三: 術前化学療法 Failure 予後に関するエビデンス。第 14 回 Osaka Breast Cancer School、大阪、2018 年 6 月 22 日

増田慎三: ER+/HER2-乳癌治療におけるCDK4/6 阻害剤の基礎と臨床。第 19 回ホルモンと癌研究会ランチョンセミナー2、宮城、2018 年 6 月 30 日

増田慎三: 「イブランスの Clinical Question に応える」。Pfizer Breast Cancer Summit 2017 in Osaka、大阪、2018 年 7 月 6 日

増田慎三: 原発性 HER2 陽性乳癌治療のベストストラテジーを考える、第 16 回三河転移性乳癌研究会、愛知、2018 年 7 月 14 日

増田慎三: 再発乳癌治療の UP TO DATE。Astrazeneca Breast Cancer Symposium 2018、東京、2018 年 7 月 28 日

増田慎三: BRCA2/1 変異乳癌の個別化医療の新たな展開: リムパーザを如何に使用すべきか?。第 33 回 進行・再発乳癌勉強会、岡山、2018 年 7 月 21 日

増田慎三: HER2 陰性進行再発乳癌における、BCRA 遺伝子変異に基づく新たな治療戦略。第 19 回 乳癌最新情報カンファランス ランチョンセミナー、姫路、2018 年 8 月 4 日

増田慎三: HR 陽性 HER2 陰性MBC 最適な治療ストラテジーを考える。The APEX Web Forum of HALAVEN、大阪、2018 年 8 月 23 日

増田慎三: U3-1402 投与における消化器症状と対処。U3-1402 第 相試験研究会、東京、2018 年 7 月 29 日

増田慎三: CDK4/6 阻害剤の展望臨床課題。HALAVEN Meet the Expert、東京、2018 年 8 月 4 日

増田慎三: 予後改善を目指した治療ストラテジー～新たな工夫～。The APEX Web Forum of HALAVEN、大阪、2018 年 8 月 29 日

増田慎三：乳癌個別化治療の最新情報について。第 42 回山形県乳腺疾患研究会、山形、2018 年 9 月 1 日

増田慎三：乳癌治療における CDK4/6 阻害薬応用の最前線。日経メディカル Oncology 対談、東京、2018 年 9 月 7 日

増田慎三：ER 陽性原発性乳癌治療の最新動向。北勢地区乳癌研究会、三重、2018 年 11 月 9 日

増田慎三：肺・乳腺疾患の診断・治療に関する最新の知見と共有。第 2 回肺・乳疾患研究会、大阪、2018 年 9 月 22 日

増田慎三：専門医に聞く！お悩み解決。Pfizer Oncology Symposium BREAST CANCER 『JOIN2018』、東京、2018 年 9 月 29 日

増田慎三：HR+HER2-進行再発乳癌の Evidence。Novartis BC Medical Summit、東京、2018 年 9 月 30 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。Kurume Breast Cancer Seminar、福岡、2018 年 10 月 3 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。御茶ノ水 Oncology Forum 2018、東京、2018 年 10 月 4 日

増田慎三：HR 陽性 HER2 陰性再発乳がん治療の新展開。福岡乳癌セミナー 2018 autumn、福岡、2018 年 10 月 10 日

増田慎三：BRCA(+)乳癌治療の新たなストラテジー。愛知リムパーザ講演会、名古屋、2018 年 11 月 2 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌に対するベストストラテジーを考える。Chugai Breast Cancer Symposium in 米子、鳥取、2018 年 11 月 6 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。Ehime Breast Cancer Forum、愛媛、2018 年 11 月 10 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。福岡県 パーシエタ-eBC consensus meeting、福岡、2018 年 11 月 12 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。第 13 回城東乳がんカンファレンス、東京、2018 年 11 月 13 日

増田慎三：原発性 HER2 陽性乳癌のベストストラテジーを考える。South Osaka

Breast Cancer Symposium、大阪、2018 年 11 月 15 日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。Breast Cancer Meeting in Niigata、新潟、2018 年 11 月 16 日

増田慎三：ER 陽性原発性乳癌治療の最新動向。第 11 回阪神乳がんチーム医療を考える会、大阪、2018 年 11 月 27 日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。Breast Cancer Forum in NARA、奈良、2018 年 12 月 1 日

増田慎三：HR+/HER2-進行再発乳癌治療における CDK4/6 阻害剤の役割。Meet the Specialist in San Antonio、San Antonio、2018 年 12 月 6 日

増田慎三：乳癌薬物治療の最新トピックス。The APEX Academy of HALAVEN in San Antonio、San Antonio、2018 年 12 月 7 日

増田慎三：HER2 陽性乳癌周術期治療のベストストラテジーを考える～パージェタの適応拡大によりどう変わるか～。HER2 陽性乳癌診療 conference、熊本、2018 年 12 月 13 日

増田慎三：新時代を迎えた HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の治療ストラテジー。乳癌最新治療 Meet The Expert in 倉敷、倉敷、2019 年 1 月 11 日

増田慎三：HER2 陽性乳がんの周術期治療戦略。乳癌学術講演会 2019、東京、2019 年 2 月 9 日

増田慎三：How to optimize the benefit of endocrine therapy to HR+/HER2-mBC patients?。第 25 回日本乳癌疾患研究会 教育講演 1、東京、2019 年 2 月 15 日

増田慎三：リムパーザのエビデンス整理。第 23 回 KBCEC 学術講演会、大阪、2019 年 2 月 22 日

増田慎三：臨床医による大規模第三相試験のデータの解釈。Liily Breast Cancer Webinar、東京、2019 年 3 月 1 日

増田慎三：新たなサブタイプ BRCA+を考える OlympiAD 試験から読み解くリムパーザの使いどころ。第 16 回日本乳癌学会東北地方会 ランチョンセミナー1、仙台、2019 年 3 月 2 日

増田慎三：乳がん治療におけるチーム医療。ベージニオ発売記念講演会 in Sakai、

大阪、2019 年 3 月 8 日

増田慎三：HR 陽性 HER2 陰性再発乳がんの最適治療ストラテジーを考える。乳癌治療薬ベージニオ発売記念講演会 in Osaka、大阪、2019 年 3 月 29 日

萩 美里、増田慎三、森川希実、大谷陽子、八十島 宏行、水谷麻紀子、高見康二、森 清、眞能正幸、関本貢嗣：乳癌肺転移切除後、長期無再発生存が得られた症例。第 623 回 大阪外科集談会、大阪、2018 年 5 月 12 日

萩 美里、大谷陽子、長田陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、増田慎三：乳癌術後 7 年目に穿刺吸引細胞診および針生検部位に胸壁局所再発を来した 1 例。第 16 回日本乳癌学会近畿地方会、大阪、2018 年 12 月 15 日

相木佐代、光野香織：当院における個別栄養食事管理加算の運用について。第 28 回なにわ緩和ケアカンファレンス、大阪、2019 年 3 月 14 日

B-6

木曾建吾、本田 亨、井上敦夫、栗山啓子、高見康二、森 清、田矢直大：ACTH 産生肺カルチノイド腫瘍の一例。第 320 回公益社団法人 日本医学放射線学会関西地方会大阪 2018 年 11 月 10 日

澤田遥奈、藤原綾子、高見康二、安藤性實、木村 剛、宮本智、小河原光正、森 清、眞能正幸、井上敦夫、栗山啓子：肺腺癌との鑑別が困難であった多発線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍の 1 切除例。第 109 回日本肺癌学会関西支部会、大阪、2019 年 2 月 23 日

前 裕和、北野元裕、上田孝文：糖尿病性 Charcot 足の 1 例。第 55 回大阪整形外科症例検討会、大阪、2018 年 9 月 15 日

井上 亮、北野元裕、上田孝文：大結節骨折を伴った陳旧性肩関節脱臼の一例。第 58 回大阪骨折研究会（OFC）、大阪、2018 年 12 月 8 日

角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：右腸骨骨腫瘍。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

平尾素宏：上部消化管癌手術と栄養介入。第 13 回食道・胃外科フォーラム、東京、2019 年 2 月 23 日

佐藤広陸、加藤健志、三宅正和、植村 守、藤原綾子、浜川卓也、前田 栄、濱 直樹、西川和宏、宮本敦史、宮崎道彦、平尾素宏、高見康二、関本貢嗣：尿管皮膚瘻を伴った S 状結腸癌患者に蛍光発色するカテーテル（IRIS）を用い、S 状結腸切除術を行った一例。第 624 回大阪外科集談会、大阪、2018 年 7 月 21 日

平尾素宏：胃癌 ESD 偶発穿孔後の腹膜播種－外科医の視点から－。第 462 回大阪胃研究会、大阪、2019 年 3 月 13 日

西川和宏：新ガイドラインから考える胃癌 2 次化学療法以降の治療戦略。R307 消化器癌セミナー、甲賀、2018 年 5 月 25 日

西川和宏：進行胃癌二次治療の新たな治療戦略。Taiho GC Seminar 2018 in Fukui、福井、2018 年 6 月 1 日

西川和宏：胃癌周術期化学療法 UP TO DATE。新究極の一手～原点回帰～、大阪、2018 年 6 月 9 日

西川和宏：術後補助化学療法後の早期再発の治療戦略：XParTS I 試験について。中外 e セミナー、東京、2018 年 7 月 4 日

西川和宏：胃癌治療ガイドライン改定を踏まえた二次治療戦略-最新の知見を日常臨床にどう活かすか？-。第 73 回日本消化器外科学会総会ランチョンセミナー25、鹿児島、2018 年 7 月 12 日

西川和宏：胃癌術後補助化学療法後の再発例に対する治療戦略。南風病院消化器癌講演会 鹿児島、2018 年 8 月 3 日

西川和宏：TNM 分類・癌取扱い規約。第 11 回日本癌治療学会 DM 教育集会、大阪、2018 年 8 月 19 日

西川和宏：オブジーボの実臨床成績－3rd から 4th へ移行するタイミングについて－。Immno-Oncology for Gastric Cancer Seminar 2018 in Osaka、大阪、2018 年 8 月 23 日

西川和宏：臨床試験のエビデンスと新胃癌治療ガイドライン。第 7 回法円坂消化器フォーラム、大阪、2018 年 8 月 25 日

西川和宏：進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略。第 4 回徳山がんセミナー、山口、2018 年 10 月 31 日

西川和宏：胃癌周術期栄養介入のエビデンス。第 195 回県北薬剤師勉強会、さいたま、2018 年 11 月 16 日

西川和宏：進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略。第 5 回岩国医療圏化学療法勉強会、岩国、2018 年 11 月 30 日

久田原郁夫：大腿粘液型軟部腫瘍症例。第 91 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年

6 月 14 日

久田原郁夫：仙骨骨腫瘍症例。第 92 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年 9 月 6 日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：脛骨骨幹部骨腫瘍の症例。第 19 回近畿骨軟部腫瘍談話会、大阪、2018 年 10 月 26 日

久田原郁夫：鎖骨骨腫瘍症例。第 93 回関西 SKR 勉強会、大阪、2018 年 11 月 15 日

久田原郁夫、角永茂樹、上田孝文：腸骨円形細胞骨肉腫の 1 例。第 152 回関西骨軟部腫瘍臨床研究会、大阪、2019 年 2 月 9 日

久田原郁夫：骨化を伴った大腿骨軟部腫瘍症例。第 94 回関西 SKR 勉強会、大阪、2019 年 3 月 14 日

長谷川裕子：当院における胃癌化学療法の実況。第 4 回大阪消化器内科専攻医セミナー、大阪、2018 年 7 月 27 日

長谷川裕子：高齢者胃がん症例における RAM+PTX 療法。Young GI oncologist seminar、東京、2018 年 11 月 11 日

長谷川裕子：当院における消化器癌治療のとりくみ。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2019 年 3 月 7 日

B-7

増田慎三：アドバイザー会議参加。乳癌領域アドバイザー会議、東京、2018 年 6 月 13 日

増田慎三：アドバイザー会議参加。LYN-BC アドバイザーボード会議、東京、2018 年 6 月 14 日

増田慎三：「ATEZOLIZUMAB」の乳癌適応拡大に向けて戦略・安全対策の立案。Advisory Board for ATEZOLIZUMAB on Breast Cancer in Munich 2018、Munich、2018 年 10 月 22 日

増田慎三：アドバイザー会議参加。イブランスアドバイザーボード、横浜、2018 年 10 月 18 日

B-8

栗山啓子：デジタル時代の胸部 X 線写真の診方。東舞鶴臨床談話会、舞鶴、2018 年 9 月 27 日

平尾素宏：食道・胃。消化器外科 主要疾患の手術と術後ケア、神戸、2018 年 12 月 15 日

平尾素宏：食道・胃。消化器外科 主要疾患の手術と術後ケア、東京、2019 年 3 月 16 日

青野奈々：「緩和ケア概論」。大阪府立急性期総合医療センター がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2018 年 7 月 7 日

青野奈々：「療養場所の選択と地域連携」。大阪医療センター がん等の診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、大阪、2018 年 12 月 16 日

長谷川裕子：当院における RAM＋FOLFIRI の使用経験療法。大阪大腸癌治療講演会、大阪、2019 年 3 月 14 日

高度医療技術開発室

室長 是恒之宏

室員 安部晴彦

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における産学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでいくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。

平成 24 年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進した。

平成 27 年度より、院内臨床症例（特に心房細動症例、大動脈弁狭窄症症例）の心臓超音波画像解析も並行して推進した。

平成 29 年度は、院内臨床症例で僧帽弁輪石灰化、大動脈弁石灰化を CT 画像から解析し、心臓超音波画像と組み合わせて解析することによって、冠動脈石灰化のリスク層別化が可能であること。また心エコー検査と生体インピーダンス分析を併用することによって心不全患者の再入院リスク層別化が可能であることを報告した。(AHA2017、ACC2018)

平成 30 年度は、昨年の CT 画像検査、心エコー検査に関する研究を進め、それぞれ報告を行った。(AHA2018) この研究が、心エコー図学会に認められ海外発表優秀論文賞を受賞した。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Shinouchi K, Ueda Y, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Kosugi S, Iida Y, Toriyama C, Ohashi T, Nakamura M, Fukushima T, Horiuchi K, Mishima T, Abe H, Awata M, Date M, Uematsu M, Koretsune Y: Relation of Chronic Total Occlusion to In-Hospital Mortality in the Patients with Sudden Cardiac Arrest Due to Acute Coronary Syndrome. 「American Journal of Cardiology」 2019 年 2 月 21 日

A-1

安部晴彦、是恒之宏：海外・日本の心房細動の抗血栓療法ガイドラインの特徴と違い
「心房細動別冊」 2018 年 5 月号 最新医学社 2018 年 4 月 26 日

鳥山智恵子、安部晴彦、上田恭敬:末期がん患者の静脈血栓塞栓症に対してリバーロキサバン強化療法が有効であった 1 例. 「腫瘍循環器ガイド」 P190-193 メディカルレビュー社 2018 年 10 月 22 日

安部晴彦、是恒之宏：Part3 CQ29 ワルファリンが必要な AF の病態 「血栓循環器学 Q&A」

伊藤浩編集 P82-P83 文光堂 2019 年 3 月 16 日

安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、堀内恒平、福島貴嗣、大橋拓也、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心肺運動負荷試験 (CPX) が有用と考えられた高齢者大動脈弁狭窄症の一例「Osaka Heart Club」2018 年 4 月 26 日

安部晴彦、上田恭敬：循環作動薬の使い方. 特集 循環器救急の最前線—初期診療と循環管理を極める。「循環器ジャーナル」 2018;66:562-567.医学書院 2018 年 9 月 10 日

B-1

Abe H: Echocardiographic Particle Image Velocimetry in Heart Diseases. Clinical Session IEEE2018,神戸市, 2018 年 10 月 23 日

B-2

Yasumura K, Abe H, Iida Y, Kato T, Nakamura M, Toriyama C, Nishida H, Idemoto A, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: A New Prognostic Indicator in Patients with Acute Decompensated Heart Failure Including both Ambulatory and Nutritional Statuses. ESC2018,Munich,2018 年 8 月 28 日

Kosugi S, Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Iida Y, Ohashi T, Toriyama C, Nakamura M, Fukuashima T, Horiuchi K, Date M, Uematsu M, Koretsune Y, Ueda Y: One and A Half Months After the Implantation of Drug-Coated Stent at the Culprit of Acute Coronary Syndrome.TCT2018,サンディエゴ,2018 年 9 月 21 日

Awata M, Abe H, Mishima T, Shinouchi K, Kato T, Nishida H, Ozaki T, Iida Y, Toriyama C, Nakamura M, Kosugi S, Ohashi T, Date M, Uematsu M, Koretsune Y, Ueda Y: Very Early-Phase Neoatherosclerosis in Everolimus-Eluting Stent: Angioscopic Finding in Patient.TCT2018,サンディエゴ,2018 年 9 月 21 日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki T, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y:Combinations of Mitral Annulus and Aortic Valve Calcifications Detected by Echocardiography Predict the Severity of Coronary Artery Calcification and Reflect Systemic Inflammation.AHA2018,シカゴ,2018 年 11 月 10 日

Idemoto A, Abe H, Nakamura M, Iida Y, Toriyama C, Ozaki T, Nishida H, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Koretsune Y: Differential Impact of Echocardiographic Inferior Vena Cava Measurements on Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure: Comparison with Preserved and Reduced Left Ventricular Ejection Fraction.AHA2018,シカゴ,2018 年 11 月 10 日

B-3

安部晴彦：Echo PIV でみる血流と心不全。日本心エコー図学会第 29 回学術集会、盛岡市、2018

年 4 月 27 日

安部晴彦：Vortex Flow Analysis by Echocardiographic Particle Image Velocimetry (Echo-PIV)。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 7 日

安部晴彦：難治性胸水に ASV が奏功したと考えられた心不全症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 9 日

彦惣俊吾、小島貴行、BolrathanakOeun、中谷大作、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、土肥智晴、世良英子、中本 敬、坂田泰史：CharacteristicsofElderlyHFpEFPatients-ImplicationsfromPURSUIT-HFpEFstudy。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

B-4

井手本明子、安部晴彦、西田博毅、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：経食道心エコー図検査で二重心房中隔に心房中隔欠損症の合併が疑われた一例。日本超音波医学会第 91 回学術集会、神戸市、2018 年 6 月 8 日

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、加藤大志、篠内和也、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：大動脈弁石灰化の弁尖数と冠動脈石灰化との関係：経胸壁心エコーと心臓 C T による研究。日本超音波医学会第 91 回学術集会、神戸、2018 年 6 月 8 日

安村かおり、安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：エルゴメーター運動における心拍数処方及び W a t t 数処方による最大酸素摂取量改善率の比較検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市 2018 年 7 月 14 日

安村かおり、安部晴彦、加藤大志、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、是恒之宏：心不全患者の栄養指導（P N I）及び運動耐容能と予後との関連についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、井手本明子、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：安静時酸素摂取量による体組成予測についての検討。第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018 年 7 月 15 日

加藤大志、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：スタチンによる無症候性筋障害を継時的な CPX 結果から鑑別しえた症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 9 日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低

強度臥位エルゴ負荷により機能性僧房弁逆流が軽度から重度へ増悪した心不全の一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、大阪市、2018 年 9 月 9 日

栗田政樹、上田恭敬、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 32 回日本心臓血管内視鏡学会、東京都、2018 年 9 月 9 日

中村雅之、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏：ペースメーカー植え込み後に出現した、高頻度な心室期外収縮を伴った左室機能障害の一例。第 22 回日本心不全学会学術集会、東京、2018 年 10 月 11 日

飯田吉則、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏：心嚢液貯留に対する心膜開窓術後、僧房弁閉鎖不全症の増悪を認めた一例。第 22 回日本心不全学会学術集会、東京、2018 年 10 月 12 日

小杉隼平、安部晴彦、飯田吉則、鳥山智恵子、西田博毅、加藤大志、篠内和也、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：心嚢液消退後に機能性僧帽弁逆流と肺高血圧が出現した一例。日本超音波医学会第 45 回関西地方学術集会、神戸市、2018 年 10 月 20 日

西田博毅、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、飯田吉則、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：Improvement of Left Ventricular Function by Amino Acid Replenishment in Hemodialysis Patients with Reduced Left Ventricular Ejection Fraction。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

山元博義、加藤弘康、国重めぐみ、小杉元宏、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久 和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：Prognostic Usefulness and Determinants of Six minute Walk Distance for Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: From the PURSUIT-HFpEF Registry。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

西田博毅、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、飯田吉則、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：Influence of Coronary Artery Calcification on Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Patients without History of Coronary Artery Disease。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 29 日

中村雅之、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：Prognostic Impact Differs between Left and Right Ventricular Longitudinal Function in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction。第 83 回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019 年 3 月 30 日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史:Short-termPrognosticPredictabilityofEchocardiographicCardiacContractilityParameters:In-sightsfromPURSUIT-HFpEFRegistry。第83回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019年3月30日

鳥山智恵子、安部晴彦、西田博毅、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、飯田吉則、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、美島 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：

LimitationsofLeftVentricularOutflowTractVelocityTimeIntegralasaSurrogateforStrokeVolumeinPreservedEjectionFraction。第83回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019年3月30日

玉置俊介、山田貴久、安村良男、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、福並正剛、坂田泰史：

PlasmaVolumeStatusisUsefulforPredictionofChangeinNutritionalStatusduringHospitalizationinADHFPatientswithPreservedLVEF。第83回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019年3月31日

中川彰人、安村良男、山田貴久、上松正朗、安部晴彦、中川雄介、樋口義治、藤久和、真野敏昭、彦惣俊吾、中谷大作、坂田泰史：

SpecializedPhenotypingAlgorithmforJapaneseHFpEFPatientsisNeededfortheEffectiveTreatmentandPrognosticEstimation:LearningsfromPURSUIT-HFpEFRegistry。第83回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019年3月31日

Nishida H, Abe H, Fukushima T, Horiuchi K, Nakamura M, Ohashi T, Iida Y, Toriyama C, Kosugi S, Ozaki S, Kato T, Shinouchi K, Mishima T, Awata M, Date M, Ueda Y, Uematsu M, Korestone Y:CalcificationofMitralAnnulusandAorticValvebyEchocardiographyPredicttheSeverityofCoronaryArteryCalcificationandReflectSystemicInflammation。第83回日本循環器学会学術集会、横浜市、2019年3月31日

B-5

安部晴彦：循環器スペシャリストが教える診療エッセンス。第8回阪神心血管セミナー、大阪市、2018年9月28日

B-6

西田博毅、安部晴彦、井手本明子、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、安村かおり、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：経胸壁心エコーによる大動脈弁および僧帽弁石灰化の診断：心臓CTとの比較研究。日本心エコー図学会第29回学術集会、盛岡市、2018年4月27日

西田博毅、安部晴彦、福島貴嗣、堀内恒平、中村雅之、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：アミノ酸補充療法は左室収縮能が低下した人工透析心不全患者の左室機能を改善する。

第4回日本心筋症研究会、奈良市、2018年6月2日

飯田吉則、安部晴彦、是恒之宏、上松正朗、上田恭敬、伊達基郎、栗田政樹、三嶋 剛、篠内和也、井手本明子、加藤大志、安村かおり、西田博毅、尾崎立尚、鳥山智恵子、中村雅之：心肺運動負荷試験における嫌気性代謝閾値ポイントの再現性についての検討。第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018年7月14日

加藤大志、安部晴彦、安村かおり、飯田吉則、中村雅之、鳥山智恵子、尾崎立尚、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：心肺運動負荷試験によりスタチンの無症候性筋障害の存在を指摘しえた症例。第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、横浜市、2018年7月15日

中嶋真理子、尾崎立尚、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：右心不全増悪を契機に前縦隔悪性腫瘍を診断しえた1例。日本内科学会第221回近畿地方会、大阪市、2018年9月22日

宮原 智、飯田吉則、安部晴彦、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：トルバプタン導入によりループループ利尿薬減量がかなった重症慢性心不全の1例。日本内科学会第221回近畿地方会、大阪市、2018年9月22日

中村雅之、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、小杉隼平、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、堀内恒平、福島貴嗣、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：エベロリムス溶出性ステント留置1年後に血管内視鏡でステントストラットに沿って黄色プラークの増生を認めた一例。CVIT近畿地方会、豊中市、2018年10月13日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、大橋拓也、鳥山智恵子、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：Orsiro SES留置1ヶ月後に血管内視鏡で観察し得た1例。CVIT近畿地方会、豊中市、2018年10月13日

小杉隼平、栗田政樹、安部晴彦、三嶋 剛、篠内和也、加藤大志、西田博毅、尾崎立尚、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、中村雅之、福島貴嗣、堀内恒平、伊達基郎、上松正朗、是恒之宏、上田恭敬：急性心筋梗塞患者と安定狭心症患者における血栓形成能の検討。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

福島貴嗣、安部晴彦、飯田吉則、堀内恒平、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：高度僧帽弁閉鎖不全症に対して薬物療法のみで経過観察できた超高齢女性の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、鳥山智恵子、大橋拓也、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流の増悪を確認できた心不全の一例。第126回日

本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

堀内恒平、安部晴彦、飯田吉則、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、加藤大志、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：子宮頸癌でポート留置後に上大静脈から右房内血栓が見つかりリバーロキサバン強化療法が有効であった一例。第126回日本循環器学会近畿地方会、大阪市、2018年11月24日

B-8

安部晴彦：超音波で考える循環器疾患 2018。OMMC 循環器臨床懇話会 2018、大阪市、2018年12月1日

安部晴彦：心不全の病態と治療のエビデンス：当院での取り組み。大阪市中心区南医師会・法円坂フォーラム、大阪市、2018年8月4日

安部晴彦：新しい高血圧ガイドラインと心疾患管理。第3回法円坂循環器フォーラム、大阪市、2018年11月29日

安部晴彦：肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症に関するガイドラインとリアルワールドでの経験。東医師会『12月学術講習会』、大阪市、2018年12月5日

安部晴彦：心不全患者における栄養評価・管理。第37回国立大阪医療センター循環器病談話会、大阪市、2019年2月16日

医療情報研究室

室長 岡垣篤彦

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム 本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関する システム的検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術 に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準 電子カルテについて、あるいは SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる 電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な2つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のための IT 基盤構築事業」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」に参加している。平成 23 年年末に更新した電子カルテシステムは、システムの応用範囲が広くなり、データ利用についても 多彩な可能性が考えられる。このシステムを用いて岡垣室長を中心に開発してきたカード型カルテシステムの発展をめざすと同時に経営分析的な視点を新たに研究対象に加えている。平成 26 年 1 月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度についてける国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。本年度は病院情報システムのフルリプレースを予定しており、さらに使いやすく高機能な電子カルテを目指して開発を行なう予定である。平成 25 年度は災害医療研究室と共同で厚労省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対する DMAT による急性期医療対応に関する研究」において GIS の技術を用いた DMAT 被災地派遣支援ソフトウェアの開発を行い平成 26 年度に報告書を上梓したが、国会での来るべき甚大災害に対する医療支援に関する議論に対しデータの供給を行なうなど国内の甚大災害対策に貢献した。引き続き災害関連の研究として平成 27 年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応した DMAT の戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を 2 年間行なった。南海トラフ地震への医療支援に関してはその後も継続的に研究に参加しており、平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究「南海トラフ地震に関する研究」に共同研究者として参加し、平成 29 年度、平成 30 年度も引き続き共同研究者として参加した。その他に、国立病院機構の「電子カルテによる「災害診療記録」電子フォーマット自動出力実証事業」に参加した。医療情報学会において 2017 年に「災害・救急医療へのユーザーメード IT の貢献」、2018 年には「医療の質向上に貢献する診療支援システムとその効果分析」というテーマでワークショップを主催した。2019 年には災害時の療養病床の支援について研究を行なう予定であり、医療情報学会などで発表を予定して

いる。

【2018 年度 研究業績発表】

B-2

Atsuhiko Okagaki Implementation of the Electronic Total Information System for Disaster and DMAT-Supporting Software. Oral Presentation. Filemaker Developer Conference. Medical session. Gaylord Texan Resort , Dallas, Texas, United States of America. 2018 年 8 月 9 日

B-4

岡垣篤彦、上尾 弘、定光大海：災害時統合診療システムの作成および災害訓練における運用結果。第 22 回日本医療情報学会春季学術大会、新潟市、2018 年 6 月 22 日

B-5

岡垣篤彦：甚大災害対策としての医療情報システム。中部医療の質管理研究会、岐阜市、2018 年 5 月 12 日

岡垣篤彦：大阪医療センターの情報システム 10 年。日本ユーザーメード医療 IT 研究会 10 周年記念ミーティング、名古屋市、2018 年 9 月 29 日

岡垣篤彦：大阪医療センターの救急 災害システム。日本ユーザーメード医療 IT 研究会北見サイトビジットモーニングセミナー、北見市、2019 年 2 月 3 日

岡垣篤彦：甚大災害時における「被災予測」と「統合診療」に役立つシステムの確立。医療 ITExpo、大阪市、2019 年 2 月 22 日

A-6

岡垣篤彦：災害時統合診療システムの作成および災害訓練における運用結果。日本医療情報学会春季学術大会プログラム・抄録集、22：p100~101、2018 年

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
「首都直下型地震・南海トラフ地震等の大規模災害時に医療チームが効果的、効率的に活動するための今後の災害医療体制のあり方に関する研究」研究協力者
(研究報告書 印刷中)

災害医療研究室

室長 木下順弘

救命救急センター・救急科（総合救急部）は主に大阪府下の三次救急を担っており、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例へ対応する大阪府コーディネート事業にも参加している。コーディネートを求められる事例には、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保証するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。

災害医療では、DMAT (Disaster Medical Assistance Team)としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、厚生科学研究や各種災害研修・訓練にかかわってきた。平成 25 年 10 月に DMAT 事務局が本院で開設され、東京にある事務局の代替機能を果たすことが求められた。その役割は次第に大きくなり、平成 27 年度には DMAT 技能維持研修を全国で 12 回担当し、さらに DMAT 隊員養成研修を 2 回主催するに至った。今後もさらに役割が拡大すると思われる。南海トラフ巨大地震、首都直下型地震をはじめ、自然災害や人為的災害にも対応できる機能と機動性の充実に努める必要がある。

主要な研究テーマのひとつは災害時医療情報の応用で、厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療記録票を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を報告し、厚生労働省の進めている災害急性期医療対応の判断根拠となるデータを作成した。今年度は医療情報部岡垣が、医療情報の災害活用に関し複数回の国内学会発表をおこなった。また、国際学会ではファイルメーカーを応用した災害時の医療情報収集と整理、解析の方法を研究発表した。

災害医療を担う人材としても欠かせない救急科専門医をいかに養成するかが大きな課題になる。そのためにも次世代の救急医を育てる新たな人材を確保することで救急診療・研究機能の新たな展開を期待したい。

【2018 年度 研究業績発表】

B-2

Atsuhiko Okagaki : Implementation of the Electronic Total Information System for Disaster and DMAT-Supporting Software. Oral Presentation. Filemaker Developer Conference. Medical session. Gaylord Texan Resort ,

Dallas, Texas. 2018 年 8 月 9 日

B-4

岡垣篤彦、上尾 光弘、定光 大海：災害時統合診療システムの作成および災害訓練における運用結果。第 22 回日本医療情報学会春季学術大会、新潟市、2018 年 6 月 22 日

B-5

岡垣篤彦：甚大災害対策としての医療情報システム。中部医療の質管理研究会、岐阜市、2018 年 5 月 12 日

岡垣篤彦：大阪医療センターの情報システム 10 年。日本ユーザーメード医療 IT 研究会 10 周年記念ミーティング、名古屋市、2018 年 9 月 29 日

臨床研究推進室
臨床研究センター長・臨床研究推進部長・
臨床研究推進室長 **上松正朗**

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理、支援を行うことを目的に、臨床研究センター4部12室の中に「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門”と“臨床試験支援部門”の2つの部門から成るが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

臨床研究推進室の構成員は、部長（室長兼任）1名、臨床研究コーディネーター（CRC）7名、治験・臨床研究事務局3名、データマネジャー1名、事務補助6名である（平成31年3月末現在）。

臨床研究推進室は、CRCおよび治験事務局として治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。受託研究と各種臨床研究関連指針が適応される自主研究は、それぞれ独立した2つのIRB（第1委員会・第2委員会）により審議を行っている。この2つのIRBは、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けており、iPadを導入し、ペーパーレスとしている。

また、昨年度から臨床研究法上の臨床研究審査委員会として厚生労働大臣から認定を取得すべく準備を行い、平成30年3月31日に認定を取得した。国立病院機構では5機関が認定されており、4月以降は情報共有を行いつつ審査体制の整備に努め、平成31年1月から審査意見業務を開始した。

治験実績では、国立病院機構内施設で全国3位の成績であった。請求金額総額は3億円に達する見通しであり、昨年度を上回ることができた。

自主研究の支援に関しては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいた質の高い臨床研究の実施をより進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。また確実な同意書管理のための支援も継続的に取り組んでいる。臨床研究法準拠の研究についても、同様の支援を行うこととしている。

その他、地域治験ネットワークの活動としては大阪府内の15医療機関で形成する「治験ネットおおさか」の活動にも参加し、共同IRBの広報やCRC養成研修での講師やファシリテーターを務めた。

学術的活動および教育については、学会・研究会で発表を行い、国立病院機構本部主催の初級者CRC養成研修では講師依頼や実習受け入れ施設にも指定されている。

院内教育および啓発活動としては「臨床研究推進室ニュース」（年4回）の発

行、「治験セミナー」（年３回）、「臨床研究セミナー」（年３回）を実施した。臨床研究セミナーでは、臨床研究法に関する内容を取り入れ、近畿グループからの参加者も受け入れた。IRB 委員への倫理教育としては、eAPRIN 倫理研修以外にも、毎月 IRB 開催前に倫理指針や審査のポイント等のビデオ教育を企画し、研究倫理教育の一層の充実化を図った。

【2018 年度 研究業績発表】

B-3

田所知美:乳癌領域における CRC の役割と課題。第 26 回日本乳癌学会学術総会 臨床試験に携わる専門職のための乳癌セミナー、京都、2018 年 5 月 19 日

田所知美: 中堅 CRC の立場から。第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議・第 39 回日本臨床薬理学会学術総会、京都、2018 年 7 月 2 日

B-4

小林恭子、田所知美、松田恭子、辻本有希恵、羽田かおる 森下典子、上松正朗、是恒之宏: 認定臨床研究審査委員会準備のための体制整備。CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2018 in 富山、富山、2018 年 9 月 16 日

松田恭子、安井みのり、堀尾綾香、島津章: 治験における個人情報管理について。第 72 回国立病院総合医学会、神戸、2018 年 11 月 9 日

B-8

辻本有希恵: モニタリング・監査及び規制当局による GCP 実地調査の目的と方法。国立病院機構主催初級者 CRC 養成研修、東京都、2018 年 5 月 24 日

小林恭子: 認定臨床研究審査委員会の要件と現状について。平成 30 年度臨床研究・治験研修、京都、2018 年 6 月 29 日

羽田かおる: 医療機関(CRC)が治験依頼者に対して思うこと、共有したい要望事項。医薬品産業情報研究会(PI フォーラム)第 65 回エフィカシー分科会、東京、2018 年 9 月 12 日

羽田かおる: CRC の業務。CRC 養成研修（初級者向け研修初級者向け研修～CRC に必要な知識をわかりやすく解説～）（主催：治験ネットおおさか）、大阪府、2018 年 10 月 19 日

辻本有希恵: グループワーク（日々の業務で困っていること、他施設の体制についての質問）アドバイザー。CRC 養成研修（初級者向け研修初級者向け研修～CRC に必要な知識をわかりやすく解説～）（主催：治験ネットおおさか）、大阪

府、2018 年 10 月 19 日

レギュラトリーサイエンス研究室

室長 是恒之宏

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。また、レギュラトリーサイエンスは、的確な予測、評価、判断によって①限りなく進歩する科学技術を正しく生かして有効に利用する最善の道を見出すことと、②人間の願望から出発した科学技術が、社会や人間を無視して発達することによってもたらされる深刻な影響を未然に防ぐこと、の二つの大きな目的/役割を担っている。

当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成 23 年 4 月に設立され、8 年が経過した。

平成 30 年度においては、日本のデータベースを用いた急性期脳卒中後のイベント解析、抗凝固薬服用に関する患者満足度調査、75 歳以上の高齢者心房細動 ANAFIE レジストリープロトコル論文、claim database を用いたワルファリンとダビガトランの有効性安全性の比較検討、国際心房細動レジストリーGARFIELD 研究の慢性腎不全サブ解析、日本コホートサブ解析をそれぞれ論文化し発表した。

【2018 年度 研究業績発表】

A-0

Yasaka M, Koretsune Y, Yamashita T, Oda E, Matsubayashi D, Ota K, Kobayashi M, Matsushita Y, Kaburagi J, Ibusuki K, Takita A, Iwashita M, Yamaguchi T : Recurrent Stroke and Bleeding Events after Acute Cardioembolic Stroke-Analysis Using Japanese Healthcare Database from Acute-Care Institutions, 「Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases」、27 (4) : P1012-1024、2018 年 4 月

Sakaguchi T, Watanabe M, Kawasaki C, Kuroda I, Abe H, Date M, Ueda Y, Yasumura Y, Koretsune Y : A novel scoring system to predict delirium and its relationship with the clinical course in patients with acute decompensated heart failure, 「Journal of Cardiorogy」 71 : P564-569、2018 年 6 月

Ohmori H, Nakamura M, Kada A, Saito A.M, Sanayama Y, Shinagawa T, Fujita H, Wakisaka A, Maruhashi K, Okumura O, Takizawa N, Murata H, Inoue M, Kaneko H, Taniguchi H, Kawasaki M, Sano N, S.Akaboshi S, Tanuma N, Sone S, Kumode M, Takechi T, Koretsune Y, Sumimoto R, Miyanomae T: Multicenter, Open-Label, Randomized Controlled Trial of Warfarin and Edoxaban Tosilate Hydrate for the Treatment of Deep Vein Thrombosis in Person with Severe Motor Intellectual Disabilities, 「Kurume Medical Journal」、65 : P11-16, 2018 年 8 月 30 日

Koretsune Y, Kumagai K, Uchiyama S, Yamashita T, Yasaka M, Watanabe-Fujinuma E, Banderas BF, Akiyama S, Okayama Y, Briere J.B, Dickie G, Cano S: Patient-reported treatment satisfaction with rivaroxaban in Japanese non-valvular atrial fibrillation patients: an observational study, 「Current Medical Research and Opinion」 32 : P1-19、2018 年 8 月

Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Yasaka M, Yamaguchi T, Akishita M, Hasebe, N, Kario K, Mizokami Y, Nagata K, Nakamura M, Terauchi Y, Yamamoto T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A : Prospective observational study in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: Rationale and design of the All Nippon AF In the Elderly (ANAFIE) Registry, 「Journal of Cardiology」 72 : P300-306、2018 年 10 月、
<https://doi.org/j.jjcc.2018.02.018>

Koretsune Y, Yamashita T, Yasaka M, Ono Y, Hirakawa T, Ishida K, Kuroki D, Sumida T, Urushihara H: Comparative effectiveness and safety of warfarin and dabigatran in patients with non-valvular atrial fibrillation in Japan: A claims database analysis, 「Journal of Cardiology」、published on line、2018 年 11 月 23 日、
<https://doi.org/10.1016/j.jjcc.2018.09.004>

Koretsune Y, Etoh T, Katsuda Y, Suetsugu T, Kumeda K, Sakuma I, Eshima K, Shibuya M, Ando S, Yokota N, Goto S, Pieper K, Allu J, Kakkar A.K. :Risk Profile and 1-Year Outcome of Newly Diagnosed Atrial Fibrillation in Japan -Insights From GARFIELD - AF -, 「Circulation Journal」、83 : (1)、P67-74、2018 年 12 月

Goto S, Angchaisuksiri P, Bassand J.P, Camm A.J, Dominguez H, Illingworth L, Gibbs H, Goldhaber S.Z, Goto S, Jing Z.C, Haas S, Kayani G, Koretsune Y, Lim T.W, Oh S, Sawhney J.P.S, Turpie A.G.G, Eickels M.V, Verheugt F.W.A, Kakkar A.K : Management and 1-year outcomes of patients with newly diagnosed atrial fibrillation and chronic kidney disease: Results from the prospective GARFIELD-AF registry, 「Journal of American Heart Association」、2019;8:e010510.DOI:10.1161/JAHA.118.010510

Yamashita T, Koretsune Y, Ishikawa M, Shiosakai K, Kogure S: Postmarketing surveillance on edoxaban in patients with nonvalvular atrial fibrillation (ETNA-AF-Japan): Three-month interim analysis results, 「Journal of Arrhythmia」、DOI:10.1002/joa3.12149

Koretsune Y, Kusakawa K, Harada K.H, Koizumi A, Uchiyama S, Atarashi H, Okumura K, Yasaka M, Yamashita T, Taniguchi A, Fukaya T, Inoue H: Characteristics of Japanese Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation on Anticoagulant Treatment: A Descriptive Analysis of J-dabigatran Surveillance and JAPAF study, Cardiol Ther ,<https://doi.org/10.1007/s40119-019-0129-2>, Published online:11 February, 2019

A-4

安部晴彦、是恒之宏：海外・日本の心房細動の抗血栓療法ガイドラインの特徴と違い「心房細動 最新医学別冊診断と治療のABC」、P203-209、2018年5月

山下武志、増田慶太、河村祐一郎、西原崇創、富田 威、奥山祐司、安喰恒輔、高橋直彦、是恒之宏、池田隆徳、志賀 剛、大塚崇之、速水紀幸、吉田明弘、天野恵子、朝田一生、河野律子、安部治彦、清水昭彦、栗田隆志、清水 渉、松村昌治、住友尚方、庄司正昭：ああ～どうする？この不整脈、「jmed56 あなたも名医」、日本医事新報社、P38-41、2018年6月25日

是恒之宏：抗凝固療法 update－循環器内科医の立場から－、「日本臨床内科医学会誌」、33（1）、P48-54、2018年6月

安部晴彦、是恒之宏：循環器疾患 同種薬の特徴と使い分け 抗血栓薬（経口抗凝固薬、抗血小板薬）、今日の治療指針私はこう治療している TODAY'S THERAPY 2019、「医学書院」、P346-348、2019年1月

A-6

是恒之宏：SERIES サブコホートのご紹介。アセスメントマーカー、「ANAFIE 通信」、2018年5月

是恒之宏：何事もバランスよく、とびらの言葉、「医療の広場」、P3、2018年7月10日

是恒之宏：レジストリーデータから学ぶ抗凝固療法の課題。「Medical Tribune」、51(16)、2018年8月2日

B-1

Koretsune Y: Updates From Asian RWE and AF Registries (ANAFIE (Japan) Safety in Elderly Patients), Daiichi Sankyo Asian Summit on AF and VTE、成都、2019年1月25日

Koretsune Y. National Focus: Japan GARFIELD-AF and GARFIELD-VTE Ambassadors meeting、アブダビ、2019年2月23日

B-2

Koretsune Y, Yamashita Y, Kim Y.H, Wang C.C, Bruggenjurgen B, Levy P, Lee B.C, Caterina R.De, Kirchhof P: The Global ETNA-AF registry programme: Snapshot baseline demographics and patient characteristics from 24,431 atrial fibrillation patients on edoxaban, ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018年8月25日

Caterina R.De, Bruggenjurgen B, Kim Y.H, Koretsune Y, Lee B.C, Levy P, Yamashita T, Wang C.C, Kirchhof P: Baseline stroke and bleeding risks in the Global Edoxaban Treatment in Routine Clinical Practice in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation

programme (Global ETNA-AF): First snapshot analysis, ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018 年 8 月 26 日

Caterina R.DE, Bruggenjurgan B, Kim Y.H, Koretsune Y, Lee B.C, Levy P, Yamashita T, Wang C.C, Kirchhof P: Prior antithrombotic therapy: A snapshot of 24,431 patients from the Global Edoxaban Treatment in Routine Clinical Practice in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation programme (Global ETNA-AF), ESC Congress 2018、ミュンヘン、2018 年 8 月 27 日

B-4

篠内和也、中村雅之、飯田吉則、鳥山智恵子、大橋拓也、尾崎立尚、小杉隼平、西田博毅、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：急性心筋梗塞に合併した難治性心室細動患者の予後、PCPS が必要となる因子の検討。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P264、大阪市、2018 年 9 月 8 日

中村雅之、栗田政樹、上田恭敬、伊達基郎、篠内和也、飯田吉則、鳥山智恵子、尾崎立尚、西田博毅、安村かおり、井手本明子、加藤大志、三嶋 剛、安部晴彦、上松正朗、是恒之宏：血管内視鏡でエベロリムス溶出性ステントのステントストラットに沿って黄色新生内膜を観察し得た一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P266、大阪市、2018 年 9 月 8 日

加藤大志、安部晴彦、篠内和也、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：スタチンによる無症候性筋障害を継続的な CPX 結果から鑑別しえた症例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P309、大阪市、2018 年 9 月 9 日

飯田吉則、安部晴彦、加藤大志、中村雅之、大橋拓也、鳥山智恵子、小杉隼平、尾崎立尚、西田博毅、篠内和也、三嶋 剛、栗田政樹、伊達基郎、上田恭敬、上松正朗、是恒之宏：低強度臥位エルゴ負荷により機能性僧帽弁逆流から重度へ憎悪した心不全の一例。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P311、大阪市 2018 年 9 月 9 日

是恒之宏、山下武志、佐藤剛、塩境一仁、小暮誠二：非弁膜症性心房細動患者に対するエドキサバンの使用実態に関する大規模観察研究－リクシアナ錠・OD 錠特定使用成績調査中間集計。第 66 回日本心臓病学会学術集会、P329、大阪市、2018 年 9 月 9 日

B-8

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第 465 回始良地区内科医会学術講演会、霧島、2018 年 5 月 18 日

是恒之宏：高齢者心房細動の抗凝固療法－その実態と課題。東京葛飾スカイツリーセミナー2018、東京、2018 年 5 月 26 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。第 112 回日本循環期学会中国・四国合同地方会、広島、2018 年 6 月 2 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。淡路循環器病研究会、洲本、2018 年 7 月 5 日

是恒之宏：Real World Data はあなたの Real World ？。イグザレルト WEB カンファレンス、大阪、2018 年 11 月 6 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。Total Care Support Seminar ～高齢者疾患を考える～、豊中、2018 年 11 月 27 日

是恒之宏：抗凝固薬のリアルワールド。不整脈エキスパートラウンドテーブル、大阪、2019 年 1 月 31 日

是恒之宏：高齢者の心房細動のトータルケア。第 9 回高齢者トータルケアセミナー、鹿児島、2019 年 2 月 1 日

是恒之宏：高齢者心房細動のトータルケア。DOAC Forum in KAZUSA、千葉県木更津市、2019 年 3 月 1 日

II. 研究助成一覽

平成30年度 研究助成一覧

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
①文部科学省 科学研究費	ヒトIPS細胞由来ドーパミン神経細胞がパーキンソン病に耐性であるメカニズムの解明 17K16136	福角 勇人	若手研究(B)	主任	継続	補助金(研究費)	110 万円	万円	33 万円	143 万円
①文部科学省 科学研究費	HIV感染症の急速な病態進行に関わるウイルス側因子・宿主因子の解析18H03046	渡邊 大	基盤研究(B)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	52 万円	16 万円	68 万円
①文部科学省 科学研究費	レジリエントな手術チームのシステムダイナミクスの解明18H03025	中島 伸	基盤研究(B)	主任	新規	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
①文部科学省 科学研究費	ヒト神経細胞の低酸素・虚血ストレス障害発生メカニズム解析と新規治療法開発18K08958	金村 米博	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	140 万円	42 万円	182 万円
①文部科学省 科学研究費	遺伝子/画像統合解析(radiogenomics)による神経膠腫の画像分子診断16K10778	金村 米博	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
①文部科学省 科学研究費	ヒト神経細胞の低酸素・虚血ストレス障害発生メカニズム解析と新規治療法開発18K08958	正礼 智子	基盤研究(C)	分担	新規	補助金(研究費)	万円	20 万円	0 万円	20 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発17K10496	田中 英一	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	3 万円	1 万円	4 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発17K10496	古妻 理之	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	3 万円	1 万円	4 万円
①文部科学省 科学研究費	正確な小線源治療を担保するリアルタイムIn vivo dosimetryの開発17K10496	辻本 豊	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	3 万円	1 万円	4 万円
①文部科学省 科学研究費	中間群および低悪性度に分類される原発性骨腫瘍の臨床病理学的解析17K08747	眞能 正幸	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	10 万円	3 万円	13 万円
①文部科学省 科学研究費	子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発 17K10488	古妻 理之	基盤研究(C)	分担	継続	補助金(研究費)	万円	5 万円	2 万円	7 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 H30-エイズ-指定-004	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	主任	新規	補助金(研究費)	5135 万円	万円	206 万円	5341 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV検査受検動奨に関する研究 H28-エイズ-一般-001	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	360 万円	60 万円	420 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV陽性者に対する精神心理的支援方策および連携体制に資する研究 H30-エイズ-一般-007	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	主任	新規	補助金(研究費)	940 万円	万円	47 万円	987 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究 H29-エイズ-指定-001	渡邊 大	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	600 万円	0 万円	600 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病患者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究H27-エイズ-指定-002	三田 英治	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	150 万円	0 万円	150 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV検査受検動奨に関する研究H28-エイズ-一般-001	上平 朝子	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	90 万円	0 万円	90 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査手法開発研究 H29-エイズ-一般-007	渡邊 大	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	50 万円	0 万円	50 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	HIV陽性者に対する精神心理的支援方策および連携体制に資する研究 H30-エイズ-一般-007	安尾 利彦	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	80 万円	0 万円	80 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する肝移植適応に関する研究H27-エイズ-指定-003	上平 朝子	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	50 万円	0 万円	50 万円
⑤厚生労働科学 科学研究費	特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究 H29-難治等(難)-一般-053	三木 秀宣	厚生労働省難治性疾患政策事業	分担	新規	補助金(研究費)	万円	10 万円	0 万円	10 万円
⑨その他財団 等からの研究費	JBCRG-SOLE日本人を対象とした早期乳癌における予後因子としてのONCOTYPE DXの再発スコアに関する研究」他	増田 慎三	JBCRG-SOLE	分担	継続	補助金(研究費)	万円	26 万円	0 万円	26 万円
⑨その他財団 等からの研究費	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究	白阪 琢磨	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	主任	継続	補助金(研究費)	1030 万円	万円	0 万円	1030 万円
⑨その他財団 等からの研究費	脳梗塞院内発症から発覚までにかかる時間とその要因の現状調査	松田 愛	厚生労働省エイズ対策政策研究事業	分担	新規	補助金(研究費)	20 万円	万円	0 万円	20 万円

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑧日本医療研究開発機構研究費	早期転移発見による予後の向上を目指した乳がん術後の新たな標準的フォローアップ法開発に関する研究18cm0106403s0503	増田 慎三	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	100 万円	30 万円	130 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とベルツマブ+トラスツマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	増田 慎三	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	35 万円	11 万円	46 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	大腸癌肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究 18ck0106308s1202	関本 貢詞	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	31 万円	9 万円	40 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	Borderline resectable 膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究	宮本 敦史	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	20 万円	6 万円	26 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開発18cm0106403s0503	濱 直樹	次世代がん医療創成研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	40 万円	12 万円	52 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験18cm0106403s0503	平尾 素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	31 万円	9 万円	40 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweeklyドセタキセル+CF)療法のランダム化第Ⅲ相比較試験18ck0106309h0002	平尾 素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	80 万円	23 万円	103 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	がん領域Clinical Innovation Network事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究18lk02044h0303	上田 孝文	臨床研究・治験推進研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	115 万円	35 万円	150 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	カポジ肉腫関連疾患の発症機関の解明と予防および治療法に関する研究18fk0410007h0503	渡邊 大	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	77 万円	23 万円	100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究18fk0410005h2203	渡邊 大	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	346 万円	104 万円	450 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	iPS細胞研究中核拠点、疾患・組織別実用化研究拠点(拠点A)(01)18bm0204001h0106	金村 米博	再生医療実現拠点ネットワークプログラム	分担	継続	委託研究費	万円	7000 万円	2100 万円	9100 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療18bk0104050s0103	金村 米博	再生医療実現化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	1868 万円	561 万円	2429 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発18ck0106330s0702	金村 米博	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	231 万円	69 万円	300 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	創薬のためのインビトロ脳機能評価法の確立と標準化ヒト神経細胞の開発18bk0104077s0202	金村 米博	再生医療実現化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	150 万円	45 万円	195 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	細胞－基質間の力を基盤とした細胞移動と神経回路形成機構の解明およびその破綻による病態の解析18gm0810011s0102	金村 米博	革新的先端研究開発支援事業	分担	継続	委託研究費	万円	500 万円	150 万円	650 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	中性脂肪蓄積性心血管症に対する画像診断18ek0109335h001	東 将浩	難治性疾患実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	7 万円	2 万円	9 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	女性の冠動脈疾患診断およびリスク層別化における、冠動脈CTの多面的解剖学的指標および新規機能的指標の意義と費用効果分析18gk0210015h0002	東 将浩	女性の健康の包括的支援実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	25 万円	8 万円	33 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japanで組織した遺伝子スクリーニング基盤を利用した、多施設多職種専門家から構成されたExpert Panelによる全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および研修プログラムの開発	加藤 健志	革新的がん医療実用化事業	分担	継続	委託研究費	万円	62 万円	18 万円	80 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能・再発大腸がんを対象にした医師主導治験18lk0201054s0703	加藤 健志	臨床研究・治験推進研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	80 万円	24 万円	104 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	肝硬変患者の予後を含めた実態を把握するための研究18fk0210019h0002	三田 英治	感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	万円	29 万円	6 万円	35 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	治験の実施に関する研究[5ALA]18lk0201037h0004	西川 和宏	臨床研究・治験推進事業	分担	継続	委託研究費	万円	123 万円	37 万円	160 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	法施行前より実施中の特定臨床研究に関する調査	上松 正朗	中央治験審査委員会整備事業	分担	新規	委託研究費	万円	455 万円	45 万円	500 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	FGM/CGMの血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索18ek0210104s0501	加藤 研	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	10 万円	3 万円	13 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAスクリーニングに基づくFGFR遺伝子異常を有する難治性の治療切除不能進行・再発固形がんに対するTAS-120のバスケット型医師主導治験の実施18ck0106447s0501	加藤 健志	革新的がん医療実用化事業	分担	新規	委託研究費	万円	160 万円	48 万円	208 万円
⑧日本医療研究開発機構研究費	難治性肉腫に対するワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の他施設共同医師主導治験	上田 孝文	臨床研究・治験推進研究事業	分担	新規	委託研究費	万円	0 万円	0 万円	0 万円

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑨その他財団 等からの研究 費	HCV・HIV重複感染者に対するインターフェロンフリー治療が肝線維化・肝発癌に与える効果の検討およびインターフェロンフリー治療におけるHIV感染症治療薬との薬物相互作用に関する検討	三田 英治	アッバイ合同会社	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	万円	100 万円
⑨その他財団 等からの研究 費	ステントグラフト長軸方向のSpring back force が Stent graft induced neu entryに与える影響について	榊 雅之	日本ライフライン株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑨その他財団 等からの研究 費	人工膝関節置換術後の骨密度に与える影響	上田 孝文	旭化成ファーマ株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑨その他財団 等からの研究 費	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究	上田 恭敬	日本光電工業株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	万円	100 万円
⑨その他財団 等からの研究 費	化学療法高感受性乳癌における術前化学療法pCR予測モデル構築	八十島 宏行	中外製薬株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	万円	100 万円
⑨その他財団 等からの研究 費	SCRUM-Japan研究における遺伝子変異解析の成功率とホルマリン固定パラフィン包埋製作方法	加藤 健志	中外製薬株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	万円	100 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	電解水透析がもたらす影響の検討	岩谷 博次	大塚製薬株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	30 万円	万円	万円	30 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	心エコー図法を用いた心不全患者の予後予測因子に関する観察研究	上松 正朗	日本ベーリンガーインゲルハイム株	主任	新規	補助金(研究費)	60 万円	万円	万円	60 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	第一三共株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	30 万円	万円	万円	30 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	ファイザー株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	アステラス製薬株式会 社	主任	新規	補助金(研究費)	40 万円	万円	万円	40 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	慢性腎臓病が急性心不全患者の予後に与える影響に関する観察研究	上田 恭敬	日本ベーリンガーインゲルハイム株	主任	新規	補助金(研究費)	60 万円	万円	万円	60 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	腰椎変性疾患による下垂足の手術成績 術前下腿周径からの予測	青野 博之	ビー・ブラウンエスクラップ株 式会社	主任	新規	補助金(研究費)	150 万円	万円	万円	150 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	アボットバスキュラー ジャパン株	主任	新規	補助金(研究費)	300 万円	万円	万円	300 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	塩野義製薬株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	30 万円	万円	万円	30 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	腰椎変性疾患による下垂足の手術成績 術前下腿周径からの予測	青野 博之	京セラ株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	人工膝関節全置換術における関節GAPの測定評価	宮本 隆司	ジョンソンエンドジョン ソン(株)メディカルカンパ ニー	主任	新規	補助金(研究費)	100 万円	万円	万円	100 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	化学療法高感受性乳癌における術前化学療法pCR予測モデル構築	八十島 宏行	エーザイ株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	50 万円	万円	万円	50 万円
⑩民間セク ターからの寄 附金	当院における未破裂脳動脈瘤および破裂脳動脈瘤患者の治療成績に関する検討	高野 浩司	エーザイ株式会社	主任	新規	補助金(研究費)	504 万円	万円	万円	504 万円

III. 全研究業績の区分分類と 業績件数の総括表

診療科の研究業績

診療科名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
総合診療部	19							12				4				3	
腎臓内科	32	3		3		1				1		10	1	3		10	
糖尿病内科	22			2						1		1	2	3		13	
血液内科	4			1								3					
呼吸器内科	3											2		1			
脳卒中内科	2											2					
感染症内科	164	4				9	11			1	7	29		7	11	75	10
精神科																	
消化器内科	111	15		26	0					7	8	15		11		29	
循環器内科	133	14		5	2	10			2	6	19	35	3	17		20	
小児科	3											3					
外科	323	30		7	10	3	2	3	6	42	21	93	90	9	4	3	
形成外科	8		1									3	1	1		2	
整形外科	102	8			6	2				9	3	43	16	14		1	
脳神経外科	109	14			4	1		12	2	1	21	39	1	5		9	
心臓血管外科	7									1		4		1	1		
皮膚科	15				3		1					3		3		5	
泌尿器科	16	6			2					1		3		2		2	
産科・婦人科	13	1								1		5		5		1	
眼科	33		3	1						1		5	13	10			
耳鼻咽喉科	3				2						1						
放射線診断科・放射線治療科	58	14		2	2	3					2	11	8	6		10	
口腔外科	6											5	1				
救命救急センター	28	8	2		1	1					2	8				6	
麻酔科	6	1									1	2		2			
臨床検査科	22	6			1						1	11		2		1	
リハビリテーション科	2											2					
臨床腫瘍科	38	4		2						5	1	13	1	8		4	
薬剤部	55				2		2	4		1	5	18	3	3	3	14	
看護部	16				3						6		6	1			
栄養管理部	9											1				8	
ケアサポートチーム	62	1		2						2	2	4	50			1	
臨床心理室	47						1				3	3				40	
メンタルヘルsteam「なのはな」	8							1								7	
臨床工学室	11	1		2	1						1	1	1		1	3	
院長室	36	10				4		3	2	3		5				9	
小計	1,526	140	6	53	39	34	17	35	12	83	104	386	197	114	20	276	10

臨床研究センターの研究業績

研究室名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
臨床研究センター	82	8			1					5	6	32	1	29			
幹細胞医療研究室	19	4										15					
再生医療研究室	53	11				1			2		12	23		3		1	
分子医療研究室	4	4															
エイズ先端医療開発室	259	5			1	9	14	2		1	14	29	3	8	13	150	10
HIV感染制御研究室	46	3					3			1	2	15		5	4	13	
臨床疫学研究室	60	9		9						4	6	13		10		9	
がん療法研究開発室	301	41		9	7	3	2	2	5	31	9	102	51	29	4	6	
高度医療技術開発室	54	1	5						1	5	4	26	1	6		5	
医療情報研究室	8							2		1		1	4				
災害医療研究室	4									1		1	2				
臨床研究推進室	9										2	2				5	
レギュラトリーサイエンス研究室	36	10				4		3	2	3		5				9	
小計	935	96	5	18	9	17	19	9	10	52	55	264	62	90	21	198	10

全研究業績

分類	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
合計	2,461	236	11	71	48	51	36	44	22	135	159	650	259	204	41	474	20

研究業績の分類基準と記号

著 述 発 表 業 績 区 分							口 演 発 表 業 績 区 分								
A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
	単独執筆 編集者 監修者	共同執筆 (含連名)	原著	総説			シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)	シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)	シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)			
英文 著述	単行書	邦文著述 (学会誌・学術専門誌)	邦文著述	学術医学研究班報告書 講演発表論文	その他	国際学会	国内学会の全国年次学会	国内学会の地方会 及び分科会研究会	国内学会の地方会 研究会発表	文化講演 教育講演等	TV 出演 ラジオ 放送出演				

Research Vol.38 (2018)

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
臨床研究業績年報

発行者 独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター 院長 是恒之宏

編集 臨床研究センター
〒540-0006 大阪府中央区法円坂2丁目1番14号
電話 (06) 6942-1331

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪府東成区深江南2丁目6番8号
電話 (06) 6976-8761

